

# 西ノ辻遺跡第9次 発掘調査報告

1996

財団法人 東大阪市文化財協会  
東 大 阪 市 教 育 委 員 会

## 例　　言

1. 本書は東大阪生駒電鉄株式会社が建設した東大阪都市高速鉄道東大阪線（現在の近畿日本鉄道東大阪線）計画事業ならびに、大阪府八尾土木事務所が計画した国道308号線及び都市計画道路築港枚岡線建設計画事業に伴う、西ノ辻遺跡第9次調査の発掘調査報告書である。
2. 本調査は財団法人東大阪市文化財協会が、東大阪生駒電鉄株式会社・大阪府八尾土木事務所の委託を受けて実施した。
3. 主要な現地調査は、昭和58年12月22日から翌5月23日まで福永信雄・菅原章太を担当として実施した。
4. 本書の執筆はVを津田美智子、その他の章と編集は福永が行なった。
5. 造構写真は福永・菅原が撮影し、遺物写真撮影はG・Fプロ谷川喜一氏および日本アートフレームに委託した。
6. 現地調査実施にあたっては、東大阪生駒電鉄株式会社・大阪府八尾土木事務所・大成建設株式会社の方々にご協力いただいた。記して謝意を表する。
7. 造構実測図は調査に参加した全員で作成し、製図は百合藤厚子が担当した。遺物実測図は、津田美智子を中心に小西優美・山本裕子・芦田尚子・松井朋子・堀江奈津子・藤原雅子が作成し、製図は弥生土器を山本が、その他を津田が行なった。
- なお、本書掲載の遺物の挿図番号は、図版番号と一致させている。
8. 木材の樹種は財団法人元興寺文化財研究所に、石材の鑑定はパリノ・サーベイ株式会社に委託し報告を受けた。
9. 造構実測図の水準高は、T.P値を用いた。
10. 調査および本書作成にあたって、下記の方々から多くの教示を得た。心より謝意を表する。（敬称省略・順不同）  
西谷真治・金関恕・中村友博・木下密運・秋山浩三・森島康雄・濱田延充・多賀谷昭・森田稔・潮田鉄雄・市田京子・樽野博幸・西中川駿・西口陽一・宮崎泰史
11. 現地調査および整理作業において、下記の方々の参加を得た。  
板倉陽二・藤田政男・佐藤修一・奥野義人・開樂悟・長崎誠司・豊田幸信・小林秀隆・森田浩史・矢野功士・佐藤裕之・藤田伸一・堀内正己・辻栄二・長崎文男・豊田将範・星部倫弘・森本聰・越野一朗・小西優美・津田美智子・山本裕子・芦田尚子・岡本真由美・堀江奈津子・遠藤里香・松井朋子・石渡玲子・藤原雅子・天津正代・平泰子・山脇陽子・米谷佳世子・木梨昌美・堀内朋子・川越菊美・谷口純子・森田久美子・野口正美・百合藤厚子・西山由美

## 本文目次

I.はじめに	1
II.位置と環境	2
III.調査概要	4
IV.遺跡	5
1.層序	5
2.遺構	8
弥生時代の遺構	8
中世の遺構	12
近世～近代の遺構	22
V.出土遺物	23
弥生土器	23
中世遺構出土遺物	27
VI.まとめ	106

## 挿図目次

第1図 調査地点位置図	1
第2図 周辺遺跡分布図	3
第3図 西ノ辻遺跡各調査地点位置図	4
第4図 調査地土層断面図（左・東壁、右・西壁）	6
第5図 弥生時代方形周溝墓・河川平面実測図	8
第6図 検出遺構平面実測図	9～10
第7図 清20杭列・石列検出状況実測図	13
第8図 中世遺構平面実測図	14
第9図 中世井戸断面実測図（上左・井戸5、上右・井戸1、下・井戸4）	17
第10図 中世土壤1検出状況実測図	18
第11図 中世土壤・ピット断面実測図	19
第12図 中世木棺墓実測図（上・木棺墓1、下・木棺墓2）	21
第13図 清57・清58出土弥生土器実測図	24
第14図 清59・弥生時代川・弥生時代包含層出土弥生土器実測図	25
第15図 土壤41・弥生時代川・弥生時代包含層出土弥生土器実測図	26
第16図 清25出土瓦器実測図	28
第17図 清25出土土師器・瓦器実測図	29

第18図	溝25出土土師器・国産陶器・中国製磁器実測図	30
第19図	溝20出土土師器・瓦器実測図	32
第20図	溝20出土土師器実測図	33
第21図	溝20出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図	34
第22図	溝21出土瓦器・中国製磁器実測図	36
第23図	溝21出土土師器・瓦器実測図	37
第24図	各溝出土土師器・瓦器・国産陶器・瓦実測図	38
第25図	各溝出土土師器・須恵器・瓦器・国産陶器実測図	39
第26図	井戸6出土土師器・瓦器実測図	40
第27図	井戸5出土土師器・瓦器・国産陶器実測図	41
第28図	井戸1出土土師器・瓦器・国産陶器実測図	42
第29図	井戸4出土土師器・須恵器・瓦器・瓦実測図	43
第30図	井戸3・各ピット・焼土壤出土土師器・瓦器・国産陶器・中国製磁器実測図	44
第31図	土壤1出土土師器・瓦器・中国製磁器実測図	46
第32図	各土壤出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図	47
第33図	木棺墓1・2出土土師器・中国製磁器・鉄製品実測図	49
第34図	土鍤実測図	50
第35図	鋳型・鉄製品（釘・鍵）実測図	51
第36図	木製品（下駄・漆器椀・釣瓶・箸）、用途不明品実測図	52
第37図	木製品（木筒・竹筒）実測図	53
第38図	木製品（曲物）実測図	54
第39図	木製品（杭）実測図	55
第40図	打製・磨製石器実測図	56
第41図	打製石器実測図	57
第42図	打製石器実測図	58
第43図	砥石・石鍋実測図	59

## 表 目 次

弥生土器観察表	60
中世土器・陶磁器観察表	65
木棺墓1・2使用鉄釘観察表	101
土鍤観察表	101
鉄製品・鋳型観察表	102
木製品観察表	103
石製品観察表	104

## 図 版 目 次

- 図版1 遺跡 検出遺構全景(上より)
- 図版2 遺跡 上. 調査地東壁断面(西より) 中. 調査地西壁中央付近断面(東より) 下. 溝20・25断面(西より)
- 図版3 遺跡 上. 溝59検出状況(北東より) 中. 2号・6号方形周溝墓検出状況(南東より)  
下. 溝58検出状況(西より)
- 図版4 遺跡 上. 土壌41検出状況(南より) 中. 弥生時代川遺物出土状況(南より) 下. 打製石剣出土状況(南より)
- 図版5 遺跡 上. 中世遺構全景(東より) 中. 調査地西端遺構検出状況(上より) 下. 調査地中央中世遺構検出状況(南より)
- 図版6 遺跡 上. 溝21・23～25検出状況(南より) 中. 溝25遺物出土状況(北より) 下. 溝25獸骨出土状況(西より)
- 図版7 遺跡 上. 溝25獸骨(ウマ他)出土状況(南より) 中. 溝25獸骨(ウシ他)出土状況(南より) 下. 溝25獸骨(ウマ頭骨)出土状況(西より)
- 図版8 遺跡 上. 溝21・25・53検出状況(東より) 中. 溝20杭列・石列検出状況(南西より)  
下. 溝20曲物出土状況(西より)
- 図版9 遺跡 上. 井戸5・ピット373検出状況(西より) 中. 井戸4堆積土検出状況(南より)  
下. 井戸5断ち割り状況(南より)
- 図版10 遺跡 上. 木棺墓1・2検出状況(南より) 中. 木棺墓1検出状況(東より) 下. 木棺墓2検出状況(東より)
- 図版11 遺跡 上. ピット557・558検出状況(北より) 中. ピット156・157断ち割り状況(北より) 下. ピット201根石検出状況(南より)
- 図版12 溝50・溝57・溝58出土弥生土器 溝50出土壺蓋(59)、溝57出土鉢(4)、溝58出土細頸壺(17)、壺(21・22・25)

- 図版13 溝、井戸、弥生時代川他出土弥生土器 上、弥生時代包含層出土高杯(51・52)  
下、壺(27・32・42)、細頸壺(33)、鉢(34・41)、台付鉢(44)、高杯(46・50)、器台(45)
- 図版14 溝20・溝25、土壤41、弥生時代川他出土弥生土器 上、台付鉢(60)、甕(61・65・67・69・70)、甕蓋(57)、高杯(54・56)、器台(58) 下、溝25出土鉢型(12)
- 図版15 溝25出土瓦器 瓦器椀(4・6・16・19)
- 図版16 溝25出土土師器・瓦器、東播系須恵器 土師器大皿(42・44・47・48)、瓦器椀(1・8)、小皿(21・29・32)、東播系須恵器捏鉢(90)
- 図版17 溝25出土土師器・瓦器、東播系須恵器 上、土師器小皿(59・60・73・86)、瓦器小皿(25・33・35・37) 下、土師器羽釜(38・41)、東播系須恵器捏鉢(89・91)
- 図版18 溝20出土土師器・瓦器 上、土師器大皿(114)、小皿(118)、瓦器椀(95・97・100・104・105)、小皿(106)
- 図版19 溝20出土土師器・瓦器 上、土師器小皿(121・126・130・133)、瓦器椀(96・99・101・103・111) 下、土師器羽釜(152・156・158)
- 図版20 溝20出土土師器・瓦器、東播系須恵器・國產陶器・中國製磁器 上、土師器羽釜(178)、瓦器播鉢(169)、甕(177)、足釜(179・183)、東播系須恵器甕(167)、捏鉢(168)  
下、綠釉椀(174)、青磁碗(173・175・176)、皿(171)、白磁碗(170)、皿(172)
- 図版21 溝20出土土師器・須恵器・瓦 土師器大皿(115・117)、須恵器杯蓋(159・161)、軒丸瓦(184)、軒平瓦(185・187)
- 図版22 溝21出土瓦器 瓦器椀(188・192・193・198・205・206・209・211)
- 図版23 溝21出土瓦器 瓦器椀(195・197・200・202)
- 図版24 溝21出土土師器 土師器大皿(214・217)、小皿(218・224・227・230・235・241・249・251・253・257・263・266・269・272)
- 図版25 溝21他溝出土土師器・瓦器 上、溝21出土土師器羽釜(273・274・276・277)、瓦器足釜(278) 下、溝2・8・22・30出土土師器大皿(282)、小皿(285・300)、瓦器椀(281・295)、羽釜(290)
- 図版26 溝3他溝出土土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器・瓦 上、溝3・8・27・33・48出土土師器羽釜(289・291・309・310)、須恵器甕(306)、丸瓦(292)、下、溝18・19・22・42・48・55出土土師器大皿・須恵器壺・懸・東播系須恵器捏鉢・瓦器椀・小皿
- 図版27 井戸6出土土師器・瓦器 上、瓦器椀(313・318)  
下、土師器羽釜(321・323)、瓦器椀(311・312・315・317)、足釜(320)
- 図版28 井戸1・井戸5出土土師器・瓦器、東播系須恵器 井戸1出土土師器大皿・小皿・瓦器小椀 井戸5出土瓦器椀・鉢・東播系須恵器捏鉢
- 図版29 井戸1出土土師器・瓦器、東播系須恵器 上、土師器羽釜(367)、瓦器足釜(366・368・370)、鉢(373)、東播系須恵器捏鉢(371・372)  
下、土師器小皿(356・357・360・362・364・365)、瓦器椀(349・352)

- 図版30 溝、井戸、ピット、土壤出土中国製磁器 上、溝19・21・25、井戸5出土青磁碗(93・213・287・304・340・1000)  
下、溝25、井戸6、ピット103・137、土壤1・15出土白磁碗(94・319・389～391・451・502)
- 図版31 井戸4出土土師器・瓦器・東播系須恵器・瓦 上、土師器台付大皿(404)、大皿(405)、小皿(411)、瓦器碗(394・398・400)、小皿(403)  
下、瓦器碗(395・397・399)、羽釜(427)、東播系須恵器甕(428)、平瓦(429)
- 図版32 ピット・土壤出土土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器 上、土壤18・21・24・29・30、焼土壤、ピット281出土土師器小皿、瓦器小皿 下、土壤17・18・21・24・26・29出土土師器大・小皿、須恵器甕、東播系須恵器甕、瓦器碗・羽釜・擂鉢
- 図版33 土壤1出土瓦器 瓦器碗(455・456・459・460・462・463)
- 図版34 土壤1出土土師器・瓦器 土師器大皿(466～473)、羽釜(501)、瓦器碗(457・464)
- 図版35 土壤1出土土師器 土師器小皿(477～479・481～484・486・488～497)
- 図版36 木棺墓1出土副葬品 土師器大皿(507)、小皿(503～506)、青磁碗(508)
- 図版37 木棺墓2出土副葬品 土師器大皿(515)、小皿(509～514)
- 図版38 鉄・土製品 鉄釘(4～8)、鉄錆(9～11)、土鍤(1～3・9～16・18～22)
- 図版39 木製品 井戸1出土下駄(1)、井戸7出土漆器碗(6)、井戸4出土箸(10・11)、井戸6出土用途不明品(8)
- 図版40 木製品 井戸1出土曲物(15～17)、井戸5出土曲物底板(20)
- 図版41 木製品 溝20、井戸5・6出土下駄(2)、釣瓶(7)、木筒(12・13)、用途不明品(3・4)
- 図版42 木製品 溝20・溝25出土杭(27・29・33～35・38・42)
- 図版43 石製品 上、石鍤(1～5)、石錆(6・7)、打製石剣(8・10～14)  
下、溝2・20・21・42・59、包含層出土打製石剣(9)、削器(19～21・25・27・31～35)
- 図版44 石製品 上、石斧(15・16・18)、石包丁(17)、砥石(39・40)  
下、溝20・30出土砥石(37・38)、溝20・包含層出土石鍋(43・1001)

## I はじめに

大阪のベッドタウンとして奈良県北部の開発が進んだ結果、この間を結ぶ既存の近畿日本鉄道奈良線の輸送力が限界に近づいた。これを緩和するのと、東大阪市北部の開発のために鉄道の新線が計画され、昭和46年の都市交通審議会において鉄道新路線の答申が出された。以来、国道308号線拡張工事および、東大阪市高速鉄道東大阪線の建設ならびに阪神高速道路東大阪線の延長計画を含めた、都市交通網の整備計画が進められることになった。今回の調査は、これらの開発に伴う一連の調査の一つである。

一連の開発に伴う調査は、本協会（調査地の南半を担当）と大阪府教育委員会（調査地の北半を担当）が分担して実施した。なお、調査途中において、鬼虎川・西ノ辻・植附・神並遺跡が自然地形によって明確に別れることが判明したが、調査名称に関しては当初のままである。本報告では実態に即して、調査名称は鬼虎川〇次調査であっても西ノ辻遺跡として取り扱う。

本遺跡は昭和16年、現近鉄バス枚岡営業所の地点で整地が行われた際に多量の弥生土器が出土したことによって存在が知られた。同年と翌17年に、京都大学の小林行雄氏らによって調査が行なわれた。この時に出土した土器は、「西ノ辻式」と称され弥生時代中期末から後期の近畿地方における代表的な資料として広く知られている。

以来、本報告書作成時点までに36次を越える調査が実施されている。これらの調査で本遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代前期と奈良時代後期から平安時代前期を除き、弥生時代中期初頭から室町時代後期までの集落遺跡であることが明らかになっている。また縄文時代中期後半から弥生時代前期にも小規模な集落の存在が推定できる。

遺構は、弥生時代中期の方形周溝墓・土器棺墓・溝・柱穴・土壙・井戸、後期の溝・土壙、古墳時代中期後半の石組遺構（水利用）・水流調節用の杭列、奈良時代の祭祀跡・水流調節用の杭列、平安時代後期から室町時代に属する木棺墓・柱穴・井戸・溝・土壙などが検出されている。また、遺跡の北辺を縄文時代後期以降、時代により流れを変える埋没河川の存在も知られている。これらの遺構や河川から、動植物遺存体や木製品を含む膨大な量の遺物が出土している。特に各時代にゴミ捨て場としても利用された河川からの出土品が多い。各時代の豊富な遺構や遺物から見て、本遺跡は河内地方を代表する集落遺跡の一つと考えられる。



第1図 調査地点位置図

## II 位置と環境

西ノ辻遺跡は、現在の行政上の地名では東大阪市弥生町、西石切町三丁目、東山町に所在する。国土地理院発行の1/25000地形図「生駒山」では、左下隅付近にある。

調査時の現状は、遺跡のはば中央を南北に通る旧国道170号線沿いに伸線工場が立ち並び、北端付近を東西に通る国道308号線沿いには商店や畠地などが散在している。後述する鬼虎川遺跡と接する西側は、水田および畠地として利用され、東側は旧村部の一画にあたり民家が立ち並んでいる。今回の調査地は、国道308号線と旧国道170号線の交差点より少し西に入る国道308号線上（西石切町3丁目地先）である。

東大阪市域は地理的に見ると東より西に、最高峰の生駒山（標高643.3m）を頂点に南北に延びる標高150m以上の山岳部、標高150～10mの山麓部、標高10～5mの平野部の3つに大別される。

本遺跡は山麓部に位置する。山麓部は、生駒山西麓に広がる扇状地の性格をもつ低位段丘が発達している。山岳部から西下する中小の河川が、0.7～1kmの間をおいて段丘を開析している。これらの河川は山麓部や平野部では、時代により徐々に流れの異なることが今回の調査も含め、最近の調査で明らかになりつつある。河川は、縄文時代前から後期は全面にひろがる河内溝に注いでいた。以降、溝は旧大和川の堆積作用などにより晩期に河内溝、弥生時代以降は河内溝に変化する。本遺跡は溝・渕・湖の東辺部に位置することができる。

本遺跡付近の弥生時代から中世の旧地形は、西側の段丘西端が縄文海進に伴う海食崖に起因する高さ約2mの急な崖である。東側は山麓部につながる。北は、現、鬼虎川の前身である縄文時代後期から中世までの河川が、本遺跡の北端を南東から北西にかけて流れていることが西ノ辻遺跡22次調査などで判明している。南側は不明であるが現在、鬼虎川の南約1kmを額田谷から西に向かい、恩智川に合流する番匠川の前身の川が流れていることは間違いない。

これらの崖や河川により本遺跡の範囲（東西約400m、南北約500m）が画されていた。従前の調査は、主に遺跡の北辺部分で実施されており、埋没河川や、居住区・墓域の一画が検出されている。弥生時代以降の水田などの耕作地はまだ未検出であるが、周辺の山麓部だけでなく地理的に見て平野部にも存在した可能性が高い。

本遺跡の中央やや東寄り標高20m前後を、東高野街道が南北に通る。道の凸現時期は、明らかでないが沿道に縄文時代中期後半以降、古墳も含めて各時期の遺跡が存在（第2図）し、早くから道の存在が想定できる。街道沿いは、市域で最も遺跡の分布密度が高い地域である。

原始・古代にあっては溝や渕、湖と背後の生駒山の豊かな自然の恵みが、遺跡を残した人々の生活を支えたことは論を待たない。特に弥生時代中期は、大規模遺跡の存在と質量とともに豊富な遺物から歴史上、最も栄えた時期と考えられる。この背後には、湖の水運が大きな役割を果したと思われる。本遺跡周辺は、中世においても寺跡や大規模な中世集落が存在し安定した自然条件のもと、継続して発展した地域と言える。



第2図 周辺遺跡分布図

### III 調査概要

今回の調査地点（第1・3図）は、東を第17次調査、西は鬼虎川遺跡第25次調査、南を第7次調査、北を第13次調査地区に接する東西に長い場所である。調査区の平面形は東西約40m・南北約20m・面積約800m<sup>2</sup>では長方形を呈する。

鬼虎川遺跡第12次調査以降使用している国家座標にもとづく地区割りも用いることとした。

この地区割りは、建設省告示による第VI座標系を利用したもので原点を東大阪市川中（X=-146k200m, Y=-34k600m）に設定し、100m方画を大地区とし、さらに大地区を5m方画に分割し小地区とした。地区名称は、それぞれの地区ラインに名称を与え直す2方向のラインの名称を組み合わせて名称とした。大地区的南北ラインが原点より東にI・II・III、東西ラインが南に向かいA・B・Cである。小地区的名称は同様に南北ラインが南に1・2・3、東西ラインが南に向かいa・b・cである。各地区的名称は、南北隅交点のライン名としている。したがって原点を含む小地区は「IAla」となる。今回の調査区の北西隅はXIXF14a、南西隅がXIXF21dとなる。

調査は上留の鋼矢板を打設した後、盛土を機械を用いて掘削し、耕土以下を人力で掘り下げを行なった。調査地は從前、道路であった関係から下水・ガス・水道などの埋設管による搅乱が多くこの部分については支障のない範囲で機械を用いて掘り下げを行なった。

調査の目的は、従前の調査結果から下記の3点の事柄を明らかにすることを主とした。

- 1) 調査地は従前の調査で集落部分の北辺にあたる地と想定されていたことからその実態の把握。
- 2) 第7次調査で存在が認められた、弥生時代中期方形周溝墓広がりの把握。
- 3) 第7次調査により検出されている、平安時代後期から室町時代の集落址の検出と広がりの把握。

現場調査は、昭和58年12月22日～昭和59年5月23日まで実施した。現場調査の後半、4月28日に市民対象の現地説明会を開催し、約400名の参加を得ることができた。



第3図 西ノ辻遺跡各調査地点位置図

## IV 遺跡

### I. 層序

調査の北辺で後述する埋没河川が存在する。河川の部分の層序はかなり複雑であるが、他は耕作の際に包含層が削平されており耕土・床土を除くと、すぐ地山面が存在し弥生時代と中世の遺構が同一面上で検出された。また、道路開設の際にはほぼ水平に削平されているため耕土・床土が存在しない場所もある。地山上面の標高は、調査地東端 (T.P9.1m) と約40m離れた西端 (T.P9.0m) の比高差は0.1mである。

今回、確認した層序について河川の部分を含む調査地東壁の南北断面（第4図右）と、同西壁の南北断面（第4図左）について説明する。なお、川・溝内の堆積土は、概略について説明する。個々の層序は別掲（第4図・図版2）の土層断面図・写真を参照されたい。

#### 東壁南北断面

第1層 暗緑灰色砂質土（耕土）厚さ20cm。道路となる以前の耕土である。弥生時代以前、近代までの遺物が細片で少量含まれる。

第2層 暗赤褐色砂質土（床土）厚さ12~20cm。上面はT.P9.4m前後である。耕土と同様の遺物が含まれる。上面から鶴溝と溝2などが切り込む。

第2-A層 緑灰色砂質土 厚さ24cm。近世以降の溝堆積土。

第2-B層 緑灰色砂質土 厚さ60cm。近世以降の溝2堆積土。

第2-C層 黄褐色砂質土 厚さ40cm。溝2に切られるが近世以降の溝堆積土。

第3層 赤褐色砂質土 厚さ16cm。上面および下面是、ほぼ平坦である。畿内第III~IV様式の土器を少量含む包含層。20ラインより以東に存在する。

第3-A層 緑灰色砂質土 厚さ28cm。中世末に川の南岸の中世包含層や遺構を削平し、川が起因する窪地を埋めた整地上。

第3-B層 暗赤褐色砂～暗赤褐色砂質土 厚さ120cm。細かく見れば、6層に分層できる。

後述する弥生時代中期後半の川の上部に堆積し平安時代末の溝25に切られる。この間の河川堆積土と考えられるが、出土遺物がなく細かな時期は比定できない。上面から溝48が切り込む。

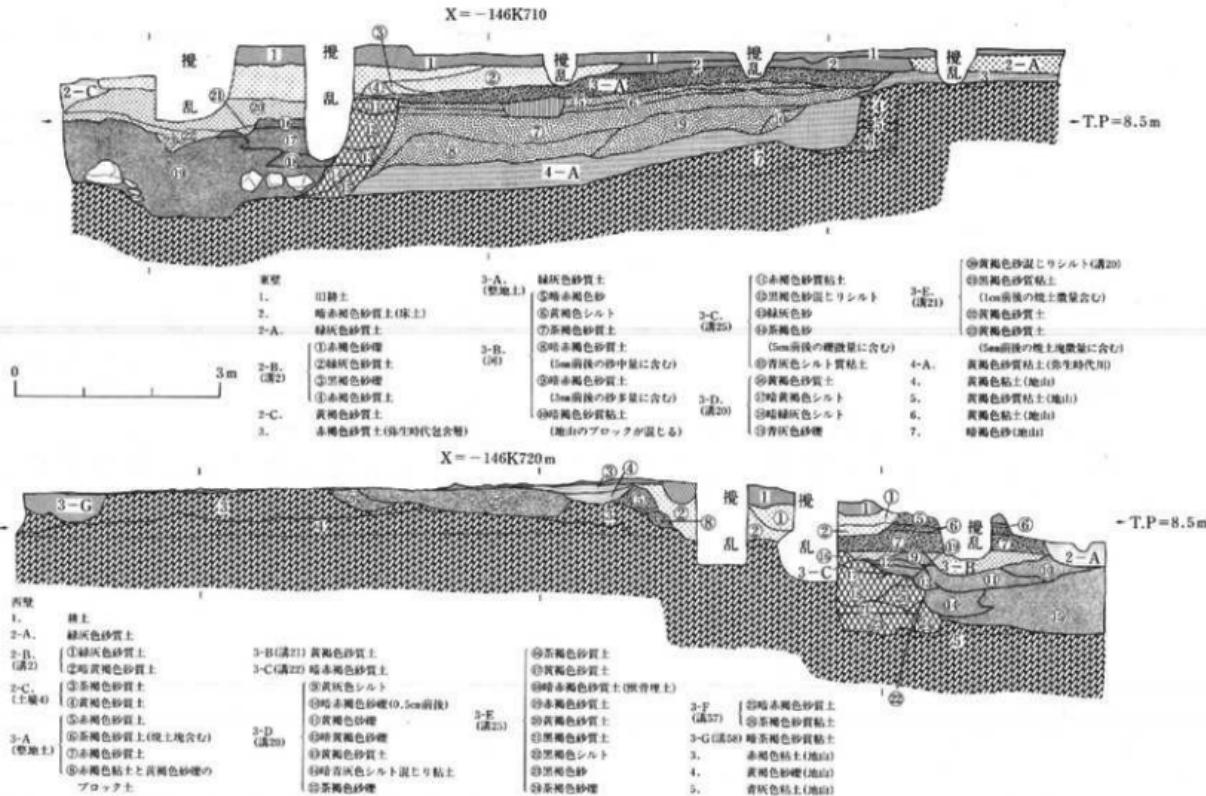
第3-C層 赤褐色砂質粘土～茶褐色砂 厚さ140cm。細かく見れば、5層に分層できる。

後述する鎌倉時代後期の溝20に切られる。平安時代末の溝25の堆積土。瓦器・土師器やウマをはじめとする多量の動物遺存体が出土した。

第3-D層 黄褐色砂質土～青灰色砂礫 厚さ160cm。細かく見れば、4層に分層できる。

後述する鎌倉時代末から南北朝時代の溝21などに切られる。鎌倉時代後期の溝20の堆積土。講としたが人工の河川で両肩に自然石を用いた護岸設備と、川の流れに直交して杭列を打ち込み堰を作る。瓦器・土師器や曲物などの木製品、ウマをはじめとする動物遺存体が出土した。

第四回 調査地土壤断面実測図(左・東北、右・西北)



第3-E層 黄褐色砂混じりシルト～黄褐色砂質土 厚さ80cm。細かく見れば、4層に分層できる。近世以降の溝2などに切られる。鎌倉時代末から南北朝時代の溝21の堆積土。瓦器・土師器などが出土した。

第4層 黄褐色粘土 厚さ60cm。地山。

第4-A層 黄褐色砂質粘土 厚さ50cm。上部を第3-B層や溝25などに切られる。弥生時代川の堆積土。畿内第III様式後半から第IV様式前半に属す弥生土器が少量出土。

第5層 黄褐色砂質粘土 厚さ12cm。地山層である。

以下、第6層（黄褐色粘土・厚さ40cm）第7層（暗褐色砂・厚さ50cm以上）と続く。

#### 西壁南北断面

第1層 耕土 最大厚さ30cm。道路となる以前の耕土である。調査地北半の河川跡ではなく、南半の岸部分では道路開設時に削平され残存しないところが多い。元々、川の名残の窪地部分に傾斜していたと考えられる。弥生時代以降、近代までの遺物が細片で少量含まれる。

第2層 床土 明瞭な形では存在しない。わずかに川の上部に認められる第3-A層の整地土上部がこれにあたるかと思われる。

第2-A層 緑灰色砂質土 厚さ30cm。近世以降の溝堆積土。

第2-B層 緑灰色砂質土 厚さ90cm。細かく見れば2層に分層できる。近世以降の溝2堆積土。

第2-C層 茶褐色砂質土～黄褐色砂質土 厚さ30cm。溝2に切られる。土壌4の堆積土。瓦器や焼土など少量出土。

第3層 赤褐色粘土 厚さ40cm。上面は、ほぼ平坦である。上面で弥生時代と中世の造構を検出。地山である。

第3-A層 緑灰色砂質土 厚さ28cm。4層に細分できる。中世末に南側の中世包含層や造構を削平し、川が起因する窪地を埋めた整地層。瓦器などの土器や焼土を含む。

第3-B層 黄褐色砂質土 厚さ40cm。溝21の堆積土。瓦器・土師器など出土。

第3-C層 暗赤褐色砂質土 厚さ12cm。溝22の堆積土。瓦器・土師器など出土。

第3-D層 黄灰色シルト～茶褐色砂礫 厚さ120cm。細かく見れば、7層に分層できる。上述した溝20の堆積土。

第3-E層 茶褐色砂質土～黒褐色砂 厚さ120cm。細かく見れば、9層に分層できる。上述した溝25の堆積土。

第3-F層 暗赤褐色砂質土～茶褐色砂質粘土 厚さ40cm。方形周溝墓の溝57の堆積土。上部を土壌4に切られる。弥生土器が出土。

第3-G層 暗茶褐色砂質粘土 厚さ40cm。方形周溝墓の溝58の堆積土。上部が削平され耕土が薄く認められる。完形品を含む弥生土器が出土。

以下、第4層（黄褐色砂礫・厚さ120cm）第5層（青灰色粘土）の地山層が続く。

## 2. 遺構

今回、検出した遺構は先に層序の項で触れたように、弥生時代中期の土塙から近代の耕作地であった際の耕作に伴う遺構まで各時期のものが見られる。古い時期の遺構から順に報告する。なお、河川は遺構ではないが、遺構に準じ取り扱う。また中世の溝とした中にも河川が存在するが、人工的に流路が固定されたと考えるため溝として報告する。

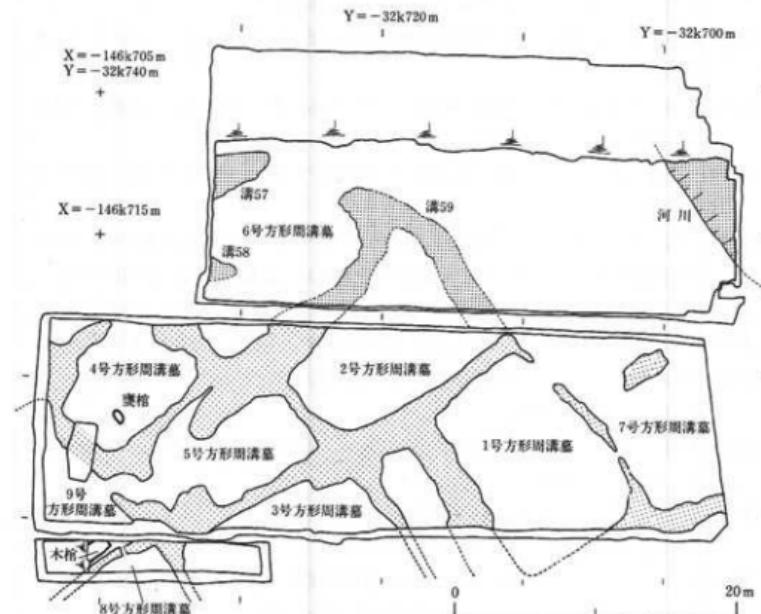
### 弥生時代の遺構〔図版3・4〕

弥生時代中期の方形周溝墓の周溝・土塙と川がある。

方形周溝墓の周溝（第5・6図）調査地の南西部で3条検出した。

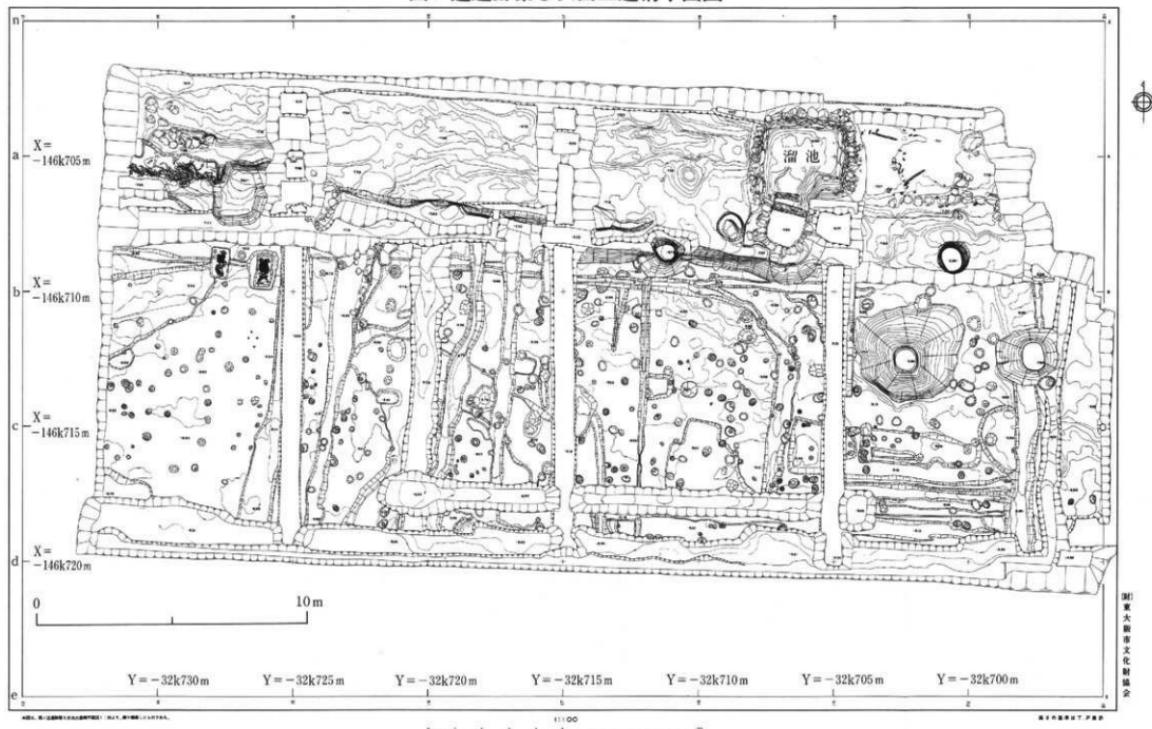
溝57 深さ0.4m（検出時、以下同じ）、幅2.7m、長さ4m以上。東からやや南に振りながら西に向かい掘られる。堆積土について層序の項で述べたので不再述は控えるが、ミニチュア土器・鉢を含む弥生時代中期の土器（第13図 1~15）が底部から浮いた状況で出土した。土器は畿内第III様式（以下、畿内を略す）に属す。

溝58 深さ0.4m、幅1.2m以上、長さ2m以上、一画を検出したのみである。堆積土については層序の項で述べたので不再述は控える。ミニチュア土器・鉢を含む弥生時代中期の土器（第13図 16~26）が底部から浮いた状況で出土した。土器は第III~第IV様式に属す。



第5図 弥生時代方形周溝墓・河川平面実測図

西ノ辻遺跡第9次出土遺構平面図



溝59 深さ0.3m、幅2m、長さ7m(西辺)・9m(北辺)「L」字状を呈する溝である。堆積土は暗茶褐色砂質粘土1層である。ごく少量の遺物が出土した。隣接する方形周溝墓の周溝からは、底部から浮いた状況で土器が出土している。検出した深さから見て上部が削平されていることが明らかで、本来はこの周溝にも他と同様、土器が存在した可能性が高い。

溝58以外は、第7次調査で検出された同時期の方形周溝墓の周溝(第5図)の延長にあたる。平面図を接合した結果、溝59は同調査で検出された第2号方形周溝墓の西辺と北辺の周溝であることが判明した。第2号方形周溝墓の規模は、長辺12.8m、短辺8.6mで北側の溝は次に述べる第6号方形周溝墓と共有する。

溝57は同調査で南東隅が検出されていたが、大半が当時の調査区外に伸びる第6号方形周溝墓の北側周溝の一部である。壇棺墓が検出された第4号方形周溝墓と西側周溝を共有する。

第6号方形周溝墓は、今回の調査で南西隅を除き長辺13.4m、短辺10mの墳丘部のはば全体を検出したことになる。主体部は確認できなかった。墳丘部が削平された結果と考えられる。墳丘は周溝の深さから見て本来、1m前後の高さが想定できるのではないかろうか。

溝58は検出位置から方形周溝墓の溝とすれば対応するものが認められず(小型の方形周溝墓の可能性は残る)、土壤とも考えられる。

今回の調査も含め隣接して現在までに、8基の方形周溝墓が検出されている。主体部が確認されているのは、8号方形周溝墓の木棺1基と上述した4号方形周溝墓の壇棺が1基である。2基とも墓の中心からはずれた位置で検出されている。墳丘部の削平により中心の主体部はいずれも破壊されたと考えられる。

土壤 調査区南東隅付近で検出した1基がある。

土壤41 後述する弥生時代川の肩近くで検出した。平面形がほぼ円形を呈する。深さ0.3m、長軸0.7m・短軸0.5mの規模を持つ。内部堆積土は黄褐色砂質土である。堆積土中より弥生土器(第15図 57・63他)が少量出土した。出土土器から見て第III様式後半～第IV様式前に属す。

河川(第5図) 調査区東端で弥生時代川と仮称した1条を検出した。

弥生時代川 深さ(堆積土の厚さ)0.5m以上、幅4m以上、長さ9m以上、南東から北西に向かい流れる。川の肩口部分である。上部に弥生時代中期末から平安時代末までの河川堆積土が載る。堆積土は層序の順で述べたので再述は控えるが、少量の弥生土器と石包丁などの石器が出土した。

出土土器は、第III様式後半～IV様式前に属すもので、この時期に流れていたことが明らかである。遺物は、磨滅もなく出土状況から見て、南西側から投棄されたものと考えられる。

堆積土の厚さは0.5mであるが、上部に後代の堆積が見られ肩口と底部の比高差は1.4m以上である。時期と検出位置から、第22次調査で検出したS R25の延長にあたる。調査地東端で東から西に流れて来たのが、急に角度を北に変えることが判明した。

## 中世の遺構 [図版5~11]

溝（河川含む）・井戸・土壙・掘立柱建物の柱穴・木棺墓がある。

溝（第6~8図） 調査区全体で大小合わせて計63条を検出した。大半が両端ないし1端が調査区外に延び、全長のわかるものは少ない。すべて、ほぼ東西ないし南北方向に掘られたものである。出土遺物がほとんど無く時期比定のできないものも多いが、時期の明らかなものは12世紀中葉から16世紀前葉までのものが見られる。以下、主要な溝について古い時期から順に説明する。

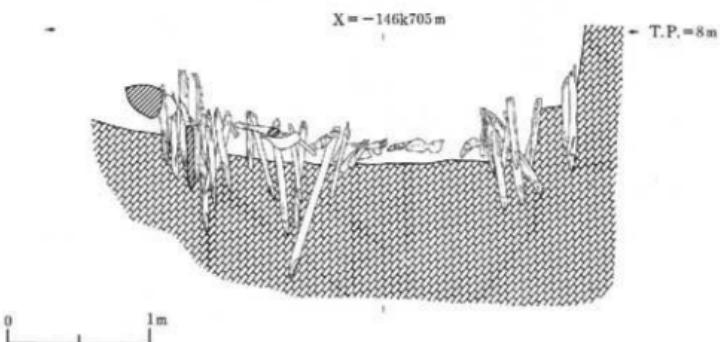
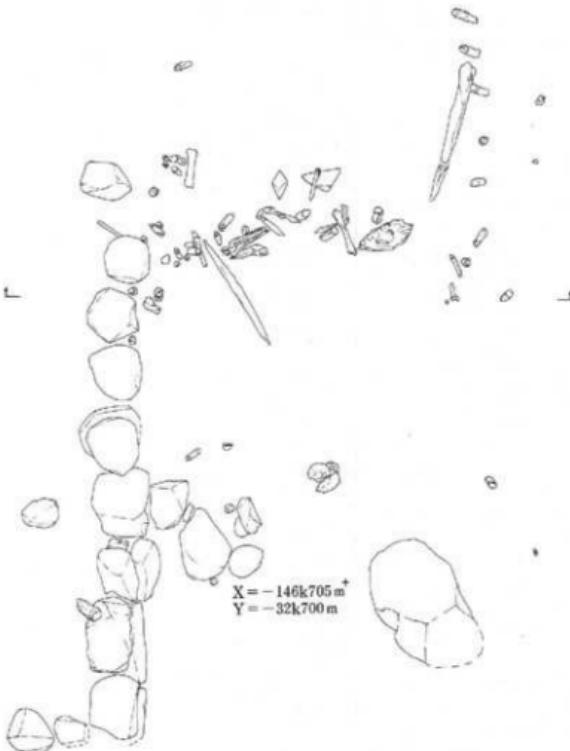
溝25 東から西に向かいわずかに北に振るように掘られる。両端は調査区外に延びる。上場幅1.5m前後・下場幅0.4~1.4m、検出長37mである。深さ（堆積土の厚さ、以下同じ）は東端で1.4m（底部標高T.P7.1m）、西端で1.2m（底部標高T.P6.8m）で東端と西端の比高差は0.3mである。断面形は、逆台形を呈し地山の第6層まで掘られる。東端付近の溝底部に杭列、肩口に護岸に用いたかと思われる人頭大の自然石が認められた。弥生時代川を切り土壙1、溝20などに切られる。

堆積土は、5~9層に分層され最上層は茶褐色砂質粘土、中層は暗赤褐色砂質土~黒褐色砂質土である。機能時の堆積土と考えられる下層は、黒褐色シルト・黒褐色砂である。下層の堆積土からみて、当初は流水が存在したものと思われる。上層および中層から、多量の土師器・瓦器と少量の国産陶器・中国製磁器、漆器椀などの木製品、鋳型などの土製品とウシ・ウマなどの動物遺存体が出土した。特に西端付近の中層からは折り重なるようにウマ3頭、ウシ1頭、イヌ1頭以上が埋められた状況で検出した。下層からも出土したが量は少ない。

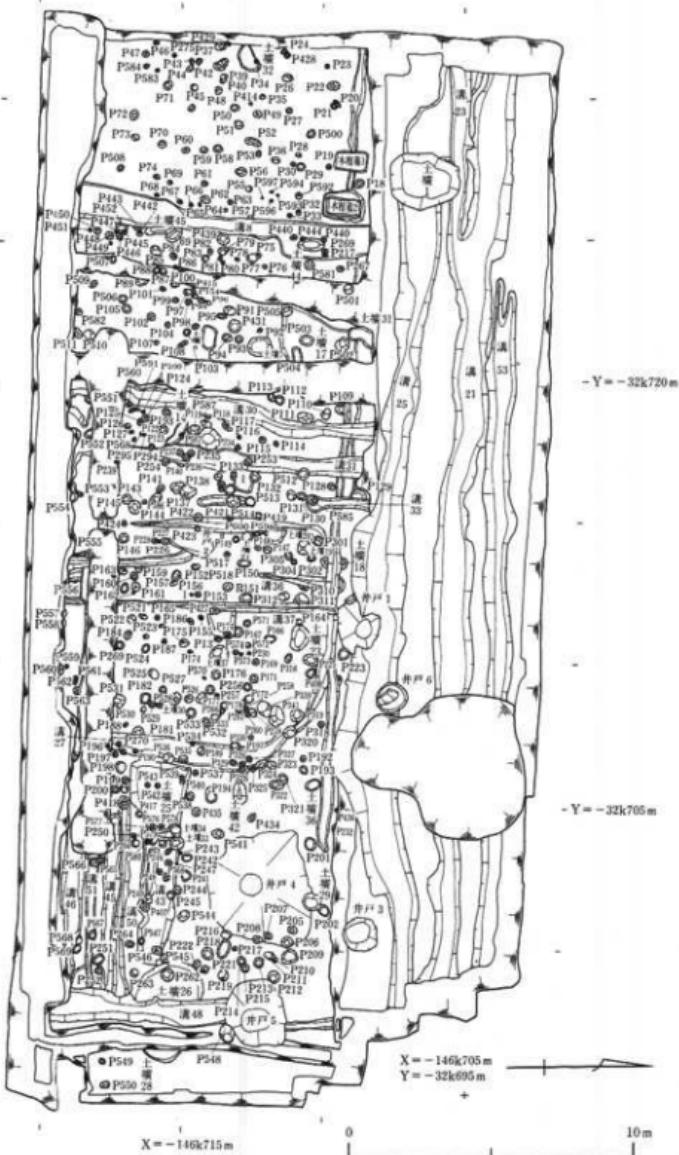
遺物から見て、12世紀後半から13世紀初頭に機能した溝である。東端で検出した杭列は水流調節用のものであろう。断面の形態から見て自然河川とは考えられず後述する溝20と同様、水路として作られたものと考えられる。出土遺物の量や、埋められた多量の動物遺存体から見て機能が停止した後、ゴミ捨て場とされたのであろう。

埋められた動物遺存体は祭祀に伴う犠牲獸とも思えるが、解体痕が認められず、また周辺で検出される中世の河川などからも多量のウマと少量のウシなどが検出されている。溝廃絶時に、死んだ家畜をまとめて埋めたと考えたい。

溝20（第7図） 東から西に向かい流れ。両端および北岸は調査区外に延びる。上場幅4.2m以上・下場幅3.4m以上、検出長37mである。深さは東端で1.6m（底部標高T.P6.9m）、西端で1.2m（底部標高T.P6.8m）で東端と西端の比高差は0.1mである。断面形は、逆台形を呈し地山の第6層まで掘られる。東端付近の溝底部から肩にかけて、護岸に用いたと思われる人頭大から牛頭大の上面が平坦な自然石を水の流れに沿い並べ（検出長4m）ていた。また、石列が途切れる付近で水流に直交あるいは並行して杭列が認められた。また北岸沿いに打たれたものも認められた。杭列を構成する杭は、径4cm前後の自然木の先端を切り欠いたものである。直交する杭列は水の流れを調整する用途、北岸沿いのものは護岸の役割を果たしていたと考えられる。溝25を切り土壙1、溝21などに切られる。



第7図 溝20杭列・石列検出状況実測図



第8図 中世遺構平面実測図

堆積土は、4～7層に分層され最上層は黄褐色砂質土、中層は暗黄褐色シルト～暗緑褐色シルト、下層は青灰色砂礫である。中・下層が機能時の堆積土と考えられる。各層から、多量の土師器・瓦器と少量の国産陶器・中国製磁器、下駄などの木製品、土製品（土鍤）、金属製品（鉄釘・銅錢）、ウシ・ウマなどの動物遺存体が出土した。また、混入品として古墳時代後期から奈良時代の須恵器などと、法通寺所用の軒丸瓦や軒平瓦が少量出土した。

遺物と溝25の切り合いで、13世紀前半から14世紀初頭にかけて約100年間、機能したと考えられる。堆積土から見て当初は一定の早さで水が流れ、中層の堆積段階ではかなり緩やかな水の流れに変化したと想定される。東端で検出した杭列は、水流調節用の堰であろう。溝としたが、自然河川の可能性も考えられる。自然河川であったとしても堰や護岸用の石列の存在、堆積土から見て完全に人の手で管理された水路であると考えられる。出土遺物の量や状況から見て機能時のみならず停止した後も、ゴミ捨て場とされたものと考えられる。

動物遺存体は、溝25と異なりバラバラで出土することから、周辺で検出される中世の河川出土例と同じく川や水路に捨てられたものが流れたと考えられる。

溝21 東から西に向かいわずかに北に振るように掘られ、西端近くで溝22が分流する。両端は調査区外に延びる。上場幅3.0～4.5m・下場幅1.2m前後、検出長37mである。深さは東端で0.8m（底部標高T.P7.8m）、西端で0.4m（底部標高T.P7.7m）で東端と西端の比高差は0.1mである。断面形は、皿形を呈し溝20を切る。上部は中世末の整地土（第3-A層）に覆われる。

堆積土は、厚いところで4層に分層されるが薄い部分では黄褐色砂質土ないし砂混じりシルト1層である。堆積土は砂質土ないし砂混じりシルトであることから、水が流れていたとしても緩やかなものと考えられる。多量の土師器・瓦器などが出土した。

遺物から見て、14世紀前半に機能したと考えられる。出土遺物の量から機能時のみならず停止した後も、ゴミ捨て場とされたものである。

溝27 調査地中央付近で検出した、南から北に向かい途中で西に振るL字状の溝である。西端は擾乱で切られ南端は調査区外に延びるため全形は不明である。上場幅0.3～0.7m・下場幅0.2m前後、検出長17mである。深さは東端で0.15m（底部標高T.P8.91m）、西端で0.09m（底部標高T.P8.75m）で東端と西端の比高差は0.16mである。断面形は、皿形を呈し土壙18を切りピット324などに切られる。

堆積土は、暗茶褐色砂質土1層である。形態から屋敷ないし建物を区画する溝の可能性が考えられる。土師器・瓦器などが出土した。遺物から見て、13世紀代に機能したものである。

溝30 調査区中央付近で検出した。南から北に向かい、やや蛇行するように掘られる。北端は擾乱に切られ、南端は調査区外に延びる。上場幅0.6～0.8m・下場幅0.3m前後、検出長9mである。深さは南端で0.17m（底部標高T.P8.92m）、北端で0.11m（底部標高T.P8.68m）で南端と北端の比高差は0.24mである。断面形は、皿形を呈し溝27を切る。

堆積土は、暗茶灰色砂質土1層である。土師器・瓦器などが出土した。遺物から見て、15世紀前半に機能したと考えられる。

溝48 調査区東端中央付近で検出した。東と西から掘られた溝が合流して北に向かう溝である。北端は擾乱に切られ南端は不明瞭である。上場幅0.4m・下場幅0.2m前後、検出長1.8mである。深さは0.2m前後である。断面形は、皿形を呈する。

堆積土は、暗茶灰色砂質土1層である。少量の土師器・瓦器などが出土した。遺物から見て、16世紀前半に機能したと考えられる。形態から耕作用の溝の可能性が高い。

井戸（第6・8・9図）調査区東半で計5基検出した。出土遺物から見た時期別の内訳は、12世紀中葉1基、12世紀後葉から13世紀初頭1基、13世紀後葉3基である。いずれの井戸も掘り方が狭いため人力では2m前後しか掘り下がることができず、底部を確認するため機械を使用して断ち割りを行なった。残念なことに井戸内の堆積土が、水分を多く含んだ砂質土から粘土であるため断面観察を行なう以前に崩落し、実測図を作成できなかった。

井戸4（第9図）調査地中央東寄り付近で検出した。上部を、中世末期に削平される。ピット205などに切られる。地山の湧水層である青灰色細砂まで掘り込む。底部の標高はT.P4.38mである。井筒は遺存していない。

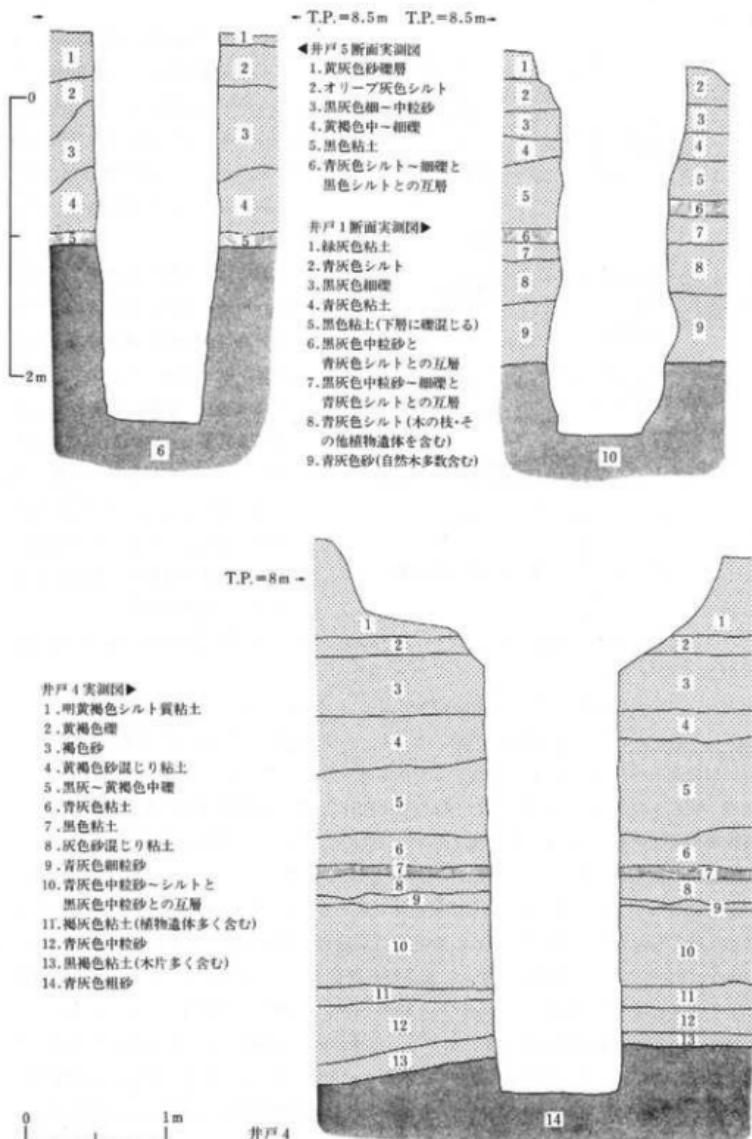
堀方上部は、長軸4m・短軸3.5mの不整円形を呈し約0.8m下がったあたりで径1mの円形になる。深さ3.8m以上である。大和型・和泉型瓦器輪や土師器と鉄縁、箸などが出土した。鉄縁は底部付近で出土したものである。出土遺物から、平安時代末の12世紀中葉の時期の所産と考える。井筒は遺存していないため堀方の形状から見て上部に井筒の想定ができる。しかし、下部については他の木製品の遺存状況から見て存在しない可能性が高い。

井戸6 調査地中央やや北寄り、近世の溜池に伴う井戸9の西に隣接して検出した。上部を、溝20に切られ溝25を切る。地山で湧水層の青灰色砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P4.57mである。井筒は遺存していない。上部で牛頭大の自然石が、投げ込まれた状態で1点認められたが、数が少なく石組井筒の一部とは考えられない。埋土の替わりとされたと思われる。

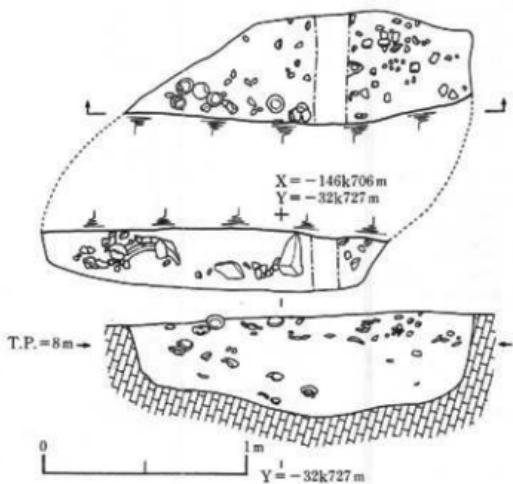
掘方は、ほぼ円形を呈し径1.0m・深さ2.68m以上である。瓦器・土師器と中国製白磁、鉄縁・釣瓶・曲物などが出土した。出土遺物から、12世紀後半から13世紀初頭の所産と考える。井筒は遺存していない。堀方の形状や木製品の遺存状態から見て存在していない可能性が高い。

井戸5（第9図）調査地中央東端付近、井戸4の東に隣接して検出した。土壙41を切り、上部を中世末に削平される。地山の湧水層である青灰色砂から細砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P4.83mである。井筒は遺存していない。

掘方は、不整円形を呈し長軸2.4m・短軸2.1m・深さ2.8m以上である。瓦器・土師器・東播系須恵器捏鉢と中国製青・白磁、木簡・曲物、土錐などが出土した。出土遺物から、13世紀後葉の所産と考える。井筒は遺存していないため不明であるが、堀方の形状と他の木製品の遺存状態から見て存在していない可能性が高い。



第9図 中世井戸断面実測図（上左・井戸 5、上右・井戸 1、下・井戸 4）



第10図 中世土壤1検出状況実測図

井戸1（第9図）調査地中央、井戸6の南西に隣接して検出した。上部を中世末に削平され、溝25を切る。地山の湧水層である青灰色砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P. 4.98mである。井筒は遺存していない。

掘方は、不整円形を呈し長軸2.0m・短軸1.5m・深さ2.8m以上である。瓦器・土師器・東播系須恵器捏鉢と下駄・竹筒（竹に文字を線刻したもの）・曲物・砥石などと混入品の打製石劍が出土した。出土遺物から、13世紀後葉の所産と考える。井筒は遺存していないため不明であるが、堀方の形状や他の木製品の遺存状態から見て存在していない可能性が高い。

井戸3 井戸4の北に隣接し溝25を切る。地山の湧水層である青灰色砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P. 4.9mである。

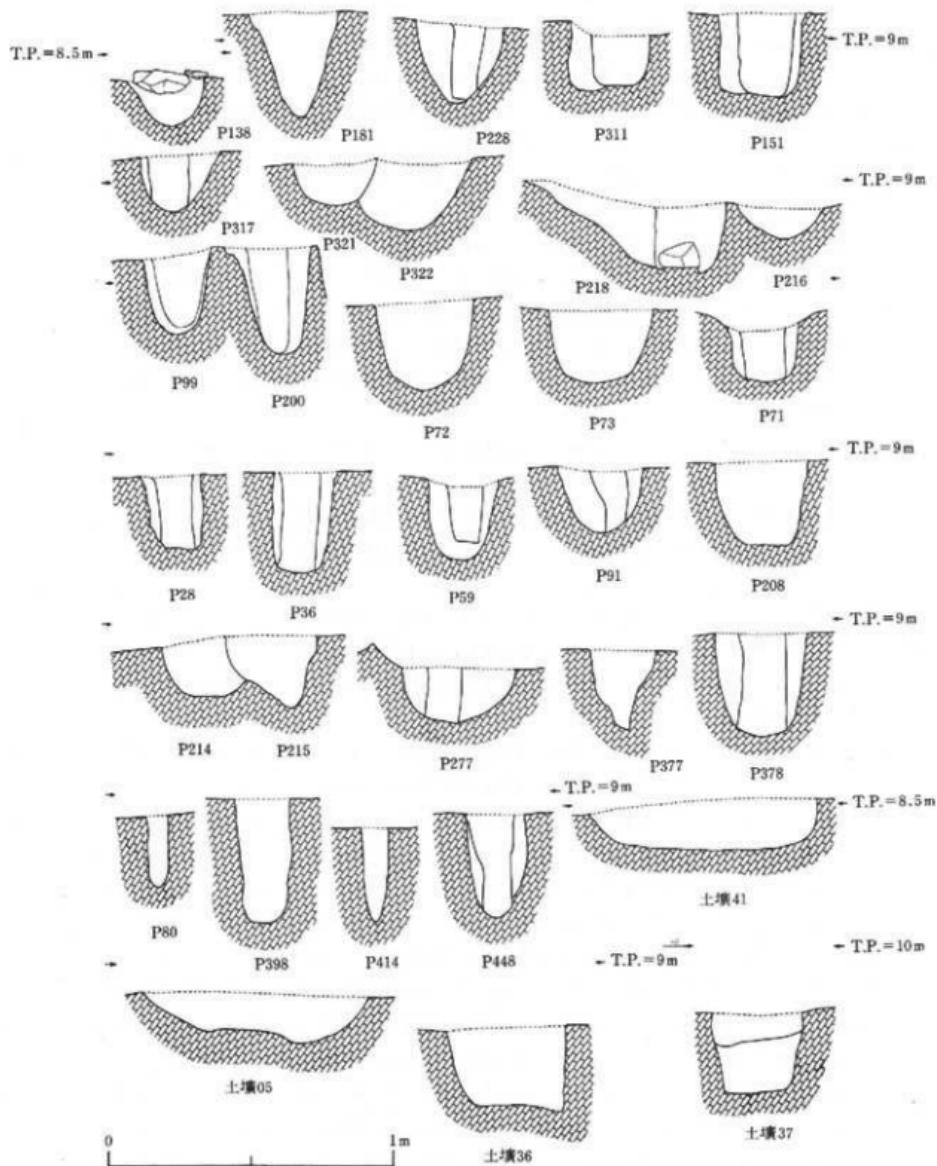
掘方は、ほぼ円形を呈し径1.1m前後・深さ2.6m以上である。少量の瓦器・土師器などが出土した。出土遺物から、上述の時期の所産と考える。井筒は遺存していないため不明であるが、堀方の形状が他の井戸とほぼ同じであることから見て存在していない可能性が高い。

土壤（第6・8・10・11図）中世末に上部を削平されているが調査地全域で検出した。ただ、調査地北辺には少ない。検出した土壤とピットは全て立ち削りを行ない底部を確認した。

出土遺物が少なく、ほとんど細片のため時期の決定できないものが多い。一部、15世紀代のものを少數含むが、12世紀中葉から14世紀前半に属するものが大半と思われる。径0.4m以上のものを土壤と判断した。大半が、深さ0.2m前後で断面形は皿形を呈するが土壤27・29のように深さ0.6mのものもある。堆積土はすべて暗茶褐色砂質土ないし砂質粘土、1層である。紙数の都合で全てを述べることができないため、時期が確実に判明した土壤1について記す。

土壤1（第10図）平面形がほぼ菱形を呈し、長軸2.4m、短軸1.4m、深さ0.5mである。中央部を擾乱により切られ、溝21・22を切る。内部より多量の瓦器・土師器と微量の中国製白磁などが出土した。他に拳大的礫も少量出土した。遺物および出土状況から見て、14世紀初頭にゴミ捨て穴として掘られたものと考えられる。

ピット（第6・8・11図）中世末の削平を受けているが、掘立柱建物の柱穴・杭と思われる



第11図 中世土壌・ピット断面実測図

ピットを調査地北辺を除く全域で検出した。

ピットは大・小有り柱穴と考えられるのは、平面形が径0.2~0.3m前後の円形である。深さは0.2~0.4m前後である。堆積土は、すべて暗茶褐色砂質土ないし砂質粘土、1層である。ピット115・138・149・156・201・216・218・262・411・418は、拳から小児の頭大の自然石を用いて根石にしていた。根石に用いられた自然石は、上面が平坦なものもあるが、亜角礫も認められる。柱根が残るものは無いが、ピット28・36・83・89・277・314・317・356・378・446・448で柱痕跡が認められた。柱痕跡は、径0.15m前後である。

柱穴同士の切り合いは、2箇が多く3個切り合うのは少ない。また、柱穴の全体からすれば切り合うものは多くない。柱穴の数が多く規則性が認められないため、建物の復元を行なうことは難しい。出土遺物が少なく細片が多いため、個々の柱穴の時期を決定することも困難であるが、土壤と同じく、一部15世紀代のものも少數含むが12世紀中葉から14世紀前半に属するものが大半と思われる。

枕と思われる小ピットは、径0.06~0.1m前後、深さ0.3~0.4m前後である。堆積土は、柱穴と同じである。建物に伴う枕と考えられる。

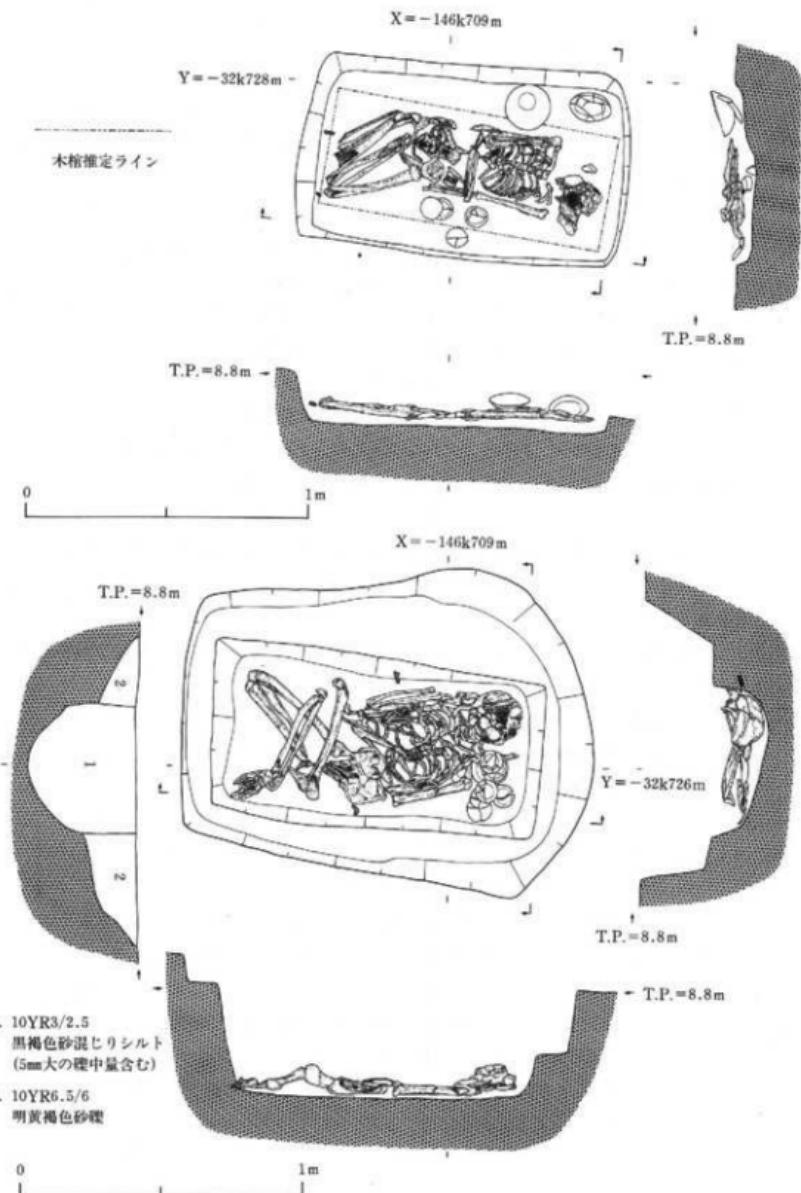
木棺墓（第12図）調査地西側中央付近で東西に並行に2基（木棺墓1・2）検出した。既に、調査者の1人が調査終了後に連報している。<sup>〔1〕</sup>しかし、所属時期に変更があるため再度、記す。なお、2基とも切り取り保存を行なった。

木棺墓1（第12図）上部を中世末期に削平され北部分に同時期の整地土が覆う。溝27を切る。底部の標高はT.P8.6mである。墓壙掘方は、平面形が隅丸長方形を呈し長辺1.13m、短辺0.65m、深さ0.2m以上である。堆積土は、暗灰黄色細粒砂をブロック状に含む暗褐色砂混じりシルト1層である。

木棺は遺存していないが、頭蓋骨の頭頂部、左大腿骨の直下、右腓骨の直下に鉄釘が各1点出土したことと、骨が水平な状況で検出されたため木棺墓と判断した。

人骨は、頭骨が土圧で変形しているものの比較的良く残り頭部を北に向かって側臥屈葬の姿勢で、右上肢をL字状に曲げ伸展した左上肢に重ねている。この姿勢では右肩が上がり、やや側臥気味になる。従って顔は東を向いていたと考えられる。下頸骨には歯が残存していた。現場における鑑定結果によれば、40才代の身長150cm以下の小柄な女性と判断されている。なお、頭骨の下に拳大の亜角礫が2点認められた。枕の役目を果たした可能性が考えられる。

副葬品は、中国製青磁碗1点・土師器大皿1点・土師器小皿4点である。土師器大皿と青磁碗は、頭蓋骨・右上腕骨の西に墓壙壁面に立てかけた状況で内面を人骨に向けていた。青磁碗はやや原位置からずれた状況を呈している。出土状況から見て、棺外埋葬の可能性が高い。土師器小皿は3点、左上肢すぐ東に人骨と並行して検出した。残り1点はそれより東にやや離れて出土した。これは小皿3点が棺内に納められ、残り1点が棺外ないしは棺内に納められたものが移動したと考えられる。この推定が正しければ鉄釘の出土位置と考え合わせ木棺の規模は長さ1m、幅0.4m程度と推定できる。



第12図 中世木棺墓実測図(上・木棺墓1、下・木棺墓2)

出土した土師器皿から見て13世紀後半の所産と考える。

木棺墓2（第12図） 木棺墓1から東へ0.7m離れた地点で検出した。溝27を切る。底部の標高はT.P8.35mである。墓壙掘方は、平面形が隅丸長方形を呈し長辺1.47m、短辺0.83~1.13m、深さ0.4m以上である。埋土は、明黄褐色砂礫混じり土1層である。

木棺は遺存していないが、墓壙と堆積土（黒褐色砂混じりシルト）の異なりから痕跡が推定でき、骨盤と右上肢近くで鉄釘が各1点出土したことおよび、骨が水平な状況で検出されたため木棺墓と判断した。木棺の規模は長さ1.17m、幅0.6m程度と推定できる。

人骨は、頭骨が反転しているのを除き、比較的良く残り頭部を北に向け側臥屈葬の姿勢で、右手を首にあて、右と左の下肢を交叉させている。下頸骨には歯が残存していた。現場における鑑定結果によれば、40才代の身長159cm前後の男性と判断されている。

副葬品は、土師器大皿1点・土師器小皿7点である。土師器大皿と土師器小皿6点は、左肩部に隣接してまとめて置かれ、内面を上に向かって出土した。小皿1点は、左上腕骨の下に置かれていた。検出状況から見ていればも原位置を保ち、棺内埋葬の可能性が高い。

墓壙および木棺の土層断面からこの墓の構築法を考えれば、まず平面形が隅丸長方形で断面形が皿形の墓壙を掘り、木棺を納める部分を1段深く掘る。次いで、木棺を安置し木棺上面まで土を入れ固定する。その後、簡単な盛土を行なったと思われるが上部が削平されているため盛土は検出できなかった。

出土した土師器皿の口径が木棺墓1に比して大きいため、若干先行する13世紀後半の所産と考える。

#### 近世～近代の遺構

耕作に伴う井戸・溝・溜池がある。

井戸は、調査地北辺で2基検出した。中世の河川が埋没した後に造られていた。いずれも人頭大から牛頭大の自然石を用いた石組の井戸である。調査区の北東部で検出した井戸9は、北側に接して造られた溜池に水を供給していた。上部を石組、下部は丸太材を横に積み上げて井筒としていた。出土遺物から見て道路開設時まで使用されていたと考えられる。

溜池は、井戸と同様の石組で護岸していた。1辺3mの正方形を呈する。上述したように井戸9から水を汲み上げるように造られていた。廃絶時期も井戸9と同様である。

溝は、耕作に伴う畝溝（幅0.4m・深さ0.1m前後）と棚田の石垣に伴うと考えられるものがある。畝溝は、地点により異なるが東西あるいは南北方向に幅0.6m前後の間隔をあけ、並行して検出した。近世から道路開設時までの遺構と考えられる。

石垣は既に削平（おそらく道路開設時）されていたが、棚田の石垣に伴う溝が南北方向に掘られていた。周辺の検出例から見て、16世紀代に造成されたものと考えられる。

## V 出土遺物

弥生時代から近代までのものがある。遺物の内訳は、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・国産陶器・中国製磁器と、釣瓶などの木製品、鍾などの鉄製品、打製石剣などの石製品である。出土遺物の中で最も量の多いのは中世に属するものである。個々の遺物についての詳細は、別に観察表を作成したのでそれを参照されたい。以下、古い時代から順に遺構・包含層出土遺物の概要を記す。

弥生土器〔図版12~14〕

中期（第III~第IV様式）に属するものがほとんどである。それぞれの遺構ごとに述べる。

溝57出土土器（第13図 1~15）出土土器の器種は壺・鉢・甕がある。これらはさらに、器形の違い・法量の大小により細分される。

壺は広口壺（1・2）、細頸壺（3）が見られる。広口壺は、口縁部端面に刻み目・簾状文が施されている。鉢（4~7）は、器形の異なる種類のものが認められ、ミニチュアタイプの小型鉢（5）も見られる。甕は、中小型（20cm未満）・大型（20cm以上）が見られる。器種毎に他地域・在地共に存在する。底部には第II様式に属すかと思われるいわゆる木葉底（9・13・14）も存在するが、主体は第III様式に属す。

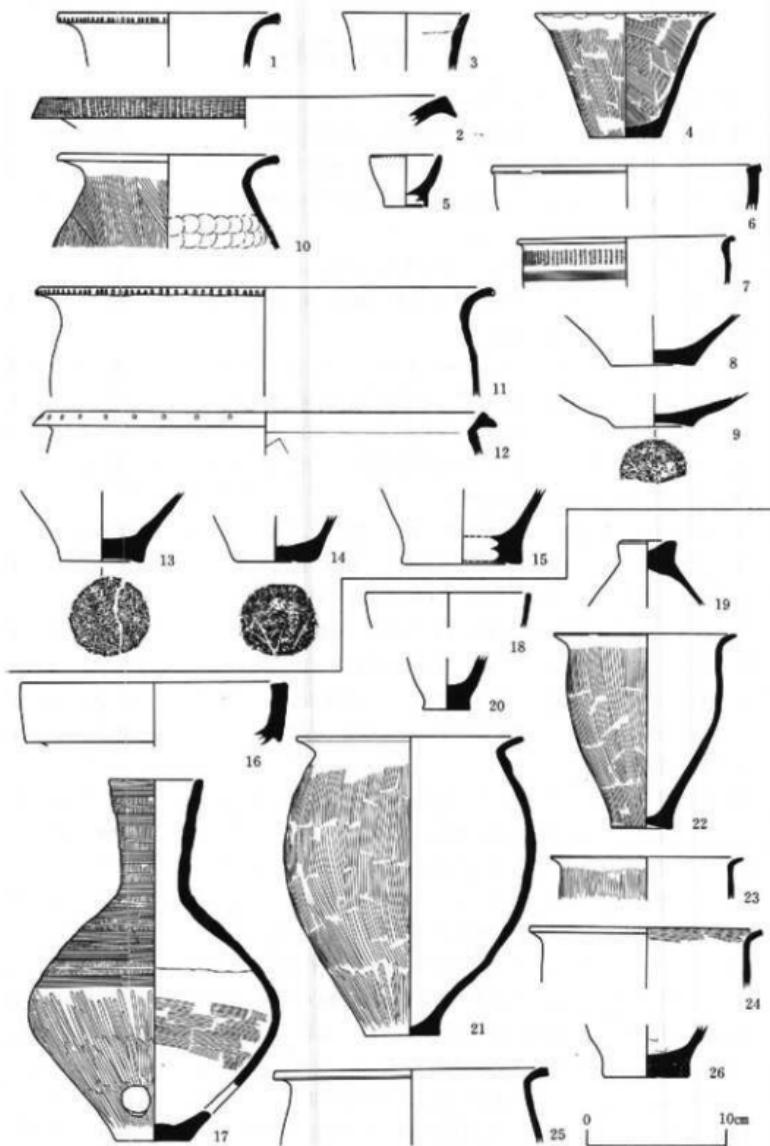
溝58出土土器（第13図 16~26）出土土器の器種としては、壺・鉢・甕・甕蓋がある。壺は、受け口状口縁壺（16）・細頸壺（17）が見られる。鉢は、底部片ではあるが小型のものが見られる。甕は、中小型のものが見られる。第III~第IV様式前半に属す。

溝59出土土器（第14図 27）口縁端部を上方へ拡張する広口壺である。外面の頸部から体部にかけて、ハケメが施されている。第IIIから第IV様式前半に属す。

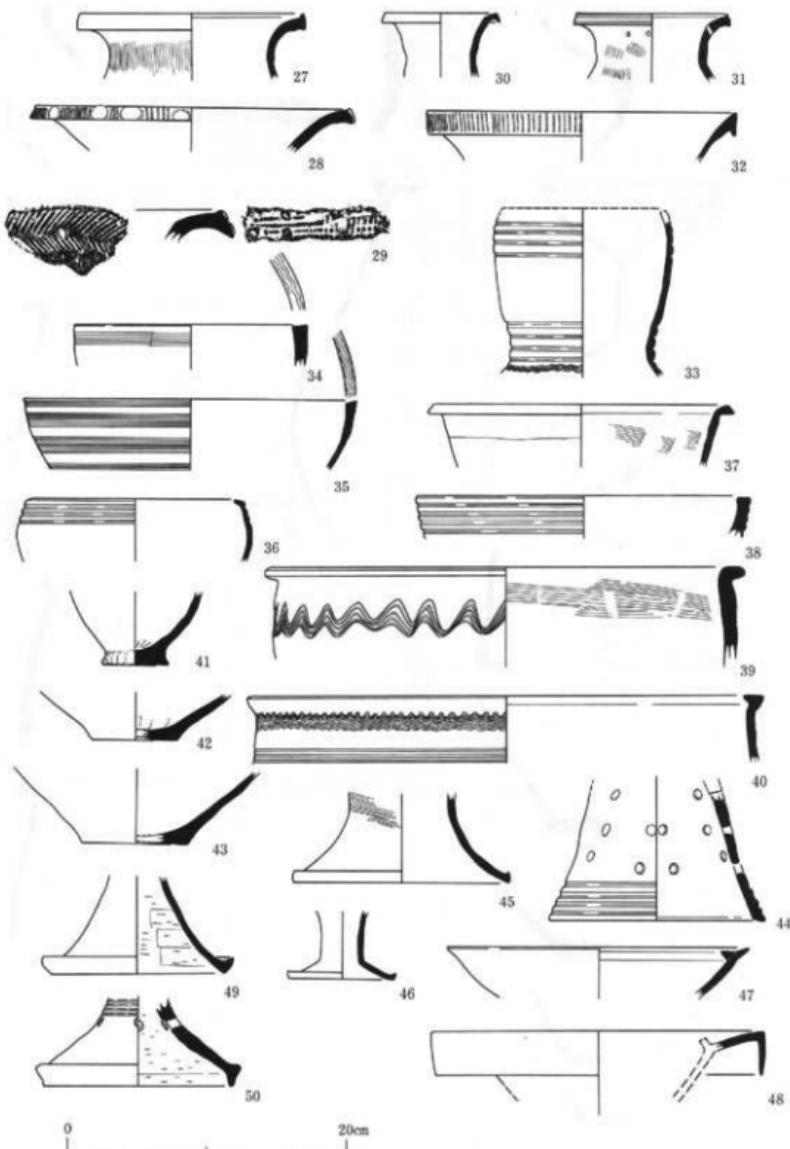
土壤41出土土器（第15図 57・63）出土土器の器種は、甕・甕蓋が見られる。甕は、中小型のものである。蓋は、つまみ部の内外面と、天井部から体部の内面に指頭圧痕が強く施される。第III~第IV様式前半に属す。

弥生時代川出土土器（第14図 28・35・42・43・47・49・50、第15図 53・54・60・61・64~66）出土土器の器種は、壺・鉢・高杯・甕がある。広口壺（28）は、口縁部端面に櫛描き簾状文と円形浮文が施される。鉢は細片ではあるが、口縁部・底部・台付鉢（60）が見られる。底部は壺の可能性もあり、どちらとも言えない。高杯は、口縁部に明瞭な屈曲をもつもの、口縁部内面に突帯をもつものが見られる。脚部には凹線文と穿孔、裾部には端部が拡張されたものが見られる。甕は中小型・大型がある。第III様式後半~第IV様式前半に属す。

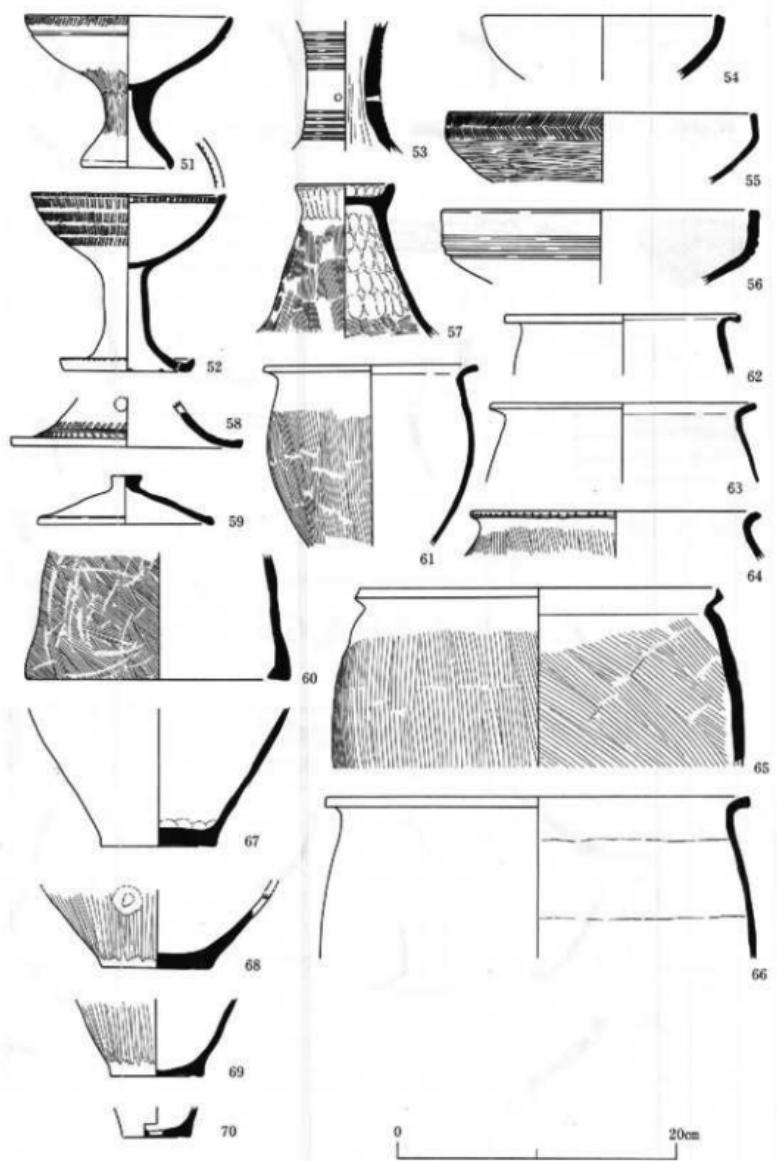
弥生時代包含層出土土器（第14図 30・33・34・36・40・44・48、第15図 51・62・67~70）出土土器の器種は、壺・鉢・高杯・甕があげられる。壺は、広口壺（30）・細頸壺（33）が見られる。広口壺は、口縁端部を下方に拡張し、面をもつ。細頸壺は、頸部端面に波状文、頸部に4条の凹線文を上下に2ヶ所に施す。鉢は、口縁部・台付鉢の脚部が見られる。高杯は、口縁端部が下方へ大きく拡張するもの、杯部が橢形を呈すものが見られる。甕は、中小型のものがある。第III~第IV様式前半に属す。



第13図 満57・満58出土弥生土器実測図



第14図 溝59・弥生時代川・弥生時代包含層出土弥生土器実測図



第15図 土壌41・弥生時代川・弥生時代包含層出土土器実測図

## 中世遺構出土遺物〔図版14~42〕

鎌倉から室町時代に至る各時期のものが出土している。それぞれの造構ごとに述べる。

溝25出土遺物（第16図 1~20、第17図 21~41、第18図 42~94）出土土器の器種は、土師器大・小皿・羽釜、瓦器椀・小皿、東播系須恵器捏鉢、常滑焼甕、中国製磁器がある。以下において、器種ごとに述べる。

瓦器椀（1~20） 大和型（1~15・18・19）と、和泉型（16・17・20）がある。（1・6）は、口縁部外面に4分割のミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、口径14.2~14.8cmを測ることから、12世紀中葉頃に属す。（2~5・7~15・19）は、口縁部外面に分割のない粗いミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、口径13.7~15.3cmを測ることから、12世紀後葉頃~13世紀前葉頃に属す。（18）は、口縁部外面の上半1/3に粗いミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、断面三角形を呈する高台が底部下端より上位に張り付けられていることから、13世紀前葉頃に属す。（16）は、口縁部外面に4分割のミガキ調整、見込みに平行線状暗文が施されていることから、12世紀後半頃に属す。（17・20）は、外面ミガキの形骸化、見込みに平行線状暗文が施されていることから、12世紀後葉頃に属す。

瓦器小皿（21~37） 口径8.4~9.7cm、器高1.3~2.0cmを測る。（34・35）は、口縁部内面にヘラミガキ調整が見られる。見込みのジグザグ状暗文の回数が多いもの（21~33・36など）は12世紀中葉頃~後葉頃、少ないもの（32・34・35・37）は13世紀前葉頃に属す。

土師器大・小皿（42~88） 大皿（42~48）の形態の特徴として、ゆるやかに立ち上がるもの（43・44・46・48）、立ち上がり部が強く屈曲するもの（42・45・47）が見られる。口径12.3~14.7cm、器高2.3~3.1cmを測る。

小皿（49~88）は、口縁部一回ヨコナデ手法を主とし、ゆるやかに立ち上がるもの（50など）、立ち上がり部を強く屈曲するもの（49など）、上げ底氣味のもの（68など）が見られる。口径7.5~9.2cm、器高1.1~2.3cm。大皿（42~44）は11世紀後葉頃~12世紀前葉頃に属す混入品で、他は12世紀中葉頃~13世紀前葉頃に属す。

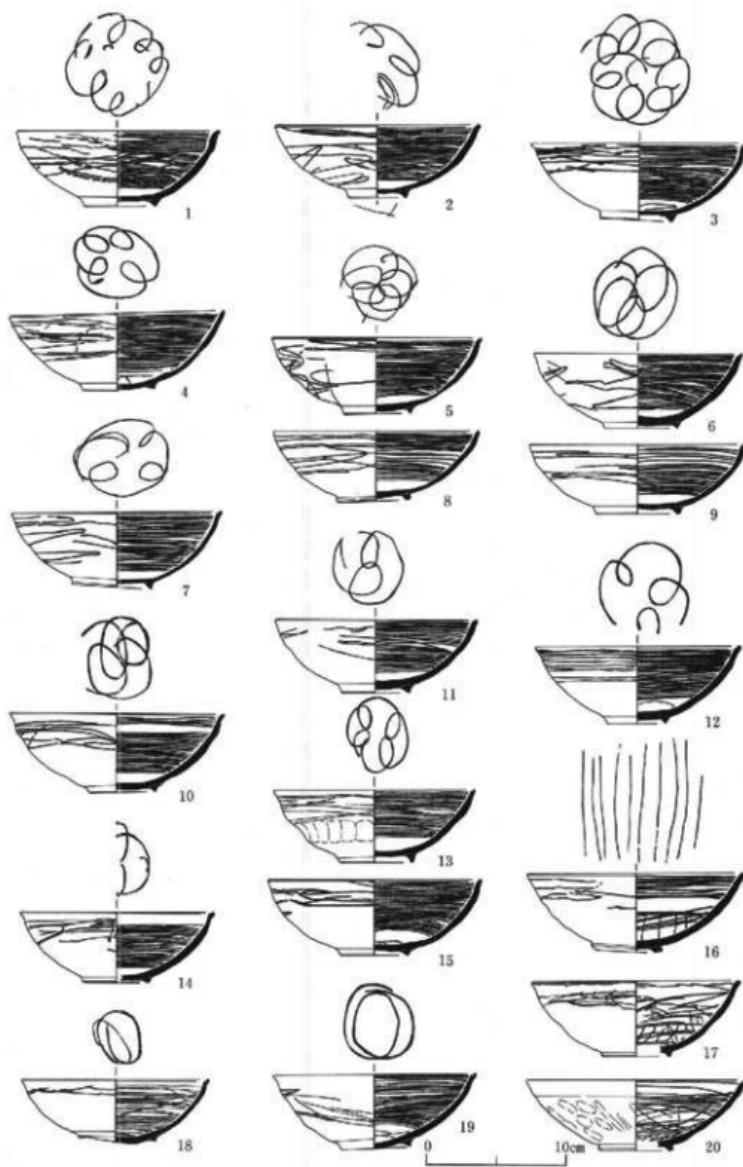
土師器羽釜（38~41） 口縁端部を内側に折り返す大和型である。口径25.4~32.8cmを測る。12世紀中葉頃に属す。

東播系須恵器捏鉢（89~91）（89）は、外上方に向かう口縁部に片口をもつ。12世紀前半頃に属す。（90・91）は、口縁端部の断面がほぼ方形を呈する。12世紀中葉頃に属す。

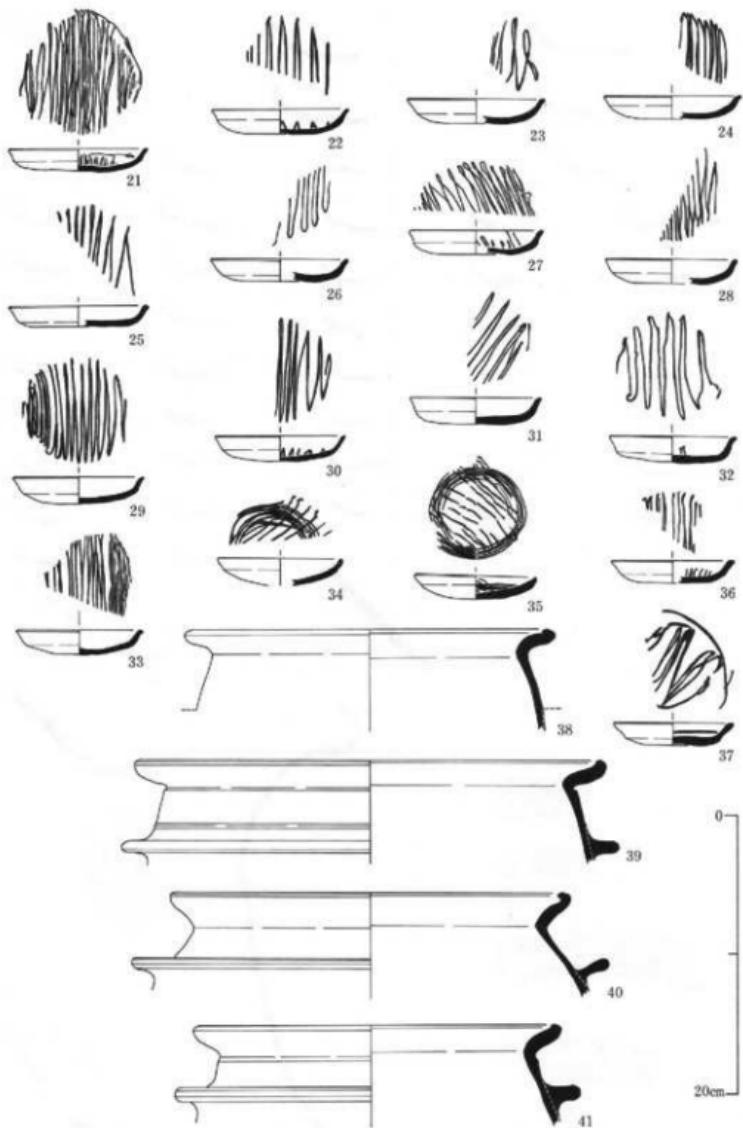
常滑焼甕（92） 輪積み成形の繼ぎ目に、外面は幾何学文様のスタンプを押捺し、内面は未調整とする。12世紀前半頃に属す。

中国製磁器（93・94）（93）は、内面に片切形による飛雲文と思われる文様がある龍泉窯系の青磁碗である。12世紀中葉頃~13世紀初頭頃に属す。（94）は、わずかな削り出しの底部に、厚い高台をもつ白磁碗である。

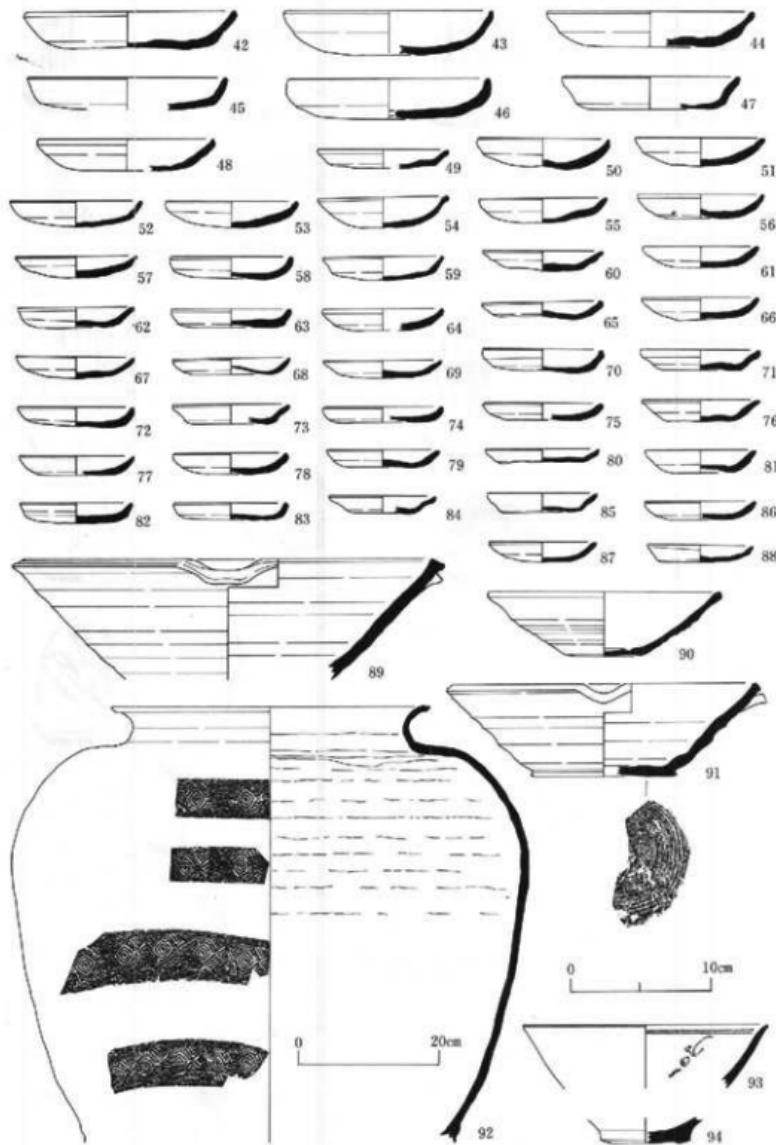
以上のことから溝25の時期は、瓦器椀の編年を中心に考えると、12世紀後半頃~13世紀前葉頃に属すと考えられる。



第16図 溝25出土瓦器実測図



第17図 满25出土土師器・瓦器実測図



第18図 溝25出土土師器・国産陶器・中国製磁器実測図

溝20出土遺物（第19図 95～151、第20図 152～158、第21図 159～187）出土土器の器種は、土師器大・小皿・羽釜、須恵器杯蓋・杯身、東播系須恵器甌・捏鉢、瓦器椀・小皿・擂鉢・甌・足釜、中国製磁器、縁釉椀・瓦がある。

瓦器椀（95～105） 大和型（95～99）と、和泉型（100～105）がある。（95）は、口縁部外面に3分割のミガキ調整、見込みの螺旋状暗文などから、12世紀中葉頃に属す。（96・98）は、口縁部外面に分割のない粗いミガキ調整、見込みの螺旋状暗文などから、12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。（97）は、口縁部外面の粗いミガキ調整、見込みの渦巻状暗文などから、13世紀前葉頃に属す。（103）は、口縁部外面にわずかなミガキ調整、見込みの平行線状暗文などから、12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。（100・105）は、内面の粗い渦巻状ミガキ調整、口径12.7cm前後を測ることから、13世紀中葉頃に属す。（102）は高台を伴わず、丸底の浅い楕形を呈し、口径11.4cmを測ることから13世紀後葉頃～14世紀前葉頃に属す。（101・104）は、内面の螺旋状暗文は粗くなり、数周巡るにすぎない。口径10.1～10.4cm。14世紀前葉頃に属す。

瓦器小皿（106～109） 口径8.0～10.2cm、器高1.5～1.9cmを測る。見込みに6～20回程度のジグザグ状暗文が施される。（108）は、内面にミガキ調整が施される。見込みのジグザグ状暗文の回数が多いものは12世紀中葉頃、少ないものは13世紀前葉頃に属す。

瓦器擂鉢（169） 口縁端部内面を面取りする大和型。14世紀前葉頃に属す。

瓦器甌（177） 口縁部を外方に折り曲げ、端部を上・下方に突出させている。外面には平行叩きが施される。和泉型。13世紀前葉頃に属す。

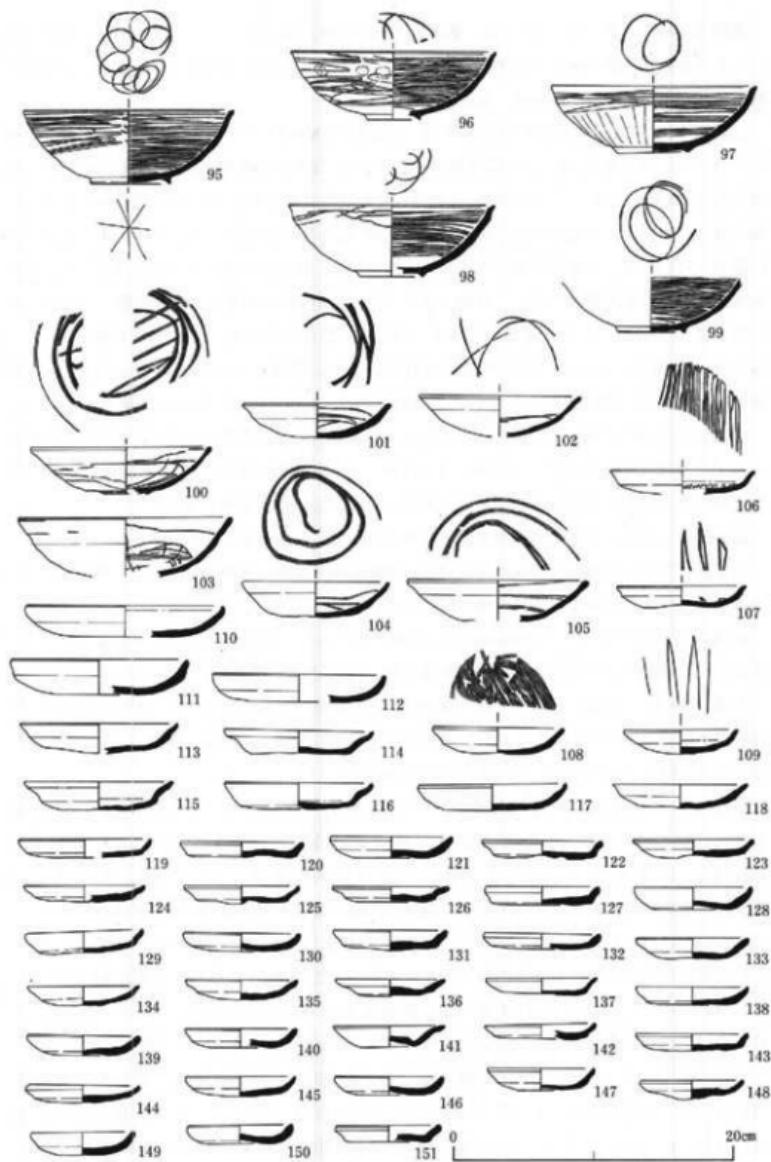
瓦器足釜（179～183） 口縁端面に浅い沈線をめぐらし、体部内面をハケメ調整する。三足を鉄に接して貼り付けているのか否かは不明。13世紀初頭頃に属す。

土師器大・小皿（110～151） 大皿（110～117）の形態の特徴として、ゆるやかに立ち上がり口縁部を1回ヨコナデするもの（111～113・117）、立ち上がり部が強く屈曲する（114～116）がある。口径10.4～13.8cm、器高1.7～2.5cmを測る。

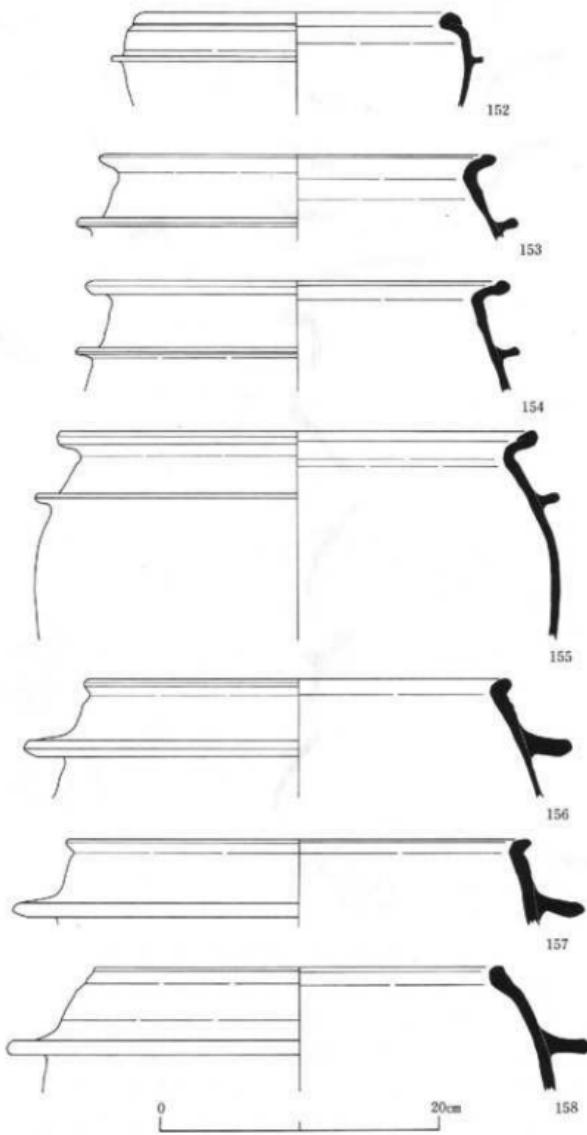
小皿（118～151）は、口縁部1回ヨコナデを主とし、ゆるやかに立ち上がるもの（134・135など）、立ち上がり部を強く屈曲するもの（119・120など）、上げ底気味のもの（141）がある。口径7.2～9.5cm、器高1.1～1.7cmを測る。時期は、大皿（110）と小皿（118～121）は12世紀中葉頃～後半頃に属す混入品で、他は13世紀中葉頃～14世紀初頭頃に属す。

土師器羽釜（152～158・178） 内湾する口縁部に端部を外方に折り返すもの（152）、「く」の字形に外反する口縁部に端部を内側に折り返すもの（153～155）、「く」の字形に短く外反するもの（156～158）、内傾する口縁部外面に凹線をめぐらすもの（178）がある。（152～155・158・178）は13世紀後葉頃～14世紀初頭頃に属す。（156・157）は13世紀中葉頃に属す。

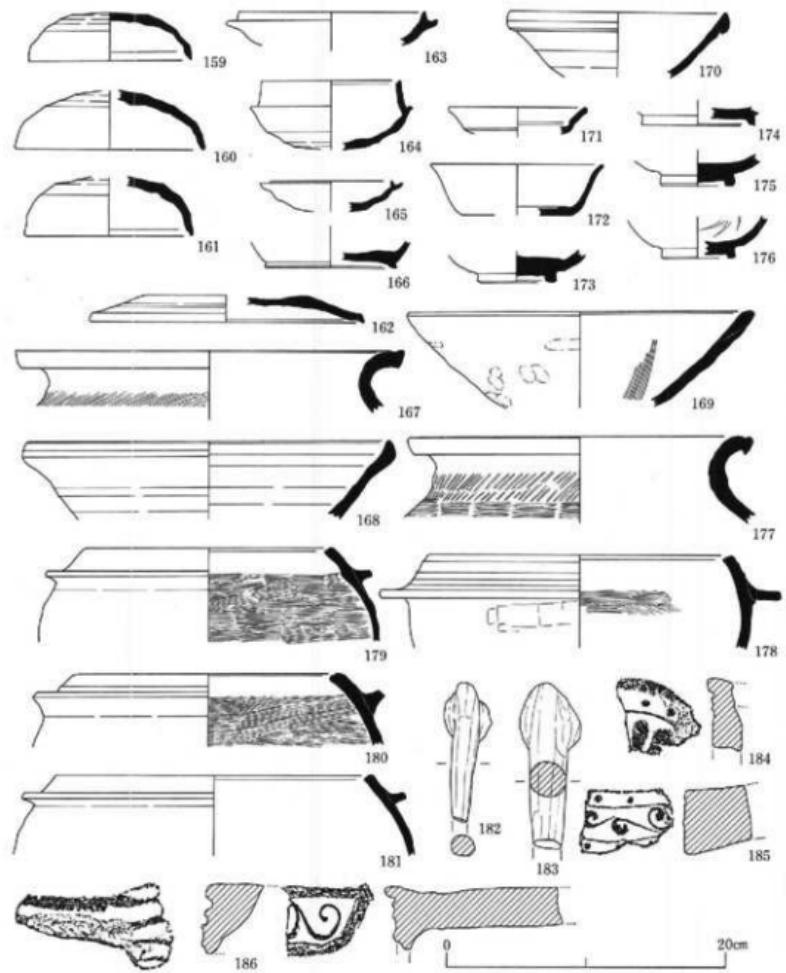
須恵器杯蓋（159～162） すべて混入品である。口縁部と天井部の境に稜が不明瞭なもの（159・161）、天井部の稜はまったく見られないもの（160）、平らな頂部から屈曲する口縁部が見られるもの（162）がある。（159・161）は6世紀中頃、（160）は6世紀中頃～末頃、（162）は8世紀前葉頃に属す。



第19図 满20出土土師器・瓦器実測図



第20図 溝20出土土師器実測図



第21図 溝20出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図

須恵器杯身（163～166）すべて混入品である。立ち上がりは比較的高く、わずかに内傾する。口縁端部に内傾する明瞭な段をもつ（164）は口径10.0cm。立ち上がりは短く、口縁端部は丸く納める（163）は口径13.3cm、口径8.6cmと小型で立ち上がりはわずかに内傾するにとどまる（165）がある。「ハ」の字形の高台をもつ（166）は底径9.3cmである。（164）は6世紀初頭頃、（163）は6世紀末頃～7世紀前葉頃、（165）は7世紀前葉頃、（166）は8世紀中頃に属す。

東播系須恵器甕 (167) 口縁部を外弯させ、端部に面をもつ。体部外面には、斜め方向の平行叩きが施される。13世紀代に属す。

東播系須恵器捏鉢 (168) 口縁端部を上・下に引き出す。13世紀前半頃に属す。

瓦 (184~187) 重弧文 (186)・唐草文軒平瓦 (185・187)、單弁蓮華文軒丸瓦 (184) がある。飛鳥~平安時代に属す混入品。隣接する法通寺所用瓦である。

以上のことから、溝20の時期は、混入品も認められるが、溝25との切り合いからみて13世紀中葉頃~14世紀初頭頃に属すと考えられる。

溝21出土遺物 (第22図 188~213、第23図 214~278) 出土土器の器種は、土師器大・小皿・羽釜・瓦器椀・小皿・中国製磁器がある。

瓦器椀 (188~211) 大和型 (188~193) と、和泉型 (194~211) がある。(188・189) は、口径14.5cm前後、外面に粗いミガキ調整が施される。見込みには、螺旋状暗文が見られる。12世紀後葉頃~13世紀前葉頃に属す。(190・191) は、法量の小形化、粗いミガキ調整が施される。13世紀中葉頃に属す。(192・193) は、口径10.6~11.1cm。見込みから口縁部内面には、1連の渦巻状ミガキ暗文が施される。13世紀後葉頃~14世紀初頭頃に属す。(211) は、外面にミガキが全く認められず、見込みにもわずか4条程度の平行線状暗文が見られるにすぎない。13世紀前葉頃に属す。(208) は、形骸化した高台をもつ。13世紀中葉頃に属す。(194・196・199・200~205) は、口径11.5cm前後。高台は伴わず、丸底の浅い椀形を呈する。13世紀後葉頃~14世紀前葉頃に属す。(195・197・198・206・207・209・210) は、口径10.1~11.3cm。内面の螺旋状暗文は粗く、3~4周巡るにすぎない。14世紀前葉頃に属す。

瓦器小皿 (212) 平底から立ち上がり部を強く屈曲し、口縁端部を外折する。見込みには細かいジグザグ状暗文が施される。12世紀中葉頃に属す混入品。

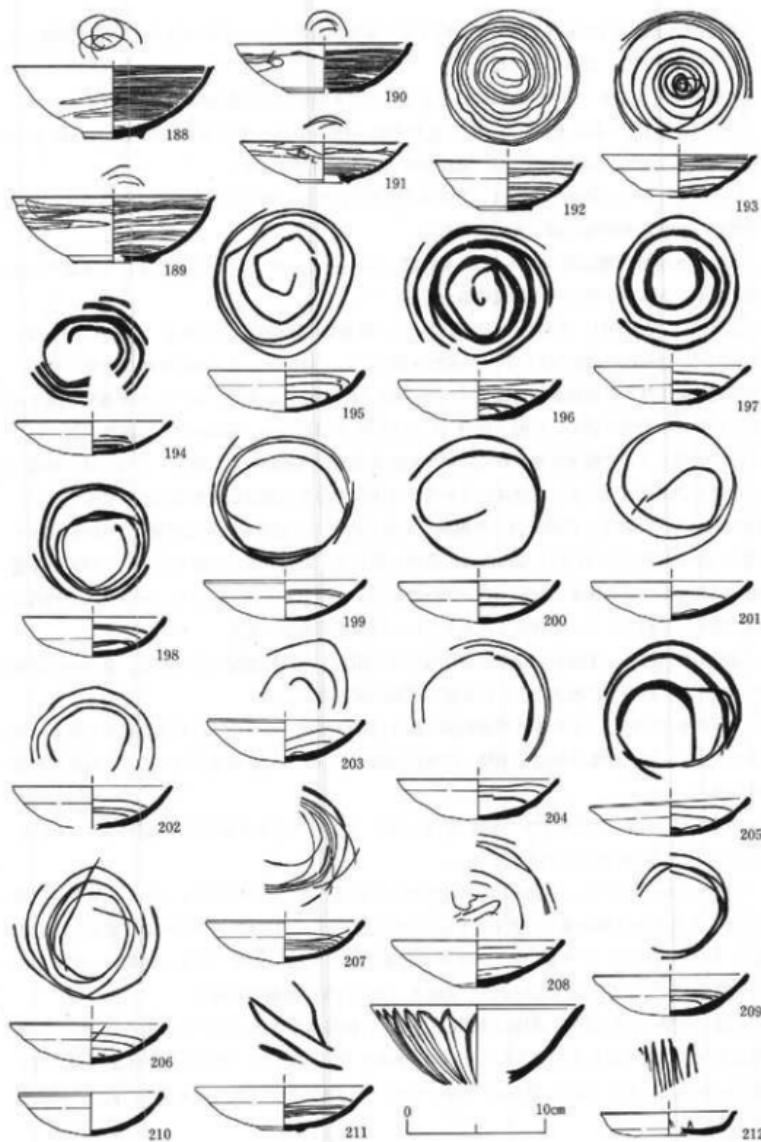
瓦器足釜 (278) 三足を体部外面側部に張り付けた痕が、わずかではあるが認められる。鉗は欠失している。体部外面は不調整、内面には細かなハケメ調整が施されている。14世紀初頭頃に属す。

土師器大・小皿 (214~272) 大皿 (214~217) は、立ち上がり部が強く屈曲する。口径10.7~11.7cm、器高1.9~2.3cmを測る。

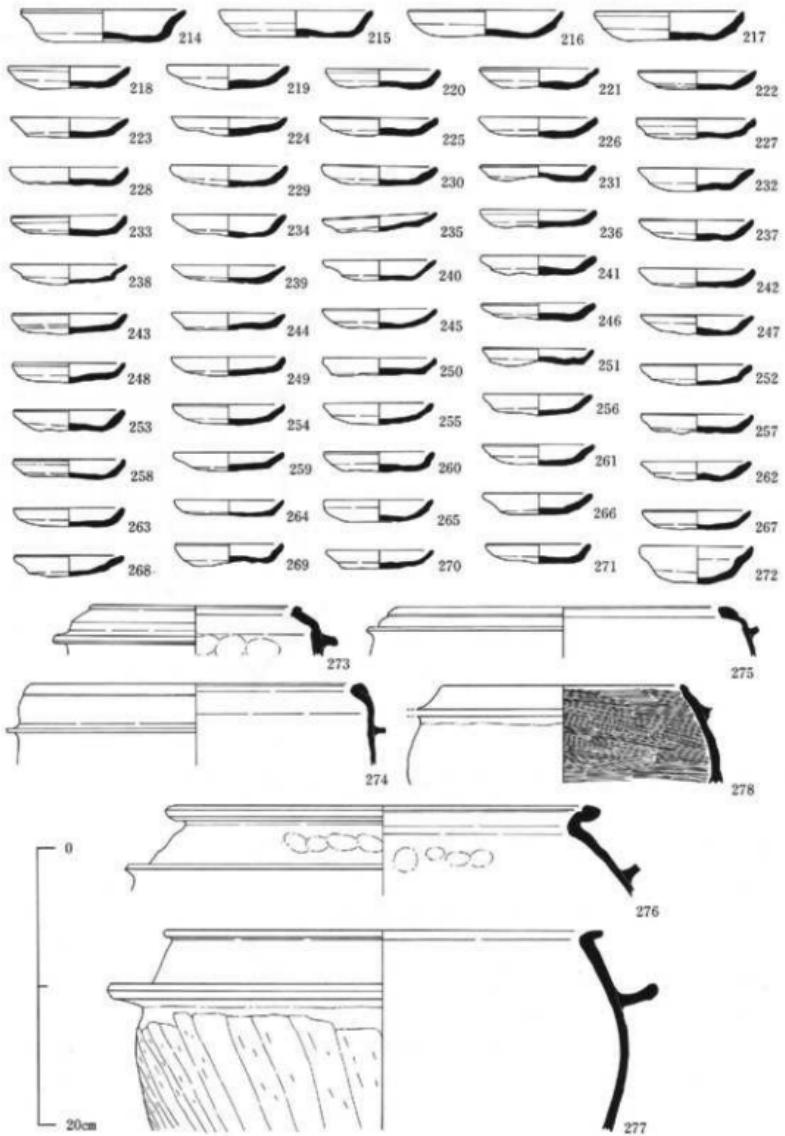
小皿 (218~272) は、口縁部1回ヨコナデを主とし、ゆるやかに立ち上がるもの (226・229など)、立ち上がり部が強く屈曲するもの (222・223など)、口縁部ヨコナデの下端が肥厚するもの (227・233など) がある。また、特殊な形態をもつ (272) が見られる。時期は、混入品の12世紀後半頃に属す小皿 (218~220) を除き、他は14世紀前葉頃に属す。

土師器羽釜 (273~277) 形態の特徴として、口縁端部を内側に折り返すもの (276)、口縁端部を外側に折り返すもの (273~275)、口縁部を「く」の字形に外反させ、体部外面に削り調整が施されるもの (277) がある。(274~276) は13世紀代頃に属す混入品で、他は、14世紀前葉頃に属す。

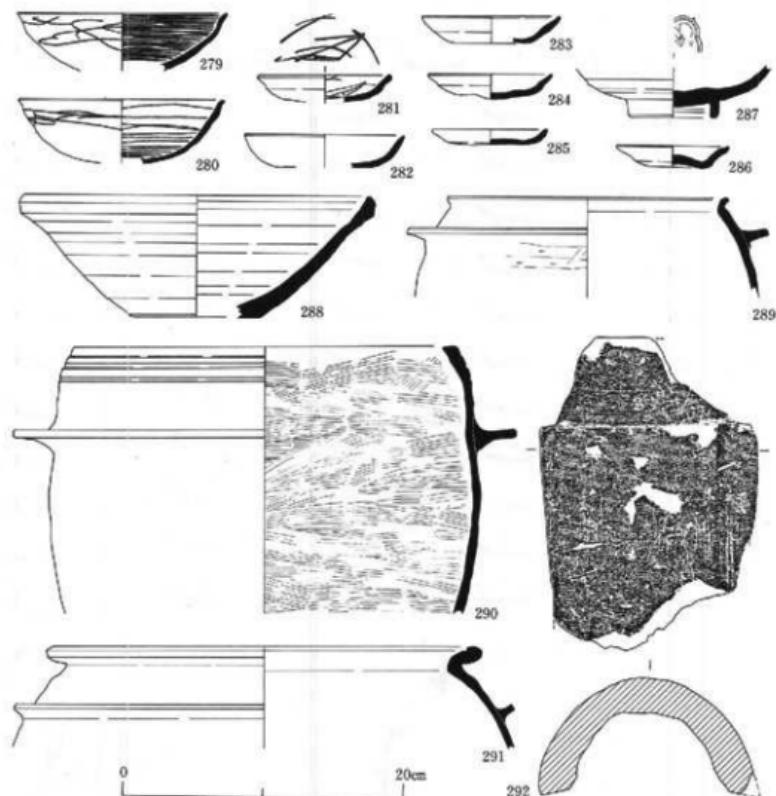
中国製磁器 (213) 外面体部に、片切形で蓮弁の文様をもつ龍泉窯系の青磁碗である。蓮弁



第22図 满21出土瓦器・中国製磁器実測図



第23図 满21出土土師器・瓦器実測図

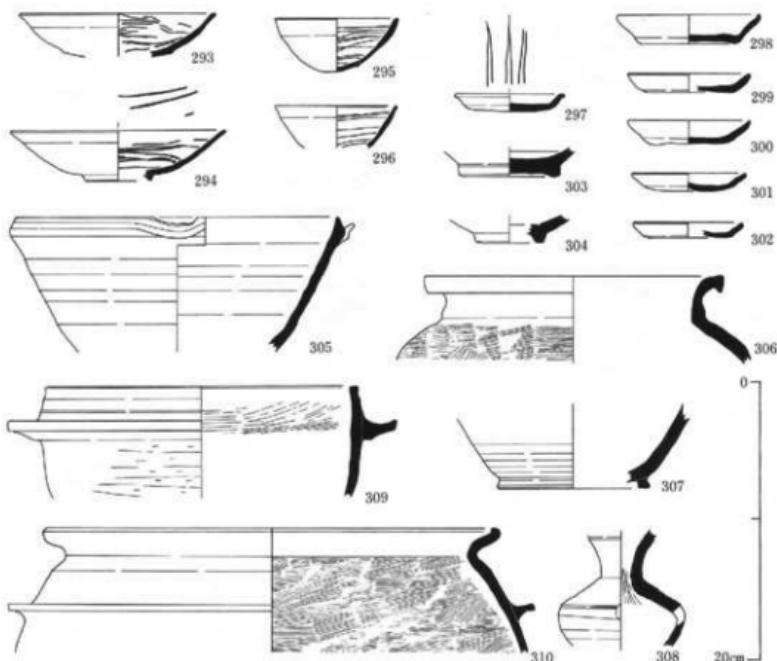


第24図 各溝出土土師器・瓦器・国産陶器・瓦実測図  
には鍋をもつことから、13世紀後半頃に属す。

以上のことから、混入品も認められるが、溝20などの切り合いからみて、14世紀前半頃に属するものが機能時の遺物と考えられる。

その他の溝出土遺物（第24図 279～292、第25図 293～310）出土遺物は、土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦があり、形態は椀・皿・鉢・釜・甕・甕が見られる。時期は、12世紀後半頃～14世紀代頃に属するものが主であるが、少量15世紀代頃に属するものもみられる。

大和型瓦器椀（279）13世紀前葉頃に属す。溝55出土。須恵器甕（306）・土師器羽釜（310）共に13世紀代頃に属す。溝33出土。和泉型瓦器椀（293）・瓦器小皿（297）・土師器小皿（299）・土師器羽釜（309）は13世紀中葉頃に属す。溝48出土。土師器羽釜（291）・土師器小皿（283・285）共に13世紀代頃に属す。溝8出土。和泉型瓦器椀（294）・東播系須恵器捏鉢（305）共に13世紀中葉頃に属す。溝18出土。混入品として、須恵器甕（308）7世紀前半に属するものがあ



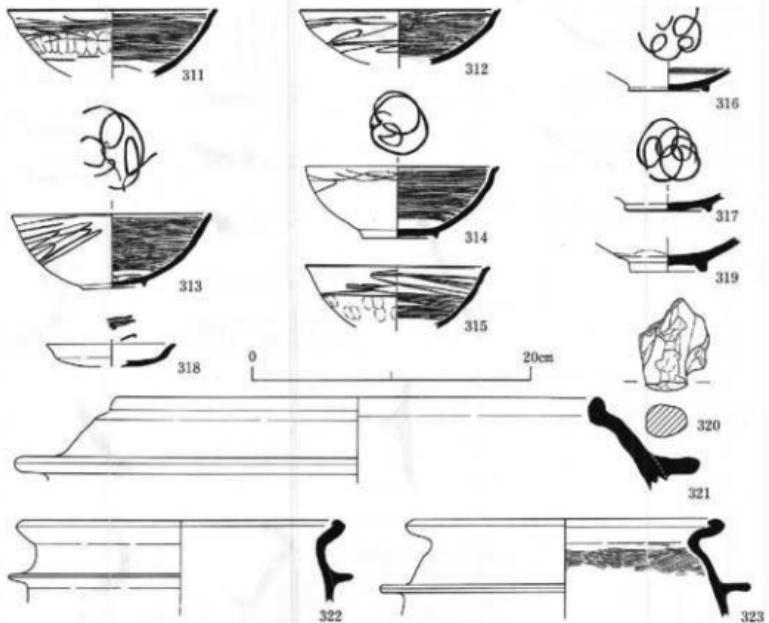
第25図 各溝出土土師器・須恵器・瓦器・国産陶器実測図

る。大和型瓦器椀(280)、土師器羽釜(289)共に13世紀後葉頃に属す。溝27出土。青磁碗(286)は14世紀代頃に属す。溝19出土。東播系須恵器捏鉢(288)は13世紀後半頃に属す。溝42出土。瓦器羽釜(290)・土師器小皿(286)共に15世紀代頃に属す。溝30出土。

井戸6出土遺物(第26図 311～323) 出土遺物は、土師器羽釜、瓦器椀・小皿・足釜、中国製磁器がある。大和型瓦器椀の特徴として、体部外面の分割性ミガキ調整、見込みに螺旋状暗文が施されている。口径13.1～15.0cm。(322・323)は、口縁部を「く」の字形に外反し、口縁端部を内側に折り返す大和型の土師器羽釜である。(321)は、口縁部を丸く納める河内型。(320)は足釜の三足の一部である。白磁碗(319)は、高台脇から高台内は釉が施されていない。12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。

井戸5出土遺物(第27図 324～348) 出土遺物は、土師器大・小皿、瓦器椀・小皿・足釜・鉢、東播系須恵器捏鉢、中国製磁器がある。大和型瓦器椀は、見込みに渦巻状暗文、和泉型瓦器椀は、見込みに平行線状暗文を施す。口径12.1～15.4cmを測る。瓦器小皿(322)は、見込みにジグザグ状暗文が施される。口径7.5cm、器高1.2cm。足釜(342・343・345)がある。

(342)は、口縁部が内傾する釜の体部外面に三足を貼り付けた形態。三足は、鈎に接して直下に貼り付けている。口径18.8cm、器高24.7cm。



第26図 井戸6出土土器・瓦器実測図

東播系須恵器捏鉢（347・348）は、口縁端部を上方へ拡張し、底部外面には、糸切り痕が見られる。（348）には、片口が見られる。

土師器大皿は、ゆるやかに立ち上がるもの（333）、立ち上がり部が強く屈曲するもの（334）とがある。小皿もゆるやかに立ち上がるもの（335・336・339）、立ち上がり部が強く屈曲するもの（337・338）がある。口径7.7~8.8cm。器高1.3~1.5cm。

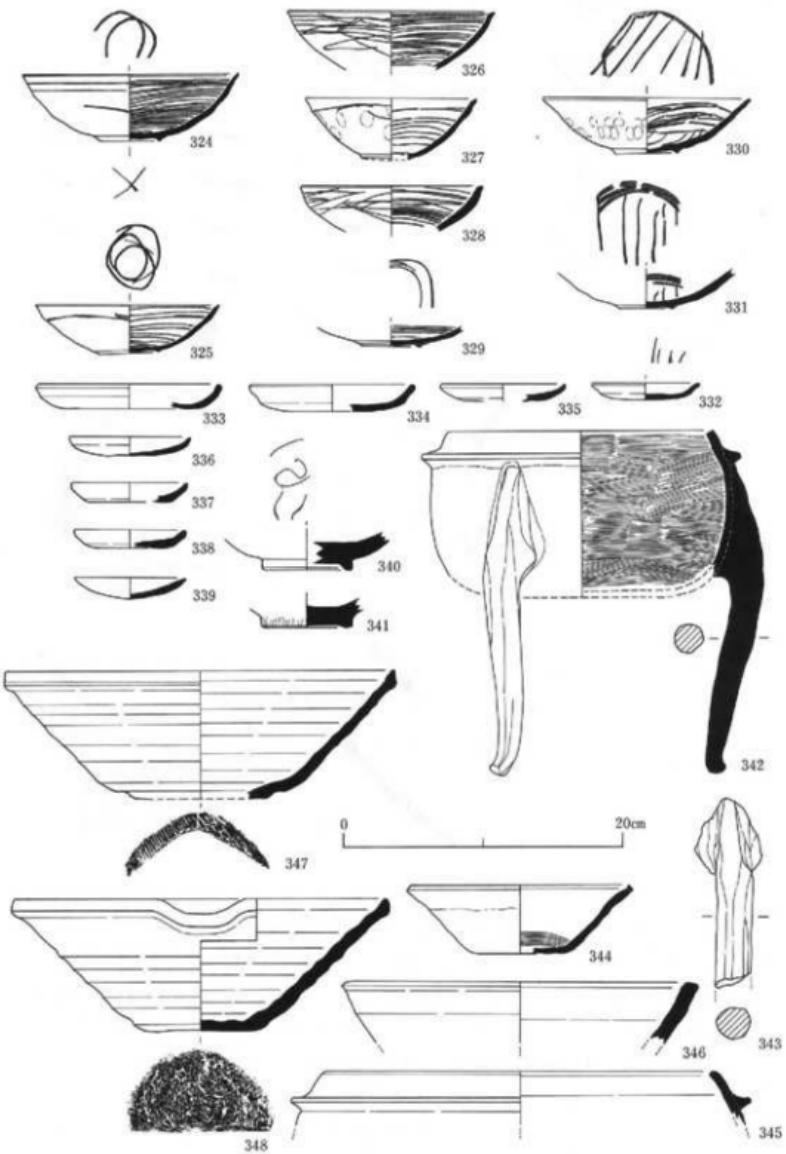
龍泉窯系青磁碗（340）の内面には、片切形による文様が施される。13世紀後半に属す。

（346）のように12世紀中葉頃に属す混入品も認められるが機能時期は、12世紀後葉頃～13世紀後葉頃に属す。

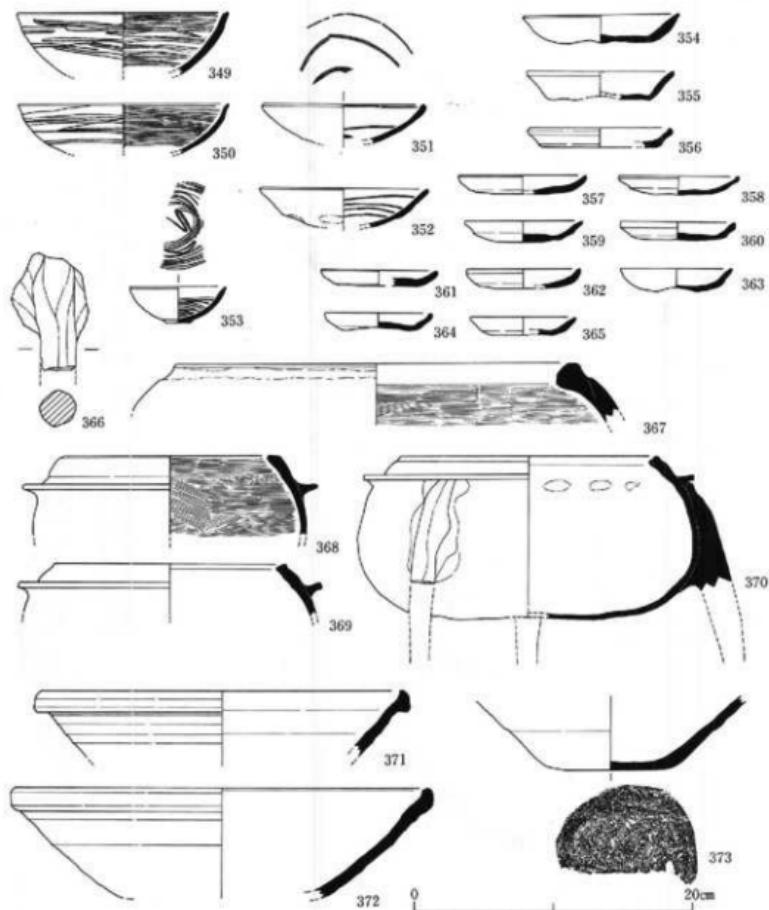
井戸1出土土器（第28図 349~373）出土土器は、土師器大・小皿・羽釜、瓦器椀・小椀・足釜・鉢がある。和泉型瓦器椀の高台は無く、丸底の浅い椀形を呈する。瓦器小椀も見られる。口径6.9cm、器高2.6cm、底径1.7cm。足釜（370）は、口縁部が内傾する、釜の体部外面に三足を貼り付けた形態。三足は鍔に接して直下に貼り付けている。口径18.4cm。鉢（373）の底部外面には、糸切り痕が見られる。

土師器羽釜（367）の口縁部は内傾し、口縁端部は丸く納める。口径28.8cm。

東播系須恵器捏鉢（372）の口縁端部は上方に拡張される。口径30.4cm。（349・350）のように12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す混入品も認められるが機能時の遺物は14世紀前半頃に属す。



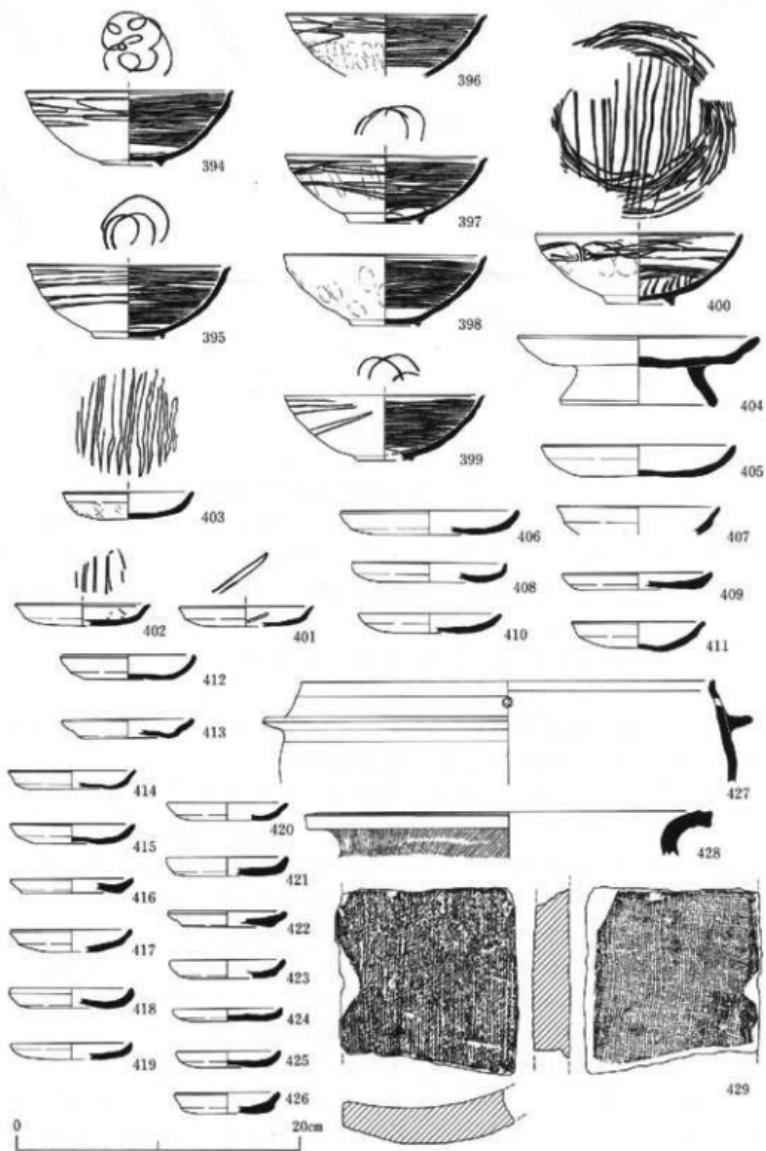
第27図 井戸5出土土師器・瓦器・国産陶器実測図



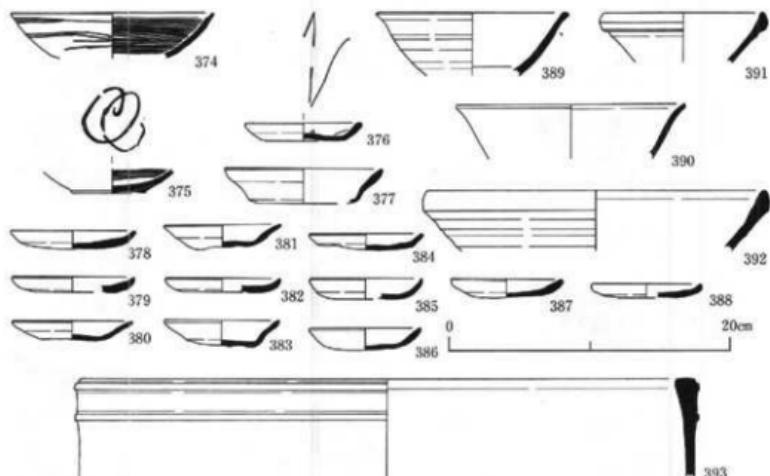
第28図 井戸1出土土器類・瓦器・国産陶器実測図

井戸4出土遺物（第29図 394～429）出土遺物は、土師器大・小皿・台付大皿、東播系須恵器甕、瓦器椀・小皿・羽釜、瓦がある。大和型瓦器椀の体部外面に分割性のあるミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、口径14.1～14.6cm、器高4.7～5.3cm。和泉型瓦器椀は体部外面の成形時の指頭圧痕、見込みに平行線状暗文を施す。口径14.7cm、器高5.2cm、底径4.7cm。瓦器小皿（403）は、見込みに回数の多いジグザグ状暗文を施す。口径9.2cm。羽釜（427）の口縁部には、一ヶ所、焼成時の穿孔が施される。口径29.2cm。

土師器台付大皿（404）は、立ち上がり部が強く屈曲する大皿に、脚がついたもの。口径16.8cm、器高4.9cm、底径10.7cm。土師器大皿（405～410）は、立ち上がり部が強く屈曲する



第29図 井戸4出土土器器・須恵器・瓦器・瓦実測図



第30図 井戸3・各ピット・焼土壌出土土器・瓦器・國産陶器・中國製磁器実測図

もの(408など)、ゆるやかに立ち上がるるもの(405など)がある。小皿(411~426)は、立ち上がり部が強く屈曲するもの(413・414など)、ゆるやかに立ち上がるもの(411など)がある。口径9.4cm、器高0.9~2.1cm。12世紀後葉頃に属すが(429)のように奈良時代頃に属する平瓦の混入品も認められる。

井戸3出土土器(第30図 374) 大和型瓦器碗がある。体部外表面は粗く、内面には密なミガキ調整が施される。13世紀前葉頃に属す。

ピット・焼土壌出土遺物(第30図 375~393) 多くのピットの中からは、土器大・小皿、東播系須恵器捏鉢、瓦器碗・小皿・火舍、中國製磁器が出土した。

白磁碗(391)は、口縁部に玉縁をもつ。口径11.2cm。12世紀代頃に属す。ピット26出土。青磁碗(390)は、体部から口縁部まで均一な厚みをもち、端部に面をもつ。口径16.2cm。14世紀後半頃~15世紀前半頃に属す。ピット103出土。瓦器火舍(393)は、直立気味の体部から口縁部に至る。口縁部がわずか内側に張り出し、口縁端部に面をもつ。口径43.0cm。15世紀代頃に属す。ピット175出土。瓦器小皿(376)は、見込みに数回のジグザグ状暗文が施される。口径8.0cm。13世紀後葉頃~14世紀初頭頃に属す。ピット187出土。土器大皿(377)は、立ち上がり部が強く屈曲する。13世紀後葉頃~14世紀初頭頃に属す。ピット241出土。東播系須恵器捏鉢(392)は、口縁端部を上方に引き出すもの。口径24.0cm。13世紀前葉頃~中葉頃に属す。ピット384出土。

焼土壌出土の土器小皿(380~381・383~386・387)は、立ち上がり部が強く屈曲する(380・381など)、ゆるやかに立ち上がる(387)がある。口径7.8~8.4cm、器高1.4~1.9cm。胎土にくさり礫を含む。14世紀前葉頃に属す。

土壤出土遺物（第31図 455～502）土師器大・小皿・羽釜、瓦器椀と中国製磁器がある。瓦器椀（455～464）大和型（455）と和泉型（456～464）がある。大和型は丸底の底部に断面が三角形を呈した低い高台を底面より上位に貼り付けている。内面に1連の渦巻状暗文を施す。和泉型は、内面の螺旋状暗文は粗く、数周巡るにすぎない。外面は未調整とは言え、成形時の指頭圧痕は目立たず、成美な丸底をなす。また口縁部及び内面のヨコナテも丁寧に施され、歪みも比較的少ない。口径10.1～10.9cm。

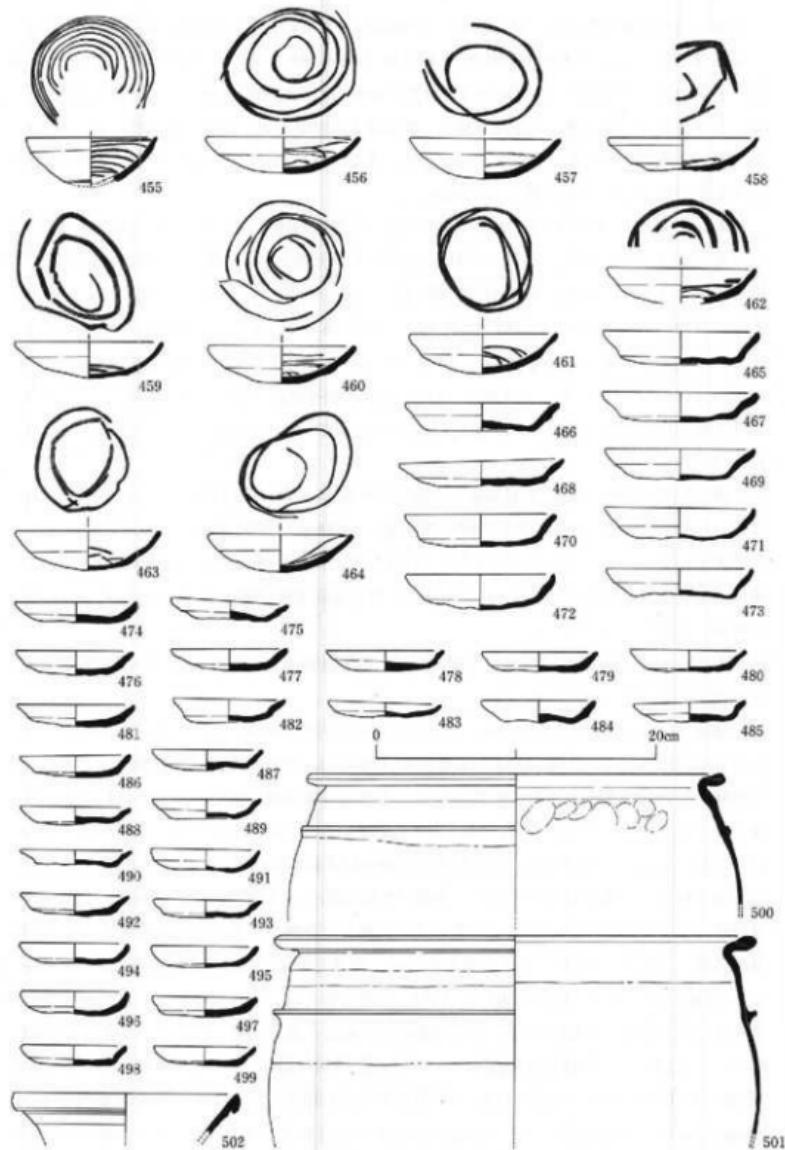
土師器大・小皿（465～499）大皿（465～473）の形態の特徴として、ゆるやかに立ち上がり口縁部を1回ヨコナテする（471・472）と、立ち上がり部が強く屈曲する（465～470など）がある。胎土は、密で精良（466～472）、やや粗い（465・473）、くさり繰を含む（465・466）がある。口径10.3～11.0cm、器高1.8～2.5cm。小皿（474～499）は、口縁部1回ヨコナテを主とし、ゆるやかに立ち上がる（494～496など）と、立ち上がり部が強く屈曲するもの（487～490など）がある。胎土は、密で精良（475～494）、やや粗い（474・497・498）、粗い（495）、くさり繰を含む（474・482・484・486・491～495・497・498）がある。口径7.2～8.7cm、器高1.1～1.8cm。

土師器羽釜（500・501）口縁端部を内側に折り返し、肩部下方に鈎をめぐらす。鈎はきわめて低い。（500）は、鈎というよりは微隆起線に近い。（500）口径29.4cm、（501）口径33.4cm。

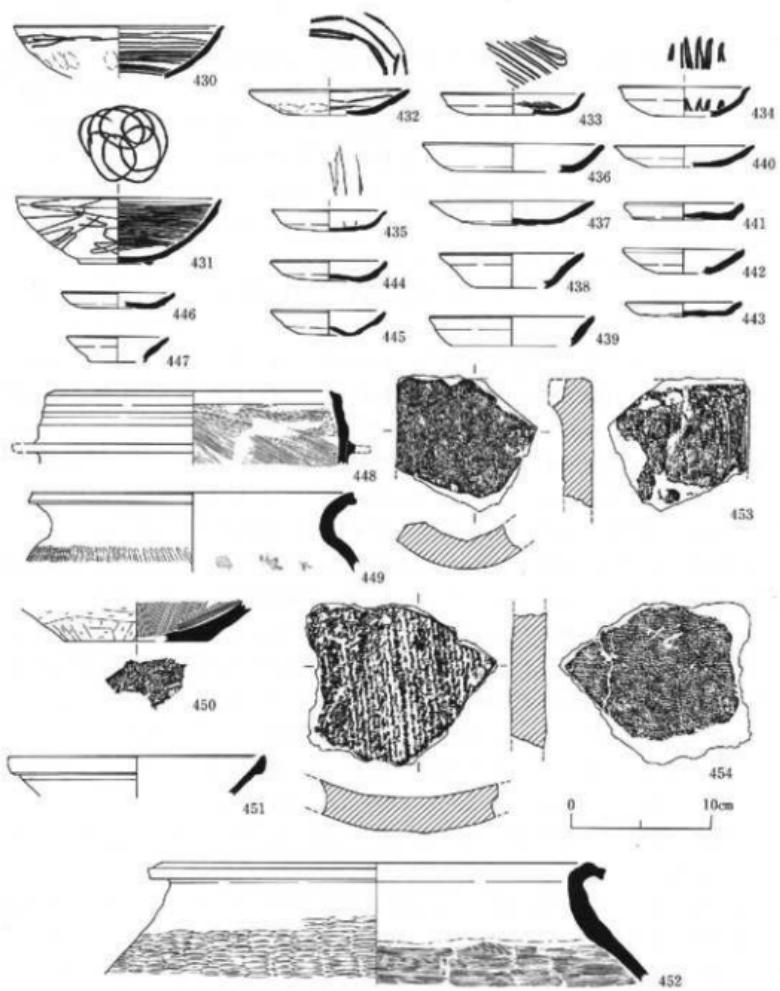
中国製磁器（502）口縁部に玉縁をもつ白磁碗である。外面の体部下半には施釉されない。釉は緑色を帯びた白色を呈する。口径16.8cm。14世紀前葉頃に属す不純物を含まない良好な一括資料と考えられる。

その他の土壤出土遺物（第32図 430～452）出土遺物は、土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦がある。

白磁碗（451）は、口縁部を玉縁にするもの。釉は灰色気味の白色を呈する。11世紀中葉頃～12世紀代頃に属す。土壙15出土。瓦器羽釜（448）は、やや直立気味の口縁に、口縁部外面に凹線をもつ和泉型の羽釜と、丸瓦（453）、凹面には布目痕がみられる。共に15世紀代頃に属す。土壙17出土。土師器大皿（436・438・439）・小皿（440・442・445・447）は、（447）以外は胎土にくさり繰を含む。共に13世紀代頃～14世紀代頃に属す。平瓦（454）凸面は繩目叩き痕、凹面には布目痕がみられる。奈良時代頃に属す。土壙18出土。大和型瓦器椀（431）は外面に粗いミガキ、内面にはやや密な連続闊線ミガキ調整、見込みに螺旋状暗文を5回程重ねて施している。口径14.5cm、器高4.7cm、底径5.0cm。12世紀中葉頃に属す。土壙19出土。土師器小皿（443・444・446）は（443）以外は胎土にくさり繰を含む。13世紀代頃～14世紀初頭頃に属す。土壙21出土。和泉型瓦器椀（432）・瓦器小皿（435）共に14世紀前葉頃に属す。土壙24出土。和泉型瓦器鉢（450）15世紀代頃に属す。土壙26出土。大和型瓦器椀（430）13世紀前葉頃、小皿（434）12世紀後半頃・土師器小皿（441）13世紀後葉頃～14世紀初頭頃に属す。須恵器甕（449）の頭部はほぼ直立に立ち上がり、ゆるやかに外傾する口縁部をもつ。口縁端部は面をもち、上・下共につまみ出す。頭部のヨコナテは丁寧にナデられ、平



第31図 土壌I出土土器・瓦器・中国製磁器実測図



第32図 各土壤出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図

行条線叩きは消されている。13世紀後葉頃に属す。土壤29出土。瓦器小皿（433）12世紀中葉頃に属す。土壤30出土。東播系須恵器甕（452）は、口縁部は外折気味、口縁端部は面をもち、上・下共につまみ出す。頸部のヨコナデは丁寧にナデられ、平行条線叩きはほぼ消されている。胴部の叩き目は粗い。13世紀後葉頃に属す。土壤36出土。土師器大皿（437）は胎土にくさり砾を含む。13世紀後葉～14世紀初頭頃に属す。土壤37出土。

木棺墓1出土遺物（第33図 503～508・516～518） 龍泉窯系青磁碗（1点）と土師器大（1点）・小皿（4点）が副葬品として出土した。青磁碗（508）は、内面に蓮華文を片彫りし、2個連続した花の模様が描かれている。かなり厚みのある釉がかけられ、一部気泡による穴が見られる。高台付は、釉のカキ取りが施され、高台内は無釉である。貫入は認められない。内面には、使用時による、擦過痕が認められる。口縁端部を細かく打ち欠いている。おそらく碗を供獻するにあたって施されたと思われる。口径16.0cm、器高6.9cm、底径4.7cm。12世紀中葉頃～13世紀初頭頃に属するものである。

土師器大皿（507）は、立ち上がり部が強く屈曲し、口縁部を2回ヨコナデ調整する。胎土は、密で精良である。口径12.1cm。器高2.1cm。小皿（503～506）は、大皿とは違う胎土をもつ。即ち、くさり礫・大粒の長石・黒色砂粒などを含む粗い胎土をもつ。口縁部は、1回ヨコナデ調整であるが、口縁端部にさらにヨコナデが施される。（503）口径7.9cm、器高1.4cm。（504）口径7.9cm、器高1.3cm。（505）口径7.8cm、器高1.3cm。（506）口径7.7cm、器高1.3cm。土師器大・小皿は13世紀後半に属す。したがって青磁碗は、約100年間伝世したものと判断される。使用時の擦過痕は伝世を示す証しと考えられる。

木棺墓に使用された鉄釘が3点出土した。（518）には、木棺の木目が残存する。

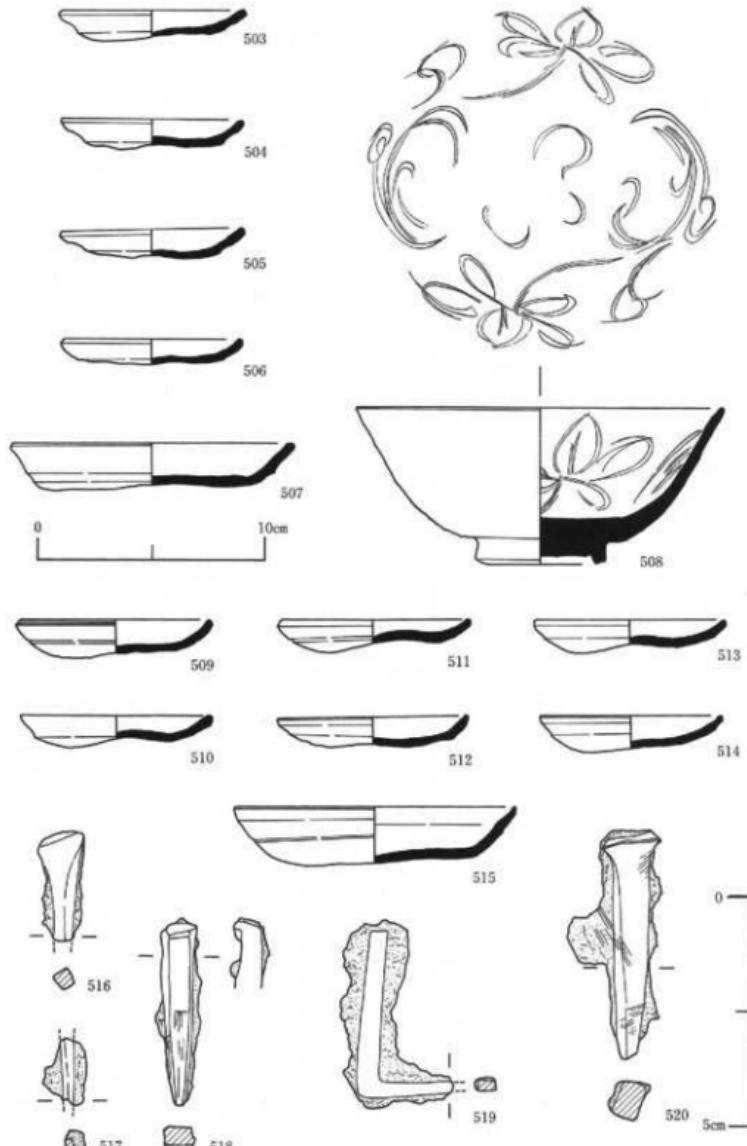
木棺墓2出土遺物（第33図 509～515・519・520） 副葬品として、土師器大（1点）・小皿（7点）が出土した。大皿（515）は、立ち上がり部が強く屈曲し、口縁部を2回ヨコナデ調整する。胎土は、密で精良である。口径12.3cm、器高2.5cm。小皿（510・511・513・514）は、大皿とは違う胎土をもつ。すなわち、くさり礫・大粒の長石・黒色砂粒などを含む粗い胎土である。口縁部は、1回ヨコナデ調整であるが、口縁端部にさらにヨコナデが施される。口径7.9～8.3cm、器高1.4～1.6cm。小皿（509・512）は、大皿と同じ、密で精良な胎土をもつ。（509）は、強い右廻りのヨコナデを施す。口径8.4cm、器高1.7cm。（512）は、口縁部2回ヨコナデを施し、ゆるやかに立ち上がる。口径8.3cm、器高1.3cm。

木棺墓に使用されていた鉄釘2点が出土した。（520）には、木棺の木目が残存する。鉄釘は他にも存在したと考えられるが、検出できなかった。

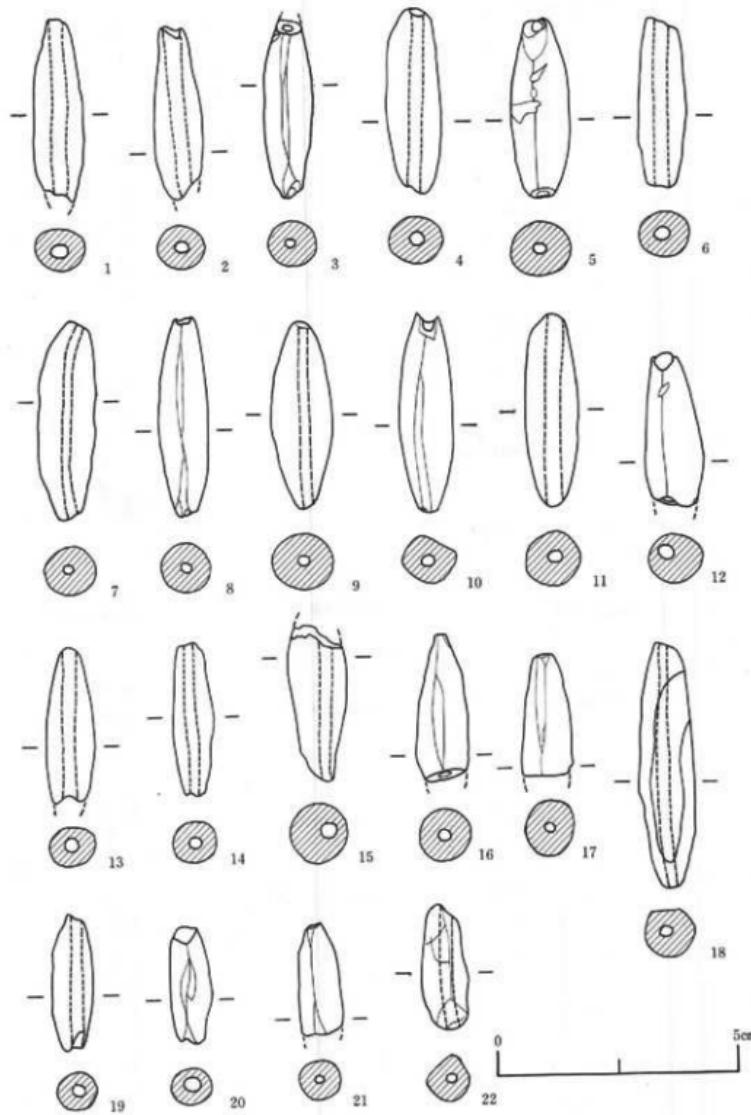
時期は、小皿の口径が木棺墓1出土品に比してやや大きいため、同墓にわずかに先行する13世紀後半に属すと考えられる。

土鍤（第34図 1～22） 井戸5・溝25・溝21・溝20などから土鍤が出土した。長さ2.4～5.1cm、重さ1.3～5.1g。明細は観察表（P101・P102）に示す。

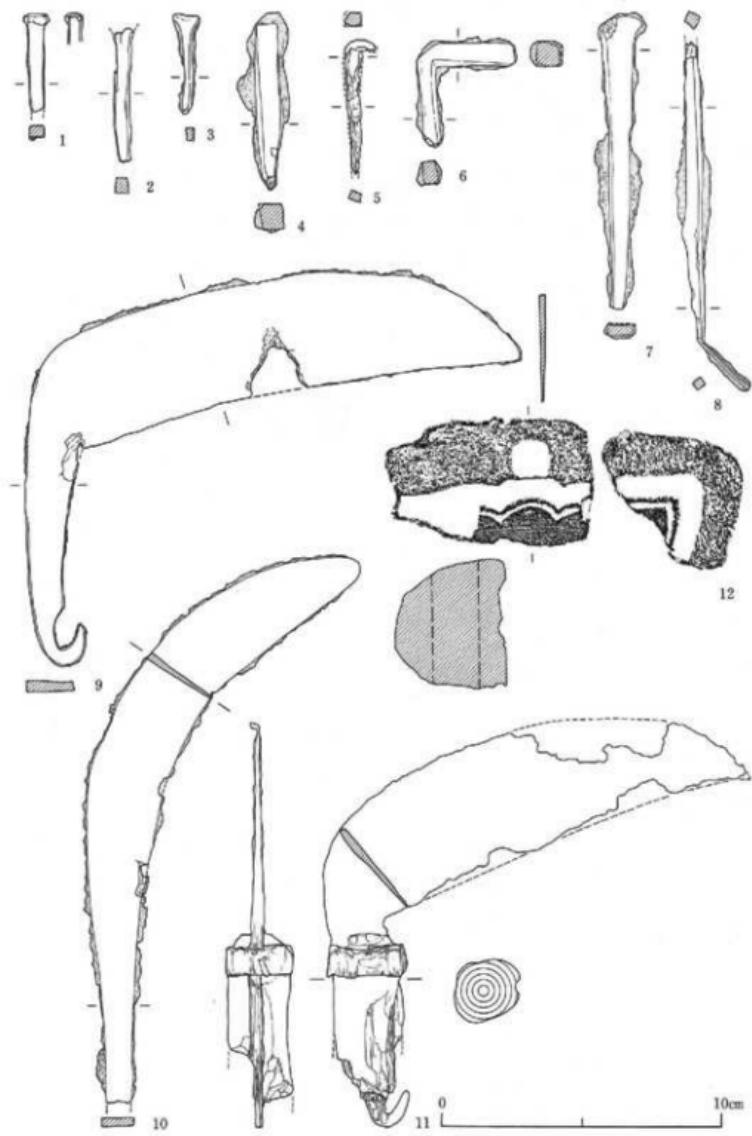
鋳型・鉄製品（第35図 1～12） 鋳型（12）、鉄釘（1～8）、鉄鎌（9～11）、が出土した。鋳型は形態からみて、仏具関係の製品に關係するものと考えられるが明確にしがたい。鉄釘は、長さ3.6～12.5cm以上のものがある。全面にサビが付着している。鉄鎌（10）は、背面と先端部の曲がる角度が10°となだらかな刃部をもつ。（9～11）は、角度が70°と、柄に対してはほぼ直角に近い。鎌身の基部は、J型に曲げられている。（11）は、木柄とそれを固定するための、ハカマのようなものが残存している。木柄の材質は、広葉樹である。



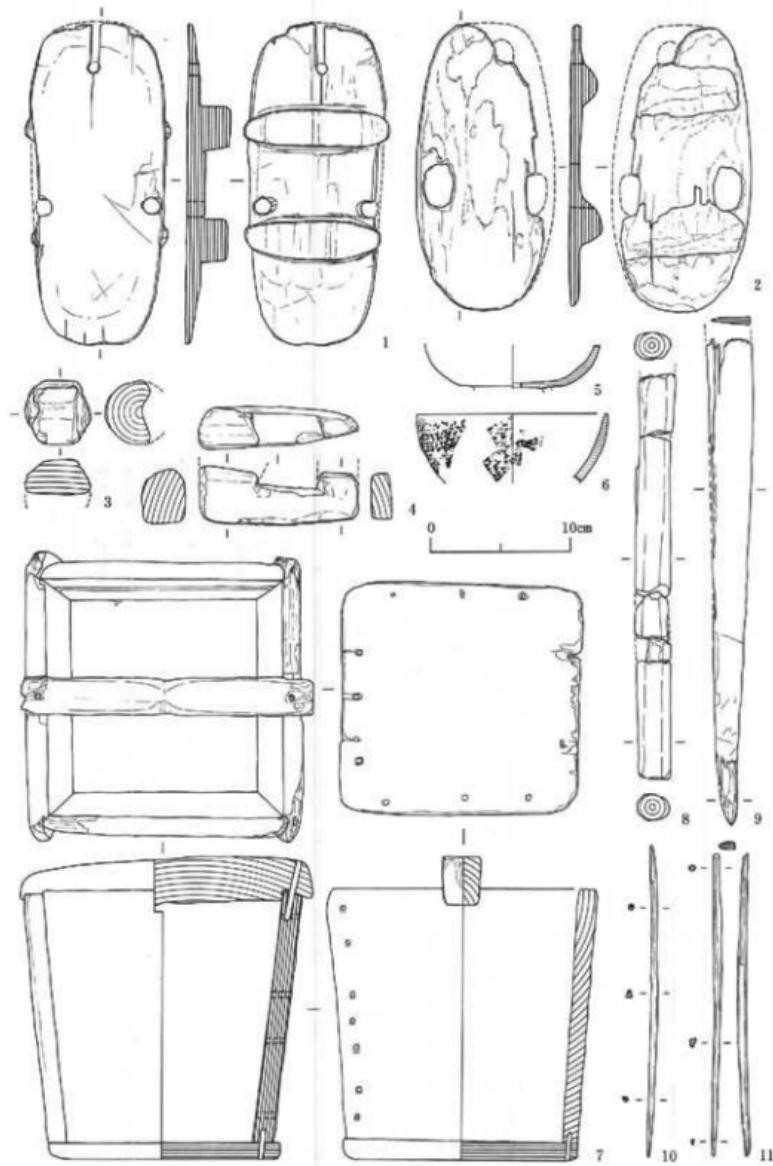
第33図 木棺基 I・2 出土土師器・中国製磁器・鉄製品実測図



第34図 土鍾実測図



第35図 鋳型・鉄製品（釘・鎌）実測図



第36図 木製品（下駄・漆器椀・釣瓶・箸）、用途不明品実測図



第37図 木製品(木筒・竹筒)実測図

木製品(第36図 1~11、第37図 12~14、第38図 15~24、第39図 25~44)出土遺構ごとに記述する。所属時期は共伴した遺物より判断した各遺構の示す年代と考えている。

溝25出土品には漆器椀(5)、杭(25~35)がある。材質は漆器椀が広葉樹、杭(31)は二葉松、(34)マツ類などである。

溝20出土品には下駄(2)、曲物(24)、用途不明(3)、杭(36~44)がある。下駄は、楕円形を呈し、女性の左足用と思われる。材質はケヤキ。曲物は、方形を呈し、木釘穴や桜皮が残存する。材質は針葉樹。杭の材質は針葉樹のモミなどである。

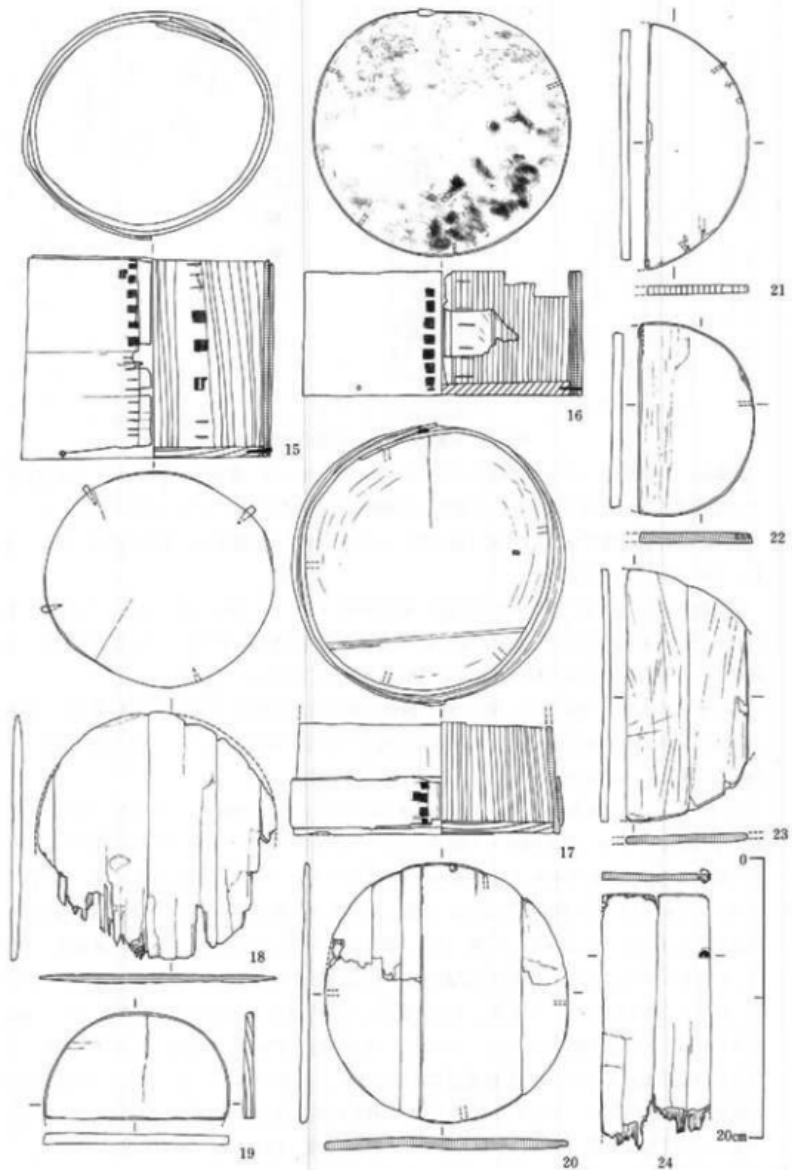
井戸6出土品には釣瓶(7)、柄(8)、曲物底板(22)がある。釣瓶は、方形を呈し、底板と4枚の側板より構成され、中央部が凹んだ把手が付く。材質はヒノキ。(22)は、円形の曲物底板である。木釘穴が2ヶ所見られる。材質は針葉樹。

井戸5出土品には木筒(12・13)、曲物底板(18~20)、用途不明品(4)がある。(13)は、上端を主頭状につくる。墨書痕が不明瞭なため、一字目が「蘇」と判読される以外は不詳。形態・墨書痕から蘇民将来札と思われる。同形態をもつ(12)には墨書痕は見られない。(18~20)は、円形の曲物底板である。(20)に木釘穴4ヶ所が見られる。材質は全て針葉樹。

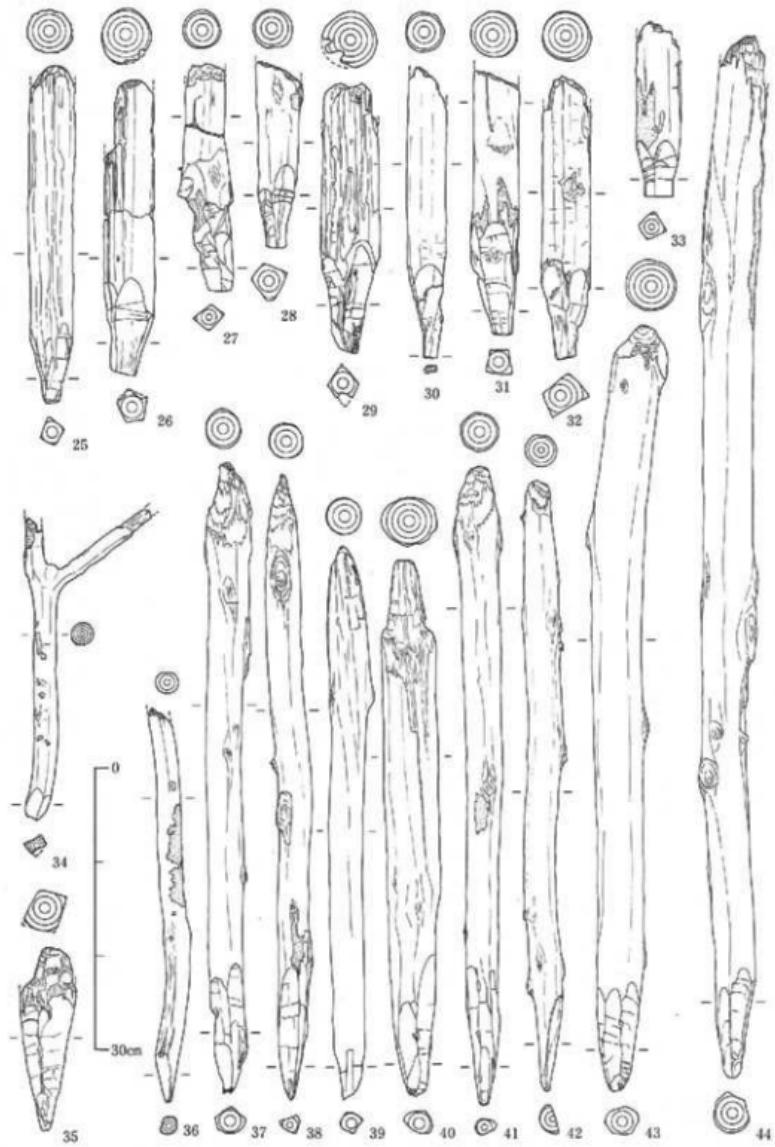
井戸1出土品には下駄(1)、竹筒(14)、曲物(15~17)、曲物底板(21・23)がある。下駄は、楕円形を呈し、女性の右足用と思われる。材質はヒノキ。竹筒は、筒状の竹を割いたものに、浅く文字を刻んだものである。文字が遺存している部位のみを抽出し、図示した。(南尤大日口・之有の一部が判読される。)(15~17)は円形曲物である。材質は、ヒノキ。(21・23)は円形の曲物底板である。(21)は表面に黒漆を施す。木釘穴1ヶ所が見られる。(23)は表裏に無数の刃物傷がある。木釘穴は見られない。材質は共に針葉樹。

井戸4出土品には箸(10・11)がある。長さ21cm程度、面取り風に加工する。

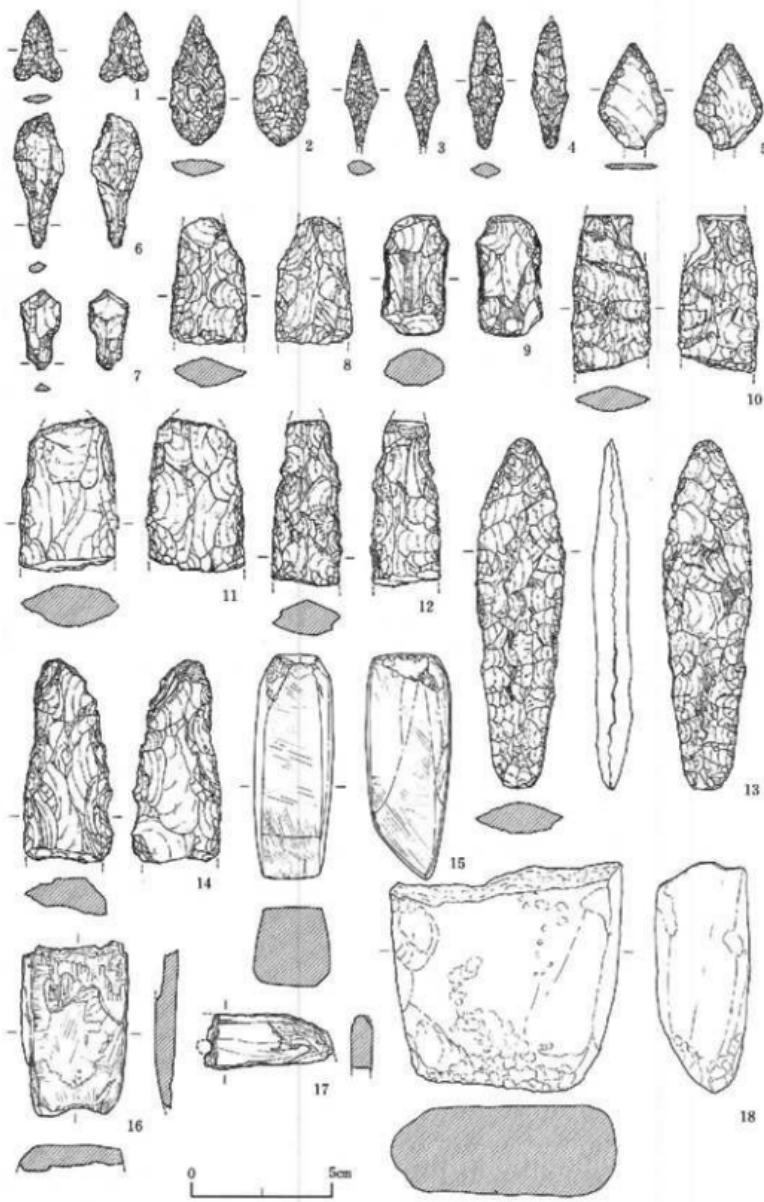
井戸7出土品には漆器椀(6)がある。材質は広葉樹。



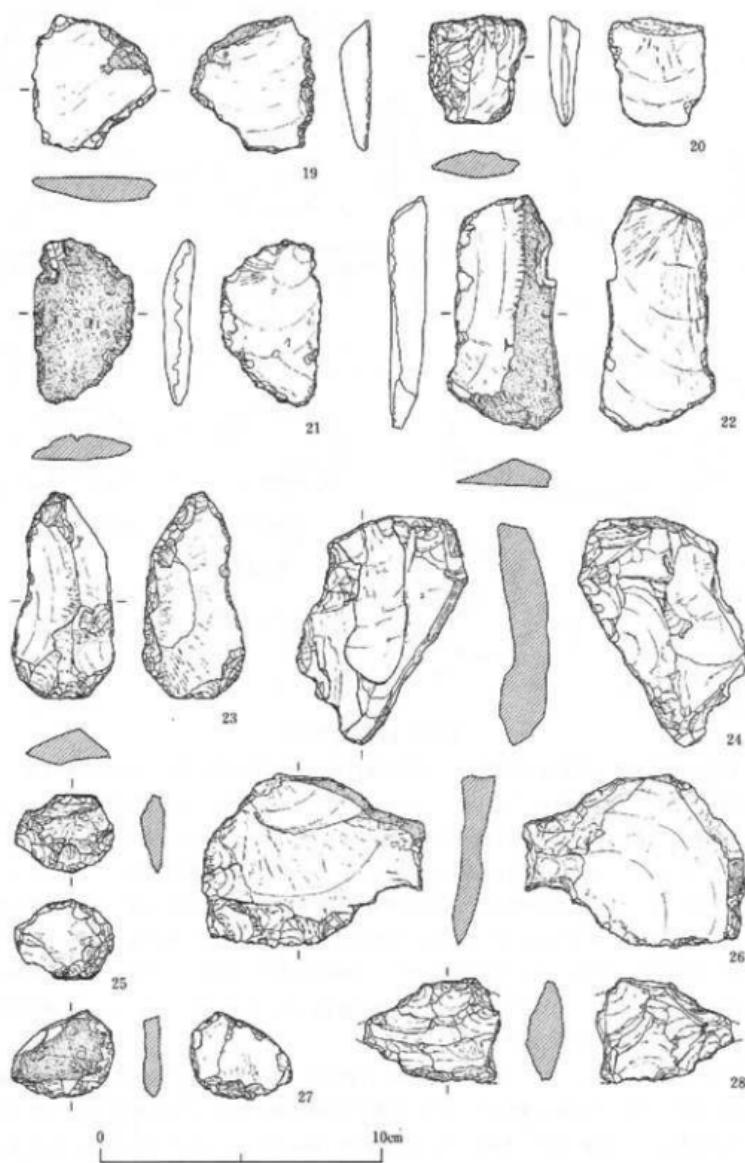
第38図 木製品（曲物）実測図



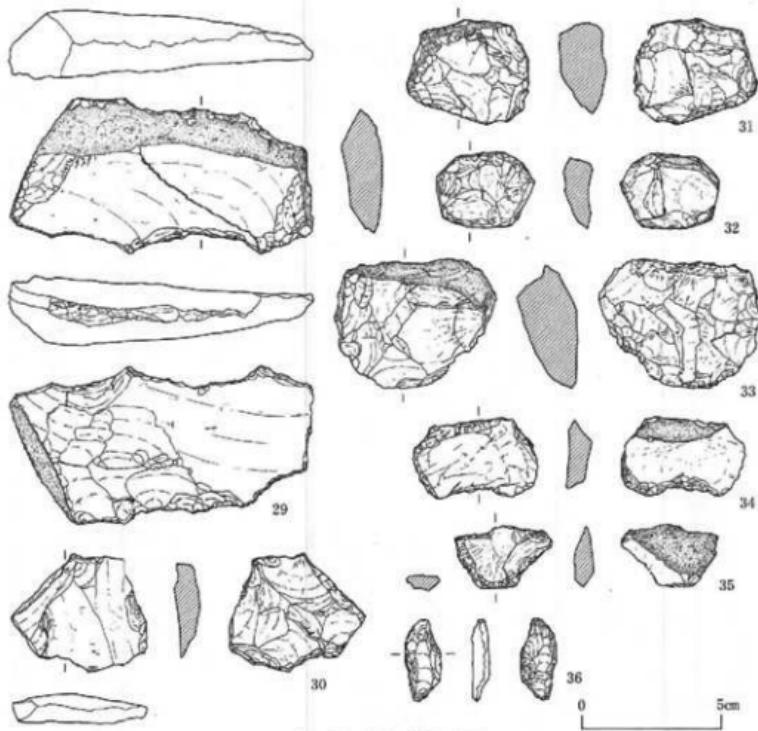
第39図 木製品（杭）実測図



第40図 打製・磨製石器実測図



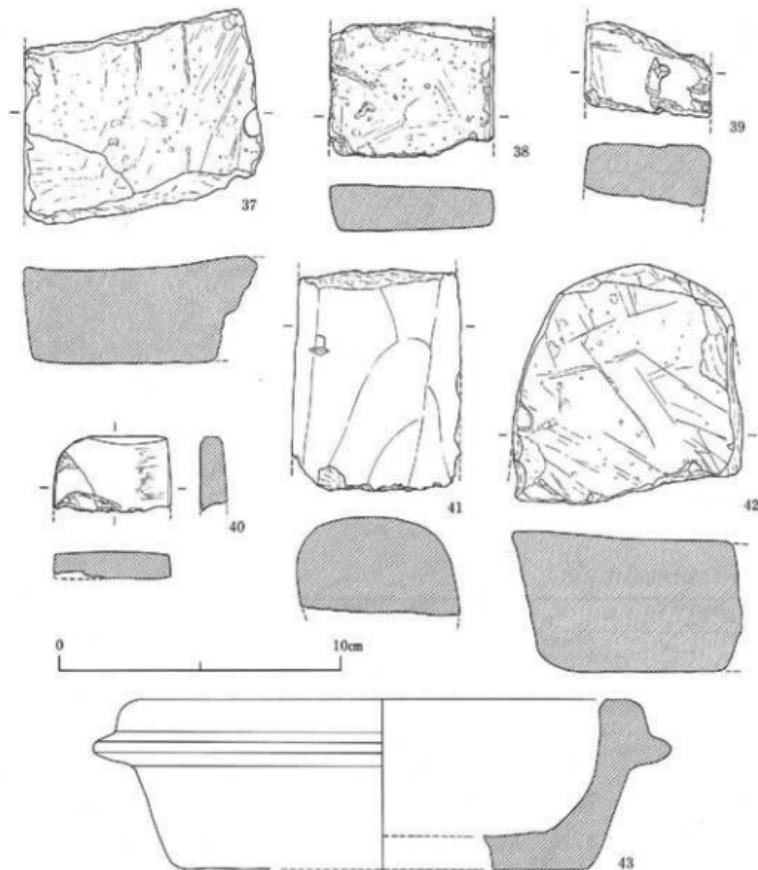
第41図 打製石器実測図



第42図 打製石器実測図

打製・磨製石器・石製品（第40図 1～18、第41図 19～28、第42図 29～36、第43図 37～43）当該時期の遺構から出土したものと、混入品がある。サヌカイト製打製石器は、二上山産の石材を使用している。石鎌・石錐・打製石剣などの打製石器と、石包丁・石斧などの磨製石器、砥石・石鍋の石製品がある。石鎌（1）は、溝58出土。凹基無茎式。完形品。1.0g。石包丁（17）は、弥生時代川出土。黒色珪質千枚岩製。石鎌（4・5）・石錐（6）・打製石剣（9）・柱状片刃石斧（15）・削器（23・34）は弥生時代包含層出土。石鎌は共に、凸基有茎式。（9）は叩き石へ転用。（15）は班れい岩製。一部抉りがある。完形品。（34）は背部・側縁部にサヌカイト表皮をもつ。以上が弥生時代中期に属するものである。砥石（37～42）・石鍋（43）はそれぞれの造構の年代に属すると考えられる。

以下は、混入品として出土したものである。打製石器（11）・石斧（18）・削器（29）・剥片（30）は溝25出土。（11）は表面に磨き痕がある。（18）は閃緑岩製。（29）は片側側縁・背部にサヌカイト表皮をもつ。石鎌（2）・石錐（7）・打製石剣（10・12・14）・削器（19・21・22・24・26・33）・剥片（20・35）・楔形石器（31）は溝20出土。（2）は凸基無茎式。完形品。5.3g。



第43図 砥石・石器実測図

(7) は基部にサヌカイト表皮をもつ。(12) は右側側縁磨滅。(14) は先端部にサヌカイト表皮をもち、側縁磨滅している。(19・20・26・31・33) は背部にサヌカイト表皮をもつ。(21・22・35) は片面にサヌカイト表皮をもつ。楔形石器(32) は溝21出土。背部にサヌカイト表皮をもつ。削器(27) は溝2出土。背部・表面にサヌカイト表皮をもつ。打製石剣(13) は溝28出土。基部側縁磨滅。表面の一部に磨きがある。完形品。削器(25) は溝42出土。背部にサヌカイト表皮をもつ。打製石剣(8) は井戸4出土。石斧(16) はピット283出土。黒雲母一石英片岩製。石鏃(3) はピット438出土。凸基無茎式。削器(28) は土壙15出土。剥片(36) は土壙16出土。

# 観察表(弥生土器)

凡例

番号	器種	法量 (cm)		備考
1 ↓土器番号	鉢	13.0→口徑 9.0→器高 5.0→底径  (復)→復元値 (推)→推定値 (残)→残存値		○溝57→出土遺構 ○浅黄色、他地域産→色調、产地 ○-----→その他

(挿図・図版は共通の番号)

## 溝57・58出土弥生土器

番号	器形	法量 (cm)	残存	容器の特徴	文様・技法の特徴	備考
1	壺	15.8(復) 4.0(残)	口縁部	○直立する両側に強く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は面をもち下方にわずかに拡張する。	外面○口縁端面下端にへらによるV字状の刻み目を施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○浅黄褐色、他地域産。 ○溝57。
2	壺	29.4(復) 2.2(残)	口縁部	○大きく聞く口縁部に外側下方に折れる口縁端部をもつ。	外面○口縁端部に環状10条(1.5cm)の堅芯文を逆時計回りに1巻施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○溝57。
3	網附壺	9.0(復) 4.2(残)	口縁部	○わずかに斜めに外反する筒状の口縁部。 ○口縁端部は面をもち内傾する。	内外面○全面、風化の為不明。 ○粘土練の堅芯(1.5cm)1巻施す。	○褐色、在地産。 ○溝57。
4	鉢	12.8(復) 9.0 5.1	完形(復)	○底部から斜れ上方に伸びる体部へとつなぎ 口縁部が強く外反する。 ○口縁端部は丸みをもって終わる。 ○底面は平底。	外面○体部はテテハケ(下→上、6本/cm)。 内面○体部はナナメハケ(10本/cm)。	○浅黄色、他地域産。 ○外腹黒斑。 ○溝57。
5	小型鉢	5.0(復) 3.7 3.1(復)	底部欠失	○高さよりの底部から斜れ上方に伸びる直口の 内縁部。 ○口縁端部は丸みをもつ。	外面○口縁端部はへらによるV字状の刻み目を施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○灰黃褐色、他地域産。 ○溝57。
6	鉢	19.2(復) 3.2(残)	口縁部 体部上半	○直立気味に内側しながら立ち上る体部に段 折り線をもつ。 ○口縁端部は内側へもわずかに肥厚する。	内外面○全面、風化の為不明。	○深褐色、他地域産。 ○溝57。
7	鉢	15.3(復) 3.5(残)	口縁部 体部上半	○彫りの少ない体部に強く外反する口縁部を もつ。 ○口縁端部は丸みをもって終わる。	外面○体部は同一堅芯(8条/cm)で列点文を 1条、直線文を1条の順に施す。 内面○全面、風化の為不明。	○褐色、他地域産。 ○溝57。
8	壺・鉢	3.6(残) 6.0	体、底部	○上げ直し斜れ上方に伸びる体部をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○浅黄褐色、在地産。 ○溝57。
9	壺・鉢	2.4(残) 5.6(復)	体、底部	○突起する上げ直しと大きく斜れ上方に開く体 部をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○内腹全面横付帯。 ○溝57。
10	壺	15.6(復) 6.8(残)	口縁部 体部	○彫りのある体部に頭部でしまって強く外反 する口縁部をもつ。 ○口縁端部は内側へもつ。	外面○体部はナナメハケ(7mm)。 内面○体部にユビオサエが見られる他の風化の為不明。	○淡褐色、在地産。 ○溝57。
11	壺	32.2(復) 9.9(残)	口縁部 体部上半	○少し張る体部とゆるやかに強く外反する口 縁部をもつ。 ○口縁端部は巻き込み気味で角ばって終わる。	外面○口縁端部はへらによるV字状の刻み目を施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○淡褐色、他地域産。 ○溝57。

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
12	甕	31.6(残) 5.0(残)	口縁部	○彫りのある体部と「く」の字形に粗く外反する口頭部をもつ。 ○口縁部は外側下方に折れる。	外面○口縁部面に刻文を施す。 ○口縁部はヨコハケ(6本/cm)。 内面○体部は風化の為明確ではないがナナメハケか?	○褐色。在地産。 ○口縁部内外面模様ける。 ○溝57。
13	甕	5.0(残) 6.0(残)	全体、底部	○上げ底気味の平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	外面○全面、風化の為不明。 内面○底部は放射状のハケ。	○褐色。他地域産。 ○外側一部模様ける。 ○溝57。
14	甕	3.3(残) 5.5	全体、底部	○上げ底気味の平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。 ○本茎底。	内外面○全面、風化の為不明。	○浅黄褐色。在地産。 ○溝57。
15	甕	5.4(残) 8.2(残)	全体、底部	○上げ底と斜外上方に伸びる体部をもつ。 ○底部は厚い。	内外面○全面、風化の為不明。	○淡褐色。他地域産。 ○溝57。
16	受け口 口縁部	19.1(残) 4.5(残)	口縁部	○圓盤から弧曲して直立する口縁部。その下端は拡張する。 ○口縁部は面をもち内側にやや拡張する。	外面○口縁部のヨコナギ以外は風化の跡調不明。 内面○ヨコナギ。	○淡黄色。他地域産。 ○溝58。
17	細頸甕	6.7 5.3	完形(復)	○里壁玉形に盛る体部は頭部下で細くしまり、わずかに斜外する形状の口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもつ。 ○底部は平底。 ○体部下位に焼成後の穿孔1個有り。	外面○口頭部から体部中位にかけてテハケ(7本/cm)の後に單脚7条(1mm)の直線文を8巻(単槽横吹)時計回りに施す。文様帶間は横方向の1条のミガキ。 ○体部下位は縱方向(下→上)に密なミガキ。 内面○口縁部はヨコナギ。 ○体部半位にヨコハケがみられる他の風化の跡不明。 ○粘土壁の軋ぎ目が1箇所残る。	○浅黄褐色。在地産。 ○内外面に黒斑。 ○溝58。
18	高杯-鉢	11.9(残) 2.5(残)	口縁部 半部上半	○斜外上方に伸びる体部につづく直口の口縁部。 ○口縁部端は角ばって終わる。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色。他地域産。 ○溝58。
19	甕	4.7(残) 3.8	つまみ部	○空形。 ○つまみ部上面は、くぼむ。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色。他地域産。 ○溝58。
20	小型鉢	3.6(残) 3.3(残)	全体、底部	○平底と直立気味に斜外上方に伸びる体部をもつ。	外面○風化の為明確ではないがタテハケか? 内面○未調査。	○淡黄褐色。在地産。 ○溝58。
21	甕	16.3 21.5 5.4	完形(復)	○中位に最大径をもつ彫りのある体部に「く」の字形に外反する口頭部をもつ。口徑より体部径が大きい。 ○口縁部は丸く終わる。 ○底部は突出し平底。	外面○体部はタテハケ(6本/cm)。 ○底部は縱方向(下→上)の密なミガキ。 内面○全面、風化の為不明。 ○粘土壁の継目(外側)が2箇所(2-4.5mm)残る。	○褐色。在地産。 ○外側に黒斑。 ○溝58。
22	甕	13.1 13.9 4.4	完形(復)	○圓盤形の基部に細部でやしやしまり幅く外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は丸く終わる。 ○底部は上げ底。	外面○頭部はヨコナギ。 ○基体は全面テハケ(下→上、6本/cm)。 ○底面はカゼリ。	○浅黄褐色。他地域産。 ○内外面に黒斑。 ○溝58。
23	甕	13.3(残) 3.6(残)	口縁部 体部上半	○彫りの少ない体部に細部でやしやしまり幅く外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は丸く終わる。	外面○頭部はヨコナギ。 内面○全面、風化の為不明。	○浅黄褐色。他地域産。 ○溝58。
24	甕	16.7(残) 4.3(残)	口縁部 体部上半	○彫りの少ない体部に「く」の字形に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもち下方にわずかに拡張する。	外面○風化の為明確ではないが、体部はタテハケか? ○口縁部はヨコハケ(6本/cm)。 ○底面はヨコナギ。	○褐色。他地域産。 ○内外面一部模様ける。 ○溝58。
25	甕	19.6 5.5(残)	口縁部 体部上半	○少し彫る体部に「透し字」状の口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色。他地域産。 ○溝58。
26	甕	4.3(残) 5.8	全体、底部	○少し彫る体部に「透し字」状の口縁部をもつ。	内外面○風化の為明確ではないがタテハケか? ○粘土壁の継目残る。	○褐色。他地域産。 ○溝58。

### 弥生時代土壌・包含層・弥生時代川出土弥生土器

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
27	甕	16.0(復) 4.7(残)	口縁部	○短く立ち直る頭部とゆるやかに外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもち上下に拡張する。	外面○体部はタテハケ(6本/cm)。 ○全面風化の為不明。	○褐色。在地産。 ○溝59。
28	甕	22.4(復) 3.0(残)	口縁部	○大きく開く口縁部。 ○口縁部は面をもち下方へ絞張る。	外面○口縁部は体部不明の彫文を施した後円形浮文を結び付ける。 内外面○全面、風化の為不明。	○暗褐色。在地産。 ○弥生時代川。

番号	器形	法 量 (cm)	残 在	形 態 の 特 徴	文 標・社 法 の 特 徴	備 考
29	壺		口縁部	○折めに聞く腹部に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は曲をもち下方へ傾斜し、上方へもわざかにつまみ上げる。	外 面○口縁部は4巻の回欄文をめぐらし た後洗顔を横方向に施し、内側浮文 を上下2段に取り付ける。さらに内 側浮文の上から管状文を施している。 ○調整は風化の為不明。 内 面○口縁部は機械工具による研磨の痕 跡を無す。	○暗褐色、在地産。 ○外側内面埋け入る。 ○第4層完全包含層。 ○濃20-11。
30	壺	8.1(幅) 4.6(残)	口縁部	○折めに聞く腹部と短く外反する口縁部をも つ。 ○口縁部は外腹下方に折れる。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○腹部内面埋け入る。 ○第4層完全包含層。
31	壺	10.8(幅) 4.9(残)	口縁部	○短く直立してから「く」の字状に外反する口 縁部をもつ。 ○口縁部は曲をもち上方に少し被張する。 ○腹部上部に括弧きを成或前筋内から外へ 穿っている。 (鏡の為対になっているかは不明。)	外 面○口縁部に2巻の回欄文をめぐらし た後洗顔をテナーハケ(7本/cm)。 内 面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○濃20。
32	壺	22.2(幅) 3.5(残)	口縁部	○大きく聞く口縁部に下方に折れた口縁端部 をもつ。	外 面○口縁端面に原体1巻(1.6cm?)の 横文を1巻逆時計回りに施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○濃褐色、在地産。 ○サブトレ。
33	水差	11.4(幅) 11.2(残)	口頭部	○内側しながら伸びる口頭部。	外 面○口頭部丸下に4巻の回欄文、頭部か ら体部にかけて4巻の回欄文、延体 5巻? (5cm?) の波状文+1巻以上 風す。 ○調整は風化の為不明。 内 面○全面、ナゲ。	○濃褐色、在地産。 ○完全包含層。
34	杯	16.6(幅) 3.0(残)	口縁部 本部上半	○底口の口縁部。 ○口縁部は曲をもつ。	外 面○口縁部面に直体不規の波状文を施す (3巻以上ある)。 内外面○調整は風化の為不明。	○暗褐色、地地産。 ○完全包含層。
35	杯	23.8 5.0(残)	口縁部 体部	○成立立体に内側する体部から軽く底口の口 縁部。 ○口縁部は曲をもつ。	外 面○口縁部上面に原体5巻(0.6cm)の 波状文を1巻施す。 ○体部は上から原体5巻(0.6cm)の直 線文を1巻、原体10巻(1.3cm)の直 線文を2巻、原体5巻(0.6cm)の直 線文を1巻等す。 内 面○全面風化の為不明。	○該瘦色、地地産。 ○弥生時代川。
36	杯	14.4(幅) 4.5(残)	口縁部 本部上半	○内側しながら伸びる体部に軽く口縁部は内 側へ傾斜する。 ○口縁部は尖って終わる。	外 面○口頭部上辺に3巻の回欄文をめぐらす。 内外面○調整は風化の為不明。	○黄褐色、在地産。 ○完全包含層。
37	鉢	21.2(幅) 4.5(残)	口頭部 本部上半	○鏡外上方に伸びる体部と短く外反する口縁 部をもつ。 ○口縁部は曲をもつ。	外 面○体部は風化の為明確ではないがミガ キか? 内 面○体部はヨコハケ。	○褐色、在地産。 ○外側底邊。 ○濃20-11。
38	鉢	25.7(幅) 2.9(残)	口縁部	○底口の口縁部。 ○口縁部は曲をもつ。	外 面○口縁部は軽くヨコナゲ。 ○口縁部下に1巻以上の回欄文を施す。 内 面○全面、風化の為不明。	○該瘦色、地地産。 ○濃23。
39	鉢	33.6(幅) 7.2(残)	口頭部 本部上半	○成立立体に内側する伸びる体部に直部でし まって水平に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は丸味をもって終わる。	外 面○体部上辺に原体5巻(1.7cm)の波状 文を1巻以上施す。 ○横方向の板ナゲ。	○灰白色、地地産。 ○濃20。
40	鉢	36.2(幅) 4.9(残)	口縁部 本部上半	○段段口縁で底部は内側へも軽張する。	外 面○体部上辺に上から順に原体1巻(1.4 cm)の波状文を1巻、原体7巻(1.4 cm)の直線文を1巻施す。 内外面○調整は風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○完全包含層。
41	鉢	— 5.3(残) 4.6	本・底部	○突出した平底と鏡外上方に伸びる体部をも つ。	外 面○腹部にヒビオササが見られる他の風 化の為不明。 内 面○体部は風化の為不明。 ○腹部は放射状のハゲ。	○褐色、在地産。 ○外側一部埋け入る。 ○濃20-3。
42	壺・鉢	— 3.4(残) 6.0(残)	本・底部	○上げ底気球の平底と鏡外上方に聞く体部をも つ。	外 面○腹部にヒビオササが見られる他の風 化の為不明。 内 面○体部は風化の為不明。 ○腹部は放射状のハゲ。	○褐色、在地産。 ○体部底邊。 ○弥生時代川。
43	壺・鉢	— 5.2(残) 7.4(残)	本・底部	○上げ底気球の平底と鏡外上方に聞く体部をも つ。	外 面○風化の為明確ではないが縦方向のミ ガキか? 内 面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○完全包含層。
44	合付鉢	— 8.9(残) 15.2(部)	脚部	○中空の太い脚部で脚部基部から脚部部へ斜 方へ傾げる。 ○脚部部は曲をも内傾する。	外 面○脚部に円形管状文を3巻以上めぐら せる。 ○脚部部に4巻の回欄文をめぐらす。 内外面○調整は風化の為不明。	○濃褐色、在地産。 ○完全包含層。

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	文様・技術の特徴	備考
45	器台	— 6.4(残) 15.4(復)	脚部	○中空の脚柱部から続く脚縫部でなだらかに外反する。 ○脚縫部は面をちら上方に少し拡張する。	外面○脚柱部はヨコハケ(8本/cm)。 内面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○SX19。
46	高杯	— 4.9(残) 7.6(復)	脚部	○中空の細い脚柱部から弧曲して斜めに聞く脚縫部をもつ。 ○脚縫部は上方に拡張する。	内外面○全面、風化の為不明。	○黄褐色、在地底。 ○脚上内。
47	高杯	22.8(推) 3.6(残)	口縁部 体部	○口縁部外側に伸びる体部から続く口縁部で器へ外反する。 ○口縁部内面に突起を船型する。 ○口縁部面は丸っこい跡がある。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○内面模様有。 ○先生時代川。
48	高杯	23.6(復) 3.1(残)	口縁部	○斜めに聞く口縁部と下方に折れる口縫部をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○外腹、僅ける。 ○先生包含層。
49	高杯	— 7.0(残) 12.4(復)	脚部	○中空の脚柱部から脚縫部へなだらかに聞がる。 ○脚縫部は面をちら上方へ拡張する。	外面○全面、風化の為不明。 内面○横方向(右→左)のケズリ。	○褐色、在地底。 ○内面模様有。 ○先生時代川。
50	高杯	— 6.2(残) 13.5(復)	脚部	○中空の脚柱部から脚縫部へ内寄気味に聞がる。 ○脚縫部は面をちら上方へ拡張する。 ○脚縫部下位に内から外へ焼成前の穿孔有り。 ○2孔、対が2組と思われる(残存有り5個)。	外面○脚柱部は1巻の羽根文を施す。 ○調整は風化の為不明。 内面○横方向(左→右)のケズリ。	○褐色、在地底。 ○先生時代川。
51	高杯	14.8(復) 11.0 6.2	完形(復)	○浅い脚部の杯形。 ○中空の細い脚柱部に続く脚縫部でなだらかに外反する。 ○脚縫部は丸味をもって終わる。 ○脚縫部はやや内寄し丸味をもって終わる。	外面○脚部上部に脚縫不明の列点文を1巻とへラボ洗継を1条施す。 ○脚部下位から脚縫部は横方向のミガキ(2mm)。 内面○しづり目が残る。調整は風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○脚縫部外側黒死。 ○包溶。
52	高杯	— 14.0(推) 12.7 9.0	完形(復)	○彫刻の脚部。 ○中空の長い脚柱部に続く脚縫部でなだらかに聞がる。 ○円板洗継法。 ○口縫部面は面をちら内傾する。 ○脚縫部は面をちら上方に拡張する。	外面○口縫部両端にヘラによるV字状の削み目を施す。 ○脚部は原体3巻(0.9cm)の列点文を1巻施す。 ○脚縫部に削り突きを2.3cm~2.7cm間隔で施す。 ○脚縫部上端にヘラによるV字状の削み目を施す。 ○調整は風化の為不明。 内面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○先生時代川。 サブトレ。
53	高杯	— 9.5(残)	脚柱部	○施伏の脚柱部で上位になだらかに聞がる。 ○脚柱部半位に外から内への焼成前の穿孔1個有り。	外面○脚柱部に1巻と5巻の羽根文をめぐらす。 ○調整は風化の為不明。 内面○しづり目が残る。調整は風化の為不明。	○黄褐色、在地底。 ○先生時代川。
54	高杯	17.6(復) 4.6(残)	口縁部 体部	○体部から口縫部まで内寄しながら斜外上方に伸びる。 ○口縫部に弱い筋をもつ。 ○口縫部面は面をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○黄褐色、在地底。 ○内面模様有。 ○先生時代川。
55	高杯	— 22.0(推) 5.0(残)	口縁部 体部	○縫に優れもち、口縫部は少し内傾する。 ○口縫部面は面をもつ。	外面○口縫部は傷険工具による羽状の列点文を施す。 ○脚部は横方向のミガキ。 内面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○内外面一部剥離する。 ○溝20~3。
56	高杯	22.9(復) 5.4(残)	口縁部 体部	○縫に優れもち、口縫部は直立する。 ○口縫部面は面をもつ。	外面○口縫部による羽の羽根文をめぐらす。 内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○外腹、僅ける。 ○溝は、先生包含層。
57	甕蓋	— 11.0(残) 7.2	口縫部欠損	○笠形。 ○つまみ部上面はくぼむ。	外面○体部はチテハケ(10巻/cm)。 ○つまみの両端にユビオサエが残る。 ○つまみ上面は未調査。 内面○体部下位はヨコハケ(10巻/cm)、以外は脚縫正規である。 ○つまみ部はチテハ。	○褐色、在地底。 ○内外面一部僅ける。 ○土壤II。
58	器台	— 3.4(残) 16.2(復)	脚部	○中空の脚柱部から続く脚縫部で水平に聞がる。 ○脚縫部は面をもつ。 ○脚柱部下位に焼成前の穿孔(残存有り1個)有り。	外面○脚柱部は風化の為明確ではないがチテハケか? ○脚縫部は上位から順にヘラによる削り突き文、原体3巻(0.9cm)の直線文、ヘラによる削り突き文、原体3巻(0.5cm)の波紋文、ヘラによる削り突き文を施す。 内面○全面、風化の為不明。	○深褐色、在地底。 ○脚縫部外側赤色。
59	甕蓋	12.6(推) 3.6	完形(復)	○笠形。 ○口縫部面は角ばって終わる。 ○1個のつまみをもつ。	内外面○つまみ部内面にしづり目が見られる。 ○調整は全て風化の為不明。	○褐色、在地底。 ○溝50。

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
60	合付鉢	— 9.0(残) 18.9(復)	脚部	○中空の太い柱状部で脚部から脚底部まで あまり開かずして伸びる。 ○脚底部は面をもち内側へ折返す。	外 面○ナメハケ(10/cm)。 内 面○全面、風化の為不明。	○褐色。在地産。 ○弥生時代川。
61	甕	15.4(復) 13.0(残)	口頭部 体部	○張りのある体部と強く外反する口頭部をもつ。 ○口頭部は丸みをもって終わる。	外 面○体部はタテハケ(風化の為原体不明)。 内 面○全面、風化の為不明。	○褐色。在地産。 ○弥生時代川。
62	甕	16.9(復) 4.4(残)	口頭部 体部上半	○少し張る体部と「く」の字形に外反してから 水平に折れる口頭部をもつ。 ○口頭部は面をもち上方に少し傾斜する。	内外面○全面、風化の為不明。	○灰白色。在地産。 ○弥生包含層。
63	甕	18.8(復) 5.7(残)	口頭部 体部上半	○張りのある体部と水平近く外反する口頭部 をもつ。 ○口頭部は丸みをもって終わる。	内外面○全面、風化の為不明。	○赤褐色。在地産。 ○土壌41。
64	甕	21.4(復) 3.5(残)	口頭部 体部上半	○張りのある体部とならかに外反してから 水平に折れる口頭部をもつ。 ○口頭部は尖り気味に終わる。	外 面○口頭部はヘラによるV字状の削み 目を残す。 ○体部はタテハケ(風化の為原体不明)。 内 面○全面、風化の為不明。	○灰白色。在地産。 ○弥生時代川。
65	甕	25.8(復) 12.8(残)	口頭部 体部上半	○口頭を上回る体部と「く」の字形に外反する 口頭部をもつ。 ○口頭部は面をもち上方に折返す。	外 面○体部はタテハケ(風化の為原体不明)。 内 面○体部はナメハケ(4.0/cm)。	○褐色。在地産。 ○外側一部剥ける。 ○弥生時代川。
66	甕	30.2(復) 11.5(残)	口頭部 体部上半	○少し張る体部と水平近く外反する口頭部を もつ。 ○口頭部は面をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。 ○粘土被の膜目と黄土(5.6cm幅)残る。	○褐色。在地産。 ○内側一部剥ける。 ○弥生時代川。
67	甕	— 9.9(残) 8.2	体・底部	○平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	内外面○内面底面に指痕圧痕が残るが、調整 は全て風化の為不明。	○淡褐色。在地産。 ○弥生包含層。
68	甕	— 5.5(残) 8.2	体・底部	○平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。 ○体部下辺に焼成後の外から内の穿孔有り。	外 面○縦方向のミガキ(4mm)。 内 面○全面、風化の為不明。	○褐色。在地産。 ○内側全面剥ける。 ○サブトレ。
69	甕	5.5(残) 6.6	体・底部	○上げ底気泡の平底と斜外上方に伸びる体部 をもつ。	外 面○縦方向のミガキ(3mm)。 内 面○全面、風化の為不明。	○褐色。在地産。 ○弥生包含層。
70	甕	— 2.2(残) 4.6	底部	○平底。 ○底面中央に焼成後の内から外への穿孔有り。	内外面○全面、風化の為不明。	○赤褐色。在地産。 ○弥生包含層。

# 観察表(中世土器・陶磁器)

## 凡例

番号	器種形	法量(cm)	備考
1	瓦器・椀	15.2→口径 5.6→器高 4.0→底径 ※36.8(径高指数)	○精緻、黒色砂粒→胎土 ○暗灰色N/3→色調④ ○満25-3→出土遺構

$$\text{※ 径高指数} = \text{器高} \div \text{口径} \times 100$$

(挿図・図版は共通の番号)

④ 色調は『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修による。

## 満25出土瓦器・土師器・東播系須恵器・国産陶器・輸入磁器

番号	器種形	法量(cm)	残存	形態の特徴	寸法の特徴	備考
1		14.2 5.4 4.9 ※38.0	はぼ定形	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外縁弧線に開く。 ○口縁部は少し外方に開き、内側して沈縁をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内側、外表面をヨコナデ。 ○外表面は口縁部から体部下位まで開跡の粗いミガキ。4分則。 ○内表面は密にミガキ。 ○見込みに横筋状の輪文。 ○高台はナヂつけ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N/4%。 ○満25-1。
2	瓦	14.2 5.2 4.0 ※36.6	1/2	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外縁弧線に開く。 ○口縁部はゆるく内側して沈縁をもつ。 ○高台は断面三角形→台形。	○口縁部内側、外表面をヨコナデ。 ○外表面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内表面は密にミガキ。 ○見込みに横筋状の輪文。 ○高台はナヂつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N/4%。 ○底部外周に刷毛。 ○満25-3。
3	器	15.3 5.6 5.1 ※38.6	はぼ定形	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外縁弧線に開く。 ○口縁部はゆるく内側して沈縁をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内側、外表面をヨコナデ。 ○外表面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内表面は密にミガキ。 ○見込みに横筋状の輪文。 ○高台はナヂつけ。	○精緻、白・黒色砂粒。 ○くさり織を含む。 ○灰褐色N/3%~灰白色N/7%。 ○満25-2。
4	・	15.1 5.7 5.2 ※37.5	1/2個	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外縁弧線に開く。 ○口縁部はゆるく内側して沈縁をもつ。 ○高台は断面三角形→台形。	○口縁部内側、外表面をヨコナデ。 ○外表面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内表面は密にミガキ。 ○見込みに横筋状の輪文。 ○高台はナヂつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒。 ○くさり織を含む。 ○暗灰色N/3%。 ○満25-2。
5	椀	14.8 5.4 5.2 ※36.5	1/4個	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外縁弧線に開く。 ○口縁部はゆるく内側して沈縁をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内側、外表面をヨコナデ。 ○外表面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内表面は密にミガキ。 ○見込みに横筋状の輪文。 ○高台はナヂつけ。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○灰色N/5%。 ○口縁部外表面灰色N/4%、底面の吸着が無い。 ○満25-1。
6		14.8 5.3 5.1 ※35.5	定形	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外縁弧線に開く。 ○口縁部はゆるく内側して沈縁をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内側、外表面をヨコナデ。 ○外表面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内表面は密にミガキ。 ○見込みに横筋状の輪文。 ○高台はナヂつけ。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○灰色N/4%。 ○満25-1。

番号	目録形	法 番 (cm)	残 存	形 独 の 特 徴	技 法 の 特 徴	備 考
7		14.8 5.5 5.5 ※36.9	1/5強	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。黑色微砂粒を多く含む。 ○灰白色7.5YR1/1。 ○清25-3。
8		14.5 5.1 4.8 ※35.2	1/2	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。黑色微砂粒を多く含む。 ○灰白色7.5YR1/1。 ○清25-3。
9		15.2 5.0 5.7 ※32.6	1/3	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は凸形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。黑色微砂粒を多く含む。 ○灰白色10YR8/1。 ○清25-3。
10		15.1 5.8 4.6 ※38.1	1/4	○少し丸底。体部は外側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに連結輪旋の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。黑色砂粒を多く含む。 ○灰白色7.5YR1/1。 ○清25-3。
11	丸	14.2 5.2 4.6 ※36.6	1/4	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに連結輪旋の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。黑色微砂粒を含む。 ○灰白色N4/。○清25-2。
12		14.4 5.5 4.1 ※36.2	ほぼ完形	○平底。体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに連結輪旋の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○清25-1。
13		14.2 5.2 5.1 ※36.6	2/3	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部中段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○灰白色N8/。 ○内外面吸水性は、炭素吸水性がない。 ○清25-3。
14		13.7 5.0 4.4 ※36.1	1/4	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面凸形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに連結輪旋の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰白色N4/。 ○清25-2。
15		15.1 5.3 4.8 ※35.1	1/2弱	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面凸形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに連結輪旋の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○外表面灰褐色N4/。 ○外表面灰褐色7.5Y6/1。 ○清25-1。
16	横	15.2 5.6 4.0 ※30.8	完形	○丸底から体部は内側しながらそのまま口縫部までだらかに聞く。 ○高台は断面方形で外側へふんばる。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部下段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みは平行縫の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。白・黑色微砂粒を多く含む。 ○内表面灰褐色N4/。 ○外表面灰褐色N5/灰白色N7/1。 ○清25-1。
17		14.6 5.3 4.6 ※36.3	1/2	○丸底から体部は内側しながらそのまま口縫部までだらかに聞く。 ○高台は断面凸形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部中段まで細いミガキ。 ○内縫はやや密にミガキ。 ○見込みは平行縫の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰白色N4/。 ○清25-3。
18		14.8 5.4 5.2 ※36.5	1/4強	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部中段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに連結輪旋の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。黑色微砂粒を含む。 ○灰白色N5/。 ○清25-1。
19		14.6 5.3 4.8 ※36.8	ほぼ完形	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縫部は少し屈曲して外骨気味に聞く。 ○口縫部はゆるく内側して沈縫をもつ。 ○高台は断面三角形。底部と七七くらいの凸ぼり。	○口縫部内側、外縫をヨコナデ。 ○外縫は口縫部から体部中段まで細いミガキ。 ○内縫は密にミガキ。 ○見込みに同心円形の縫文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○暗色N3/。 ○清25-2。

番号	基準部	法規 (cm)	残存	目録の特徴	技術の特徴	備考
20	瓦 基 ・ 板	15.5 5.0 4.9  ■32.3	1/2弱	○や丸底から仲筋まで内側しながらそのまま口縁部までならかに開く。 ○口縁部は断面方が外側へふんばる。	○口縁部内面、外面をヨコナデ。 ○外面は無いナデ。 ○内面はやや密にミガキ。 ○見込みは暗色で不明。 ○高さはナデづけ。	○やや粗、白色微砂粒を多く含む。 ○灰色N4/-灰白色N8/- ○講25-1。
21		9.8 1.7  ほぼ完形		○平底から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはシグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、白・黑色微砂粒を含む。 ○灰色N4/- ○講25-1。
22		9.7 1.8	1/4	○平底から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはナデの上に粗いシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○灰色N4/- ○講25-1。
23		9.7 1.8	1/4	○上げ直気味の底部から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはナデの上に粗いシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/- ○講25-2。
24	瓦	9.7 1.7	1/4	○上げ直気味の底部から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはナデの上に粗いシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N5/- ○講25-3。
25		9.6 1.5	1/2弱	○上げ直気味の底部から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはシグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/- ○講25-3。
26	基	9.6 1.6	1/3	○上げ直気味の底部から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはナデの上にシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○内面明赤色2.5YR2/- ○外面灰白色7.5YR8/7- ○講25-2-3。
27		9.5 1.3	1/2弱	○上げ直気味の底部から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N5/-
28		9.2 1.6	1/2弱	○上げ直気味の底部から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはシグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰白色N8/-灰色N4/- ○講25-2。
29	小	9.2 1.9	1/2(±)完形	○平底から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはシグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○灰色N4/- ○講25-3。
30		9.2 1.8	1/2	○平底から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはナデの上にシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰黑色N4/- ○外面暗灰色N3/- ○講25-1。
31	基	9.2 1.9	1/8	○平底から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはナデの上にシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N5/- ○講25-2。
32		9.0 1.9	ほぼ完形	○平底から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはナデの上にシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、黑色微砂粒を多く含む。 ○灰色N5/-灰白色N8/- ○講25-1。
33		8.8 2.0	1/4	○平底から傾曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みはシグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/-灰黑色N5/- ○講25-2。
34		8.8 (2.0)	1/2弱	○底からゆるく内側しながら口縁部へつづく。 ○口縁部は少し外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底面外面は滑走さえ。 ○見込みは平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/- ○講25-3。

番号	基部 種類	法 規 (cm)	性 存	形 態 の 特 徴	性 法 の 特 徴	備 考
35	瓦	8.8 1.9	ほぼ完形	○丸底からやるく内側しながら口縁部へつづく。 ○口縁端部は少し外上方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部内外面と見込み平ばまでヨコナデ。 見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。 ○見込みは平行線の端点。	○精緻、微砂粒を含む。 ○底色N4/。
				○平底から弧曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、尖り気味。	○口縁部内外面と見込み平ばまでヨコナデ。 見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。 ○見込みはナデの上にシザザグ状の平行線の端点。	○精緻、黑色微砂粒を多く含む。 ○底白色2.5YR8/1。 ○清25-2。
36	器	8.6 1.7	1/4弱	○平底から弧曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、尖り気味。	○口縁部内外面と見込み平ばまでヨコナデ。 見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。 ○見込みはナデの上にシザザグ状の平行線の端点。	○精緻、黑色微砂粒を多く含む。 ○底白色N4/。
37	小皿	8.4 1.8	1/2強	○平底から弧曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と見込み平ばまでヨコナデ。 見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。 ○見込みはナデの上にシザザグ状の平行線の端点。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○底色N4/。
38		25.4 (7.4)	1/4	○脚・底部を欠く。 ○内側する背部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面はナデ。 ○体部内面は不明。	○精緻、白色微砂粒、くさり縫を含む。 ○底白色5YR8/1。
39	土瓶	22.8 (7.8)	1/8	○底部を欠く。 ○内側する背部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面と脚の周辺部をヨコナデ。 ○体部外面をナデ。	○粗、白・黑色微砂粒を多く含む。 ○内面底色10YR8/1。 ○外面上に赤・黒褐色10YR7/3。 ○清25-2-3。
40	器	27.2 (7.4)	1/4弱	○底部を欠く。 ○内側する背部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面と脚の周辺部をヨコナデ。 ○体部外面をナデ。	○粗、白・黑色微砂粒を多く含む。 ○内面赤褐色10R6/8。 ○外面上に赤褐色7.5R5/8。 ○清25-2。
41	葉	26.2 (7.2)	1/8	○底部を欠く。 ○内側する背部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面と脚の周辺部をヨコナデ。 ○体部外面をナデ。	○粗、白・黑色微砂粒を多く含む。 ○内面に赤褐色10YR7/4。 ○外面底色10R5/2-3。 ○底白色10YR7/3。 ○脚下端付着。 ○清25-2-3。
42	14.7 2.7	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面・見込み平ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、微砂粒、くさり縫を含む。 ○に赤褐色10YR7/3。 ○内外面一部僅けている。 ○清25-2-3。	
43	土瓶	14.6 3.1	1/4	○丸底紅味の底部から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面・見込み平ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白・黑色微砂粒を含む。 ○に赤褐色10YR7/3。 ○清25-1。
44	器	14.6 2.5	1/3	○平底から口縁部まで内側しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面・見込み平ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、微砂粒、くさり縫を含む。 ○に赤褐色10YR7/3。 ○清25-2-3。
45	大皿	14.2 (2.3)	1/6	○平底から口縁部まで内側しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面・見込み平ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白・黑色微砂粒、くさり縫を含む。 ○底白色10YR6/3。 ○清25-2。
46		14.1 2.9	1/12	○平底から口縁部まで内側しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面・見込み平ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○内面底色10YR3/1-底白10YR7/1。 ○外面底色10YR7/1。 ○底部中央に焼成後の穿孔(径1cm)。 ○清25-2-3。

番号	品目 等級形	法 規 量 (cm)	残存	形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
47	土 師 器 ・ 大 皿	12.4 2.3	1/3	○上げ底気味の底部から縦曲して外上方へ傾く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色微砂粒。 くさり織を含む。 ○に古い褐色7.5Y R7/4～ 一極灰7.5Y R4/3。 ○清25-1。
48		12.3 2.3	1/4	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながら上へ傾く口縁部。 ○口縁部は上方へつまり上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。黑色微砂粒。 くさり織を多く含む。 ○灰褐色2.5Y R8/2。 ○清25-3。
49		9.4 1.3	1/2	○平底から縦曲して外上方へ聞く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向き、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○浅褐色10Y R8/3～ 灰白色10Y R8/2。 ○清25-2～3。
50		9.2 2.2	完形	○中央部が上げ底気味の底部から。なだらかに内彎しながら上へ傾く。 ○口縁部は上方へつまり上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。黑色微砂粒。 くさり織を多く含む。 ○内面灰褐色10Y R8/2。 外面上に古い褐色5Y R7/4。 ○清25-2。
51	土	9.2 2.0	完形	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰褐色2.5Y R6/2。 ○清25-2～3。
52	師	9.2 1.8	完形	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒。 くさり織を含む。 ○に古い褐色5Y R7/4～ 一極灰褐色10Y R7/3。 ○清25-2。
53		9.2 1.8	完形	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は少し尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒。 くさり織を含む。 ○内面灰褐色5Y R5/1。 外面上灰褐色10Y R8/2。 ○清25-3。
54	石	9.1 2.3	1/2	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒を多く含む。 ○オーバーペイント灰褐色10Y R5/2。 一極灰N5%。 ○清25-2～3。
55		9.0 1.8	完形	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰白色10Y R8/1。 ○清25-2～3。
56		8.8 2.2	1/2	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒。 くさり織を含む。 ○橙灰7.5Y R7/6。 ○清25-3。
57	小	8.6 1.5	1/2	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。黑色微砂粒。 くさり織を含む。 ○灰白色10Y R8/2。 ○清25-2。
58	皿	8.5 1.6	完形	○中央部が上げ底気味の底部から。なだらかに内彎しながら口縁部につく。 ○口縁部は丸く納める。 ○底部の中央部が内溝になる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒。 くさり織を含む。 ○に古い黄褐色10Y R6/3～ 一極灰7.5Y R6/6。 ○清25-1。
59		8.5 1.7	1/2弱	○丸底気味の底部から口縁部が縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○内面橙色2.5Y R6/6。 外面上に古い褐色2.5Y R7/4。 ○清25-2～3。
60		8.4 1.4	1/4	○平底から縦曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○内面橙色2.5Y R6/6。 外面上に古い褐色2.5Y R7/4。 ○清25-3。

番号	監査部	法規 (cm)	現存	形態の特徴	核法の特徴	備考
61		8.4 1.5	はす定期	○平底から弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・黒色砂粒を含む。 ○濃黒色1.5YR7/3。 ○濃25-1。
62		8.2 1.5	定期	○平底から弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部はやや尖り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい黄褐色10YR7/3。 ○濃25-1。
63	土	8.4 1.3	1/2	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内側しながら縫端部につづく。 ○口縫端部はやや尖り気味。 ○底部の中央が肉薄になる。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・黒色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○内面浅黄褐色7.5YR8/4A。 ○外面浅黄褐色7.5YR8/4A。 ○濃25-1。
64		8.4 1.5	1/4	○丸底気味の底部から、口縫部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・黒色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○にぶい黄褐色10YR7/3。 ○濃25-3。
65	66	8.4 2.2	定期	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内側しながら口縫部につづく。 ○口縫端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、黒色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○底白色10YR8/2。 ○濃25-2。
66		8.3 1.6	定期	○丸底気味の底部から、口縫部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部はやや尖り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、砂粒を含む。 ○底黑色2.5YR7/3。
67	68	8.3 1.5	定期	○丸底気味の底部から、口縫部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・薄色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○底白色10YR8/2。 ○濃25-1。
68		8.3 1.4	定期	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内側しながら口縫部につづく。 ○口縫端部はやや尖り気味。 ○底部の中央が肉薄になる。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・薄色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○にぶい壁色7.5YR7/4。 ○濃25-3。
69	*	8.3 1.2	1/3	○平底から弧曲して外上方へ伸びる口縫部。 ○口縫端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・薄色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○内面浅黄色2.5Y8/3、 ○外面灰黄色2.5Y7/2。 ○濃25-1。
70	71	8.3 1.8	定期	○平底から弧曲して外上方へ伸びる口縫部。 ○口縫端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、黒色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○にぶい黄色10YR7/3。 ○濃25-2。
71		8.2 1.5	1/3	○平底から弧曲して外上方へ伸びる口縫部。 ○口縫端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・黒色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○内面浅黄褐色10YR8/3、 ○外面浅黄褐色2.5Y7/3。 ○濃25-1。
72		8.2 1.5	定期	○平底から弧曲して外上方へ伸びる口縫部。 ○口縫端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・薄色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○底黃褐色10YR8/3。 ○濃25-1。
73		8.2 1.4	1/3	○上げ底気味の底部から、弧曲して外上方へ伸びる口縫部。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・薄色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○底黃褐色10YR8/3。 ○濃25-1。
74		8.2 1.1	1/3	○上げ底気味の底部から、弧曲して外上方へ伸びる口縫部。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・薄色砂粒を含む。 ○底黃褐色2.5Y8/3。 ○濃25-1。
75		8.1 1.2	1/2弱	○平底から口縫部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は更に外方へ向き面をもつ。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○横継、白・薄色砂粒、 《きり縞》を含む。 ○底黃褐色7.5YR8/4。 ○濃25-1。

番号	基部形	法長 (mm)	残存	形態の特徴	枝法の特徴	備考
76	8.1 1.5	1/2強		○やや小さい底部から口縁部が周曲後、外側しながら傾く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○底黄色Y8/3。 ○清25-1。
				○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/8、 外面上に黒色7.5YR 8/6。 ○清25-1。
77	8.0 1.4	1/2弱		○中央部がやや底氣味の底部から、口縁部までなだらかに内側しながらづつく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/8、 外面上に黒色7.5YR 8/6。 ○清25-1。
				○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面白色7.5Y R8 /3。 ○清25-1。
78	7.9 1.5	1/3強		○中央部がやや底氣味の底部から、口縁部までなだらかに内側しながらづつく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○底白色Y8/2。 ○清25-1。
				○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面底白色7.5Y R8 /3。 ○口縁部内外面一部剥け ている。 ○清25-1。
79	土	7.9 1.3	1/4	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面底白色7.5Y R8 /3。 ○清25-1。
				○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R7/6、 外面上に黒色7.5Y R8 /3。 ○口縁部内外面一部剥け ている。 ○清25-1。
80	80	7.9 1.3	1/2強	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R7/6、 外面上に黒色7.5Y R8 /3。 ○清25-1。
				○中央部が上げ底氣味の底部から、口縁部が弧曲して上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。砂粒を含む。 ○内に黒色10Y R7/3。 ○清25-1。
81	器	7.8 1.6	完形	○平底、底部と口縁部の境は厚くなリ外方に張張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。砂粒を含む。 ○内に黒色10Y R7/3。 ○清25-1。
				○平底、底部と口縁部の境は厚くなリ外方に張張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/4。 ○清25-1。
82	82	7.8 1.5	1/6	○平底、底部と口縁部の境は厚くなリ外方に張張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/4。 ○清25-1。
				○平底から口縁部までなだらかに内側しながらづつく。 ○口縁端部は外方へ面をもつ。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/3。 ○清25-1。
83	83	7.8 1.2	1/3	○上げ底氣味の底部から、口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/3。 ○清25-1。
				○上げ底氣味の底部から、口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/4。 ○清25-1。
84	84	7.5 1.2	1/3	○上げ底氣味の底部から、口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R6/4。 ○清25-1。
				○上げ底氣味の底部から、口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微妙粒を含む。 ○内に黒色10Y R7/3。 ○清25-1。
85	85	7.8 1.4	完形	○上げ底氣味の底部から、口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微妙粒を含む。 ○内に黒色10Y R7/3。 ○清25-1。
				○中央部が上げ底氣味の底部から口縁部までなだらかに内側しながらづつく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黑色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R7/3。 ○清25-1。
86	86	7.6 1.3	1/3	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらづつく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黑色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面褐色2.5Y R7/3。 ○清25-1。
				○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微妙粒を含む。 ○内に黒色10Y R7/3。 ○清25-1。
87	87	7.5 1.4	完形	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微妙粒を含む。 ○内に黒色10Y R7/3。 ○清25-1。
				○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微妙粒を含む。 ○内に黒色10Y R7/3。 ○清25-1。
88	88	7.5 1.2	完形	○直線的に外方へ聞く体形。 ○口縁部は下端部を下方に軽く尖り納める。 ○体面内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○外外面はロクロナデ。	○やや粗。白色砂粒を多く含む。 ○底オリーブ2.5GY6/1。 ○连接系。 ○清25-2・3。
				○直線的に外方へ聞く体形。 ○口縁部は下端部を下方に軽く尖り納める。 ○体面内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○外外面はロクロナデ。	○やや粗。白色砂粒を多く含む。 ○底オリーブ2.5GY6/1。 ○连接系。 ○清25-2・3。

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考	
90	箱 身 ・ 蓋 ・ 脚	16.4 4.6	1/2弱	○直線的に外方へ開く体部。 ○口縁部は下端部を下方に強張り多く納める。 ○体部外面はロクロナナにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナナ。 ○見込みに指押さえて凹凸の溝。 ○裁断外側、ケタ底。	○やや粗。白色砂粒を多く含む。 ○灰白色N6%。 ○調25-3。	
91	箱 身 ・ 蓋 ・ 脚	21.6 6.5	1/4	○直線的に外方へ開く体部。 ○口縁部は上下端を強張り多く納める。 ○体部外面はロクロナナにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナナ。 ○底部外面に移行せり底。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○灰白色N4/-5%。 ○口縁部に自然抽。 ○束縛系。 ○調25-2-3。	
92	国陶器 ・ 瓦当	45.3 (61.7)		○底部から腰部までだらかにひらがり前部は内傾する。 ○腹部は弧形し、下段は内傾、上位は少し直立する。 ○口縁部は上、下に肥厚する。	○口縁部外面へ見込み平ばまでヨコナナ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は削ぎえ。	○粗。粗い砂粒を含む。 ○種 線オーバーブ色3.Y 4.2-オリーブ色2.5 Y3.2。 赤地 黑褐色2.5Y3/2 ○内面紙かかぶり(灰白色 7.5Y7/1)。 ○調25-3。	
93	箱 身 ・ 蓋 ・ 脚	19.4 (4.5)	1/8	○底部を欠く。 ○体部は直線的に外方に開き口縁部は屈曲する。	○全面をロクロナナ。 ○内面に片刷りによる文様。	○精良。 ○種 黒オリーブ7.5Y R 6/2。 赤地 灰白色N6%。	
94	箱 身 ・ 蓋 ・ 脚	施白 施青 施緑 施紫 施藍	施白 高 4.6 施青 高 (1.0)	1/2弱	○底部のみ。 ○内厚の底部から内側しながら体部へつづく。 ○高台は折面方形。	○高台はへら削り。 ○全面に施釉。	○精良、黑色砂粒を含む。 ○種 赤地とも灰白色N 8%。

## 構20出土瓦器・土師器・東播系須恵器・国産陶器・中国製磁器・須恵器・軒瓦他

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
95		14.9 3.2 3.7  ※35.7	ほぼ完形	○丸底をもった深い窓形の体部から口縁部は少し屈曲して外脇気味に窪く。 ○口縁部は浅く洗練。 ○高台は断面三角形。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○口縁部から体部下位まで粗いミガキ、3分割。 ○内面は密なミガキ。 ○見込みに堆疊状の堆文。 ○高台はナデつけ。	○精良。微砂粒を含む。 ○灰褐色N3%。 ○調20セキ。
96	瓦	14.6 4.9 3.7  ※33.6	1/4	○丸底から体部は内傾して外上方に立ち上がり、 口縁部は少し屈曲して外脇気味に窪く。 ○口縁端部はなるべく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内部窓をヨコナナ。 ○口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密なミガキ。 ○見込みに堆疊状の堆文。 ○高台はナデつけ。	○精良。微砂粒を含む。 ○灰褐色N3%。 ○調20-3。
97		14.6 4.9 4.5  ※33.6	1/2強	○丸底から体部は内傾して外上方に立ち上がり、 口縁部は少し屈曲して外脇気味に窪く。 ○口縁端部はなるべく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内部窓をヨコナナ。 ○体部外面に掌跡。口縁部に粗いミガキ。 ○内面はやや細かいミガキ。 ○見込みに同上文の堆文(2重)。 ○高台はナデつけ。	○精良。 ○細灰色N3/-灰褐色S Y7/1。 ○調20-3。
98	器	14.5 5.1 4.5  ※35.2	1/4	○少し丸底から体部は内傾して外上方に立ち上がり、 口縁部は少し屈曲して外脇気味に窪く。 ○口縁端部はなるべく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内部窓をヨコナナ。 ○体部外面は掌跡。口縁部に粗いミガキ。 ○内面は密なミガキ。 ○見込みに堆疊状の堆文。 ○高台はナデつけ。	○精良。微砂粒を含む。 ○灰褐色N5%。 ○調20-2。
99	瓦	4.7 (3.9)	底部のみ 完形	○丸底から体部は内傾して外上方に立上がる。 ○高台は断面台形。	○内面は密なミガキ。 ○体部外面はナデ。 ○見込みに同上文の堆文(2重)。 ○高台はナデつけ。	○精良。微砂粒を含む。 ○細灰色N3%。 ○調20-3。
100	瓦	12.7 3.3 3.2  ※26.8	1/2	○丸底からゆるく内傾して窪く体部。 ○口縁端部は少し外方に向かう多く納める。 ○高台の形は丸さが不均一。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は口縁部に粗いミガキ。体部上位へ見込みは平行線の堆文。 ○高台はナデつけ。	○精良。白色砂粒を含む。 ○内面灰褐色N4%。 ○外壁灰褐色N3%。 ○調20-2。
101		10.4 2.5  ※23.6	1/6	○丸底からゆるく内傾して窪く体部。 ○口縁端部は少し外方に向かう多く納める。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○体部外面は削ぎえ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗。白・白色砂粒を含む。 ○灰褐色N4%。 ○調20-2。
102		11.4 (2.9)	1/6強	○丸底からゆるく内傾して窪く体部。 ○口縁端部は少し外方に向かう多く納める。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○体部外面は削ぎえ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗。白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色10Y8/1。 ○調20-3。

番号	種類	法 量 (cm)	残 存	形態の特徴	後法の特徴	備 考
103	瓦	15.0 (4.2)	1/3	○丸底からゆるく内側して聞く体部。 ○口締端部は丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○体部外縁は指押え。 ○体部内面はナヂの上に無いミガキ。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○底色N4/～底白色N6/。 ○清20-2。
				○丸底からゆるく内側して聞く体部。 ○口締端部は丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○体部外縁は指押え。 ○体部内面はナヂの上に無いミガキ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○底色N4/～6/。 ○清20-3。
104	瓦 ・ 筒	10.4 2.5 ※24.2	完形	○丸底からゆるく内側して聞く体部。 ○口締端部は丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○体部外縁は指押え。 ○体部内面はナヂの上に無いミガキ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○底色N4/～6/。 ○清20-3。
				○丸底からゆるく内側して聞く体部。 ○口締端部は丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○体部外縁は指押え。 ○体部内面はナヂの上に無いミガキ。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○底色N4/～6/。 ○清20-3。
105	瓦	12.8 (2.9)	1/3	○丸底からゆるく内側して聞く体部。 ○口締端部は丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○体部外縁は指押え。 ○体部内面はナヂの上に無いミガキ。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○底色N4/～6/。 ○清20-3。
				○平底からゆるやかに傾曲して外上方に立ち上る口締部。 ○口締端部は少し外方に向き、やや丸く倒錐。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂの上にシザグサ状の細な平行線の堆積。 ○底部外縁は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○底色N4/。 ○清20-2。
106	瓦	10.2 1.7	1/3	○平底からゆるやかに傾曲して外上方に立ち上る口締部。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂの上にシザグサ状の細な平行線の堆積。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○底色N4/。
				○口締端部は少し外方に向き、やや丸く倒錐。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
107	瓦 ・ 筒	9.0 1.5	1/2弱	○中央部が上げ錐気味の底部から口締部が傾曲して、外上方へ伸びる。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂの上にシザグサ状の平行線の堆積。	○精緻、
				○口締端部はやや尖り気味。	○底部外縁は指押さえ。	○底色N4/。
108	小 筒	9.1 1.9	1/2弱	○平底からゆるやかに内側してつづく口締部。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂの上にシザグサ状の平行線の堆積。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○底色N4/。
				○口締端部は丸く納める。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
109	瓦	8.0 1.7	ほぼ完形	○平底から傾曲して外上方へ伸びる口締部。 ○口締端部は丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂの上にシザグサ状の平行線の堆積。	○精緻、 ○底色N4/。 ○清20-3。
				○平底から口締部までなだらかに内側しながら上づく。 ○口締端部は上方へつまみあげ丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂ。	○やや粗、白・三色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面にひい青色7.YR 7/3、 外面上にひい黄褐色10Y R7/2、 ○清20-3。
110	瓦	13.8 2.2		○やや丸底気味の底部から口締部が傾曲して外上方へ伸びる。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂ。	○やや粗、白・黑色砂粒、 くさり織を含む。 ○内面にひい青色7.YR 7/3、 外面上にひい黄褐色10Y R7/2、 ○清20-3。
				○口締端部は上方へつまみあげ丸く納める。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
111	土	12.4 2.5		○平底から口締部までなだらかに内側しながら上づく。 ○口締端部は上方へつまみあげ丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂ。	○精緻、 ○底色N4/。
				○やや丸底気味の底部から口締部が傾曲して外上方へ伸びる。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
112	筒	11.1 2.6	1/8	○平底から口締部までなだらかに内側しながら上づく。 ○口締端部は上方へつまみあげ丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナヂ。	○精緻、 ○底色N4/。
				○やや丸底気味の底部から口締部が傾曲して外上方へ伸びる。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
113	瓦	11.0 2.1	1/4弱	○平底から口締部までなだらかに内側しながら上づく。 ○口締端部は上方へつまみあげ丸く納める。	○口締部内外面をヨコナデ。 ○見込みの中央部はナヂ。	○精緻、 ○底色N4/。
				○やや丸底気味の底部から口締部が傾曲して外上方へ伸びる。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
114	大 筒	10.6 1.7	完形	○平底から傾曲して外側しながら外上方に伸びる口締部。 ○口締端部は特に傾曲し丸く納める。	○口締部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナヂ。	○精緻、 ○底色N4/。
				○平底から傾曲して外側しながら外上方に伸びる口締部。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
115	瓦	10.5 2.0	1/3	○平底から傾曲して外側しながら外上方に伸びる口締部。 ○口締端部は特に傾曲し丸く納める。	○口締部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナヂ。	○精緻、 ○底色N4/。
				○平底から傾曲して外側しながら外上方に伸びる口締部。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
116	瓦	10.4 1.9	ほぼ完形	○平底から傾曲して外側しながら外上方に伸びる口締部。 ○口締端部は特に傾曲し丸く納める。	○口締部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナヂ。	○精緻、 ○底色N4/。
				○平底から傾曲して外側ながら外上方に伸びる口締部。	○底部外縁は指押さえ。	○清20-3。
117	瓦	10.4 1.8	1/4	○平底から口締部が傾曲して外上方へ伸びる。 ○口締端部は丸く納める。	○口締部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナヂ。	○精緻、 ○底色N4/。
				○平底から口締部が傾曲して外上方へ伸びる。 ○口締端部は丸く納める。	○底部外縁は指押さえ。	○内面にひい黄褐色10Y R7/3、 外面上にひい黄褐色10Y R7/3、 ○清20-3。

番号	部類	法線 (cm)	残存	形態の特徴	技術的特徴	備考
118		9.5 1.7	完形	○やや丸進気孔の底部から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白色砂粒を含む。 ○内面に、黒・黄緑色10Y R6/4。 ○外側橙色5YR6/6。 ○濃29-3。
119		9.3 1.3	1/2弱	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○濃29-2。
120		8.6 1.1	1/4強	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、黑色砂粒を含む。 ○浅灰褐色10YR3/3。 ○濃29-2。
121		8.6 1.5	1/2弱	○平底から口縫部までなだらかに内側しながらつく。 ○口縫部は上方へつまみ上げ先り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒を含む。 ○濃2.5YR8/6-6/3-浅黃 色7.5YR8/4。 ○濃29-2。
122	土	8.5 1.3	1/2弱	○平底、底部と口縫部の境は薄くなり外方に出張り刃鋸で口縫部が外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げ先り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2-5/3Y R6/4。 ○濃29-2。
123		8.4 1.3	1/2	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、黑色砂粒を含む。 ○内面灰黃色5.5YR8/3。 ○外側2.5YR8/2。 ○濃29-3。
124	土	8.4 1.2	1/3	○平底から口縫部までなだらかに外側しながらつく。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白色砂粒を含む。 ○内面灰黃色2.5YR8/3- 3/2。 ○外側淡赤褐色2.5YR7/ 3。 ○濃29-2。
125		8.3 1.3	ほぼ完形	○平底から口縫部までなだらかに内側しながらつく。 ○口縫部は上方へつまみ上げ先り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白色砂粒を含む。 ○白色8.5Y-1-に近い 橙5YR7/3。 ○濃29-2。
126	土	8.2 1.1	1/4	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる刃鋸部。 ○口縫部は更に屈曲し丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒、 《きり縫》を含む。 ○浅灰褐色10YR8/3。 ○濃29-3。
127		8.0 1.3	1/4	○平底、底部と口縫部の境は薄くなり外方に出張り刃鋸で口縫部が外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げ先り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、黑色砂粒を含む。 ○内面灰白色10YR8/2。 ○外方に、黒・黄緑色10Y R7/3。 ○濃29-2。
128	小	8.2 1.6	1/3	○中央部が上げ先り気味の底部から口縫部までなだらかに内側しながらつく。 ○口縫部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒を含む。 ○内面浅黄色2.5YR8/3。 ○外方に、黒・黄緑色10Y R7/3。 ○濃29-2。
129		8.2 1.5	2/3	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒を含む。 ○深赤褐色2.5YR7/3-に 近い、黄褐色10YR6/3。 ○濃29-3。
130		8.1 1.3	1/2弱	○中央部が上げ先り気味の底部から口縫部までなだらかに内側しながらつく。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒を含む。 ○内面灰褐色7.5YR 8/3。 ○外方に、黒・黄緑色7.5Y R7/4。 ○濃29-3。
131		8.0 1.5	1/4	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒を含む。 ○底色10YR8/2。 ○濃29-3。
132		8.2 1.1	1/2弱	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げ、やや先り気味。	○口縫部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○輪郭、白・黑色砂粒を含む。 ○底色10YR8/2。 ○濃29-3。

番号	品種形	法葉 (cm)	種子	形態の特徴	栽培の特徴	備考
133		7.9 1.5	1/2弱	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外側 しながら開く。 ○口縁部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。黒色砂粒を含む。 ○浅黄緑色10YR8/3。 ○濃20-2。
134		7.9 1.4	ほぼ完形	○丸底乳突の底部から口縁部が屈曲して外上 方へ伸びる。 ○口縁部は尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒。 ○くさり繩を含む。 ○浅黄緑色7-3VYR8/3- 灰白色5YR8/2。 ○濃20-2。
135		7.9 1.5	1/2弱	○丸底乳突の底部から口縁部が屈曲して外上 方へ伸びる。 ○口縁部は尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○内面灰白色10YR8/2。 外面上に深い黄緑色10Y R7/3。 ○濃20-2。
136	七	7.9 1.2	ほぼ完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○内面黄緑色7-3VYR8/3。 外面上に深い黄緑色7-3VYR8/2。 ○濃20-2。
137		7.9 1.2	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり繩を含む。 ○内面に深い黄緑色10Y R7/4。 外面上に深い黄緑色10Y R7/3。 ○濃20-2。
138	脚	7.9 1.3	1/2弱	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○粗。白・黑色砂粒。 ○くさり繩を多く含む。 ○浅黄緑色10YR8/3。 ○濃20-2。
139	基	7.8 1.4	1/3	○丸底乳突の底部から口縫部が屈曲して外上 方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり繩を含む。 ○に深い黄緑色10YR7/ 2。 ○濃20-3。
140		7.8 1.4	1/4	○中央部が上げ底乳突の底部から口縫部まで ならだらかに内側しながらつづく。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○内面～口縫部外面灰 色10YR8/1(深緑)。 底部外面は浅黄緑色10Y R7/3。 ○濃20-3。
141	小	7.8 1.5	1/2強	○中央部が上げ底乳突の底部から口縫部まで ならだらかに内側しながらつづく。 ○口縫部は更に水平近く無理し丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒。 ○くさり繩を含む。 ○浅黄緑色10YR8/3-灰 白色5YR8/2。 ○濃20-3。
142		7.8 1.2	ほぼ完形	○中央部が上げ底乳突の底部から口縫部まで ならだらかに内側しながらつづく。 ○口縫部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2-5YR 7/2。 ○濃20-2。
143	基	7.8 1.2	完形	○平底。底部は下方に出張り気味で口縫部が 外方に伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○内面黄緑色10YR8/3。 外面上に白色3.5YR8/2。 ○濃20-2。
144		7.8 1.3	ほぼ完形	○やや丸底乳突の底部から口縫部までならだ かに内側しながらつづく。 ○口縫部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○に深い赤緑色10YR6/3 -灰白色3YR8/2。 ○濃20-2。
145		7.7 1.4	1/2弱	○平底から口縫部までならだかに内側しながら つづく。 ○口縫部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり繩を含む。 ○浅黄緑色10YR8/3。 ○濃20-2。
146		7.6 1.2	1/4	○中央部が上げ底乳突の底部から口縫部が屈 曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○内面灰白色10YR8/2。 外面上に浅黄緑色10YR8/ 3。 ○濃20-3。

番号	目録番号	法 番 (cm)	残 存	形 築 の 特 徴	枝 法 の 特 徴	備 考
147		7.4 1.5	完形	○中央部が上げ庭気味の底部から口縁部が圓曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナヂ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外側は押さえ。	○輪網。白・黒色砂紋。 ○きり縫を含む。 ○底白色5YR6/1～5YR7.5/4。 ○溝20～2。
148	土 師	7.3 1.4	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらづく。 ○口縁部はやや尖り気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナヂ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外側は押さえ。	○輪網。微砂粒を含む。 ○底黑色10YR8/3。 ○溝20～2。
149	器	7.2 1.6	1/8	○丸底氣味の底部から口縁部が圓曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナヂ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外側は押さえ。	○輪網。黒色微砂粒を含む。 ○にぶい橙色10YR7/2～7.4。 ○溝20～3。
150	小 盆	7.2 1.3	1/4弱	○中央部が上げ庭気味の底部から口縁部までなだらかに内側しながらづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナヂ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外側は押さえ。	○輪網。黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色5YR8/2。 ○外面灰褐色5Y7/1。 ○溝20～2。
151		7.2 1.2	1/4	○平底。底部は外方に出来り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナヂ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外側は押さえ。	○輪網。黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5YR8/2。 ○外面浅黄褐色10YR8/3。 ○溝20～2。
152		21.8 (6.7)	1/8	○体部はほぼまっすぐ立ち、肩部は内側して、口縁部が水平近く内反する。 ○口縁部は外側に巻き込み、張り付け状にする。 ○鋤は水平につき、断面方形。	○口縫部内外面～脚部周辺部までヨコナヂ。 ○体部内外面はナデ。	○輪、白・黒色砂紋を多く含む。 ○底黑色5.5YR8/4。 ○内面墨付着。 ○溝20～2。
153	土	27.2 (6.0)	1/4弱	○内側する体部から「く」の字状に外折する口縁部。 ○口縁部は上方に少し肥厚し丸く納める。	○口縫部内外面～脚部周辺部までヨコナヂ。 ○体部内外面はナデ。	○輪、白・黒色砂紋を多く含む。 ○脚部内面～外面灰白色10YR7/1～黑色10YR2/1。脚部内面灰白色10YR8/2。 ○内面墨付着。 ○溝20～3。
154	師	29.0 (6.0)	1/4	○内側する体部から「く」の字状に外折する口縁部。 ○口縁部は内側に巻き込み、張り付け状にする。	○口縫部内外面～脚部周辺部までヨコナヂ。 ○体部内外面はナデ。	○輪、白・黒色砂紋を多く含む。 ○底白色10YR3/2。 ○内面墨付着。 ○溝20～3。
155	器	33.8 (15.0)	1/4弱	○内側する体部から「く」の字状に外折する口縁部。 ○口縁部は内側に巻き込み、張り付け状にする。	○口縫部内外面～脚部周辺部までヨコナヂ。 ○体部内外面はナデ。	○やや粗、白・黒色砂紋を含む。 ○底白色7.5YR8/1。 ○内面墨付着。 ○溝20～2。
156	瓶	30.0 (8.5)	1/8	○内側する体部から、口縫部は短く外折する。 ○鋤は丸い。	○口縫部内外面～脚部周辺部までヨコナヂ。	○輪、白・黒色砂紋を多く含む。 ○口縫部内外面橙色SYR7/6.体部外側褐灰色5YR4/1。 ○内面墨付着。 ○溝20～3。
157	瓶	33.0 (6.1)	1/6	○体部はほぼまっすぐ立ち口縫部は短く外折する。 ○鋤は丸い。	○口縫部内外面～脚部周辺部までヨコナヂ。	○やや粗、白色砂紋。 ○底白色5.5YR7/6～灰白色2.5YR8/1。 ○溝20～2。
158		29.2 (8.0)	1/6	○肩部は水平方向の鋤が付き口縫部は内方に向く。 ○口縁部はやや肥厚する。	○口縫部内外面～脚部周辺部までヨコナヂ。 ○体部内外面はナデ。	○やや粗、白色砂紋。 ○底白色SYR6/6～黑色5Y2/1。 ○体部外側墨付着。 ○溝20～2。
159	重ねひ 杯	11.0 4.0	1/2強	○口縫部は、垂直に下り、端部は尖り気味。 ○天背部は比較的丸く、約1/3は平らである。	○天背部の2/3に回転ヘラ削り調整。	○やや粗、白色砂紋。 ○きり縫を含む。 ○内面灰白色5Y6/1。 ○外面灰褐色5N7/1。 ○溝20～2。

番号	名前	法量 (cm)	残存	形態の特徴	核法の特徴	参考
160 頸 椎 体 ・ 棘 突 起		13.4 (4.1)	1/6	○天井部と口縫部とを区ける明瞭な後は全く みとめられない。	○天井部の2/3に回転へテリ調整。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○灰白色10Y8/1。 ○濃20-3。
		12.0 (4.2)	1/2弱	○端部は内側して、端面と内・外面とを分ける稜線は明瞭である。	○天井部の2/3に回転へテリ調整。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○灰黄色5Y7/1。 ○濃20-3。
		19.6 (1.9)	1/4	○口縫部は下方へ屈く屈曲し、先端はお い後をなす。	○天井部は粗くヘラ削り。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○青灰色5B6/1。 ○濃20-3。
163 頸 椎 体 ・ 棘 突 起		13.3 (2.4)	1/6	○たちあがりは矮小化し、受部はやや上向き に外方へ伸びる。		○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰白色7.5Y7/1。 ○濃20-3。
		10.0 (4.9)	1/4	○受部は受部先端から全体に丸く往上げてい る。 ○たちあがりは端面が内へ傾斜している。	○底部へテリは1/3強。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○内面灰白色N4/。外面暗 オリーブ色2.5GY4/1。 ○濃20-3。
165 頸 椎 体 ・ 棘 突 起		8.6 (2.2)	1/6	○たちあがりは矮小化し、受部はやや上向き に外方へ伸びる。		○やや粗。白色砂粒を含む。 ○内面灰白色N7/。 ○濃20-3。
166 頸 椎 体 ・ 棘 突 起	底 高 9.3 (1.9)	1/4		○高台はあまり高くなく、わずかに外方へふ んばる。 ○脚垂部がほぼ水平。	○内面はヨコナデ調整。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○青灰色5BG6/1。 ○濃20-3。
		27.6 (4.5)	1/12	○口縫部は短く、外反角が大である。 ○口縫部端部に段をなし、面をもつ。	○外側に弱めの平行叩き。	○粗。白・黒色砂粒を多 く含む。 ○灰白色N7/-灰黑色N5/。 ○濃20-3。
168 頸 椎 体 ・ 棘 突 起		25.6 (5.7)	1/8	○体部から口縫部まで直線的に開く。 ○口縫部は上下に肥厚し、外側面をもつ。	○内外面をクロロナデ。	○粗。白色砂粒を多く含む。 ○灰黑色N6/-4/。 ○濃20-2。○水垢混
169 正 弦 筋		24.6 (6.9)		○体部から口縫部まで直線的に開く。 ○口縫部は丸く納まる。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○体部内面をナタの後、5条の覆目。 ○体部外側を指揮さ。	○粗。白色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/。 ○濃20-2。
170 筋 白 入 成 骨 筋		15.5 (4.7)		○体部から口縫部まで直線的に開く。 ○口縫部は下端部が肥厚する。	○口縫部外側をヨコナデ。 ○内面をナタ。 ○体部外側をクロロ削り。 ○体部上面で強撻。	○精良。 ○素地 白灰色7.5GY8/2。 種 白灰色2.5GY8/1。
171 筋 白 入 成 骨 筋		7.8 (1.9)	1/8	○屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縫 部。 ○口縫部は上方へつまみ上げ。丸く納める。	○口縫部外側をヨコナデ。	○精良。 ○素地 白灰色2N7/-種 オリーブ灰色2.5GY6/1。 ○濃20-2。
172 筋 白 入 成 骨 筋	底 3.0 3.7	1/4弱		○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸 びる口縫部。 ○口縫部は更に外反し面をもつ。	○口縫部外側をヨコナデ。 ○底部外側を柔切り。	○精良。 ○素地 灰白色N8/。 種 灰白色2.5GY8/1。 ○濃20-3。
173 筋 白 入 成 骨 筋	底 5.2 (2.3)	1/2		○厚い平底から、見込みと体部の間にやや凹 みをつくってから立ち上がる。 ○高台は低い。	○見込みはヨコナデ。 ○高台は削り落し。	○精良。 ○素地 灰白色N7/。 種 オリーブ灰色10Y6/2。 ○濃20-2。
174 筋 白 入 成 骨 筋	底 8.1 (1.3)	1/6		○平底。 ○高台は低い。	○高台は削り落し。	○精良。 ○素地 において橙色5YR7 /4。 種 オリーブ黑色10Y3 /1。 ○濃20-3。
175 筋 白 入 成 骨 筋	底 5.5 (2.3)	3/4		○厚い平底から、見込みと体部の間にやや凹 みをつくってから立ち上がる。 ○高台は低い。	○高台は削り落し。	○精良。 ○素地 灰白色N7/。 種 内面オリーブ黄色5 Y6/4。 外側灰オリーブ色5Y5 /1。 ○濃20-3。

番号	器種形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
176	箱入 青磁 蓋・瓶	底 5.6 (3.0)	1/3	○平底から、やや内側しながら大きく聞く体部。 ○高台は壁無い。	○高台は削り出し。	○構造。 ○素地 灰白色N7/。 株 オリーブ灰色19Y6 /24 ○清20-3。
177	瓦 蓋	24.6 (6.4)	1/6	○内傾する体部に大きく外彎しながら頂部か ら口縁部につづく。 ○口縁部は上下に肥厚する。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部内面はナデ。 ○底部外表面が方向の押しき。 ○体部外表面は横方向の叩き。	○粗。白・黒色砂粒。くさり 塵を含む。 ○暗灰色N4/。 ○清20-3。
178	土 器 蓋	21.6 (6.7)	1/8弱	○体部から口縁部まで、内方に少し内彎しな がらつづく。 ○口縁部は内彎し、面をもつ。 ○質は断面方形。	○口縁部外表面～肩部までヨコナデ。 ○体部内面は模状工具によるナデ。 ○体部外表面は横方向へのハケり。	○粗。白・黑色砂粒を含 む。 ○暗褐色7.5Y7/2。 ○清下部に保有者。 ○清20-3。
179	瓦 器	17.6 (6.8)	1/4弱	○内側する体部から口縁部が少し内傾して立 つ。 ○口縁部は内に面をもつ。	○口縁部外表面～肩部までヨコナデ。 ○体部外表面はナデ。 ○体部内面は横方向へのハケ目。	○粗。白・黑色砂粒を含 む。 ○内面灰白色5Y7/1。 外面部灰白色N5/(保有者)。 ○清20-3。
180	瓦 器	18.4 (5.2)	1/4弱	○内側する体部から口縁部が少し内傾して立 つ。 ○口縁部は内に面をもつ。	○口縁部外表面～肩部までヨコナデ。 ○体部外表面はナデ。 ○体部内面は横方向へのハケ目。	○やや粗。白・黑色砂粒 を含む。 ○灰白色N6/～灰白色N4/。 ○清20-3。
181	・	22.4 (5.8)	1/4	○内側する体部から口縁部が少し内傾して立 つ。 ○口縁部は内に面をもつ。	○口縁部外表面～肩部までヨコナデ。 ○体部外表面は押さえ。 ○体部内面はナデ。	○やや粗。白・黑色砂粒 を含む。 ○暗灰色N3/。 ○清20-3。
182	足 蓋	残存長 (10.1) 残存幅 (3.4) 厚 1.5		○断面内郭の性状をなす。 ○先端部を欠く。	○本体との複合面に横方向のハケ目が残る。 ○全面に壁いナデ。	○構造。 ○灰褐色/～灰白色N7/。 ○清20-3。
183		残存長 (12.0) 残存幅 (4.4) 厚 2.4		○断面内郭の性状をなす。 ○先端部を欠く。	○本体との複合面に横方向のハケ目が残る。 ○全面に壁いナデ。	○やや粗。白・黑色砂粒 を含む。 ○灰褐色N4/。 ○清20-3。
184	蓮瓣 丸 文瓦			○周縁は、細く低い外輪神で素文。 ○花弁は連續。脊端は円形。 ○外区には連珠文。		○白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色N3/。 ○清20-3。
185	唐 手 平 瓦			○断片のため、頂の形状は不明。 ○周縁はなく、外区に連珠文。	○断面にわずか布目がみられる。	○白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色N6/。 ○清20-3。
186	唐 手 瓦 平 瓦			○四重乳文？		○白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色N4/。 ○清20-3。
187	唐 手 草 平 瓦			○周縁は短かせまく。中高の茎文直立線。 ○質は、滑い作りの段階。	○断面に各所、凸面に板ナデがみられる。	○白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色N4/。 ○清20-3。

### 溝21出土瓦器・土師器・輸入磁器

番号	器種形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
188	瓦 器	14.5 5.3 4.2 ※26.2	1/2弱	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり、 口縁部は少し弧曲して外輪神味に開く。 ○口縁部はゆるく内傾して沈模をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内面、外面をヨコナデ。 ○体部外表面に押さえ。口縁部～体部下段ま で粗いミガキ。 ○内面は壁いミガキ。 ○見込みに同心円文の捺文。 ○高台はナデつけ。	○構造。白・黑色砂粒 を含む。 ○灰白色N8/～灰褐色N4/。
189	* 横	14.6 4.6 5.4 ※32.9	1/6	○平底から体部は内側して外上方に立ち上がり、 口縁部は少し弧曲して外輪神味に開く。 ○口縁部はゆるく内傾して沈模をもつ。 ○高台は断面凸台形をなすが、軽薄程度。一回 しない。	○口縁部内面、外面をヨコナデ。 ○体部外表面に押さえ。口縁部～体部中段ま で粗いミガキ。 ○内面は、やや粗いミガキ。 ○見込みに同心円文(?)の捺文がわざかにみ られる。 ○高台はナデつけ。	○構造。白・黑色砂粒 を含む。 ○灰褐色N4/。 ○清21-3。

番号	基部形	法 葉 (cm)	残存	形態の特徴	枝法の特徴	考
199		17.6 3.6 5.0 #28.6	1/3	○平底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外側乳突に廻る。 ○口縁部はゆるく内側して沈締をもつ。 ○高台は断面円形。	○口縁部内側、外表面ヨコナデ。 ○体部外表面に指揮さる。口縁部～体部中段まで低いミガキ。 ○内面は、ほぼ完全ミガキ。 ○見込みに同心円文(?)の筋文がわざかにみられる。 ○基部はナデつけ。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○内面灰色N5%、 外表面灰色N4%。 ○漁21-1。
201		12.1 3.0 3.7 #24.6	1/4	○平底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部までつづく。 ○口縁部はゆるく内側して沈締をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内面、外表面ヨコナデ。 ○体部外表面に指揮さる。口縁部～体部中段まで粗いミガキ。 ○内面は、やや粗ミガキ。 ○見込みに同心円文(?)の筋文がわざかにみられる。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○灰色N6%。 ○漁21-2。
192		10.6 3.2 3.7 #30.2	完形	○丸底から内側しながら体部が高く、外上方に伸びる。 ○口縁部は内側して浅い沈締。 ○高台は低い断面三角形で、底部は高台よりはみ出る。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面～見込みまで一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○灰色N5%。 ○漁21-3。
193	瓦	11.1 3.1 3.8 #27.9	ほぼ完形	○丸底から内側しながら、外上方に伸びる。 ○口縁部はそのままつづき深い沈締をもつ。 ○高台は低い断面三角形で、底部は高台よりはみ出る。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面～見込みまで一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○暗灰色N2%～灰褐色N6%。 ○内面に重ね焼き痕。 ○漁21-2。
194		11.6 3.5 #30.2	1/3	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色N6% (一部灰色N5%)。 ○漁21-1。
195	器	11.2 3.0 #26.8	ほぼ完形	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黑色砂粒を含む。 ○暗灰色N3%～灰褐色N5%。 ○漁21-2。
196		11.7 3.0 #25.6	完形	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○内面灰色N3%、 外表面灰色N4%。 ○漁21-2。
197		11.3 2.8 #26.1	完形	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色N6%～灰褐色N4%。 ○漁21-2。
198	椀	10.1 2.9 #28.7	完形	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○灰色N4% (一部灰白色N7%)。 ○漁21-1。
199		11.7 3.0 #25.6	完形	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N6%～5%。 ○漁21-2。
200		11.6 3.2 #27.2	完形	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰褐色N4% (一部灰白色N8%)。 ○漁21-2。
201		11.6 3.0 #25.4	完形	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰褐色N7%～灰褐色N3%。 ○漁21-2。
202		11.4 (3.0) #28.1	1/2	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○粗、白・黑色砂粒を多く含む。 ○内面灰白色Y9R8/3、 外表面灰白色7.5Y8/1。 ○漁21-1。
203		11.2 3.2 #28.1	1/4	○丸底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さる。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黑色砂粒を含む。 ○灰褐色N6%～灰褐色N4%。 ○漁21-2。

標 号	器 種	法 葉 (cm)	種 存	形 態 の 特 徴	枝 法 の 特 徴	備 考
264		11.6 3.6 #24.4	1/2強	○丸底から内側しながら口緑部までつづく。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の筋文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰褐色N5/-(一部灰白色N7/3)。 ○満21-1。
265		11.5 2.8 #24.3	1/2強	○丸底から内側しながら口緑部までつづく。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の筋文。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰褐色N5/-(一部灰白色N7/3)。 ○満21-2。
266	瓦	11.1 2.9 #26.1	定形	○丸底から内側しながら口緑部までつづく。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の筋文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰褐色N4/-(一部灰白色N8/3)。
267	瓦	11.3 3.0 #26.5	1/2	○丸底から内側しながら口緑部までつづく。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の筋文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰褐色N5/-(一部灰白色N7/3)。 ○満21-1。
268		12.4 3.5 3.4 #27.8	1/4	○丸底乳味の底部から体部は内側しながら伸び び口緑部はやや狭き氣味。 ○高台は最も底弱程度。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の筋文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N6/-(一部灰褐色N5/-(~4/))。 ○満21-2。
269	圓	11.1 3.0 #27.0	定形	○丸底から内側しながら口緑部までつづく。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の筋文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰褐色N4/-(灰白色N6/-(~4/))。 ○満21-1。
270		10.2 3.1 #29.9	1/4	○丸底から内側しながら口緑部までつづく。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面は風化の為不明。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰褐色N7/-(~8/)-暗灰褐色N3/。
271		12.6 3.2 2.9 #25.4	1/2+定形	○丸底から内側しながら口緑部までつづく。 ○口緑端部は丸く納める。 ○高台は低く、底部とほぼ同じ。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○暗灰褐色N3/-(~灰白色N7/3)。 ○満21-3。
272	瓦 薪 小 瓶	9.9 1.7	1/4	○上げ乳氣味の底部から緩曲して外方へ開く 口緑部。 ○口緑部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口緑部外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押さえ。 ○見込みはジグザグ状の暗味。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5GY8/1。 ○外面部灰白色N8/。
273	燒 薪 小 瓶 燒 瓶	15.6 (5.8)	1/6	○高台を欠く。 ○体部-口緑部まで斜上方に直線的に伸びる。 ○口緑端部はやつまみあけ、丸く納める。	○体部外面に連続した直切切りの船の底い蓮 舟の文様をつける。	○精良。 ○精、オリーブ灰褐色5GY6 /1。 ○素地 灰褐色N6/。 ○満21-2。
274		11.7 2.3	1/2	○平底から圓曲して外反しながら外上方に伸 びる口緑部。 ○口緑端部は更に屈曲し丸く納める。	○口緑部外面-見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、砂粒を含む。 ○にい黄褐色10YR7/ 3。 ○満21-1。
275	土 磚 器	10.9 1.9	ほぼ定形	○平底から圓曲して外反しながら外上方に伸 びる口緑部。 ○口緑端部は更に屈曲し丸く納める。	○口緑部外面-見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○耀体质。 ○満21-2。
276	大	11.1 1.9	定形	○中央部が上げ乳氣味の底部から口緑部まで なだらかに内側しながらつづく。 ○口緑端部は上方につまみ上げ、やや尖り氣 味。	○口緑部外面-見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含 む。 ○他色7.5YR6/6-12.5 イエローカラーヨリ6/5。 ○満21-1。
277	皿	10.7 2.1	定形	○平底から緩曲して外反しながら外上方に伸 びる口緑部。	○口緑部外面-見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は押さえ。	○精緻、砂粒を含む。 ○深赤褐色2.5YR7/4- 灰白色10YR7/1。 ○満21-2。
278	土 燒 小 瓶	8.6 1.7	ほぼ定形	○平底から緩曲して外反しながら外上方に伸 びる口緑部。 ○口緑端部はやや尖り氣味。	○口緑部外面-見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、砂粒を含む。 ○浅黃褐色7.5YR8/3。 ○満21-1。

番号	品目 種類	法 量 (cm)	残 存	形・態 の 特徴	技 法 の 特徴	備 考
219		8.6 1.7	完熟	○丸底風味の緑部からならかに外反しながら みづく口緑部。 ○口緑部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻。薄砂粒を含む。 ○に深い黄緑色10YR7/3。 ○濃21-1。
220		8.6 1.4	完熟	○平底から口緑部が屈曲して外反しながら外 上方へ伸びる。 ○口緑部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○きり縁を含む。 ○灰白色7.5YR8/2。 ○内外両面一部僅けらる。 ○濃21-1。
221		8.4 1.4	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方へ伸 びる。 ○口緑部は更に屈曲し、外上方へつまみ上 げやり気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○灰白色2.5YR7/3。 ○濃21-2。
222	上	8.4 1.3	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方へ伸 びる。 ○口緑部は下方に肥厚し、やややり気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○きり縁を含む。 ○内側灰白色10YR7/2。 ○外側に深い黒色7.5YR 7/4。 ○濃21-2。
223		8.4 1.4	ほぼ完形	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部はやややり気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○濃21-1。
224	下	8.4 1.4	ほぼ完形	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部はやややり気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○浅黄色7.5YR8/4。 ○濃21-2。
225		8.4 1.4	完熟	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部は下方に肥厚し、やややり気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○やや粗。白・黒色砂粒。 ○きり縁を含む。 ○灰白色5Y7/3。 ○濃21-1。
226	基	8.3 2.0	完熟	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部は下方に肥厚し、上方につまみ上 げる。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○濃21-2。
227		8.3 1.5	完熟	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○やや粗。白・黒色砂粒。 ○きり縁を含む。 ○内側灰黄色10YR8/3。 ○外側に深い黒色7.5YR 7/3。 ○濃21-1。
228	小	8.3 1.3	ほぼ完形	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○暗黄色2.5Y4/3-灰 色Y4/1。 ○濃21-2。
229		8.3 1.5	完熟	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○濃黄色2.5Y8/3。 ○濃21-2。
230	基	8.2 1.4	完熟	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を 含む。 ○に深い黄緑色10YR7/2。 ○浅黄色2.5Y7/3。
231		8.2 1.2	1/2熟	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑部は上方につまみ上げ丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○きり縁を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○濃21-2。
232		8.2 1.7	完熟	○平底から口緑部が屈曲して外反しながら外上方に伸 びる口緑部。 ○口緑部は更に屈曲し、やややり気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○濃21-2。
233		8.2 1.5	ほぼ完形	○平底から口緑部までならかに内側しなが ルつづく。 ○口緑部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰白色2.5YR8/2-明 黃褐色10YR8/6。 ○濃21-1。

番号	器形	法算 (mm)	既存	形態の特徴	技術的特徴	備考
234		8.2 1.6	完形	○平底から弧曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に弧曲し、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○にぶい黃褐色10YR7/3。 ○清21-1。
235		8.2 1.2	完形	○平底から弧曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に弧曲し、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白色砂粒。くさり縫を含む。 ○にぶい黃褐色10YR7/4～橙色7.5YR6/6。
236		8.2 1.3	完形	○平底から弧曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・薄色砂粒を含む。 ○浅黃褐色2.5YR8/3。 ○清21-3。
237		8.2 1.5	ほぼ完形	○平底から弧曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黑色砂粒。くさり縫を含む。 ○浅黃褐色5YR3/3。 ○清21-2。
238	土	8.2 1.5	完形	○平底。底部は外方に凸張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黑色砂粒。くさり縫を含む。 ○浅黃褐色3Y7/3。 ○内面保てる。 ○清21-2。
239	鉢	8.1 1.3	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に凸張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。妙砂を含む。 ○にぶい黃褐色10YR6/3。 ○清21-2。
240		8.1 1.4	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に凸張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○浅黃褐色10YR8/3。 ○清21-1。
241	器	8.1 1.4	完形	○平底から、なだらかに外反しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は細いナデ。	○精緻。白・黑色砂粒を含む。 ○浅黃褐色10YR8/3。 ○内面一部彫ける。 ○清21-2。
242		8.1 1.3	完形	○平底から、なだらかに内側しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は細いナデ。	○精緻。白・黑色砂粒。くさり縫を含む。 ○にぶい黃褐色10YR8/3。 ○内面一部彫ける。 ○清21-2。
243	小	8.1 1.5	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に凸張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○やや粗。白・黑色砂粒。くさり縫を含む。 ○内面に凹む黃褐色10YR7/3。 ○内面洗黄色2.5YR7/3。 ○清21-2。
244		8.1 1.2	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に凸張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○にぶい黃褐色10YR7/3。 ○清21-2。
245	皿	8.1 1.4	完形	○丸底気味の笠詰から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黑色砂粒。くさり縫を含む。 ○浅黃褐色10YR8/4。 ○清21-1。
246		8.1 1.3	2/3	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に凸張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黑色砂粒。くさり縫を含む。 ○浅黃褐色2.5YR8/4。 ○清21-2。
247		8.0 1.6	ほぼ完形	○やや小さい底部から口縁部が弧曲後、外側しながら広く。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白色砂粒。くさり縫を含む。 ○浅黃褐色2.5YR8/4。 ○底オーバーペイ5YR5/2。 ○清21-1。
248		8.0 1.4	完形	○平底からなだらかに内側しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。白・黑色砂粒を含む。 ○浅黃褐色10YR7/3～洪褐色10YR2/2。

番号	器種形	法葉 (cm)	残存	形態の特徴	後法の特徴	備考
249		8.0 1.3	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は、上方へつまみ上げ丸く気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。黒色砂粒。くさり縁を含む。 ○底色7.5YR6/6～に近い褐色7.5YR7/4。
250		8.0 1.2	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は上方へつまみ上げ、丸く気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり縁を含む。 ○に近い褐色7.5YR7/3。 ○清21-2。
251		8.0 1.3	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黑色砂粒を含む。 ○浅褐色7.5YR8/4～に近い褐色7.5YR7/4。 ○内面と外側材。
252	土	7.9 1.5	完形	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○内面浅褐色7.5YR8/3。 ○外に近い橙7.5YR7/4。 ○清21-2。
253		7.9 1.5	完形	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり縁を含む。 ○に近い褐色7.5YR7/4。 ○清21-1。
254	脚	7.9 1.5	完形	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり縁を含む。 ○浅褐色7.5YR8/4。 ○清21-1。
255		7.7 1.5	完形	○やや小さい底座から口縫部が屈曲後、外側 しながら開く。 ○口縫部は丸く気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。薄砂粒を含む。 ○に近い黄褐色10YR7/3。 ○清21-1。
256	四	7.7 1.5	完形	○平底からやや外に外側しながらつづく口 縫部。 ○口縫部は、やや丸く気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。薄砂粒を含む。 ○浅褐色2.5YR7/3。 ○清21-1。
257		7.8 1.4	完形	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり縁を含む。 ○内面に近い真鶴色10Y R7/3。 ○外側は黄色2.5YR8/3。 ○清21-1。
258		7.8 1.2	完形	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げや丸く気味。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり縁を含む。 ○に近い褐色7.5YR7/4。 ○清21-1。
259	小	7.8 1.3	完形	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。薄砂粒を含む。 ○底色7.5YR7/2。 ○清21-1。
260	粗	7.8 1.4	ほぼ完形	○平底から口縫部までならかに内側しながら つづく。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白色砂粒。 ○くさり縁を含む。 ○清21-1。
261		7.8 1.3	完形	○平底からならかに外側ながらつづく口 縫部。 ○口縫部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○底色7.5YR8/3。 ○浅褐色10YR8/3。 ○清21-2。
262		7.8 1.5	完形	○丸く気味の底座から口縫部が屈曲して外上 方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○内面浅褐色2.5YR7/3。 ○外側に近い褐色7.5YR7/ 4。 ○清21-1。
263		7.8 1.4	1/2個	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○くさり縁を含む。 ○内面に近い褐色7.5YR 7/4。 ○外側に近い褐色7.5YR 6/4。 ○清21-1。

番号	若葉形	法葉 (cm)	種子	形態の特徴	種法の特徴	備考
264		7.8 1.2	丸形	○平武。直部と口緑部の境は厚くなり外方に曲張り気味で口緑部が外上方へ伸びる。 ○口緑端部はやや先り気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒。 ○さり繩を含む。 ○にいぶい黄褐色10YR8/3 ～灰褐色10YR8/2。 ○溝21～2。
265		7.7 1.5	ほぼ丸形	○丸底気味の底部から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○溝21～1。
266	土	7.7 1.5	丸形	○丸底気味の底部から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○にいぶい黄褐色10YR7/3。 ○溝21～1。
267		7.7 1.4	丸形	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。黑色砂粒。 ○さり繩を含む。 ○内面灰褐色2.5Y7/2。 ○外面灰白色2.5Y8/2。 ○溝21～3。
268	器	7.7 1.5	丸形	○やや小さい底部から口緑部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口緑端部はやや先り気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。白色砂粒。 ○さり繩を含む。 ○浅黄色2.5Y7/4～暗オーブ灰2.5GY3/4。 ○内面灰一郎瀬ける。 ○溝21～2。
269		7.6 1.6	丸形	○中央部が上げ底気味の底部から口緑部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。白色砂粒。 ○さり繩を含む。 ○内面暗褐色2.5YR6/6。 ○外面暗褐色SYR6/6。 ○溝21～2。
270	皿	7.6 1.3	丸形	○平底から口緑部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口緑端部はやや先り気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○にいぶい黄褐色10YR7/3。 ○溝21～1。
271		7.3 1.4	丸形	○平武。直部と口緑部の境は厚くなり外方に曲張り気味で、口緑部が外上方へ伸びる。 ○口緑端部は丸く納める。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。黑色砂粒。 ○さり繩を含む。 ○内面灰白色10YR8/2。 ○外面淡黃褐色7.5YR8/3。 ○溝21～1。
272		7.9 2.7	丸形	○丸底から口緑部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口緑端部は更に外方へ屈曲し先り気味。	○口緑部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○直部外側は指押さえ。	○精緻。微砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○溝21～1。
273	器	14.5 (3.5)		○内縮する直部から口緑部が内折する。内部に接しまし。 ○口緑端部は上方に肥厚し、面をもつ。 ○背はほぼ水平につき、断面方形。	○口緑部内外面～削下までヨコナデ。 ○直部内外面は指押さえあり。	○やや粗。白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色10YR8/1。 ○外面淡褐色7.5YR8/6。 ○溝21～3。
274		23.6 (5.9)	1/6	○やや内傾する直部から口緑部が内折する。 ○口緑端部は外方に巻き込み、丸く納める。 ○背はわずかに上方を向き、断面方形。	○口緑部内外面～削下までヨコナデ。 ○直部内外面はナデ。	○やや粗。白・黒色砂粒を含む。 ○内面淡黃褐色7.5YR8/6。 ○外面上いわい色7.5YR8/3。 ○内面灰共傾ける。
275		23.4 (5.5)		○やや内傾する直部から口緑部が内折する。 ○口緑端部は外方に巻き込み、丸く納める。 ○背はわずかに上方を向き、断面方形。	○口緑部内外面～削下までヨコナデ。 ○直部内外面はナデ。	○やや粗。白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5YR8/4。 ○溝21～1。
276	器	29.4 (6.4)		○内縮する直部から口緑部が内折する。 ○口緑端部は内方に巻き込み、丸く納める。 ○背は上方を向き、断面方形。	○口緑部内外面と斜周辺部をヨコナデ。 ○直部内外面は指押さえあり。	○やや粗。白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5Y8/1。 ○外面淡黃褐色2.5Y8/3。 ○溝下傾ける。
277		31.2 (14.3)	1/4	○直部から口緑部にかけて内側し、口緑端部は短く外折する。 ○背は上方を向き、直部は丸く納める。	○口緑部内外面～削下限までヨコナデ。 ○直部内外面はナデ。 ○削下からヘラ削り。	○やや粗。白・黒色砂粒を含む。 ○黑色SY2/1～にいわい色7.5YR7/3。 ○溝21～3。

番号	器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
278	瓦器・足盤	16.8 (6.2)		○内側する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁部は丸みをもつ。 ○脚は上向きにつける。	○口縁部内外面～脚下部までヨコナデ。 ○体部内面は横方向に細かいハケ目。 ○内面はほぼ重なりガキ。	○やや粗、白色砂粒。 ○り縁を含む。 ○内面緑灰色5G6/1。 ○外面青灰色5PB6/1。 ○清21-1。

## 溝出土瓦器・土師器・輸入磁器・東播系須恵器他

番号	器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
279	瓦器	14.9 (4.1)	1/4	○底部を欠く。 ○体部は内側して外方に立ち上がり口縁部は少し傾曲して外側脚底に開く。 ○口縁部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内面、外表面ヨコナデ。 ○体部外表面はナダの上に、口縁部から下位までミガキ。 ○内面はほぼ重なりガキ。	○精緻 ○灰色N5/。 ○清25。
280	・ 瓢	14.6 (4.6)	1/4	○底部を欠く。 ○体部は内側して外方に立ち上がり口縁部は少し傾曲して外側脚底に開く。 ○口縁部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内面、外表面ヨコナデ。 ○体部外表面はナダの上に、口縁部から下位までミガキ。 ○内面は粗いミガキ。	○精緻、白、黑色砂粒を含む。 ○内面灰色N4/。 ○外面灰白色N8/。 ○清27。
281	瓦器 小瓶	9.3 1.9	1/3	○丸底からゆるく内側しながら口縁部へづき、口縁部が外反する。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外表面は指揮だ。 ○見込みはナダの上にミガキ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○清2。
282	土師器 大瓶	11.4 2.4	1/4	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらうつびく。 ○口縁部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナダ。 ○底部外表面は指揮だ。	○精緻、白、黑色砂粒を含む。 ○にひく黄褐色10YR7/4～明黄褐色10YR6/6。 ○清2。
283		9.7 1.9	1/6	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらうつびく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナダ。 ○底部外表面は指揮だ。	○精緻、黒色微砂粒くさり縁を含む。 ○灰白色10YR6/2。 ○清6。
284	土 師 器	8.8 1.8	ほぼ完形	○平底から傾曲して外反しながら外方に伸びる口縁部。 ○口縁部は更に傾曲し、上方へつまみ上げやや尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナダ。 ○底部外表面は指揮だ。	○精緻、白色砂粒。 ○見込みはナダ。 ○底部外表面は指揮だ。
285	・ 小瓶	8.4 1.3	1/2個	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらうつびく。 ○口縁部はやや尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナダ。 ○底部外表面は指揮だ。	○精緻、白、黑色砂粒。 ○見込みはナダ。 ○にひく赤褐色2.5YR5/4～暗赤褐色5Y5/2。 ○清6。
286		8.0 1.6	1/2個	○中央部が上位底氣味の底部から口縁部までなだらかに内側しながらうつびく。 ○口縁部は外方へ傾曲しえぐ納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナダ。 ○底部外表面は指揮だ。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○にひく褐色7.5YR5/3。 ○清30。
287	輪入 唐子 ・ 瓶	底 6.2 (3.7)	1/3	○やや高底から内側する体部。 ○高台は高く、直角方形。	○体部内面～見込みにかけてロクロナデ。 ○底部外表面をロクロ刷り。 ○高台は削り出し。	○精良。 ○素地、灰白色N6/。 ○釉、明オーバー灰黑色5G Y7/1。 ○清19。
288	粗 筋 器	24.6 8.7	1/12	○直線的に外方に傾く体部。 ○口縁部は上下へ張出し、端部は内傾し尖り気味。 ○体部外表面はヨコナデにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナデ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色N7/。 ○東洋系。 ○清42。
289	土 師 器 ・ 漆 塗	29.0 (7.1)	3/12	○体部から口縁部にかけて内傾し、端部は細く傾曲しえぐ納める。 ○脚は、水平につく。	○口縁部内外面～脚下までヨコナデ。 ○体部内面は板ナダ。 ○脚部以下は体部はヘラ削り。	○精緻、白色砂粒。 ○見込みはナダ。 ○橙色7.5YR7/6。 ○脚下部は漆付者。 ○清27。
290	瓦器 ・ 漆 塗	37.0 (19.0)	1/2個	○直立する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁部は内側に少し肥厚し、上端部に面をもつ。 ○口縁部外表面に凹線を3条もつ。 ○脚は水平につく。	○口縁部内外面～脚下までヨコナデ。 ○体部内面は横方向のハケ目。 ○体部外表面は指揮だとナダ。	○粗、白、黑色砂粒を多く含む。 ○内面灰白色N8/～灰色N4/。 ○外面灰白色N7/。 ○清30。

番号	種類	法 案 (cm)	複 存	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	備 考
291	十 指 板 ・ 羽 根	29.8 (7.2)	1/6	○内側する体部から外折する口縫部。 ○口縫部は上方にむかへる。 ○鶴は幅が狭く断面菱形。	○口縫部。両部の外面をヨコナデ。	○横。白・黒色紗糸を多 く含む。 ○内面底白色2.5Y8/2、 外表面褐色3YR6/3。 ○濃46。
292	单 丸	長(22.4) 幅(15.4)			○外側、圓口咲きのナデ。 ○内底、単目机。	○やや横。白・黒色紗糸 を含む。 ○底内色NK/-底色NS/- ○濃35。
293	瓦	14.0 (3.1)	1/3	○丸底から体部は内側し、口縫部までそのま まづく。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指揮さえ。 ○体部内面はナデの上に低いミガキ。	○横筋。白・黒色微紗糸 を含む。 ○灰色N5/- ○濃46。
294	筋	15.2 (3.6)	1/4脚	○平底から体部は大きくなりながら開き、 そのままづく。 ○口縫部は丸く納める。 ○高台は断面三角形。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指揮さえ。 ○体部内面はナデの上に高いミガキ。 ○高台はナデつけ。	○横筋。白・黒色微紗糸 を含む。 ○灰色N4/- ○濃46-2。
295	横	8.8 (3.8) ほぼ完形	8.8 #43.2	○丸底から内側しながら体部が高く外方に 伸びる。 ○口縫部は内側へと傾く。 ○高台は低く断面三角形で底部より出ない。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○体部外面へ見込みまでナデの上に高巻き底 の味え。 ○高台はナデつけ。	○横筋。白・黒色微紗糸 を含む。 ○底内色NL/-底白色NW/- ○濃22。
296		8.7 (3.9)	1/6	○丸底から内側しながら体部が高く外方に 伸びる。 ○口縫部は内側へと傾く。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○体部内面へ見込みまでナデの上に高巻き底 の味え。	○横筋。黑色微紗糸を含む ○内面底白色N8/- 外底色NS/- ○濃22。
297	瓦 器・ 小皿	8.0 1.3	1/3	○平底から屈曲して口縫部が外上方を向く。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行筋 の味え。 ○底部外面は低いナデ。	○横筋。黑色微紗糸を含む ○内面底白色NT/- 外底色NS/- ○濃46。
298	土 師 物・ 大皿	19.1 2.1	1/8	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縫部内外面へ見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○横筋。白・黒色紗糸 を含む。 ○底黄2.5Y7/2。 ○濃22。
299		8.7 1.4	1/6	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。	○横筋。白・黒色紗糸 を含む。 ○底黄2.5Y8/3。 ○濃46。
300	土 師 器	8.6 1.8	ほぼ完形	○平底から口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。	○内面底黄色2.5Y8/3、 外表面に高い蜜色10Y R7/3。 ○濃22。
301	・ 小 皿	8.1 1.3	1/4脚	○中央脚が上げ底気味の底盤から口縫部まで などらかに内側しながらづく。 ○口縫部は上方へつまみ上げややり裂け味。	○口縫部内外面へ見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○横筋。白・黒色紗糸を 含む。 ○に高い橙色2.5Y7/4 -浅蜜色10YR8/3。 ○濃19。
302		7.7 1.1	1/3	○中央脚が上げ底気味の底盤から口縫部まで などらかに内側しながらづく。 ○口縫部は丸く納める。	○口縫部内外面へ見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○横筋。白・黒色紗糸 を含む。 ○に高い橙色2.5Y7/3。 ○濃22。
303	梅 入 箱 器	底 6.3 (2.1)	1/2	○内側の底盤から内側しながら体部へつづく。 ○高台は低く、断面菱形。	○内面は施脂。 ○高台は削り出し。内面を斜めに。外側をま っすぐ削る。	○横筋。 ○底内色灰白色7.5Y7/1、 底外色N8/- ○濃22。
304	輸 入 器 ・ 磁 器	底 4.6 (2.0)	1/3	○平底から見込みと体部の間に凹みをつくっ てから立ち上がる。 ○高台は断面台形。	○体部-底部外面をロクロ削り。 ○高台は削り出し。	○横筋。 ○底内色明オリーブ底色 2.5GY7/1, 底外色オーバル色7.5Y 6/2。 ○濃19。
305	通 用 器・ 算 器	23.6 (9.7)	1/6	○体部内側気味に立ち上がり、底盤的に口 縫部につづく。 ○口縫部は上方につまみ出す。	○内外面をヨコナデ。	○横筋。白・黒色紗糸を 含む。 ○灰白色N7/- ○濃19-2。○裏表紙

番号	器種形	法 葉 (cm)	残 存	形 態 の 特 故	後 法 の 特 故	備 考
306	酒 甌	21.4 (6.3)	1/6	○腹に立つ腹部から水平近く外反する口縁部。 ○口縁端部は下方に肥厚。外縁面をもつ。	○口縁部内外面と面部をクロナナ。 ○体部外面は叩き目。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○明治褐色10YR6/6。 ○溝32。
307	酒 甌	高10.6 (6.0)	1/4弱	○外方へ直線的に伸びる体部。 ○「フ」の字形の高台。	○体部外面の下方をへく削り。 ○内面～体部上位をロクロナナ。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○灰色N6%。 ○溝18。
308	酒 甌	高 3.0 底 9.1 基 17.9	1/2強		○内外面をロクロナナ。 ○口縁部と腹部に二条の凹部。 ○腹部下方にへく削り。	○やや粗。白・黑色砂粒を含む。 ○灰色N6%。 ○溝18。
309	土 瓢	22.2 (8.0)	1/3	○わずかに内傾する体部から口縁部がほぼまっすぐに立つ。 ○口縁上端部は面をもつ。	○口縁部～背部までヨコナナ。 ○背部外面は後方向のへく削り。 ○口縁部内面はハケ。体部はナナ。	○やや粗。白・黑色砂粒を含む。 ○口縁部灰白色2.5Y8/7。 ○背部黒褐色2.5Y3/1a。 ○溝48。
310	羽 釜	31.8 (8.9)	1/8	○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方へ少し立ち上がり、丸く納める。	○口縁部～底までヨコナナ。 ○体部内面はハケ目。	○やや粗。白・黑色砂粒を含む。 ○内黒褐色10YR3/1。 ○外底に古い黄褐色10YR7/2。 ○溝33。

### 井戸 6 出土瓦器・土師器・輸入磁器

番号	器種形	法 葉 (cm)	残 存	形 態 の 特 故	後 法 の 特 故	備 考
311		15.6 (4.9)	1/4	○底部を欠く。 ○口はまっすぐ外上方に伸びる体部から少し内側して口縁部につづく。 ○口縁端部は内側して沈澱。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部から体部中位まで4分割の長いミガキ。 ○内面は密にミガキ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○灰色N4%。
312		14.2 (3.9)	1/6	○裏部を欠く。 ○内側しながら伸びる体部から口縁部が屈曲して外上方に立く。 ○口縁端部は内側して沈澱して沈澱。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○体部外面はナナの上に粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○灰色N4%。
313	瓦	14.1 5.4 4.3 ■38.3	1/3	○大底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外骨気味に開く。 ○口縁端部はなるべく内傾して沈澱をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナナ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部から体部中位まで4分割の長いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに進結輪状の暗文。 ○高台はナナつけ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○精緻N3%。
314	器	13.7 5.2 5.3 ■27.6	1/3	○平底から体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外骨氣味に開く。 ○口縁端部はなるべく内傾して沈澱をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナナ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部外面に長いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文。 ○高台はナナつけ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○灰色N5%。
315	瓶	13.1 (4.4)	1/4	○底部を欠く。 ○体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外骨氣味に開く。 ○口縁端部は少し外方に開き、沈澱をもつ(ところによっては2重になる)。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○体部外面はナナの上に粗いミガキ。 ○体部内面をナナの上には密なミガキ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○灰色N5%～灰白色N7%。
316		高 5.6 (1.6)	2/3	○口縁～体部を欠く。 ○丸底。 ○高台は断面三角形。	○体部内面は密なミガキ。 ○見込みに進結輪状の暗文。 ○高台はナナつけ。 ○体部～底部外面を指押さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○内面灰色N5%。 ○外底灰色N4%。
317		高 5.7 (1.3)	2/3	○口縁～体部を欠く。 ○丸底。 ○高台は断面三角形。	○見込みに進結輪状の暗文。 ○高台はナナつけ。 ○体部外面をナナ。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○灰色N4%。 ○高台灰白色N8%。
318	瓦器・小皿	9.1 1.6	1/4	○底からやるく内側して口縁部が外方に伸びる。 ○口縁端部は外方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部外面をヨコナナ。 ○体部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/1～灰黑色N3%。

番号	器種	法 葉 (cm)	残 存	形 築 の 特 徴	技 法 の 特 徴	備 考
319	人頭 模倣	底 5.3 - (2.5)	高台 ほぼ完形	○口縁・体部を欠く。 ○丸底。 ○高台は断面直角。	○内面・体部外表面をロクロナデ。 ○底部外表面はロクロ削り。 ○高台は削り落し。 ○底部外表面には進撃しない。	○鉛色。 ○素地 沖田色7.5YR/6, 無色白10YR/2。
320	瓦 蓋・足型	残存長 (6.5) 残存幅 (4.9) 脚径 2.9×2.3		○断面やや横円形。	○全面に強いナデ。	○精細。白黒色微鉄粒を 多く含む。 ○内面沖田白色5Y7/1, 外曲面暗色N3/。 模倣。
321	土 師	31.4 (6.7)		○底部を欠く。 ○肩部に水平方向の溝が付き、口縁部は内方 に向く。 ○口縁端部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁・体部外表面をヨコナデ。	○粗。白色砂粒を多く含む。 ○内面に弱い紫色7.5YR 7/4-7.5YR/4, 外曲面褐色5YR5/2 -に弱い紫色7.5YR/6- 4。
322	器 ・ 蓋	22.4 (5.8)		○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方へ少しう立ち上がり、丸く納 める。	○口縁部一肩下までヨコナデ。 ○体部内面はナゲ。	○粗。白・黑色砂粒を多 く含む。 ○内面灰褐色10YR/2- 外曲面褐色10YR2/2- 灰褐色3.5YR/2。
323	蓋	21.4 (7.1)		○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は内折する。	○口縁部一肩下までヨコナデ。 ○体部内面はナゲ。	○粗。白・黑色砂粒を多 く含む。 ○内面灰褐色10YR/2- に弱い黄色10YR7/2, 外曲面褐色5YR4/1。

## 井戸 5 出土瓦器・土師器・輸入磁器・東播系須恵器

番号	器種	法 葉 (cm)	残 存	形 築 の 特 徴	技 法 の 特 徴	備 考
324		15.4 4.8 4.2  ■31.2	1/2	○丸底から体部は内傾して外方に立ち上が り、口縁部までそのままつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面直角。	○口縁部外表面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さん。 ○口縁端部から体部まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密なミガキ。見込みは同心円文 の暗文。 ○高台はナヂつけ。高台内に「X」の刻線。	○精細。白色微鉄粒を多 く含む。 ○灰色N4/-灰白色10 YR/1。
325	瓦	13.6 5.7 4.2  ■43.7	1/2	○やや丸底の底部から体部は内傾しながら立 ち上がり、口縁部はそのままつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面直角。	○口縁部外表面をヨコナデ。 ○体部内面はナゲ目が部分的に残る。その上 に粗いミガキ。 ○見込みは同心円文の暗文。 ○高台はナヂつけ。	○精細。白色微鉄粒を多 く含む。 ○灰色NS/。
326	器	14.6 (3.3)	1/4	○底部を欠く。 ○体部から口縁部まで内傾しながら立ち上が る。全体に厚手。 ○口縁端部は傾の使い沈線。	○口縁部内面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さん。中位まで粗いミガキ。 ○体部内面はほぼ密にミガキ。	○精細。白・黑色微鉄粒 を含む。 ○灰白色N8/。
327		12.1 (4.9) 4.2	1/4	○体部から口縁部まで内傾しながら立ち上が り、そのままつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は低い直角三角形で、体部と同じくら いの出っぱり?	○口縁部外表面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さん。 ○体部内面はほぼ密にミガキ。 ○高台はナヂつけ。	○精細。白色微鉄粒を多 く含む。 ○内面灰褐色5Y/4/1, 外曲面白色10YR/1- 暗褐色N3/。 ○底部外表面吸着しな い。
328		12.6 (4.1)	1/8	○底部を欠く。 ○体部から口縁部まで内傾しながら立ち上が り、そのままつづく。 ○口縁端部は丸く内傾して浅い沈線。	○口縁部外表面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さん。中位まで粗いミガキ。 ○体部内面はほぼ密にミガキ。	○精細。白・黑色微鉄粒 を含む。 ○底白色2.5GY8/1。
329	板	底 4.2 (1.5)	1/2弱	○少し丸底。 ○高台は断面直角形。	○内面はほぼ密なミガキ。見込みは同心円文 の暗文。 ○高台はナヂつけ。	○精細。 ○内面灰褐色N3/。 ○外曲面白色N4/。 ○見込みに模倣。
330		14.6 4.9 4.4  ■30.1	1/2	○やや丸底の底部から体部は内傾しなが ら伸び、口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。 ○高台は断面直角形。	○口縁部外表面をヨコナデ。 ○体部外表面を指揮さん。 ○体部-見込みに平行線の暗文。 ○高台はナヂ付け。	○精細。白色微鉄粒を含 む。 ○オーリーブ色10Y3/1- 灰白色10Y8/1。 ○内面一部模倣。

番号	部類	法量 (cm)	残存	形態の特徴	枝葉の特徴	備考
331	瓦器・陶	底 3.8 (2.9)	1/4	○丸底。 ○高台はなんだ断面三角形。	○体部内面～見込みに平行線の條文。 ○高台はナデ付け。	○精緻。白色微沙粒を含む。 ○灰色NS/。
332	瓦器・小皿	7.5 1.2	1/8	○平底から口縁部が外況する(厚さは体部く底)。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の條文。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白色微沙粒を含む。 ○内面底白色7.5Y7/1。 ○外底灰7.5Y6/1。
333	土鍋器・大皿	12.3 1.8	1/6	○平底から弧曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へまみ上げ、夷り氣味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白色微沙粒、くさり感を含む。 ○に古い褐色7.5YR7/4。
334	土 罐	11.5 1.9	1/12	○平底から弧曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。黑色微沙粒を多く含む。 ○に古い褐色5YR6/4。 ○口縁部外表面白色2.5Y7/1。
335		8.8 (1.8)	1/4弱	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を多く含む。 ○に古い褐色7.5YR7/4。
336	土 罐	8.5 1.3	1/4	○丸底気味の底盤からなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白色砂粒を多く含む。 ○に古い褐色7.5YR8/3。 ○浅黄褐色2.5Y7/3。
337	器	8.1 1.4	1/4	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○に古い褐色7.5YR7/4。
338	小 皿	7.8 1.3	1/6	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み平手にかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○に古い黃褐色10YH7/2。
339		7.7 1.5	1/2強	○丸底から口縁部が外側気味に大きく開く。 ○口縁端部は肉薄になる。	○扁化の為不明。	○精緻。白色砂粒、くさり感を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。
340	輪背 入出水 器皿	底 6.3 (2.7)	1/4 (底部のA)	○厚い平底から、内側して立ち上がる体部。 ○高台は低く、断面矩形。	○体部内外面をクロナデ。 ○体部下枝と底盤はクロの削り。 ○高台は削り出し、内側を斜めに外側をまっすぐ削る。 ○底部外面には施釉しない。	○精良。 ○素地 黑白色N7/1。 ○底 灰色7.5GY6/1。
341	輪背 入出水 器皿	底 5.5 (2.1)	1/2 (底部のA)	○厚い平底から、内側して立ち上がる体部。 ○高台は低く、断面矩形。	○体部内外面をクロナデ。 ○体部下枝と底盤はクロの削り。 ○高台は削り出し、内側を斜めに外側をまっすぐ削る。 ○底部外面には施釉しない(ハケ目底あり)。	○精良。 ○素地 黑白色N8/1。 ○底 灰色7.5Y8/1。
342	瓦 器	18.8 24.7	1/8	○体部から口縁部まで、内方に少し内側しながら立つ。 ○口縁端部は内傾し、面をもつ。 ○脚は短く厚い。 ○脚部は断面円形の柱をなし、先端部にいくに従い内蔵になり、外方を向く。	○口縁部外面～脚部の下までヨコナデ。 ○体部下枝と底盤は押拌さえ。 ○脚部は削り出し、内側を斜めに外側をまっすぐ削る。 ○底部外面には施釉しない。	○精緻。白・黒色砂粒を多く含む。 ○暗色N3/～明褐色7.5GY8/1。 ○一部外面に底付着。
343	足 盤	残存長 (13.6) 残存幅 (4.6) 脚径 2.5×2.2	脚部	○断面多角形の脚部。	○体部との結合面に横方向のハケ目が残る。 ○全面に施すナデ。	○精緻。白色砂粒を多く含む。 ○灰色NS/。
344	瓦器・鉢	15.6 4.9	1/8	○平底から口縁部が外側気味に大きく開く。 ○口縁端部は外側に面をもつ。	○口縁部内外面～体部内面をヨコナデ。 ○体部～底部外面は押拌さえ。 ○底部内面に横方向のハケ目(脚外輪1.8cm)。 ○見込みはナデ。	○精緻。白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色Y5/1。
345	瓦器・足 盤	27.8 (3.8)	1/16	○体部から口縁部まで、内方に少し内側しながら立つ。 ○口縁端部は内傾し、面をもつ。 ○脚は短く厚い。	○口縁部内外面～脚の下までヨコナデ。	○精緻。白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/。
346	箱 器	23.6 (4.4)	1/10	○体部～口縁部まで外側気味に大きく開く。 ○口縁端部上面は面をもつ。	○口縁部内外面～体部をヨコナデ。	○やや粗。白色砂粒を多く含む。 ○暗灰色NS/。

番号	器形	法 葉 (cm)	残 有	形 態 の 特 徴	様 法 の 特 徴	備 考
347	瓶 也 部	27.6 (9.2)	1/4	○直頭的に外方に廣く体底。 ○口縁部は上方につまみあげる。壺部は丸味をもつ。 ○体内外面はロフロナデにより凹凸が残る。	○外表面はロフロナデ。 ○内面は更に丸方向にナデ。 ○底部外面に回転条切り底。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰白色N7/。
348	・ 井	26.6 9.5	1/4	○直頭的に外方に廣く体底。 ○口縁部は上方へ延長し、内側する。壺部は丸味をもつ。 ○体内外面はロフロナデにより凹凸が残る。	○外表面はロフロナデ。 ○内面は更に丸方向にナデ。 ○底部外面に回転条切り底ナデ。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰白色N4/。

井戸1・3出土瓦器・土師器・東播系須恵器

番号	器形	法 葉 (cm)	残 有	形 態 の 特 徴	様 法 の 特 徴	備 考
349	瓦	15.0 (4.5)	1/6	○底部を丸く。 ○体部は中厚して外方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外骨気味に聞く。 ○口縁部はゆるく内側して沈縫をもつ。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面に指揮さえ。 ○口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はナデの上にミガキ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰黑色N4/(外下面下灰田色N8)。
350	・ 瓦	15.0 (3.6)	1/6	○底部を丸く。 ○体部は内厚で外方に立ち上がり、口縁部は少し傾曲して外骨気味に聞く。 ○口縁部はゆるく内側して沈縫をもつ。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面に指揮さえ。 ○口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はナデの上にミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰田色N4/、 外面部灰田色N3/。
351	・ 瓦	11.6 (2.8)	1/4	○底部を丸く。 ○体部からゆるく内側して聞く。 ○口縁部は肉厚になり、端部は丸く納める。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面は軽いナデ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰田色N4/、 外面部灰田色N5/。
352		11.9 (2.8)	1/6	○底部を丸く。 ○体部からゆるく内側して聞く。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面は軽いナデ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰田色10GY3/1。
353	瓦 ・ 小 陶	6.9 2.6 1.7	1/3	○先端から外側しながら体部が高く外上方へ伸びる。 ○口縁部は内傾し、少しつまみ上げる。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面に指揮さえ。 ○体部内面へ見込みまでナデの上に満透状の跡え。 ○端部は貼り付け。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色10Y8/1。
354	土 器	11.0 2.0	ほぼ完形	○丸底乳味の逆瀬から傾曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部はつまみ上げ風。	○口縁部外面へ見込み半ばにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白・黑色微砂粒を含む。 ○灰白色5Y8/2。
355	・ 大 皿	10.5 2.0	1/2強	○平底乳味の逆瀬から傾曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は少しつまみ上げる。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。
356		10.0 1.4	1/8	○平底から傾曲して、口縁部が広く外上方へ伸びる。 ○口縁部は上方につまみ上げる。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○口縁部外面白色5Y8/2。 体部内外面に深い黄橙色10YR7/2。
357		9.0 1.4	1/3	○平底から口縁部までなだらかに内側しなが らづく。 ○口縁部は上方へつまみ上げる。	○口縁部外面へ見込み半ばまでヨコナデ (右回り)。 ○見込みはナデ。	○精緻、白・黑色微砂粒を含む。 ○灰黑色2.5Y6/2。
358	土 器	8.5 1.3	1/2強	○平底から口縁部までなだらかに内側しなが らづく。	○口縁部外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさ り縫を含む。 ○灰黑色2.5Y7/2。
359	・ 器	8.5 1.5	1/2強	○平底乳味から、口縁部が外反する。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさ り縫を含む。 ○灰黑色10YR7/2。 一側褐色7.5YR6/2。
360	・ 小 皿	8.2 1.3	1/4弱	○平底から、口縁部が外反する。 ○口縁部はやや丸く乳味。	○口縁部外面へ見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさ り縫を含む。 ○浅黄色2.5Y8/3。
361		8.2 1.1	1/6	○平底から口縁部までなだらかに内側しなが らづく。 ○口縁部はやや丸く乳味。	○口縁部外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさ り縫を含む。 ○灰黑色7.5YR7/3。
362		8.0 1.4	1/8	○平底から口縁部までなだらかに内側しなが らづく。 ○口縁部は上方へつまみあげる。	○口縁部外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○灰黑色5Y7/2。

番号	器形	法 量 (cm)	残 存	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	備 考
363	土 師 器 ・ 小 皿	7.9 1.6	完形	○上げ底から内側しながら口縁部までつづく。 底部中央は凸溝になる。 ○口縁部はやや尖り気味。	○口縁部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白色微砂粒。 くさり纏を含む。 ○浅黄色2.5YR7/3。
364		7.6 1.3	1/2残	○上げ底から内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部はやや丸く納める。	○口縁部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。くさり纏を含む。 ○灰白色2.5YR8/2。
365		7.4 1.3		○平底からロ繩部が外反する。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面へ見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は押拌さえ。	○精緻。白・黒色微砂粒。 くさり纏を含む。 ○灰黄色2.5YR7/2。
366	瓦 底 足 足 盤	残存長 (8.5) 残存幅 (5.5)		○脚部は断面四角の棒状。	○底部内面は横方向の細かいハケ目。 ○脚部は縦方向のへら折りの上をナデ。	○やや粗。黑色微砂粒を含む。 ○内面灰褐色N6/。外面灰褐色N4/。
367	上 皿 脚 足 盤	28.6 (3.4)		○底部を欠く。 ○口縁部は内方を向く。 ○口縁部はやや肥厚する。	○口縁部・体部の外面をヨコナデ。 ○底部内面はハケ目。	○粗。白・黒色微砂粒を含む。 ○内面褐灰色5YR4/1。 外面褐灰色5YR6/2。 ○外一面に無竹筋。
368	瓦	14.4 (5.7)	1/2	○体部からロ繩部まで、内方に内側しながら立つ。 ○口縁部は内側に少し肥厚し、上端部は面をもつ。 ○脚部は短く、表面三角形。	○口縁部外面へ脚の下までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。 ○内面は横方向の細かいハケ目。	○やや粗。白色微砂粒を含む。 ○内面灰褐色N4/。外面褐灰色N2/。
369	器 蓋 足 足 盤	16.4 (3.8)	1/6	○体部からロ繩部まで、内方に内側しながら立つ。 ○口縁部は内側に、面をもつ。 ○脚部は短く。	○口縁部外面へ脚の下までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。	○やや粗。黑色微砂粒を含む。 ○内面灰褐色N6/。外面灰褐色N4/。
370	瓦 底 足 足 盤	18.4 (11.3)	1/2残	○体部からロ繩部まで、内方に内側しながら立つ。 ○口縁部は内側に、面をもつ。 ○脚部は底面に水路方向の鋸の付、底、断面五角。	○口縁部内外面へ脚部までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。	○やや粗。白色微砂粒を含む。 ○内面灰褐色N4/。外面褐灰色N3/。
371	瓦 底 足 足 盤	26.0 (4.8)		○底面からロ繩部まで、内側に内側ながら立つ。 ○口縁部は上方に低張し、内傾する。端部は丸味をもつ。 ○口縁部すぐ下の器壁は薄くなる。	○内面は右端よりロクロナデ。	○粗。細い白色砂粒を多く含む。 ○オリーブ灰褐色2.5GY8/1-灰褐色N6/。 口縁部端面は灰褐色N4/。 ○裏面に煤材質。 ○東播州。
372	・ 器	30.4 (7.9)		○体部からロ繩部まで直線的に閉く。 ○口縁部は内方に丸く肥厚し、内傾する外端面をもつ。	○内外面をロクロナデ。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○灰褐色10Y5/3。 ○東播州。
373	井 底 足 足 盤	29.0 (5.3)	1/2	○底部から体部まで直線的に閉く。	○底部外面に静止系切り鉢。 ○体部外面ナデ。 ○体部内面は模倣するため不明。	○粗。白色砂粒を多く含む。 ○東播州。 ○内面灰褐色N2/。
374	瓦 底 足 足 盤	14.3 (3.3)		○上は直線的に伸びる体部からロ繩部はつづく。 ○口縁部はやや内傾して沈線をもつ。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面は押拌さえの上をナデ。口縁部へ脚部下位まで低いミガキ。 ○内面はナデの上に蜜なミガキ。	○精緻。白色砂粒を含む。 ○灰褐色N5/。

## 井戸4出土瓦器・土師器・須恵器・平瓦

番号	器形	法 量 (cm)	残 存	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	備 考
394	瓦	14.6 5.3 4.3	1/2残	○少し丸底。体部は内側して外方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外厚気泡に閉く。 ○口縁部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台の部分は大きさが不均一。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押拌さえ。口縁部から体部中位まで低いミガキ。 ○内面ははぼぼにミガキ。 ○見込みに織機版の跡。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○灰褐色N4/。
395	器	14.3 5.2 4.9	1/3残	○少し丸底。体部は内側して外方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外厚気泡に閉く。 ○口縁部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台の部分は表面三角形でつまみ風。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押拌さえ。口縁部から体部中位まで低いミガキ。 ○内面ははぼぼにミガキ。 ○見込みに円孔の跡。	○精緻。黑色微砂粒を含む。 ○灰褐色N5/。
396	瓦	14.2 (4.4)	1/4	○底部を欠く。 ○内側しながら伸びる体部から、口縁部が黒曲して外方に閉く。 ○口縁部は内側して沈線をもつ。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を押拌さえ。口縁部から体部中位まで低いミガキ。 ○内面ははぼぼにミガキ。	○精緻。白・黒色微砂粒を含む。 ○灰褐色N5/。

番号	品種	法 量 (cm)	残 存	形態の特徴	技法の特徴	備考
287	K	14.2 4.8 5.1	1/3	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり。 ○口縁部は少し屈曲して外側乳突に開く。 ○口縫端部はゆるく内側して沈縮をもつ。 ○高台は断面遊走形。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を指揮さん。 ○口縫部から体部中位まで長いミガキ。 ○内面は注目深にミガキ。 ○見込みに同心円文の略文。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○底色N5%。 ○井戸4-1。
		14.2 5.1 4.7	1/2弱	○平底から体部は内側して外上方に立ち上がり。 ○口縁部は少し屈曲して外側乳突に開く。 ○口縫端部はゆるく内側して沈縮をもつ。 ○高台は断面遊走形。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を指揮さん。 ○口縫部から体部中位まで長いミガキ。 ○内面は注目深にミガキ。 ○見込みは化粧の為略文不明。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○底色N5%。 ○井戸4-1。
		14.1 4.7 3.8	1/8	○丸底から体部は内側して外上方に立ち上がり。 ○口縁部は少し屈曲して外側乳突に開く。 ○口縫端部はゆるく内側して沈縮をもつ。 ○高台は断面遊走形。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を指揮さん。 ○口縫部から体部中位まで長いミガキ。 ○内面は注目深にミガキ。 ○見込みに同心円文の略文。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○底色N4%。 ○井戸4-放下解。
299	梅	14.7 5.2 4.7	ほぼ完形	○丸底から体部は内側しながらそのまま口縫部までならかに開く。豊壁は薄い。 ○高台は断面三角形。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を指揮さん。 ○口縫部外面に長いミガキ。 ○体部内面ナサザの上にやや長いミガキ。 ○見込みは平行線状の略文。	○精緻。白・黑色微砂粒を含む。 ○底色N4%。
		9.5 1.4	1/6	○平底から屈曲して外上方へ開く口縫部。 ○口縫端部は更に外上方へ向いて、少し丸く弧味。	○口縫部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さん。 ○見込みは山字シグザグ段の平行線の略文(?)。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○底白色10YR7/1-底白色10YR8/1。
		9.4 1.5		○平底から屈曲して外上方へ開く口縫部。 ○口縫端部は更に外方へ向いて、丸く納める。	○口縫部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○底部外面を指揮さん。 ○見込みは山字シグザグ段の平行線の略文。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○底色7.5Y4/1。 ○井戸4-1。
403	桃	9.2 2.0	ほぼ完形	○やや丸底気味の底部から、なだらかに内側にして口縫部へづく。縁部は厚くなり丸く納める。	○口縫部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○底部外面を指揮さん。 ○見込みは山字シグザグ段の平行線の略文。 ○口縫部内面に密なミガキ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○底色N4/-底白色N8/。 ○井戸4-2。
		16.8 4.9 16.7	ほぼ完形	○「ハ」の字形の脚部に、底部からほぼ同時に開く口縫部。 ○口縫端部に沈澱。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○体部外表面、脚部は墨化の為不明。 ○口縫部内面に密なミガキ。	○精緻。白色微砂粒。(さり理を多く含む)。 ○底白色Y8/2。 ○外面上に煤付着。 ○井戸4-2。
		12.6 2.3	1/2弱	○平底から口縫端部までならかに内側しながらつづく。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻。白色微砂粒。(さり理を多く含む)。 ○底黄色5.5Y8/2。 ○S X級下屋。
406	土 苔 苔 苔	12.5 1.7	1/6	○中央部が上げ丸底気味の底部から口縫部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻。白色微砂粒。(さり理を多く含む)。 ○底黄色7.5YR7/4。
		11.4 (2.0)	1/6	○底部を丸く。 ○口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒。(さり理を多く含む)。 ○に近い底色7.5YR7/3-7.4。
		10.8 1.1	1/6	○中央部が上げ丸底気味の底部から、口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒。(さり理を多く含む)。 ○に近い底色7.5YR7/3-7.4。
409	四	10.3 1.2	1/6	○平底。底部と口縫部の境は厚くなり。口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻。白・黑色微砂粒(さり理を多く含む)。 ○に近い底色7.5YR7/4。
		10.1 1.4	1/6	○丸底気味の底部から、口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻。黑色微砂粒(さり理を含む)。 ○底白色2.5Y8/2。 ○SX級下屋。
		9.4 2.1	ほぼ完形	○丸底気味の底部から、口縫部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縫端部は丸く納める。	○口縫部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻。(さり理を多く含む)。 ○内面淡黄色2.5Y8/3、 外面上黄化2.5Y6/1- に近い底色7.5YR7/4。 ○井戸4-2。

番号	品目 種類	法 量 (cm)	現 存	新 穀の特徴	枝 法の特徴	備 考
412		9.3 1.7	1/4強	○平底から口縁部までならかに内側しながら つづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白色微沙粉を含む。 ○浅黄褐色10YR8/3。 ○升2/4強。
413		9.0 1.3	1/6	○平底から弧曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白・黒色砂粉を含む。 ○内面褐色2.5YR6/6、 外面上に深い黃褐色2.5YR 6/4。
414		8.8 1.3	1/4	○平底から弧曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白・黒色砂粉を含む。 ○に深い黃褐色10YR7/ 3。
415	土	8.6 1.4	1/4弱	○や丸底丸底の底部から口縁部までならかに内側しながらつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、 くさり理を含む。 ○内面環付仔。 ○外面上に深い黃褐色2.5 YR7/4～10YR7/3。 ○SK底下。
416	鉢	8.5 1.4	1/6	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白・黑色微砂粒、 くさり理を含む。 ○に深い黃褐色10YR7/ 3。 ○内面画舟一端だけける。
417		8.5 1.6	1/4強	○丸底気味の鉢底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白・黑色微砂粒、 くさり理を含む。 ○に深い褐色7.5YR7/3。
418	鉢	8.4 1.4	1/6	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は上方につまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、黑色微砂粒、 くさり理を含む。 ○内面褐色7.5YR8/ 3、 外面上黄褐色7.5YR8/ 4。
419		8.4 1.2	1/6	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は上方につまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白色微砂粒、 くさり理を含む。 ○開底部10YR6/1～上 に褐色7.5YR7/4。
420		8.4 1.3	1/4弱	○平底から、ならかに内側しながら口縁部につづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指揮さえ。	○精緻、白・黑色砂粉を含む。 ○に深い褐色7.5YR7/3。
421	小	8.2 1.3	1/4弱	○平底。底部から口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部がやや外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黑色微砂粒、 くさり理を含む。 ○内面上に深い褐色7.5YR7/ 3、 外面上黄褐色7.5YR8/ 3。
422	瓶	8.1 1.1	1/6	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黑色微砂粒、 くさり理を含む。 ○内面上に深い褐色7.5YR 7/3、 外面上に深い褐色7.5YR 2/4。
423		8.0 1.3	1/4弱	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黑色微砂粒、 くさり理を含む。 ○内面上に深い褐色7.5YR 7/3。
424		7.7 0.9	1/8	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は上方につまみあがり気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黑色砂粉、 くさり理を含む。 ○に深い褐色7.5YR7/4。
425		7.7 1.2	1/4弱	○平底からならかに内側しながら口縁部までつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黑色砂粉を含む。 ○に深い褐色7.5YR7/4。
426		7.2 1.3	1/4	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黑色砂粉を含む。 ○内面上褐色SYR5/1、 外面上褐色SYR5/2。

番号	法 葉 (cm)	性 存	形 異 の 特 徴	枝 法 の 特 徴	備 考	
427	瓦 瓦・屋 根	29.2 (7.3)	1/4弱	○内側する外縁から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁部はやや丸味をもつ。 ○短い折れをやや上向きにつけた。	○内面・背面までヨコナデ。 ○全体外縁はナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○暗赤色N3/~灰白色R6/。 ○井戸4-2。
428	瓦 瓦	26.8 (3.2)		○短く立ち腰部に口縁部が外反する。 ○口縁部は内邊に沈微をもつ。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○腰部外縁は押の上をヨコナデ。 ○腰部内面をナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面オリーブ色G5Y 7/1。 ○外画灰色N4/。 ○井戸4-1。
429	平 瓦	板葉瓦 (12.3) 板瓦輪 15.7 厚 2.6			○表面縦目板平行タタキ。 ○表面帯目乳。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○青灰赤色GB5/1。 ○井戸4-2。

## 土壤・ピット出土瓦器・土師器・東播系須恵器・輸入磁器

番号	法 葉 (cm)	性 存	形 異 の 特 徴	枝 法 の 特 徴	備 考	
375	瓦 瓦 瓦	5.1 (1.7)		○丸底。 ○高台は断面三角形。	○見込みはナデの上に通筋輪状の棱文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黑色砂粒を含む。 ○褐色N5/。 ○ヒット441。
376	瓦 瓦 小瓦	8.0 1.3	1/2弱	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上に、ジグザグ状の平行線の棱文。 ○外画端部は押さえた。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○褐色N5/~浅黄色7.5 Y7/3。 ○ヒット187。
377	土 師 器 大 皿	11.1 2.5	1/8	○底部をくぐ。 ○口縁部が裏面後外唇しながら開く。 ○口縁端部はやり気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。	○精緻、白・黑色砂粒、 《さり繩》を含む。 ○12-21世紀7.5YR7/3。 ○ヒット211。
378		8.8 1.4	1/8	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁はナデ。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○内画清水色2.5YR7/3。 ○外画灰2.5YR8/1。 ○ヒット198、192。
379		8.6 1.1	1/8	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やり気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁はナデ。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○清黄色2.5YR8/3。 ○ヒット445。
380	土	8.4 1.4	定期	○やや小さい浅部から口縁部が弧曲後、外唇しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁は押さえた。	○精緻、白色砂粒、《さ り繩》を含む。 ○灰白色2.5YR8/3。 ○地土境。
381	器	8.3 1.9	ほぼ定期	○やや小さい浅部から口縁部が弧曲後、外唇しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁は押さえた。	○精緻、白色砂粒、《さ り繩》を含む。 ○12-21世紀7.5YR7/3。 ○地土境。
382		8.1 1.9	1/4弱	○平底から口縁部が弧曲後、外唇しながら開く。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やり気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁は押さえた。	○精緻、白・黑色砂粒を含む。 ○浅黄褐色10YR8/3。 ○ヒット301。
383	小	8.9 1.9	定期	○やや小さい浅部から口縁部が弧曲後、外唇しながら開く。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やり気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ (左肩り)。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁は押さえた。	○精緻、《さり繩》を含む。 ○灰白色2.5YR8/3。 ○地土境。
384	器	8.0 1.2	ほぼ定期	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁は押さえた。	○精緻、白・黑色砂粒、 《さり繩》を含む。 ○浅黄褐色10YR8/3。 ○ヒット281。
385		7.9 1.5	1/4	○平底から口縁部が弧曲後、外唇しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁は押さえた。	○精緻、白・黑色砂粒、 《さり繩》を含む。 ○浅黄褐色10YR8/3。 ○ヒット307。
386		7.8 1.6	定期	○平底から口縁部が弧曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外縁は押さえた。	○精緻、白色砂粒、《さ り繩》を含む。 ○浅黄色2.5YR8/3。 ○地土境。

番号	器物形	法算 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
387	土 師 器 ・ 小 皿	7.8 1.4	2/3	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み平ぼまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナギ。 ○底部外側は指押さえ。	○精緻。白色砂粒、くさり織を含む。 ○淡黄褐色2.5YR8/3。 ○焼土壇。
388		7.6 1.0	1/4弱	○平底から口縁部までなだらかに内側しながら下りつぶす。 ○口縁部は少し外側し、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み平ぼまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナギ。 ○底部外側は指押さえ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○淡黄褐色2.5YR8/3。 ○ビット307。
389	相入器 ・ 青磁碗	12.8 (4.6)		○外輪する体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁部は少し外側し、丸く納める。 ○底部を欠く。	○口縁部内外面をロクロナデ。 ○体部外側をロクロ削り。 ○内外面先施釉。	○精良。 ○煮地。灰白色7.5Y7/1。 糊 地オリーブ7.5Y6/2。 ○ビット137。
390		16.2 (3.9)	1/8	○外輪する体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁部は少し外側し、丸く納める。 ○底部を欠く。	○内外面先ロクロナデ。	○精良。 ○素地。灰白色N8/。 糊 地色7.5Y6/3。 ○ビット103。
391	板白 入透 器瓶	11.2 (3.6)	1/8	○内側しながら外上方に立ち上る体部から 口縁部につづく。 ○口縁部は玉緑続を出す。 ○底部を欠く。	○口縁部内外面をロクロナデ。 ○体部外側をロクロ削り。 ○内外面先施釉。	○精良。 ○素地。青黄褐色7.5Y 7/1。 ○ビット261。
392	箱 蓋 ・ 器	24.0 (4.4)		○斜め上方に開く体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁部の上部肥厚。	○内外面をロクロナデ。	○精良。白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N6/。○東漢系。 ○ビット265。
393	瓦 ・ 火器	42.9 (7.1)		○直立する体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁部に2条の凸帯。	○内外面をヨコナデ。	○精良。白・黒色砂粒を含む。 ○黒褐色10YR8/1。 ○ビット175。

### 土壤出土瓦器・土師器・東播系須恵器・輸入磁器・瓦

番号	器物形	法算 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
430	瓦	14.9 (3.8)	1/6	○底部を欠く。 ○体部は内側して外上方に立ち上がり、口縁部は少し内側して外側削除に開く。 ○口縁部はゆるく内側して化粧をもつ。	○口縁部内側、外面をヨコナデ。 ○体部外側は指押さえ。口縁部から体部中段まで粗いミガキ。 ○内面はほの滑らかミガキ。 ○見込みの付支は不規則。	○精緻。白色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/。 ○土壇29。
431	器 ・ 变形	14.5 4.7 5.0 ■32.4		○少し丸底味。体部は内側して外上方に立ち上がり口縁部は少し延曲して外側削除に開く。 ○口縁部はゆるく内側して化粧をもつ。	○体部内外面をヨコナデ。 ○体部外側は指押さえ。口縁部から体部下段まで粗いミガキ。 ○内面はほの滑らかミガキ。 ○見込みの付支は不規則。	○精緻。白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/。 ○土壇19。
432	器	11.3 1.8 ■16.0	1/6	○やや丸底から、そのまま内側しながら口縁部につづく。 ○器厚(は)は2.5cm。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外側は指押さえ。 ○内面は、とぎれとざれの渦巻状の縮れ。 ○高台はナギつけ。	○精緻。白色砂粒を多く含む。 ○内面灰色N6/～灰白色N7/。 ○外側灰色N6/。 ○土壇34。
433	瓦	16.0 1.5	1/3	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は更に外方へ向く、丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外側は指押さえ。 ○見込みはシザザグ状の細い平行線の縮れ。	○精緻。黑色微砂粒を含む。 ○灰色N6/～灰白色N7/。 ○土壇30。
434	器 ・ 小 皿	9.1 (2.1)	1/6	○丸底から口縁部まで内側しながら開く。 ○口縁部は少し外方を向く、丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外側は指押さえ。 ○見込みはシザザグ状の細い平行線の縮れ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N7/。 ○土壇29。
435	器	8.0 1.5	1/3	○丸底からゆるく内側しながら口縁部につづき、口縁部は外反する。 ○口縁部は更に外方へ向く、丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外側は指押さえ。 ○見込みはシザザグ状の細い平行線の縮れ。	○精緻。白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○土壇24。
436	土 師 器 ・ 大 皿	12.6 2.0	1/6	○底部を欠く。 ○底部から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。	○精緻。白・黒色砂粒、くさり織を含む。 ○淡黄褐色7.5YR8/3。 ○土壇18。

番号	部類	法 番 (cm)	残 存	部 類 の 特 徴	技 法 の 特 徴	備 考
437	上 部	11.7 2.7	1/4弱	○九頭剣味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや外方を向き落くなるが丸く納める。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さえ。	○精緻、白・黒色砂粒。 くさり繩を含む。 ○括(白)7.5YR8/2-3 5B-6C5YR7/3, ○上塗37。
438	器 ・ 大	10.3 2.5	1/4弱	○やや小さい底落から口縁部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○外面を押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒。 くさり繩を含む。 ○括(白)7.5YR7/4, ○上塗18。
439	皿	11.6 2.1	1/8	○底落を欠く。 ○口縁部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○外面を押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒。 くさり繩を含む。 ○括(白)7.5YR7/4, ○上塗18。
440		9.9 1.3	1/4	○九頭剣味の底落から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや外方を向き落くなるが丸く納める。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、白色微砂粒。 くさり繩を多く含む。 ○括(白)黄褐色10YR7/3, ○上塗35。
441		8.3 1.2	1/3	○平底。底部と口縁部の辺は厚くなり外方に突出り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は上方につまみ上げる。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、白色微砂粒。 くさり繩を多く含む。 ○括(白)黄褐色10YR6/4, ○上塗29。
442	土 瓶	8.5 1.8	1/4弱	○やや小さい底落から口縁部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口縁部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、黒色砂粒。 くさり繩を多く含む。 ○内面に青い黃褐色10YR7/2, ○外面に青い黒色7.5YR2/4, ○口縫隙部縫付着。 ○上塗15。
443	器	8.1 1.6	完好	○平底から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、黑色微砂粒を含む。 ○括(白)黄褐色10YR6/3, ○上塗21。
444	*	8.1 1.5	1/2強	○中央部が上げ底剣味の底落から口縁部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口縁部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒。 くさり繩を多く含む。 ○括(白)黄褐色10YR7/3, ○上塗21。
445	小 皿	8.1 1.9	完好	○中央部が上げ底剣味の底落から口縁部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口縁部はやや丸り気味。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、白色砂粒。 くさり繩を多く含む。 ○括(白)黄褐色10YR7/3, ○上塗18。
446	皿	8.0 1.1	1/3	○中央部が上げ底剣味の底落から口縁部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口縁部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、白色砂粒。 くさり繩を多く含む。 ○括(白)黄褐色10YR7/3, ○上塗21。
447		7.2 1.8	1/4強	○底落を欠く。 ○やや小さい底落から口縁部が屈曲後、外側しながら開く。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面に見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底落外面は押さえ。	○精緻、黑色微砂粒を多く含む。 ○括(白)2.5Y6/1-裏黒色2.5Y6/1, ○上塗18。
448	瓦 器 ・ 皿	19.4 (5.29)	1/8	○わざかに内側する体部から口縁部がほぼまっすぐに立ち、口縁部外面にはナデにより、二つの段をもつ。 ○口縁部は内方に直張張つまみ上げ、上端部に面をもつ。○縫を丸く。	○口縁部内外面にヨコナデ。 ○体部外面は横方向の縫かいハケ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰白色2.5Y6/1-裏黒色2.5Y6/1, ○上塗17。
449	酒 器 ・ 甌	22.6 (5.6)		○内側する体部から、近く立つ部分に口縁部が外反する。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外面を平行タキキ。 ○体部内面は横方向の縫かいハケ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰黑色6/0-青灰色5B3/1, ○上塗20。
450	酒 器 ・ 甌	底19.4 (2.8)	1/8	○底からほほ直線的に体部が開く。	○体部外面にヘラ刷り(原体幅1.8cm)。 ○体部内面にスリ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○明オーバーペイント2.5GY7/1, ○上塗26。

番号	器種形	法算 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
451	桶入臼 白砂利・瓶	16.0 (2.8)	1/8	○底部を欠く。 ○体部→口縁部まで斜上方に直線的に伸びる。 ○口縁部は下方に肥厚する。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。	○精良。 ○素地: 明オリーブ灰色 2,5GY7/1, 稍灰白色2,5GY8/1, ○土塗15。
452	圓筒形・瓶	30.6 (8.4)		○ならかに内側して伸びる体部から、ゆるやかに傾斜してやや外反気味に上方へ短く立ち上がる頭部。 ○口縁部は外反し、底部は外輪し面をつくる。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を平行タキ。 ○体部内面は横方向の細かいハサ目。	○粗。 ○白・黑色砂粒を多く含む。 ○底色N6/1~明オリーブ灰色2,5GY7/1, ○土塗36。
453	丸 瓦	長 19.7 幅(0.1) 厚 2.2			○表面、縁口板タケ。後ナデ。 ○裏面、帯口板。	○粗。 ○白・黑色砂粒を多く含む。 ○底色3Y6/1, ○土塗17。
454	平 瓦	長(11.6) 幅(13.6) 厚 2.5			○表面、縁口板タケ。 ○裏面、帯口板。	○粗。 ○白・黑色砂粒を多く含む。 ○底色5Y3/1, ○土塗18。

## 土塗1出土土器

番号	器種形	法算 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
455		9.3 (3.3)	2/3	○丸底から内側しながら体部が高く外上方に伸びる。 ○口縁部は内側してやや沈み。 ○高台は低い断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部内面は見込みまで溝巻状の棱文。 ○体部外表面を押さえ。 ○高台はナデつけ。	○精緻。白色微砂粒を含む。 ○暗青灰色5PB4/1, ○土塗1-1。
456		10.9 2.7  ※24.8	完形	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に溝巻状の棱文。	○やや粗。白・黑色砂粒を含む。 ○底色N4/1。
457	瓦	16.6 2.9  ※27.4	ほぼ完形	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に溝巻状の棱文。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○底色N5/1。
458		10.6 2.4  ※22.6	1/2	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面は押さえ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に溝巻状の棱文。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○底色N6/1。
459	器	10.5 2.6  ※21.8	完形	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に溝巻状の棱文。	○やや粗。白色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/1~褐色N5/1, ○底部に重ね壓紋。 ○土塗1-1。
460	-	10.4 3.7  ※28.0	完形	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。 ○内面はナデの上に溝巻状の棱文を切れ切れに施す。	○粗。白・黑色砂粒を多く含む。 ○灰白色N7/1。 ○灰素吸着は口縁部のみ褐色N4/1。
461		16.4 3.9  ※27.4	ほぼ完形	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。 ○口縁部すぐ下の基部は薄くなる。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に溝巻状の棱文。	○粗。白・黑色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/1。 ○体部外表面は白色N7/1。 ○灰素吸着しない。
462	碗	10.4 (2.5)	1/2弱	○底部からゆるく内側しながら立ち上がる体部から口縁部までそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。 ○体部内面はナデの上に溝巻状の棱文。	○やや粗。白・黑色砂粒を含む。 ○口縁部外表面一部褐色N6/1。 ○灰素吸着は口縁部のみ。 ○土塗1-1。
463		10.3 2.8  ※27.2	完形	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外表面を押さえ。 ○内面はナデの上に溝巻状の棱文を切れ切れに施す。	○やや粗。白・黑色砂粒を多量に含む。 ○灰白色N6/1。 ○灰素吸着は口縁部のみ。 ○土塗1-1。

番号	基準形	法 寸 (cm)	現 在	形 味 の 特 徴	枝 法 の 特 徴	備 考
464	基 準 形	16.1 2.7 #36.7	完形	○丸底から口縁部まで内側しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○体部外側を押さえ。 ○内面はササの上に適度な粒度。	○やや粗、白・黒色微妙を含む。 ○結締色N3。根葉緑色98%。 ○上葉1-1。
465		11.6 2.3	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、横を残して口縁部の外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○他はナデ。	○やや粗、黒色砂粒。(さり繻き多く含む)。 ○浅黄緑色5.YR8/3。
466	土	16.9 2.0	完形	○上げ乳頭の底部分から直面して外上方へ聞く口縫。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○やや粗、黒色微妙。(さり繻き多く含む)。 ○底白色7.5YR8/2。 ○内面～口縁部外面にかけて繻ける。
467		16.8 2.1	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は厚くなり丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を多く含む。 ○浅黄緑色5.YR8/3。
468	脚	11.7 1.8	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、横を残して口縁部の外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ(右肩)。 ○足込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黑色微妙を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
469		16.7 2.2	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや厚くなり丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を多く含む。 ○浅黄緑色10.YR8/3。 ○口縫部一筋に付着。
470	大	10.6 2.3	ほぼ完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや厚くなり丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○浅黄緑色7.5YR8/3。 ○外面上に斑点有、緑灰色N2。
471	皿	10.6 2.3	完形	○やや丸底乳頭の底部分から口縁部までならかに内側しながらつく。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○浅黄緑色5.YR8/3。
472		10.5 2.5	完形	○やや丸底乳頭の底部分から口縁部までならかに内側しながらつく。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○浅黄緑色7.5YR8/3。
473		10.3 2.9	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○やや粗、白・黑色微妙を含む。 ○底白色10.YR8/2。
474		8.7 1.5	2/3	○平底から口縁部までならかに内側しながらつく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○やや粗、白色微妙。(さり繻き多く含む)。 ○内面にぶい黄緑色10.YR7/6。 ○外面上にぶい黄緑色7.5YR7/2。
475	脚	8.3 1.4	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ(右肩)。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○内面にぶい黄緑色10.YR7/2。 ○外面上にぶい黄緑色7.5YR7/2。 ○口縫部第一筋保ける。褐色色10.YR8/2。
476		8.3 1.8	完形	○やや丸底乳頭の底部分から口縁部までならかに内側ながらつく。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○内面にぶい黄緑色10.YR7/3。 ○外面上にぶい黄緑色7.5YR7/3。
477	小	8.2 1.6	ほぼ完形	○やや丸底乳頭の底部分から口縁部までならかに内側ながらつく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。
478	皿	8.2 1.5	ほぼ完形	○やや丸底乳頭の底部分から口縁部までならかに内側ながらつく。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○内面底白色2.5.YR8/2。 ○外面上にぶい黄緑色YR8/2。
479		8.2 1.4	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻、白・黑色微妙を含む。 ○内面浅黄緑色10.YR8/3。 ○外面上にぶい黄緑色7.5YR6/3。

各 号	写 真 番 号	法 量 (cm)	残 存	形 態 の 特 徴	性 状 の 特 徴	備 考
480		8.1 1.6	完剥	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は低いナデ。	○精緻。白・黒色微妙を含む。 ○に古い黄褐色10YRT/3。
481		8.3 1.6	完剥	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁部は丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は低いナデ。	○精緻。白・黒色微妙を含む。 ○に古い黄褐色10YR8/3。 ○内面浅黄褐色7.5YR8/3。
482		8.6 1.8	完剥	○平底。底部がやや出張り気味で、底を残して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黒色微妙を含む。 ○に古い黄褐色10YRT/3。 ○土壤1-1。
483	上	8.6 1.1	完剥	○平底から口縁部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黒色微妙を含む。 ○内面灰白色7.5YR8/2。 ○外面上に古い褐色7.5YR7/3。
484		7.9 1.6	完剥	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く ○口縁部。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。	○精緻。白・黑色微妙を含む。 ○底面褐色7.5YR8/4。
485	中	7.9 1.4	完剥	○平底。底部が出張り気味で、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黑色微妙を含む。 ○浅褐色10YR8/3。
486		7.8 1.6	完剥	○平底。底部が出張り気味で、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黑色微妙を含む。 ○内面褐色2.5YR6/6。 ○外面上に古い黄褐色10YR7/3。
487		7.8 1.6	完剥	○丸底気味の底部から屈曲して外上方へ開く ○口縁部。 ○口縁部は丸く納める。 ○底部中央は内厚。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黑色微妙を含む。 ○内面に古い黄褐色10YR7/3。
488		7.8 1.3	完剥	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黑色微妙を含む。 ○に古い黄褐色10YR7/3。
489	小	7.8 1.3	完剥	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黑色微妙を含む。 ○灰黄色1.5Y7/2。 ○土壤1-1。
490	里	7.8 1.2	完剥	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白・黑色微妙を含む。 ○内面灰白色2.5Y8/2。 ○外面上に古い褐色7.5YR8/3。
491		7.7 1.7	完剥	○丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内側しながらつづく。 ○口縁部はやや丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指揮さん。	○精緻。白色微妙を含む。 ○内面に古い褐色7.5YR6/4。 ○外面上に古い黄褐色7.5YR7/3。 ○口縁部外面指揮する。
492		7.7 1.6	完剥	○平底から開いて外上方へ開く口縁部。 ○口縁部はやや丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は低いナデ。	○精緻。白色微妙を含む。 ○内面に古い黄褐色10YR7/3。 ○外面上に古い褐色7.5YR6/4。
493		7.7 1.3	完剥	○平底。底部がやや出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部はやや丸く気味。	○口縁部外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は低いナデ。	○精緻。黑色微妙を含む。 ○内面灰白色3YR8/2。 ○外面上に古い褐色10YR8/3。

番号	目録番号	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
494		7.6 1.4	完形	○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部はやや突り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右彫り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○精細。白・黑色微砂粒。 くさり織を含む。 ○灰白色2.5YR8/2。 根付青灰色N4/。
				○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○粗糲。白・黑色微砂粒。 くさり織を多く含む。 ○内面浅黄褐色10YR8/4。 外表面黄色2.5YR8/3。
495	土	7.5 1.6	完形	○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○粗糲。白・黑色微砂粒。 くさり織を多く含む。 ○内面浅黄褐色10YR8/4。 外表面黄色2.5YR8/3。
				○やや気吹きのある底部から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右彫り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○精細。白・黑色微砂粒を含む。 ○浅黄褐色10YR8/3。
496	器	7.5 1.7	完形	○やや気吹きのある底部から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右彫り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○精細。白・黑色微砂粒を含む。
				○口縁部は丸み上げ、やや突り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○浅黄褐色10YR8/3。
497	小	7.4 1.4	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に沿り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸み上げ、やや突り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○やや粗糲。白・黑色微砂粒。 くさり織を多く含む。 ○灰黄色2.5YR7/2。
				○平底から底面にかけて外上方へ開く口縁部。 ○口縁部は丸み上げ、やや突り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○やや粗糲。白・黑色微砂粒。 くさり織を多く含む。 ○内面浅黄褐色10YR7/2-3-淡赤褐色2.5YR7/2。
498	器	7.4 1.4	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に沿り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸み上げ、やや突り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○やや粗糲。白・黑色微砂粒。 くさり織を多く含む。 ○内面浅黄褐色10YR7/2-3-淡赤褐色2.5YR7/2。
				○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に沿り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸み上げ、やや突り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○精細。白・黑色微砂粒を含む。 ○内面浅黄褐色10YR7/2-3-淡赤褐色2.5YR7/2。
499	土 器	7.2 1.4	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に沿り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁部は丸み上げ、やや突り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は無いナデ。	○精細。白・黑色微砂粒を含む。
				○底部と口縁部は内側して、口縁部が外側近く外反する。 ○口縁部は内側に巻き込み、張り付け状にする。 ○口縁部は斜く上方を向き、斜傾した外端面をもつ。	○口縁部内外面はヨコナデ。 ○口縁部内面はナデ。 ○口縁部はナデつけ。	○やや粗糲。白・黑色微砂粒。 くさり織を含む。 ○灰白色10YR8/2。
500	土 器 ・ 漆 器	29.4 (9.6)	1/2	○全体にはまっすぐ立ち、肩部は内側して、口縁部が水平近く外反する。 ○口縁部は内側に巻き込み、張り付け状にする。 ○口縁部は斜く上方を向き、斜傾した外端面をもつ。	○口縁部内外面はヨコナデ。 ○口縁部内面はナデ。 ○口縁部はナデつけ。	○やや粗糲。白・黑色微砂粒。 くさり織を含む。
				○全体にはまっすぐ立ち、肩部は内側して、口縁部が水平近く外反する。 ○口縁部は内側に巻き込み、張り付け状にする。 ○口縁部は斜く上方を向き、斜傾した外端面をもつ。	○口縁部内外面はヨコナデ。 ○口縁部内面はナデの後、横方向の相い眼ナデ。 ○口縁部はナデつけ。	○やや粗糲。白・黑色微砂粒。 多く含む。 ○淡黄褐色10YR8/3-4-土壤色1-1。
501	漆 器	33.4 (14.3)	1/3	○全体にはまっすぐ立ち、肩部は内側して、口縁部が水平近く外反する。 ○口縁部は内側に巻き込み、張り付け状にする。 ○口縁部は斜く上方を向き、斜傾した外端面をもつ。	○口縁部内外面はヨコナデ。 ○口縁部内面はナデの後、横方向の相い眼ナデ。 ○口縁部はナデつけ。	○やや粗糲。白・黑色微砂粒。 多く含む。 ○淡黄褐色10YR8/3-4-土壤色1-1。
				○全体から口縁部は直線的に外方へ聞く。 ○口縁部は玉締めを呈す。 ○底部を欠く。	○内外面ともヨコナデ。 ○底部中位外面上には施釉しない。	○精良。白色微砂粒を含む。 ○素地灰白色N8/。根付灰白色2.5GY8/1。 ○土塗1-2。
502	柏原 人形 多頭	16.0 2.8	1/8	○全体から口縁部は直線的に外方へ聞く。 ○口縁部は玉締めを呈す。 ○底部を欠く。	○内外面ともヨコナデ。 ○底部中位外面上には施釉しない。	○精良。白色微砂粒を含む。 ○素地灰白色N8/。根付灰白色2.5GY8/1。 ○土塗1-2。

## 木棺墓 2 供獻土師器・輸入磁器

番号	目録番号	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
503	土	口 7.9 高 1.4	ほぼ完形	○中央部が上げ直底味の底部から。なだらかに内厚しながらくつづく。口縁部はやや突り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色10YR8/3。
				○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底面外面は粗押さえとナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色10YR8/3。
504	漆 器	7.9 1.3	完形	○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底面外面は粗押さえとナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色7.5YR8/4。
				○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部はやや突り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底面外面は粗押さえとナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色10YR8/3。
505	小 器	7.8 1.3	完形	○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部はやや突り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底面外面は粗押さえとナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色10YR8/3。
				○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部はやや突り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底面外面は粗押さえとナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色10YR8/3。
506	土 器	12.1 2.1	完形	○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部はやや突り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底面外面は粗押さえとナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色10YR8/3。
				○平底から口縁部までなだらかに内厚しながらくつづく。 ○口縁部はやや突り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底面外面は粗押さえとナデ。	○精細。くさり織。黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄褐色10YR8/3。

番号	器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
508	桶 （蓋、身、脚）	口 16.0 高 6.9 底 4.7 重 43.1	完形	○厚い平底から口縁部まで斜上方に弧形的に伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。 ○高台は断面方形。	○全体内面と足込みに蓮瓣文の模様を付ける。 ○足込みはロクロナデ。 ○全体から底部外表面をロクロ削り。 ○高台は削り出し。 ○底部外表面の中程まで施錆。	○銀直。 ○銀灰色7.5GY6/1。

## 木棺墓1供獻土師器

番号	器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
509		口 8.4 高 1.7	完形	○平底から口縁部までなだらかに内側しながら上づく。 ○口縁端部はやや丸く削り出た。	○口縁部外表面・足込み半ばまでヨコナデ。 ○足込み中央部・底部外表面はナデ。	○精細、くさり織、黒・白色砂粒など微鉄粉を含む。 ○浅銀色10YR8/3。
510	土 器	8.3 1.4	ほぼ完形	○中央部が上部底乳突の底部から、なだらかに内側しながら口縁部につづく。 ○口縁端部はやや丸く削り出た。	○口縁部外表面・足込み半ばまでヨコナデ。 ○足込み中央部・底部外表面はナデ。	○精細、くさり織、黒・白色砂粒など微鉄粉を含む。 ○浅銀色2.5Y8/3。
511	器	8.3 1.4	ほぼ完形	○中央部が上部底乳突の底部から、なだらかに内側しながら口縁部につづく。	○口縁部外表面・足込み半ばまでヨコナデ。 ○足込み中央部・底部外表面はナデ。	○精細、くさり織、黒・白色砂粒など微鉄粉を含む。 ○浅銀色2.5Y8/3。
512	*	8.3 1.3	完形	○平底から口縁部までなだらかに内側しながら上づく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外表面・足込み半ばまでヨコナデ。 ○足込み中央部・底部外表面はナデ。	○精細、くさり織、黒・白色砂粒など微鉄粉を含む。 ○浅銀色10YR8/3。
513	器	8.2 1.5	完形	○中央部が上部底乳突の底部から、なだらかに内側しながら口縁部につづく。	○口縁部外表面・足込み半ばまでヨコナデ。 ○足込み中央部・底部外表面はナデ。	○精細、くさり織、黒・白色砂粒など微鉄粉を含む。 ○浅銀色2.5Y8/3。
514		7.9 1.6	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内側しながら上づく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部外表面・足込み半ばまでヨコナデ。 ○足込み中央部・底部外表面はナデ。	○精細、くさり織、黒・白色砂粒など微鉄粉を含む。 ○浅銀色2.5Y8/3。
515	土大 桶	12.3 2.5	完形	○平底から口縁部が傾斜して外方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみあげ、やや丸く削り出た。	○口縁部外表面・足込み半ばまでヨコナデ。 ○足込み中央部・底部外表面はナデ。	○精細、くさり織、黒・白色砂粒など微鉄粉を含む。 ○浅銀色16YR8/3。

## 木棺墓1・2 使用鉄釘

番号	器種	器形	法量 (cm)	形態の特徴	備考	番号	器種	器形	法量 (cm)	形態の特徴	備考
516	鉄	鉄釘	長 2.4 幅 1.0 厚 0.4	○基部欠失。 ○全面にサビ付着。	○本棺墓2。	519	鉄	鉄釘	長 4.3 幅 0.4 厚 0.5	○全面にサビ付着。	○本棺墓1。
517	器	鉄釘	長 1.5 幅 0.3 厚 0.5	○両端部欠失。 ○全面にサビ付着。	○本棺墓2。	520	鉄	鉄釘	長 5.0 幅 1.3 厚 0.8	○本質 削みに付着。 ○全面にサビ付着。	○本棺墓1。
518	器	鉄釘	長 4.1 幅 0.8 厚 0.7	○本質 裸目に付着。 ○全面にサビ付着。	○本棺墓2。						

## 土 鍾

番号	法量 (cm <sup>3</sup> )	特徴	備考	番号	法量 (cm <sup>3</sup> )	特徴	備考
1	長 13.0 幅 1.0 厚 0.9 重 3.3	○一端を欠失。 ○横方向にナデ調整。	○黑色微砂粒を含む。 ○赤褐色10R6/2-赤褐色10Y6/6。 ○厚F5。	5	長 3.8 幅 1.2 厚 1.2 重 3.1	○完形。 ○研磨されているかのよう な丁寧なナデ調整。	○白色微砂粒を含む。 ○にほい赤褐色10YR7/7。 ○塊乱。
2	長 13.6 幅 1.0 厚 1.0 重 3.3	○一端を欠失。 ○丁寧なナデ調整。	○白・黒色砂粒を多く含む。 ○にほい赤褐色5YR5/4。 ○厚F5。	6	長 13.5 幅 1.0 厚 1.0 重 2.8	○一端を欠失。 ○丁寧なナデ調整。	○白色砂粒を含む。 ○にほい赤褐色5.7YR5/3。 ○薄20-1。
3	長 13.7 幅 1.0 厚 1.0 重 3.3	○一端を欠失。 ○粘土の膜目がみられる。	○黒色砂粒を多く含む(在 地盤)。 ○にほい赤褐色5YR4/4。 ○薄21-3。	7	長 4.2 幅 1.2 厚 1.0 重 4.9	○完形。 ○ナデ調整。	○くさり織を含む。 ○赤褐色2.5YR7/6。 ○薄20-2。
4	長 3.9 幅 1.2 厚 1.0 重 4.2	○完形(一部振り上げ時の 欠けあり) ○ナデ調整。	○白色砂粒を多く含む。 ○赤褐色2.5YR6/1。 ○薄20-3。	8	長 4.2 幅 1.1 厚 1.1 重 4.4	○完形。 ○下手なナデ調整。	○白色微砂粒を含む。 ○にほい黄褐色10YR6/3。 ○塊乱。

番号	法量 (ml/g)	特徴	備考
9	長 3.9 幅 1.3 厚 1.2 重 4.2	○定形。 ○無数の気泡による泡みが みられる。	○白・黒色砂粒、《きり縞 》を含む。 ○从白色7.5YR8/2。 ○請20-3。
10	長 4.1 幅 1.1 厚 1.0 重 3.3	○両端部を欠失。 ○丁寧なナナ調整。	○白色砂粒を含む。 ○灰白色7.5YR8/1。 ○上端40。 ○請20-3。
11	長 4.1 幅 1.1 厚 1.1 重 4.2	○定形。 ○丁寧なナナ調整。	○白色微砂粒を含む。 ○淡赤色2.5YR7.5-灰 色7.5Y4/1。 ○請20-3。
12	長 (3.3) 幅 1.2 厚 1.1 重 3.6	○端を欠失。	○白色砂粒を多く含む。 ○灰赤色10R4/2-赤褐色 10R5/3。 ○請30。
13	長 (3.3) 幅 1.0 厚 0.8 重 2.8	○端を欠失。	○白・黒色砂粒、《きり縞 》を多く含む。 ○に赤い褐色10YR7/3。 ○上端24。
14	長 3.2 幅 0.9 厚 0.9 重 1.9	○1111定形。 ○断面調整。	○白色砂粒を含む。 ○に赤い褐色10R8/3。 ○請20。
15	長 (3.3) 幅 1.3 厚 1.2 重 3.4	○ナナ調整。	○白色砂粒を含む。 ○灰赤色10R5/3。 ○請20-3。
16	長 (3.1) 幅 1.1 厚 1.1 重 2.6	○ナナ調整。	○白色砂粒を多く含む。 ○に白・黄橙色10YR6/2- 灰褐色5YR5/2。 ○請21-2。
17	長 6.2 幅 1.1 厚 1.2 重 2.6	○丁寧なナナ調整。	○白色砂粒を多く含む。 ○に白・赤橙色10YR6/4。 ○請21-2。
18	長 5.1 幅 1.0 厚 0.8 重 5.0	○定形。 ○丁寧なナナ調整。	○黑色砂粒、《きり縞 》を含む。 ○淡赤色7.5YR7/6。 ○請20-3。
19	長 2.8 幅 0.9 厚 0.8 重 1.4	○1111定形。 ○ナナ調整。	○白・黒色砂粒を含む。 ○に赤い褐色。 ○第2層。
20	長 2.4 幅 0.9 厚 0.8 重 1.3	○指調整。	○白色砂粒を含む。 ○淡赤色2.5YR7/4。 ○請30。
21	長 (2.4) 幅 0.9 厚 0.9 重 2.2	○丁寧なナナ調整。	○黑色砂粒を多く含む(在 施用)。 ○灰褐色10YR3/1。 ○請20。
22	長 (2.6) 幅 0.9 厚 1.0 重 1.4	○指調整。	○白色砂粒を含む。 ○に白・赤褐色2.5R5/3。 ○請30。

## 鉄製品

番号	基部 法量 (cm)	形状の特徴	備考
1	長 (3.5) 幅 0.9 厚 0.1	○基部欠失。 ○断面方形。	○請20-1。
2	長 (4.8) 幅 (0.7) 厚 0.6	○両端部欠失。 ○断面方形。	○請20-1。
3	長 3.6 幅 1.0 厚 0.5	○ほぼ定形。 ○断面方形。 ○全面にセビ付着。	○上端1。
4	長 6.1 幅 0.9 厚 0.9	○両端部欠失。 ○断面方形。 ○全面にセビ付着。	○上端24。
5	長 (4.9) 幅 (1.1) 厚 0.8	○基部欠失。 ○基部を強く剝離している。	○請20-3。
6	長 4.0 幅 3.6 厚 0.8	○断面方形。 ○全面にセビ付着。	○請21-1。
7	長 10.7 幅 1.5 厚 0.5	○基部欠失。 ○断面方形。 ○全面にセビ付着。	○請25-3。
8	長 (12.5) 幅 0.5 厚 0.4	○端を欠失。 ○断面方形。 ○全面にセビ付着。	○請21。

番号	基部 法量 (cm)	形状の特徴	備考
9	肩部長 16.0 幅 4.1 背厚 0.2 柄長 7.7 幅 1.8 厚 0.5	○肩の角度20° ○基部に目釘を打って肩と柄を 固定するための歯があり。	○肩#8。
10	肩部長 14.7 幅 2.9 背厚 0.2 柄長 7.0 幅 1.8 厚 0.5	○肩の角度80° ○基部欠失。 ○肩部長 14.7 幅 2.9 背厚 0.2 柄長 7.0 厚 0.5	○肩#4。
11	肩部長 (16.0) 幅 (4.4) 背厚 0.3 柄長 7.0 幅 1.8 厚 0.5	○肩の角度20° ○木削材質・広葉樹。 ○木削元に切り込みを入れ、鍼 の基部を挿入し、木削部に 鍼のハカマのようなもので固定。 ○鍼身の基部はJ型に曲げられ、 残存していないが、基部に 目釘で止め、鍼と柄が下に 絡れ易くのを防いだとと思われ る。	○肩#8。

## 鋸型

番号	基部 法量 (cm)	形状の特徴	備考
12	持 型 厚 4.6	○何の型かは不明。 ○直角状態良好。 ○白・黒色砂粒を多く含む。 ○浅赤色2.5YR8/3-灰褐色 10YR6/1。	○請25-3。

## 木製品

番号	器 形	法 尺 (cm)	形 態 の 特 徴	備 考	番号	器 形	法 尺 (cm)	形 態 の 特 徴	備 考
1	下駄	長 (22.8) 幅 (10.3) 高 (3.1) 厚 1.3	○完整性。 ○底木取り。板目。 ○材質 ヒノキ。 ○横内脚。 ○裏より見て、面・接合とも裏面がすり減っている。 ○歯のつけ根に、ノミ痕あり。 ○人字より女性用。足型底と歯の取り方よりお足用と考えられる。	○井戸1a	14	竹簡		○丸括。 ○材質 ヒノキ。 ○文字は洗く刻む。 ○質記不明。 ○遺存状態不良。	○井戸1a
2	下駄	長 (20.2) 幅 (9.2) 高 (2.4) 厚 0.8	○は正方形。 ○底木取り。板目。 ○材質 ヒノキ。 ○横内脚。 ○大きさより女性用。歯の減り方より足用と考えられる。 ○遺存状態不良の為、調整不明。	○井戸1a-3	15	曲物	直径 17.3 高さ 14.7 直径 17.6	○完整性。 ○底木取り。板目。 ○材質 ヒノキ。 ○側板・まわし側板は一系。板皮で一貫め。 ○底板は伝円形。木釘穴4か所。一枚板。クレ模。	○井戸1a
3	用途不明 木製品	長 4.6 幅 4.6 厚 (3.3)	○丸木。 ○材質、針葉樹。 ○こま状の形態をもつて、風化の為、変形されたものかは不明。	○井戸2-3。	16	曲物	直径 17.7×16.2 高さ 0.6	○底木取り。柱目。 ○材質 ヒノキ。 ○側板二束で内側に縫を施す。板皮で一貫め。 ○まわし側板・直。 ○底板に木釘穴4か所。表面に油を施す。 ○遺存状態不良。	○井戸1a
4	用途不明 木製品	長 11.2 幅 (4.3) 厚 3.1	○底木取り。 ○材質 広葉樹。 ○遺存状態不良の為、明細不明。	○井戸3a	17	曲物	直径 29.4×19.4 高さ 0.6	○底木取り。柱目。 ○材質 ヒノキ。 ○側板は一列止め。板皮ではない。 ○まわし側板は板皮で一列止め。 ○底板に木釘穴5か所。表面に刃物キズと鉛打痕。アケ底。	○井戸1a
5	漆器椀	底径 (5.5) 高さ (3.2)	○楕円形。 ○材質 広葉樹。 ○内外両面に朱漆を施すが、又修理られない。	○井戸2-2。	18	曲物 底板?	長 (17.5) 幅 (17.5) 厚 0.6	○底木取り。柱目。 ○材質 ヒノキ。 ○側板なし。 ○一枚板。西回形。 ○内の縫を縫ぐり削り出している為、曲物底板かどうかは不明。	○井戸1a
6	漆器椀	口徑 (13.6) 高さ (4.9)	○楕円形。 ○材質 広葉樹。 ○内外両面に黒漆塗。半端さとおもわれる末塗で、底脚に文字を施す。	○井戸4a	19	曲物底板	長 13.1 幅 (17.6) 厚 0.3~0.8	○底木取り。柱目。 ○材質、計葉樹。 ○一枚板。 ○表面に刀物傷。 ○木釘穴がないので、貼り付け板とも考えられる。	○井戸1a
7	円盤	口徑 19.7×19.3 高さ 21.4 直径 16.5×16.7	○完整性。 ○材質 ヒノキ。 ○底板で全てをとめる。 ○把の中央にくぼみがあることから、彌あるいは竹棒でつるされていたと思われる。	○井戸6a	20	曲物底板	長 18.0 幅 17.4 厚 0.4~0.7	○完整性。 ○底木取り。柱目。 ○材質、計葉樹。 ○一枚板。 ○木釘穴4か所。	○井戸1a
8	柄	長 (26.7) 幅 2.6 厚 2.0	○丸木。 ○材質、針葉樹。 ○所持用。指用形。 ○縫合を取り立てる程度の加工にとどまる。	○井戸6a	21	曲物底板	長 17.5 幅 7.4 厚 0.7	○底木取り。柱目。 ○材質、計葉樹。 ○木釘穴4か所。表面に黒漆を施す。	○井戸1a
9	用途不明 木製品	長 (34.9) 幅 (3.3) 厚 0.6	○底木取り。 ○材質、針葉樹。 ○遺存状態不良の為、明細不明。	○井戸6a	22	曲物底板	長 13.1 幅 8.3 厚 0.7	○底木取り。柱目。 ○材質、計葉樹。 ○木釘穴2か所。	○井戸1a
10	箸	長 21.9 可 0.4~0.5	○完整性。 ○材質、針葉樹。 ○断面円形から、先端部三角形を形成。	○井戸6a	23	曲物底板	長 (17.5) 幅 (16.7) 厚 0.4~0.6	○底木取り。柱目。 ○材質、計葉樹。 ○木釘穴がないので、貼り付け板とも考えられる。	○井戸1a
11	箸	長 21.5 厚 0.6	○完整性。 ○材質、針葉樹。 ○断面円形から、先端部三角形を形成。	○井戸6a	24	方形曲物 蓋?	長 (18.0) 幅 7.8 厚 0.4~0.5	○底木取り。柱目。 ○材質、針葉樹。 ○1か所、桙残存。桙の厚さに対して桙頭のゆるみがありすぎるところからもう一枚板を重ねてとめていたと考えられる。 ○一部木釘穴のあるとき病あり。 ○方形？	○井戸2-3。
12	木箆	長 14.2 幅 3.5~2.5 厚 0.3~0.2	○完整性。 ○底木取り(柱目)。 ○材質、針葉樹。 ○上部内側面に抉り。	○井戸5a					
13	木箆	長 14.3 幅 (3.1) 厚 0.3	○底木取り。柱目。 ○材質、針葉樹。 ○墨書きはごくわずかし残存せず、あとは墨書きがはがれた状態。 ○判読不明。	○井戸5a					

# 杭

番号	法量 (cm)	形態の特徴	備考
25	長 (36.4) 幅 4.9 厚 4.9	○丸木。 ○全面出くい。 ○杭先 4 面取り、端部平坦。	○清25-1。
26	長 (31.7) 幅 (5.4) 厚 5.0	○丸木。 ○出くい。 ○杭先 5 面取り、端部平坦。	○清25-2。
27	長 (24.5) 幅 4.2 厚 4.1	○丸木。 ○表面削皮を取り去る程度の削り取り。 ○杭先 4 面取り、端部平坦。	○清25-1。
28	長 (29.0) 幅 4.2 厚 4.1	○丸木。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先 4 面取り、端部平坦。	○清25-2。
29	長 (28.8) 幅 4.0 厚 5.8	○丸木。 ○出くい。 ○杭先 4 面取り、端部平坦。	○清25-3。
30	長 (31.2) 幅 4.2 厚 4.2	○丸木。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先 5 面取り。	○清25-1。
31	長 (28.4) 幅 5.0 厚 5.3	○丸木。 ○材質 二葉松。 ○一部削皮残存。	○清25-1。
32	長 (30.3) 幅 5.1 厚 5.1	○丸木。 ○一部削皮残存。 ○杭先 4 面取り、端部平坦。	○清25-1。
33	長 (18.6) 幅 4.7 厚 4.5	○丸木。 ○杭先 4 面取り、端部平坦。	○清25-1。
34	長 (33.1) 幅 2.5 厚 2.5	○丸木。 ○材質 計葉樹 マツ類。 ○杭先 4 面取り、端部平坦。	○清29-3。
35	長 (19.4) 幅 4.8 厚 5.0	○丸木。 ○杭先 4 面取り。端部丸る。	○清25-1。
番号	法量 (cm)	形態の特徴	備考
36	長 (41.9) 幅 2.5 厚 2.3	○丸木。 ○材質 計葉樹。 ○先端部のみ加工を施す(1面取り)。	○清27セキ。
37	長 67.4 幅 3.7 厚 4.1	○ほぼ定形。 ○丸木。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先 3 面取り、端部丸る。	○清20セキ。
38	長 66.8 幅 3.6 厚 3.6	○定形。 ○丸木。 ○材質 計葉樹モミ。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先 3 面取り、端部丸る。	○清20セキ。
39	長 (58.9) 幅 3.6 厚 3.8	○丸木。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先 3 面取り、端部丸る。	○清20セキ。
40	長 57.4 幅 6.8 厚 5.1	○ほぼ定形。 ○丸木。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先は多面取り、端部丸い。	○清20セキ。
41	長 68.3 幅 4.0 厚 4.0	○丸木。 ○材質 計葉樹モミ。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先は多面取り、端部丸る。	○清20セキ。
42	長 65.4 幅 4.4 厚 3.2	○定形。 ○丸木。 ○材質 計葉樹。モミ。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先 3 面取り、端部丸る。	○清20セキ。
43	長 81.8 幅 5.3 厚 5.4	○ほぼ定形。 ○丸木。 ○表面削皮を取り去る程度の加工。 ○杭先 3 面取り、端部丸る。	○清20セキ。
44	長 (111.5) 幅 3.1 厚 5.2	○丸木。 ○材質 計葉樹モミ。 ○先端部のみ加工を施す(3面取り)。	○清20セキ。

石製品観察表

番号	種類	石材	法量				備考	出土地
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1	石頭	緑灰色サヌカイト	2.5	1.7	0.4	1.0	凸基無基式。完形品。中央断面形凸。	清58。
2	石頭	緑灰黒色サヌカイト	4.6	2.0	0.7	5.3	凸基無基式。完形品。中央断面形凸。	清29-1。
3	石頭	緑灰黒色サヌカイト	(3.7)	1.2	0.5	1.6	凸基有基式。基部欠損。中央断面形凸。	ビット438。
4	石頭	緑灰黒色サヌカイト	(4.6)	1.3	0.6	3.0	凸基有基式。先端部欠損。中央断面形凸。	
5	石頭	緑灰黒色サヌカイト	(3.8)	2.4	0.7	2.4	凸基有基式。基部欠損。中央断面形凸。	東側断面。3-8層。
6	石頭	緑灰黒色サヌカイト	4.9	1.9	0.8	5.7		ヤブト。
7	石頭	緑灰黒色サヌカイト	2.9	1.9	0.7	2.5	基部にサヌカイト表面をもつ。	清29-3。
8	打製石剣	緑灰黒色サヌカイト	(4.5)	2.8	1.1	15.1	両端部欠損。中央断面形凸。	井戸4。
9	打製石剣	緑灰色サヌカイト	4.3	2.4	1.4	17.7	両端部欠損。中央断面形凸。	辺縁に叩き痕。表面に磨き痕あり。
10	打製石剣	緑灰色サヌカイト	(5.7)	2.9	0.9	17.2	両端部欠損。中央断面形凸。	清20-3。
11	打製石剣	緑灰色サヌカイト	(5.6)	3.0	1.5	39.5	両端部欠損。表面に磨き痕あり。	中央断面形凸。

番号	種類	石材	法 量				考	出土地
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
12	打製石劍	暗灰黑色サヌカイト	(6.0)	2.5	1.3	23.0	両端部欠損。右側側面磨滅。中央前面凹凸。	溝20-3。
13	打製石劍	暗灰色サヌカイト	12.6	3.1	1.2	51.4	基部側面磨滅。表面一部剥き痕あり。完形品。中央前面凹凸。	溝28。
14	打製石劍	暗灰色サヌカイト	(7.4)	3.2	1.2	34.9	先端部にサヌカイト表皮をもつ。基部欠損。側面磨滅。中央前面凹凸。	溝20-3。
15	柱状片刃石斧	緑灰色サヌカイト	8.1	2.8	3.0	137.1	一部抉り。完形品。	櫻毛。
16	石斧	青灰色綠色片岩	(6.3)	(4.8)	(0.9)	35.6	背面欠損。	ピット283。
17	石包丁	褐色頁岩	(2.0)	(4.6)	0.8	11.0	左側面部に溝状の抉り。	共生時代川。
18	石斧	緑灰色斑駁岩	(8.2)	(8.3)	3.2	383.2	片刃。基部欠損。	溝25-1。
19	刮器	暗灰色サヌカイト	3.4	4.9	0.9	22.2	背面にサヌカイト表皮をもつ。刃部片面調整。	溝20-3。
20	細部調整刮片	暗灰色サヌカイト	3.9	3.4	1.2	14.8	背部にサヌカイト表皮をもつ。両側縦溝。	溝20-3。
21	刮器	暗灰色サヌカイト	3.6	5.9	0.9	23.1	片面にサヌカイト表皮をもつ。	溝20-3。
22	刮器	暗灰色サヌカイト	8.5	4.1	1.0	41.0	片面側面にサヌカイト表皮をもつ。	溝20-2。
23	刮器	暗灰色サヌカイト	7.4	3.6	1.1	29.9	尖頭器具。	第2層。
24	刮器	灰色サヌカイト	8.2	6.0	1.9	87.0	背部・側縁側面にサヌカイト表皮をもつ。	溝20-3。
25	刮器	暗灰色サヌカイト	2.8	3.5	0.6	8.7	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝42。
26	刮器	暗灰色サヌカイト	6.2	7.9	1.4	73.8	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝20-3。
27	刮器	暗灰色サヌカイト	3.1	3.6	0.6	8.5	背部・表面にサヌカイト表皮をもつ。	溝2-2。
28	刮器	暗灰色サヌカイト	3.7	(4.9)	1.3	23.3	両側面欠損。	土壤15。
29	複刃刮器	暗灰色サヌカイト	5.7	10.9	2.4	37.1	片側側縁・背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝25-3。
30	細部調整刮片	暗灰色サヌカイト	4.3	4.8	1.0	20.5	刃部片面調整。	溝25。
31	楔形石器	暗灰色サヌカイト	3.8	4.4	1.6	33.5	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝20-3。
32	楔形石器	暗灰色サヌカイト	3.8	2.5	1.1	12.6	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝21-3。
33	凸刃刮器	暗灰色サヌカイト	3.8	4.4	1.6	33.5	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝20-3。
34	凹刃刮器	暗灰色サヌカイト	2.9	4.5	0.8	12.9	刃部片面調整。背部にサヌカイト表皮をもつ。	サブトレス。
35	剥片	暗灰色サヌカイト	2.3	3.5	0.9	5.2	刃部に使用痕認める。片面にサヌカイト表皮をもつ。	溝20-3。
36	細部調整刮片	暗灰色サヌカイト	2.9	1.3	0.6	2.2		土壤16。
37	砾石	乳灰色凝灰岩	(7.7)	(8.5)	3.7	506.3	3面使用。	溝20-3。
38	砾石	乳灰色凝灰岩	(4.8)	5.9	1.7	76.5	全面使用。内側部欠損。	溝20。
39	砾石	灰白色凝灰岩	(3.3)	(4.5)	(2.2)	39.3	3面使用。片面・両端部欠損。	溝20-2。
40	砾石	灰黄色凝灰岩	(2.7)	4.2	0.9	18.8	全面使用。基部欠損。	土壤45。
41	砾石	緑灰色砂岩	(8.0)	(6.0)	(3.7)	297.3	3面使用。片面・内側部欠損。	井戸1。
42	砾石	灰色凝灰岩	(8.7)	(8.2)	5.5	489.1	2面使用。基部欠損。	溝25。
43	石錐	灰色漂石	17.4	16.0	14.2	147.2	外側スス背筋。内側側面後研磨。	溝20-3。

## VI まとめ

今回の調査で明らかになった事柄を若干の考察を加えて、遺構(河川)・遺物の順に古い時代から述べまとめてとする。

### 縄文時代

遺構・遺物ともに検出していない。東に隣接する第22次調査地点などでは、縄文時代中期後半以降の河川が確認され、少量の早期・中期・後期・晚期の土器が出土している。早期の土器は、神並遺跡から流れたもので、他の時期の土器は摩滅がほとんど認められることから、調査地点のごく近くにそれぞれの時期の小規模な集落が存在していると想定した。今回や、西に隣接して実施した調査では全く認められないため、より東側に居住域を限定できる。

### 弥生時代前期

遺構・遺物共に検出していない。第22次調査地点では、検出した河川内から第I様式中～新段階に属す弥生土器が混入品として出土し、縄文時代と同様ごく近くに小規模な集落を想定した。また、鬼虎川遺跡においても少量の同時期か、やや古い時期の前期土器が検出され集落の存在が想定できる。今回の調査地点は、同時に存在した両集落の中間地帯と考えられる。

### 弥生時代中期

方形周溝墓・土壙・河川を検出した。遺構の所属時期はいずれも第III～第IV様式である。

方形周溝墓は、墳丘が削平され主体部は検出できていないが第7次調査で南半が検出されていた第2号・6号方形周溝墓の北半部分を確認し、ほぼ全形を明らかにできた。第2号方形周溝墓が長辺12.8m・短辺8.6m、第6号方形周溝墓が長辺13.4m・短辺10mの規模である。

検出位置は、川の南東の岸にある。現在までに8基が周溝を共有する状況で確認されている。大きく切り合うものが認められないことから一定の企画性をもち継続し、あるいはほぼ同時に墓が営まれたことを示している。

川を隔てた対岸の植附遺跡でも川の岸近くに方形周溝墓と壺棺墓が発見されている。川の中州からは第23次調査などで胎児を収めた土器棺墓が検出されている。両遺跡とも居住域の外側の川に隣接した地点や川の中に墓域を設定したことが判明する。

中州の土器棺墓が、植附遺跡か本遺跡のいずれに属すか、あるいは両者が混在するのか、また両遺跡とも方形周溝墓に伴う土器棺墓も認められることから、この差が階層(出自)に伴うのか、乳幼児などの年令差に従るものかなど類例の増加を待ち検討する必要があろう。

土壙は1基、検出したが墓域に存在するため墓と何らかの関係があると考えるしかない。

河川は、第22次調査でSR25と仮称した続きの一部である。SR25ほどの遺物量は出土しておらず出土状況から見ても、居住域の外れにあたると考える。

### 弥生時代後期

遺構は、検出してない。遺物も微量、後世の遺構や包含層から出土しただけである。墓域と居住域が移動した結果と考えられる。

### 古墳時代

遺構は検出していない。中期後半以降（5世紀後半以降）の遺物が少量、混入品として出土している。この時代の居住域は、本遺跡の東部から神並遺跡（4～6世紀）にかけてと鬼虎川遺跡の東端部から本遺跡の西端部（5世紀後半～6世紀初頭に限定される）に認められる。両居住域のいずれかから、もたらされたのであろう。

### 飛鳥～奈良時代

遺構は、検出していない。遺物は微量、溝20などから法通寺所用瓦や土器が出土している。法通寺は、調査地点より北東に約800m離れており、瓦が本来の使用が終わった段階でかなり広い範囲に広がることを示している。

### 平安時代

後期まで（12世紀中葉以前）の遺構は検出していない。遺物もほとんど認められない。

後期の遺構は、溝・井戸がある。土壌・柱穴の中にもこの時期に属するものがあると思われるが識別できない。

溝は、12世紀後半に水路として造られ13世紀初頭に廃絶した溝25がある。水流調節用の杭列や自然石を用いた護岸施設が認められた。調査地周辺を流れる河川の管理がほぼ成功するのは奈良時代後期から平安時代と考えているが、この水路もそうした河川管理のもとに掘られたと思われる。機能が停止した後、ゴミ捨て場として利用され多数の土器と共にウマ3頭、ウシ1頭、イヌ1頭以上がまとめて捨てられていた。西中川駿氏によれば、ウマは御崎馬より少し小さい体高 $126.12 \pm 4.61$ cmの中型馬である。同じくウシは、口之島牛の雌とほぼ同じ大きさで、 $112.65 \pm 2.87$ cmである。

井戸は、2基検出した。いずれも底部付近で、鉄鎌が各1点出土した。本遺跡で検出される平安時代後期から鎌倉時代の井戸からは、しばしば鎌の他に刀子・包丁・熊手・斧などの金属製品が出土する。大半が底部付近で出土しており偶然に落としたと考えるよりも、井戸に対する何らかの祭祀に用いられた可能性が高い。また、今回の調査も含めて本遺跡の埋没河川以外（段丘上）で検出される井戸は、井筒の存在が想定される上部は別として、下部は掘り方が径1m前後ほぼ円形で、深さ3m前後の湧水層まで掘り下げている。調査時、人力で底まで掘り下げる事が困難だったので、機械を用いて断ち割りを行なった。中世の一般農民では掘削が困難な作業ではないかと考える。井戸掘りの専門職人の存在を想定しておきたい。

### 鎌倉時代

遺構は、溝・井戸・柱穴・木棺墓・土壌を検出した。

溝は、溝20・27・21などがある。溝20は溝25が埋没した後、同様の性格で掘られたものである。土器と共にウシ・ウマなどの動物遺存体も捨てられていた。溝21は溝20が埋没した後、掘られたものであるが、従前の溝に比べて短期間しか機能していない。溝27は屋敷ないし建物を区画する性格が考えられる。

井戸は3基検出した。いずれも13世紀後葉に属す。13世紀中葉に属すものは認められない。

井戸1から竹筒、井戸5から木筒が出土した。2点とも、呪符を記している。

掘立柱建物を構成する柱穴は、全域に多数存在するため建物の復元は困難である。今回検出された井戸の数と所属時期から見て、12世紀後半に属すよりも13世紀後葉に属すものが多いと考える。根石をもつものも少数、認められた。柱穴同士の切り合は少ない。

木棺墓は、2基とも頭位を北に向ければ並行に掘られていた。頭位を同じくし、近接して造られていることから、近親者の墓と考えられる。断定できないが男性の方が早く葬られていること、いずれも壯年（40才代）であることから、両者の関係は夫婦である可能性が最も高い。

ただ、男性が土師器の皿（8点）のみの副葬品であるのに対して、女性は土師器（5点）だけでなく使い込んだものとはいえ青磁碗をもつ。同時期の木棺墓の副葬品の有無や質は、被葬者の階層差に起因すると考えるが、この異なりについては、土師器に数の差が認められることから許容範囲に入るのかどうかを含め、今後検討していくきたい。

周辺で検出された柱穴の多くが同時期と推定できることから、建物との位置関係は明らかにできないが居住域の中あるいは隣接して営まれた屋敷墓であることは間違いない。

土壤のうち時期が確実に判明するのは、14世紀初頭にゴミ捨て穴として溝21・22がいま埋まった段階で掘られた土壤1だけである。

平安時代末期から鎌倉時代初頭と、鎌倉時代後半に属す良好な一括資料を含む遺物が各遺構から多量に出土した。生駒山西麓の中世日常雜器を考えるうえで重要な資料となろう。

中でも、溝25出土の仏具と考えられる鋳型は、出土層位より平安時代末期から鎌倉時代初頭に比定できる。おそらく法通寺の仏具製作に用いられたのであろうが、河内鑄物師の活動を知るうえに貴重な資料である。

#### 南北朝から江戸時代

15世紀代に属す溝30や16世紀前半に属す溝48などがある。溝48は耕作用と考えられる。第22次調査では、14世紀から15世紀代の川や井戸が検出された。川は今回の調査地点の北側を流れ、井戸は存在しない。溝30は、居住域に関連する可能性があるが、ほぼ居住域の外側にあたる。

16世紀代以降の遺物は極端に減少し、遺構は棚田・畦畔など耕作関連のものである。以降、近代を通して耕作地として存在した。

要するに、今回の調査地点は弥生時代中期に方形周溝墓が営まれたと平安時代末から鎌倉時代（13世紀中葉を除く）に居住城となった他は、各時代を通して居住域の中間地帯にあたる場所であった。

注1) 菅原章太 1984年「大阪府東大阪市西ノ辻遺跡出土の中世木棺墓について」『考古学ジャーナル』237 p2~5 ニューサイエンス社

注2) 東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会 1995年「西ノ辻遺跡第22次発掘調査報告書」

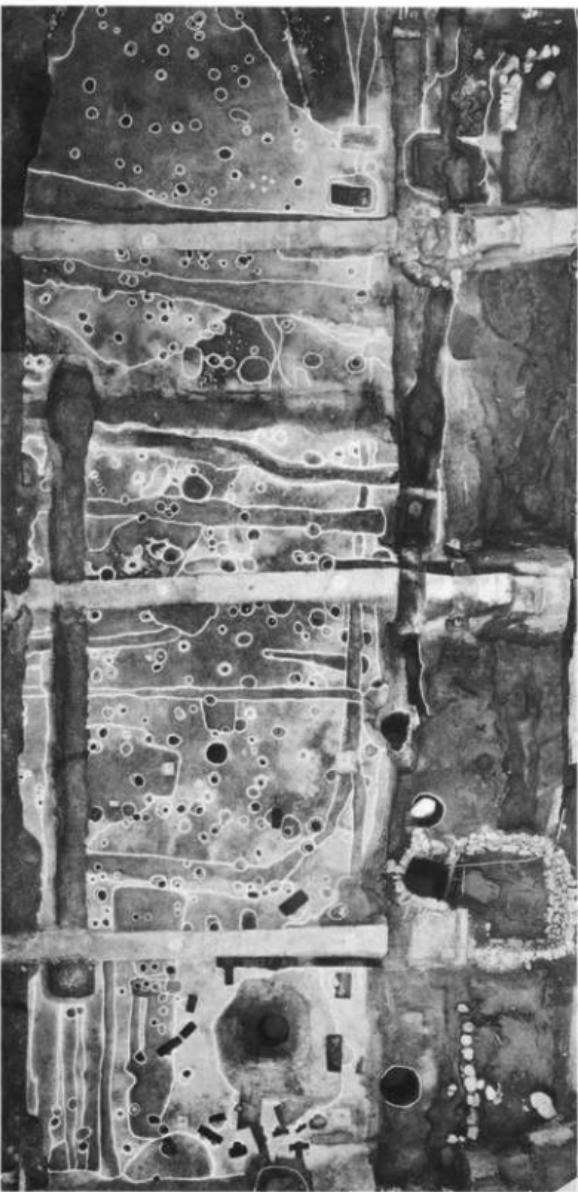
注3) 東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会 1988年「西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡」

注4) 大阪府教育委員会 1986年「神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査整理概要II」

注5) 東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会 1992年「西ノ辻遺跡第23次発掘調査報告書」

注6) 鹿児島大学農学部 1991年「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」『平成2年度文部省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書』

# 図 版



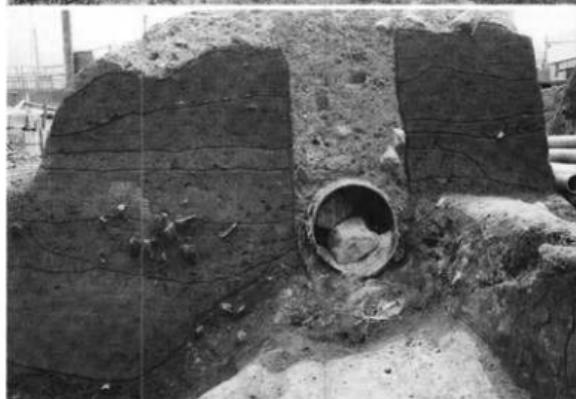
検出遺構全景（上より）



調査地東壁断面  
(西より)



調査地西壁中央付近断面  
(東より)



溝20・25断面 (西より)



溝59検出状況（北東より）



2号・6号方形周講墓  
検出状況（南東より）



溝58検出状況（西より）



土壤41検出状況  
(南より)



弥生時代河遺物出土状況  
(南より)



打製石剣出土状況  
(南より)



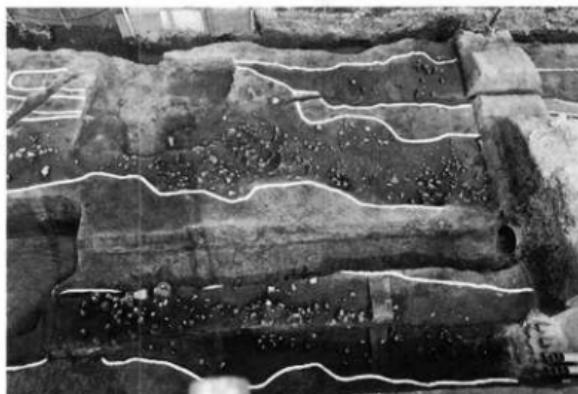
中世造構全景（東より）



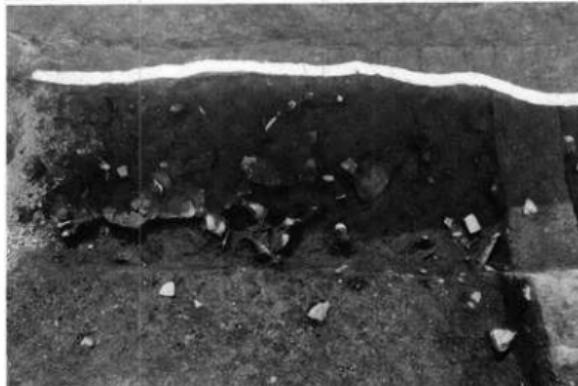
調査地西端造構検出状況  
(上より)



調査地中央中世造構  
検出状況（南より）



溝21・23-25検出状況  
(南より)



溝25遺物出土状況  
(北より)



溝25獣骨出土状況  
(西より)



溝25獸骨（ウマ他）  
出土状況（南より）



溝25獸骨（ウシ他）  
出土状況（南より）



溝25獸骨（ウマ頭骨）  
出土状況（西より）



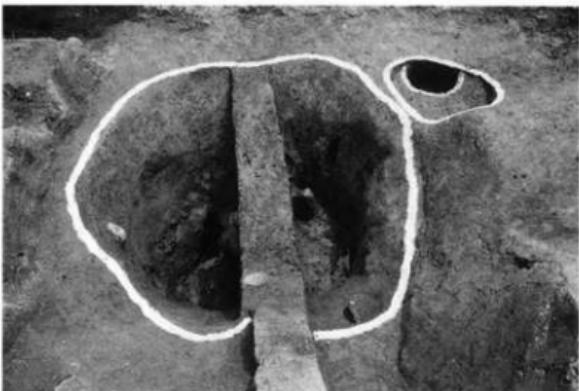
溝21・25・53検出状況  
(東より)



溝20杭列・石列検出状況  
(南西より)



溝20曲物出土状況  
(西より)



井戸 5・ピット373  
検出状況（西より）



井戸 4 堆積土検出状況  
(南より)



井戸 5 断ち割り状況  
(南より)



木棺墓 1・2 検出状況  
(南より)



木棺墓 1 検出状況  
(東より)



木棺墓 2 検出状況  
(東より)



ピット557・558検出状況  
(北より)



ピット156・157断ち割り  
状況 (北より)



ピット201根石検出状況  
(南より)

圖版 12  
溝 50 · 溝 57 · 溝 58 出土弥生土器



4



22



17



21



59

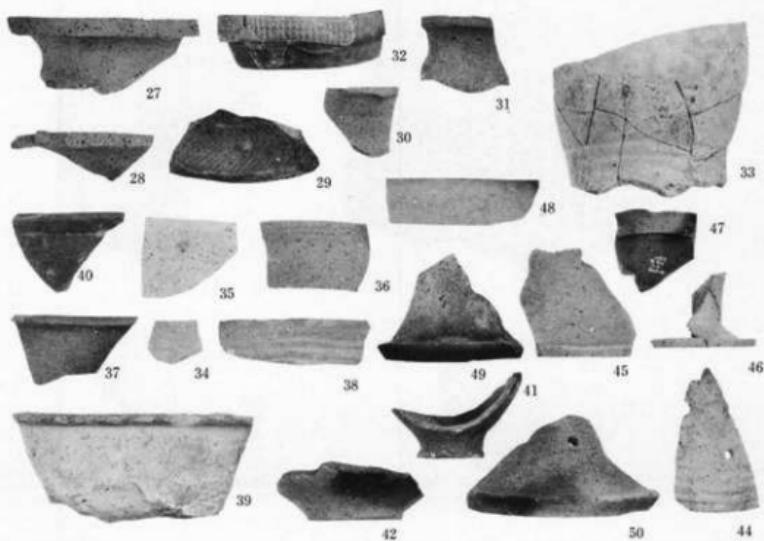


25

溝50出土壺蓋(59)、溝57出土鉢(4)、溝58出土細頸壺(17)、甕(21・22・25)

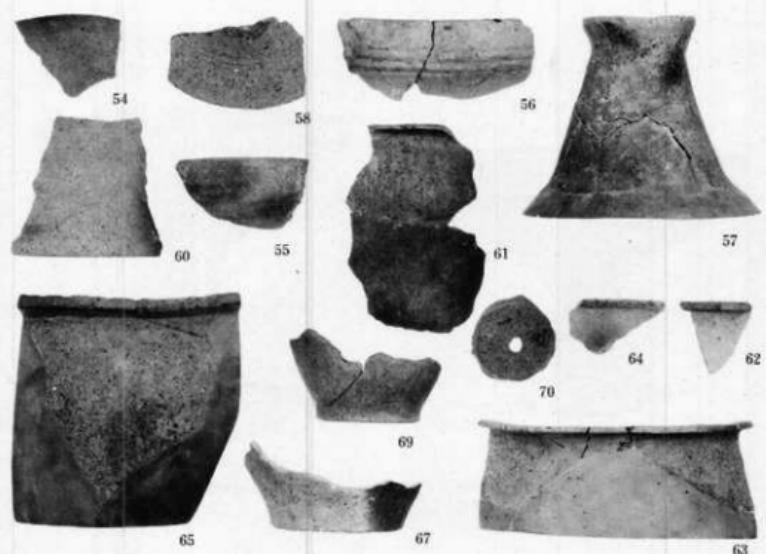


弥生時代包含層出土高杯(51・52)

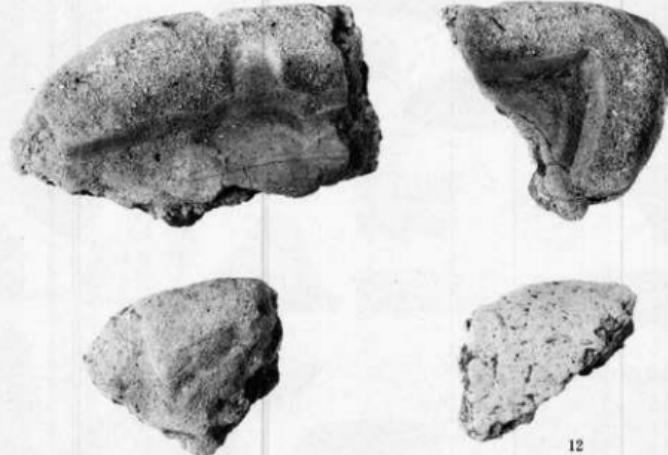


壺(27~32・42)、細頸壺(33)、鉢(34~41)、台付鉢(44)、高杯(46~50)、器台(45)

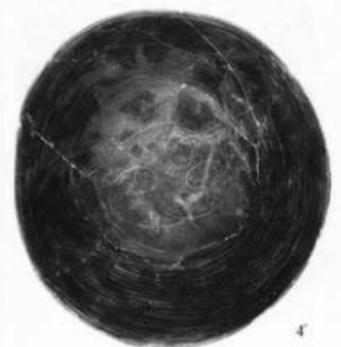
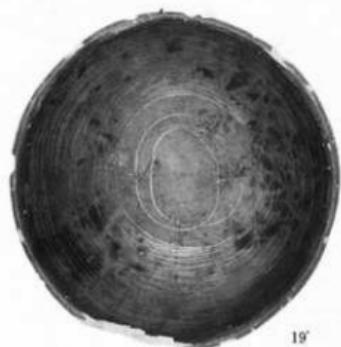
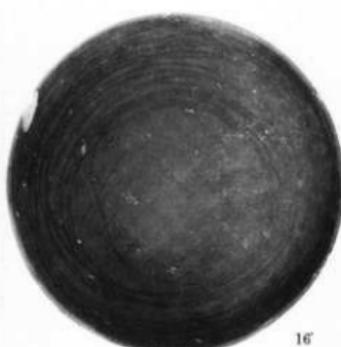
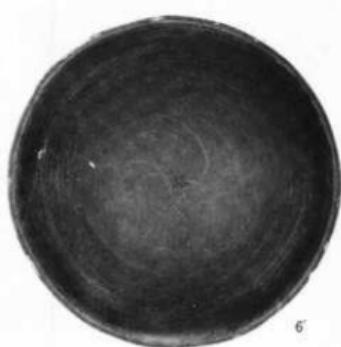
図版 14  
溝20・溝25、土壤41、  
弥生時代川他出土弥生土器



台付鉢(60)、甕(61~65・67・69・70)、蓋(57)、高杯(54~56)、器台(58)



溝25出土鑄型(12)



瓦器椀(4・6・16・19)



21'



21



29'



29



32



1



8



90



42



44

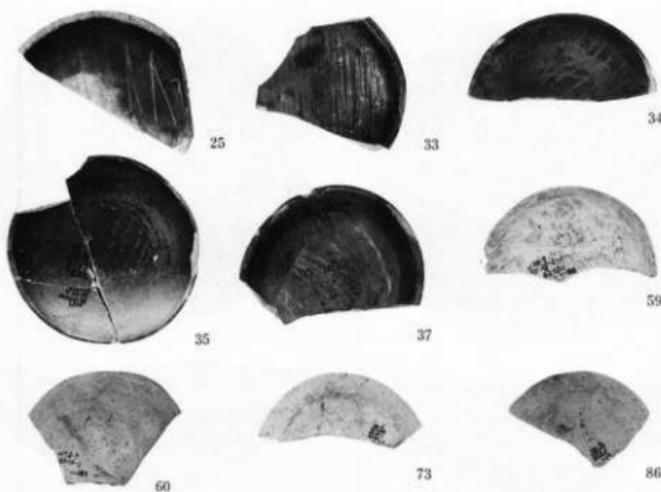


47

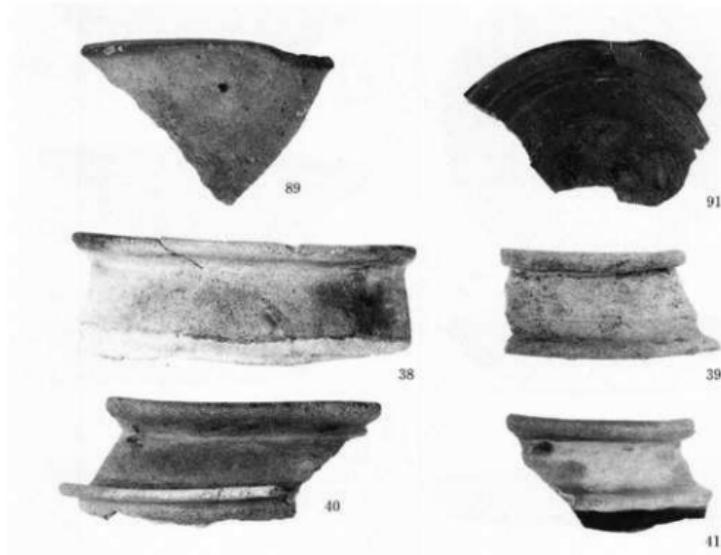


48

土師器大皿(42・44・47・48)、瓦器椀(1・8)、小皿(21・29・32)、東播系須惠器捏鉢(90)



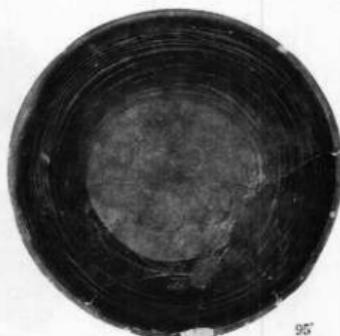
土師器小皿(59・60・73・86)、瓦器小皿(25・33~35・37)



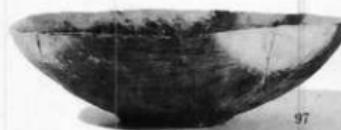
土師器羽釜(38~41)、東播系須恵器捏鉢(89・91)



97



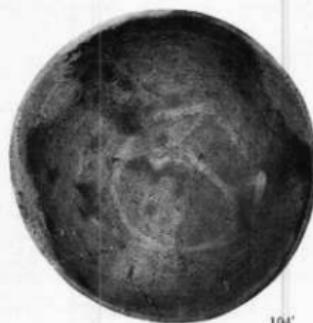
95



97



95



104'



100



105



104



114

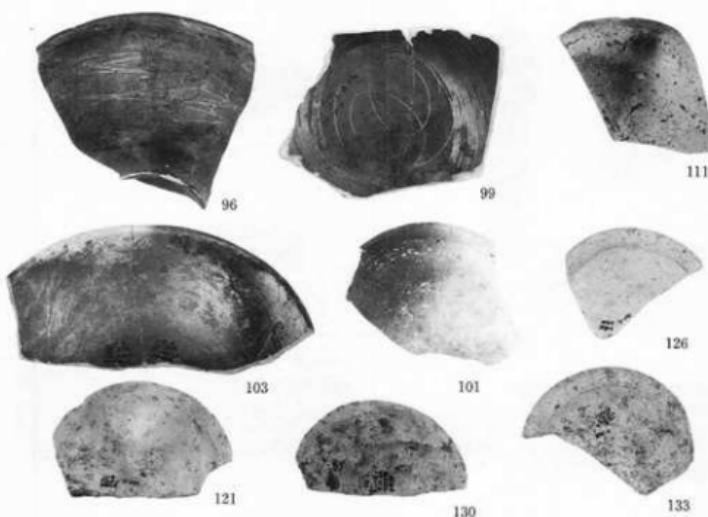


106

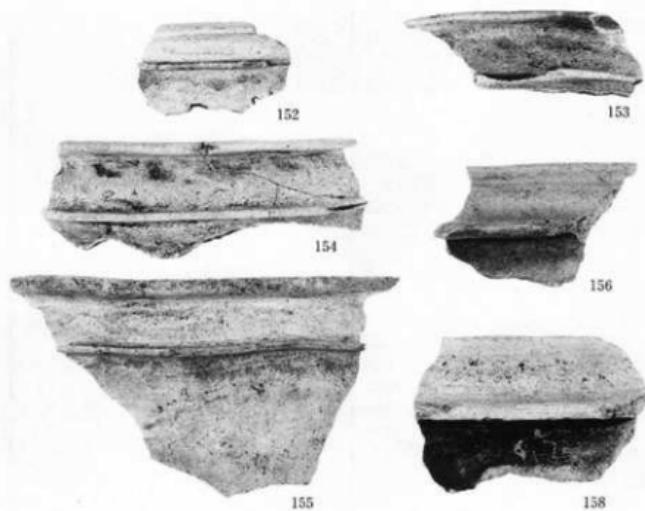


118

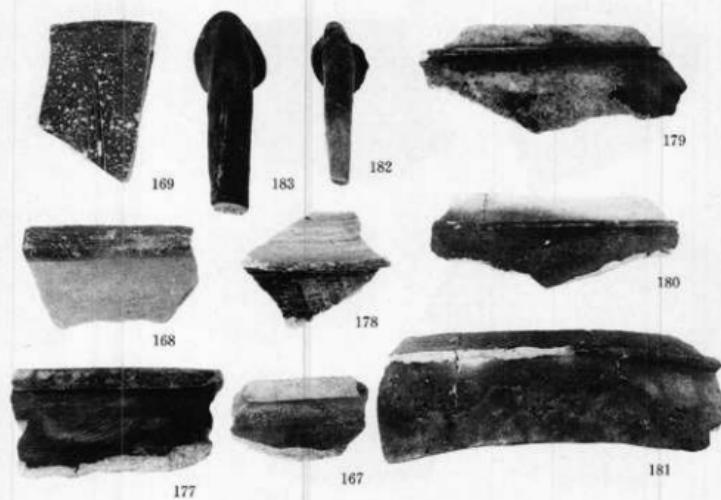
土師器大皿(114)、小皿(118)、瓦器椀(95・97・100・104・105)、小皿(106)



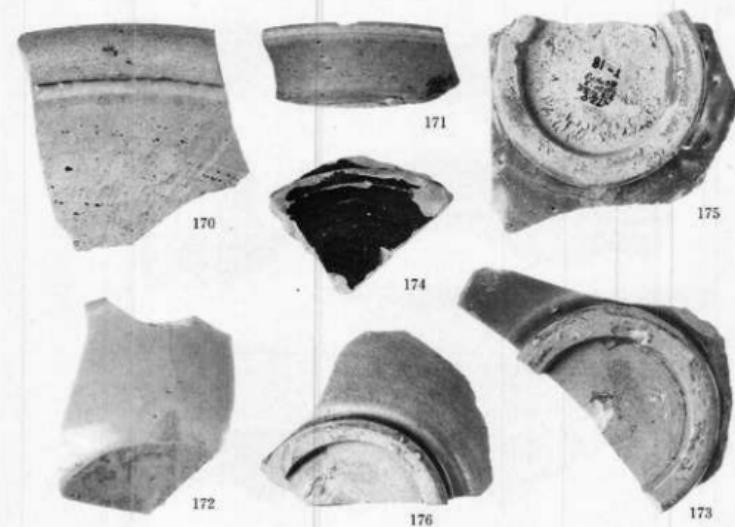
土師器小皿(121・126・130・133)、瓦器碗(96・99・101・103・111)



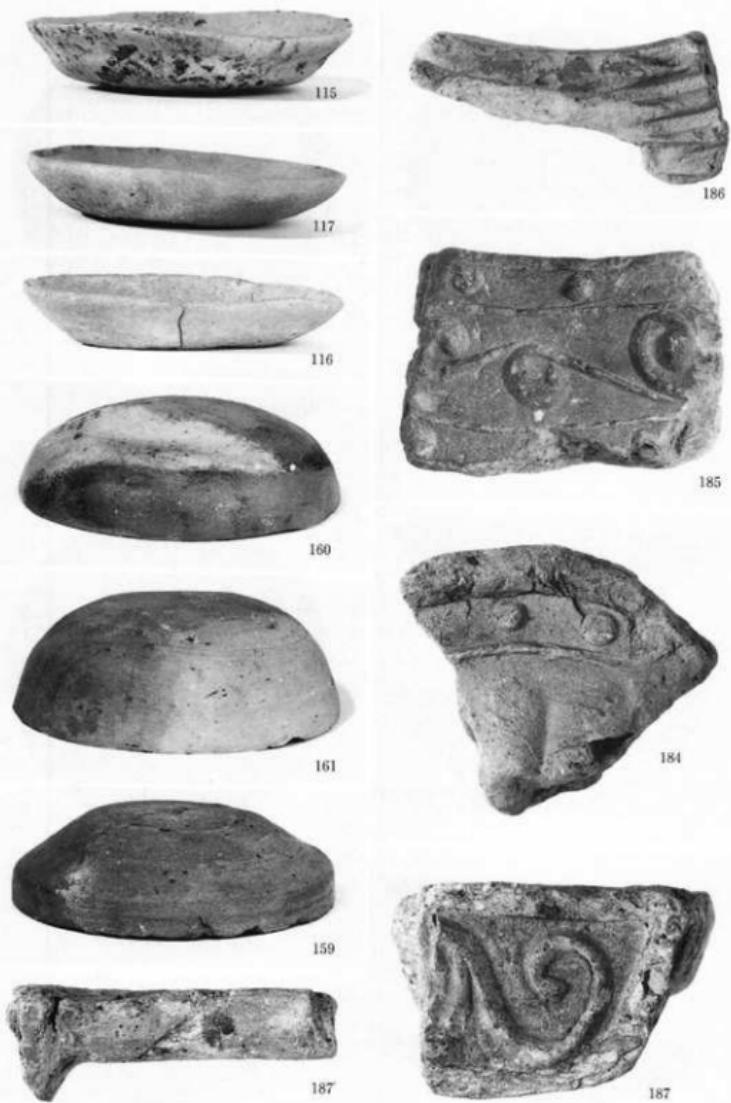
土師器羽釜(152~156・158)



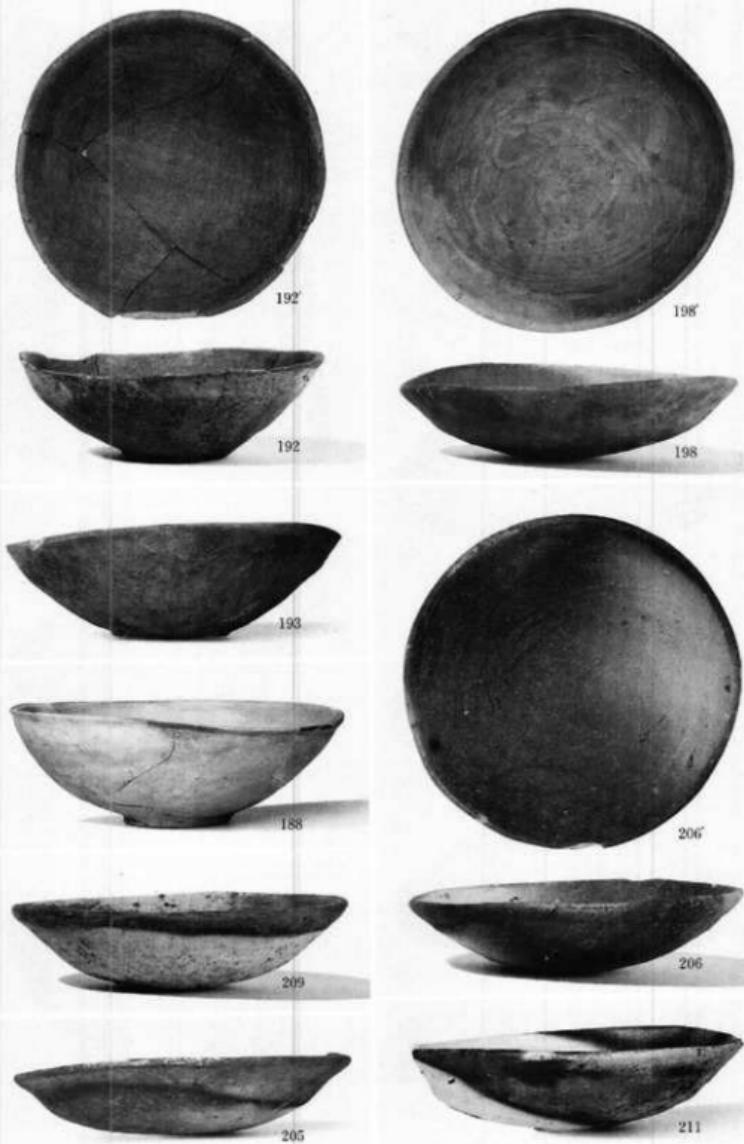
土師器羽釜(178)、瓦器擂鉢(169)、甕(177)、足釜(179~183)、東播系須恵器甕(167)、捏鉢(168)



綠釉椀(174)、青磁碗(173・175・176)、皿(171)、白磁碗(170)、皿(172)



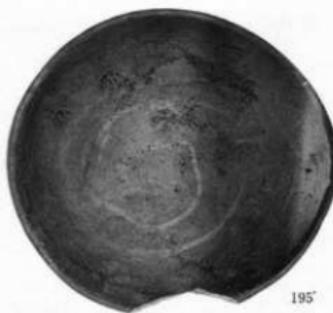
土師器大皿(115~117)、須惠器杯蓋(159~161)、軒丸瓦(184)、軒平瓦(185~187)



瓦器碗(188・192・193・198・205・206・209・211)



197



195'



197'



195



201



196'



201'



196

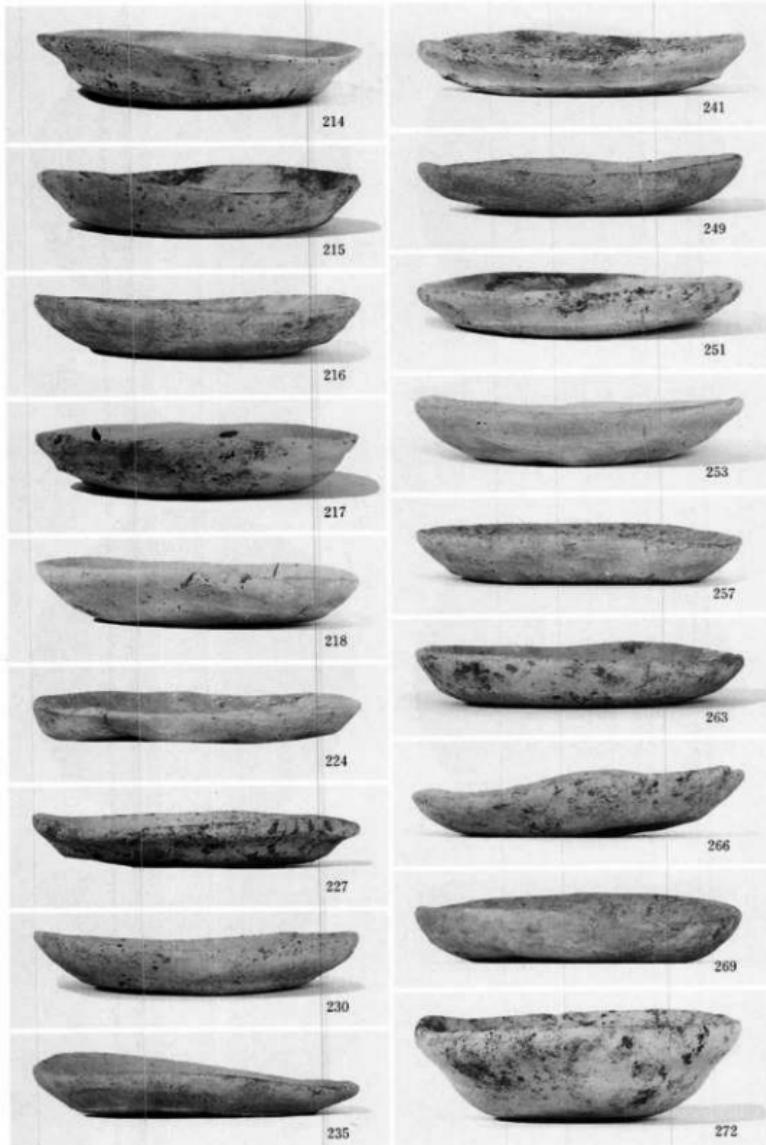


200



202

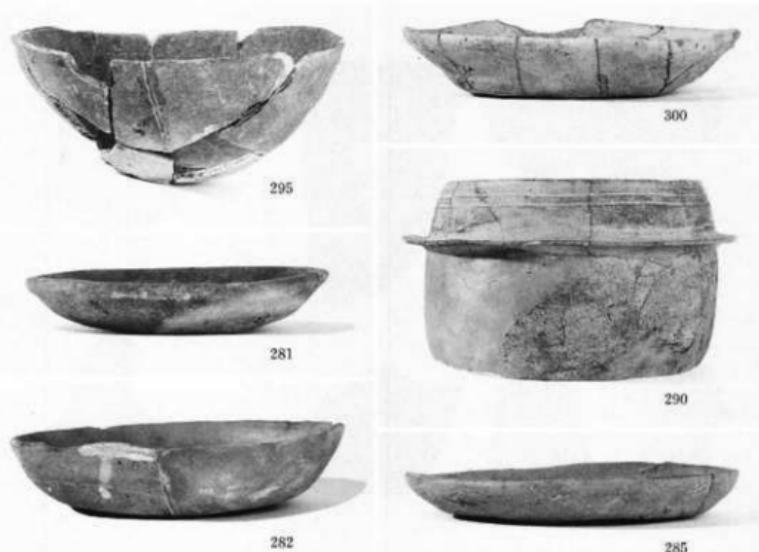
瓦器(195~197, 200~202)



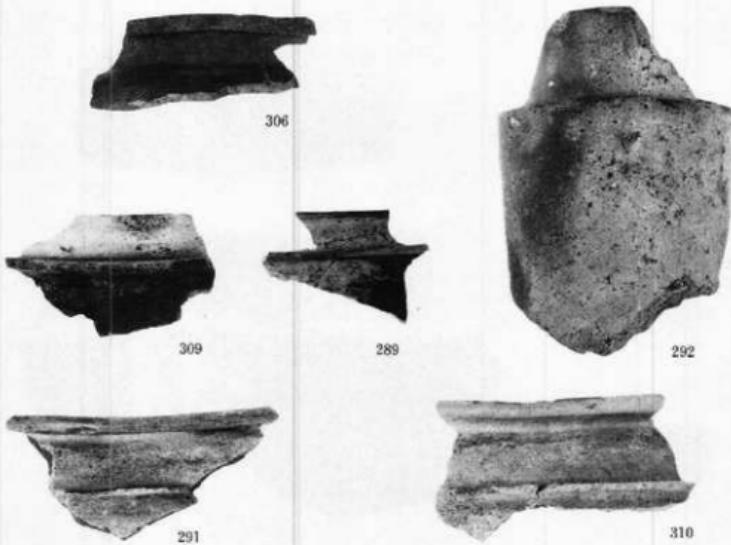
土師器大皿(214~217)、小皿(218~224・227・230~235・241~249・251~253・257・263~266・269~272)



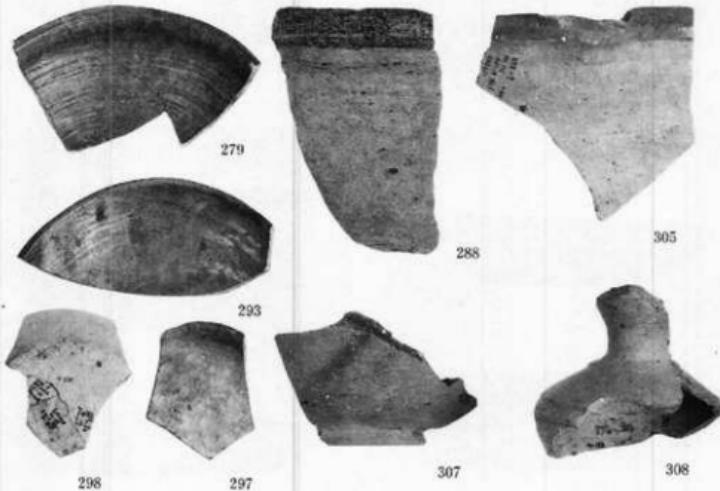
溝21出土土師器羽釜(273·274·276·277)、瓦器足釜(278)



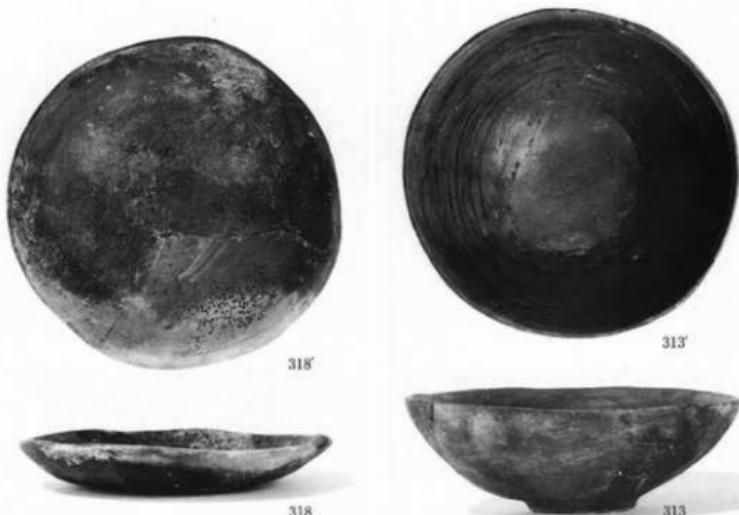
溝2·8·22·30出土土師器大皿(282)、小皿(285·300)、瓦器椀(281·295)、羽釜(290)



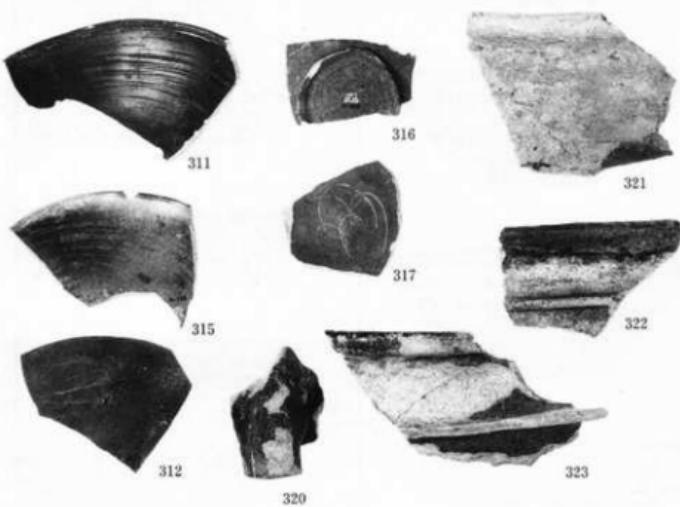
溝3・8・27・33・48出土土師器羽釜(289・291・309・310)、須惠器甕(306)、丸瓦(292)  
瓦



溝18・19・22・42・48・55出土土師器大皿、須惠器臺・躉・東播系須惠器捏鉢、瓦器檐・小皿



瓦器椀(313・318)



土師器羽釜(321～323)、瓦器椀(311・312・315～317)、足釜(320)



325'



330'



325



330



344



353



347



354



348



355



363

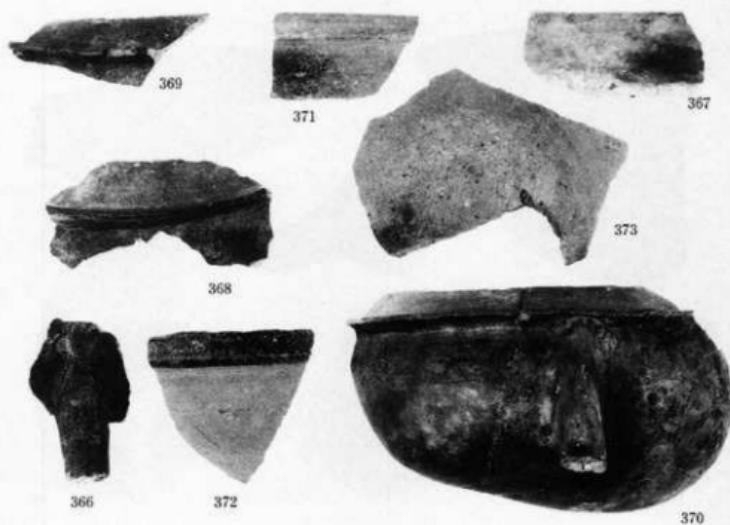


358

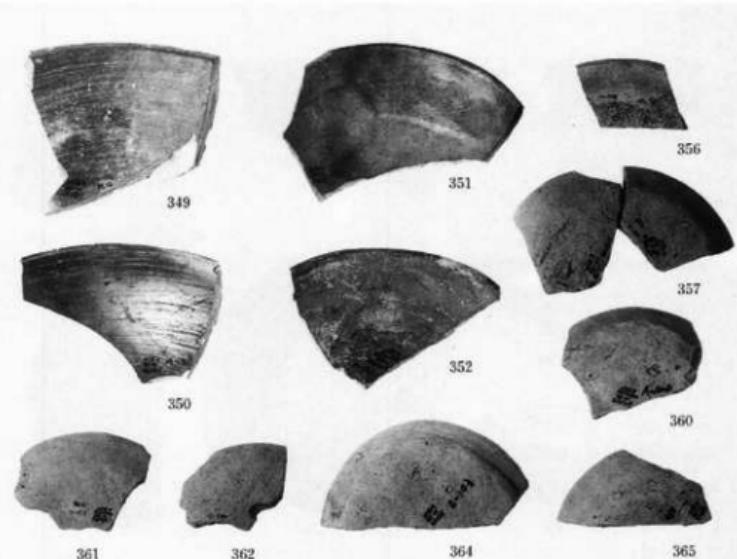


359

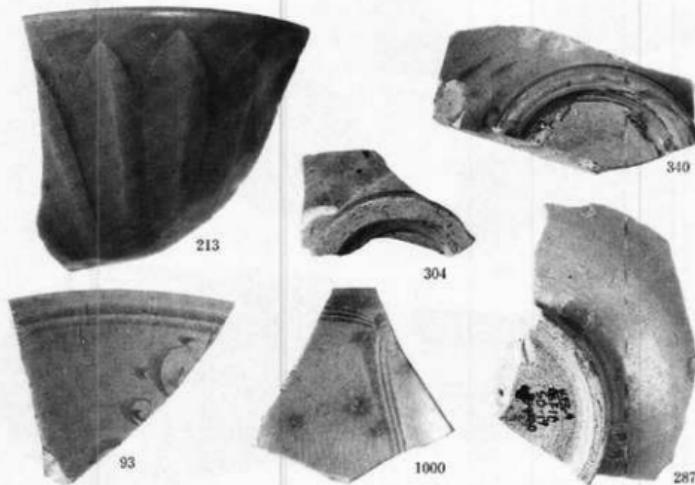
井戸 1 出土土師器大皿・小皿、瓦器小椀、井戸 5 出土瓦器椀・鉢、東播系須恵器捏鉢



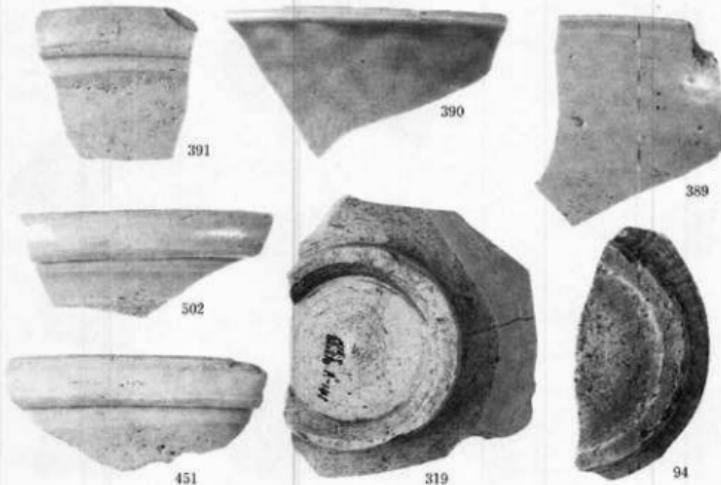
土師器羽釜(367)、瓦器足釜(366・368～370)、鉢(373)、東播系須恵器捏鉢(371・372)



土師器小皿(356・357・360～362・364・365)、瓦器碗(349～352)



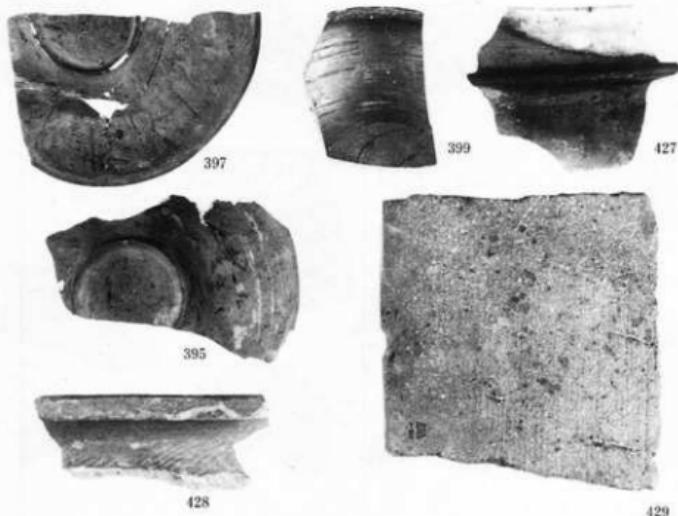
溝19・21・25、井戸5出土青磁碗(93・213・287・304・340・1000)



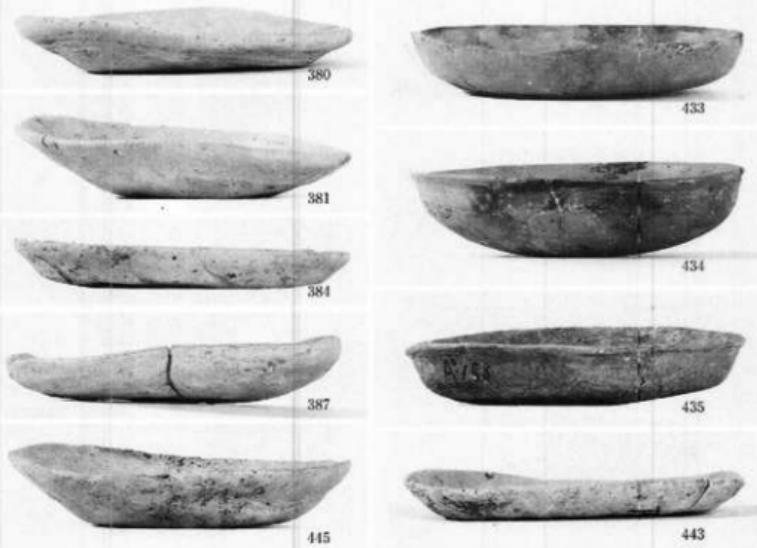
溝25、井戸6、ビット103・137、土壤1・15出土白磁碗(94・319・389～391・451・502)



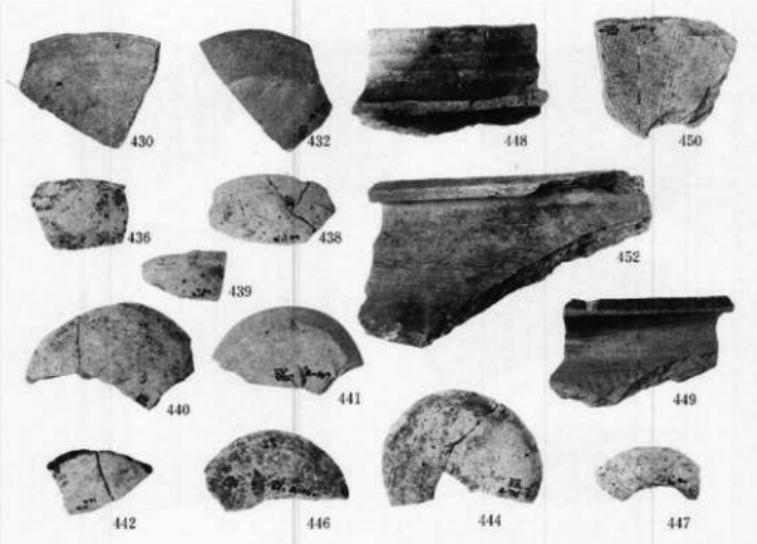
土師器台付大皿(404)、大皿(405)、小皿(411)、瓦器椀(394・398・400)、小皿(403)



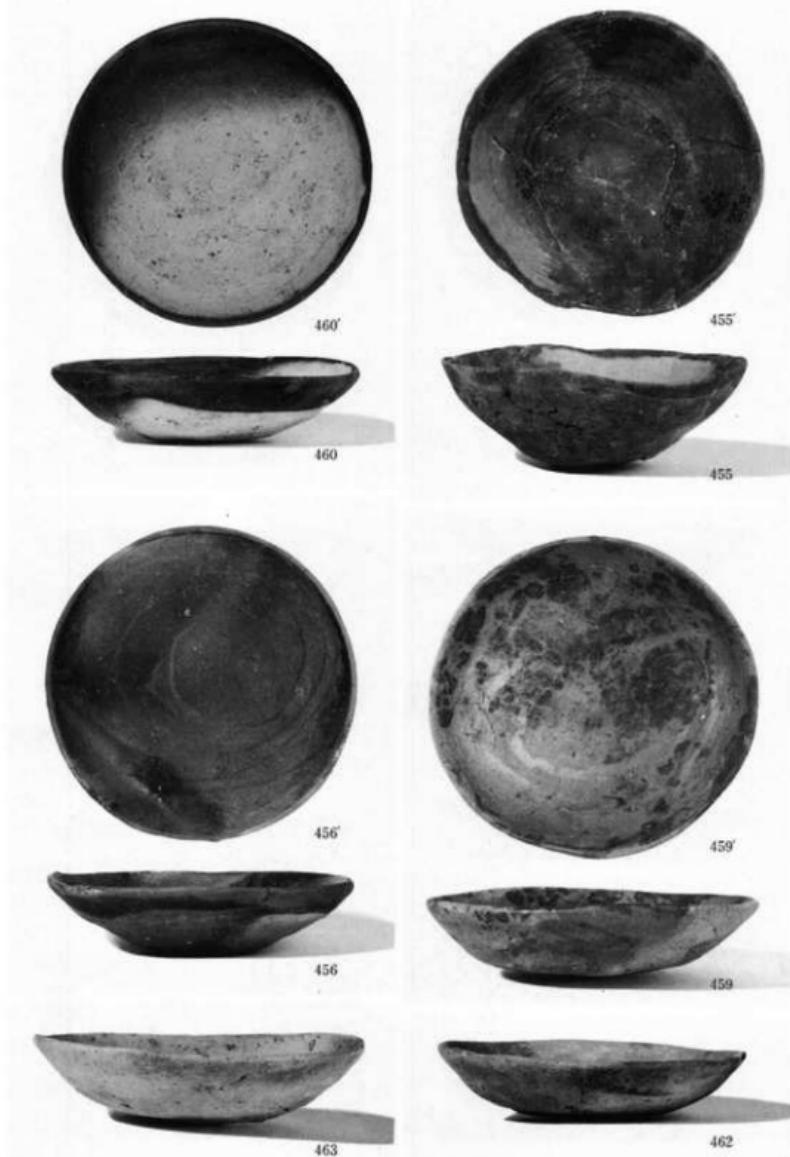
瓦器椀(395・397・399)、羽釜(427)、東播系須恵器甕(428)、平瓦(429)



土壤18・21・24・29・30、焼土壤、ピット281出土土師器小皿、瓦器小皿



土壤17・18・21・24・26・29出土土師器大・小皿、須恵器甕、東播系須恵器甕、瓦器碗・羽釜・擂鉢



瓦器 梗(455・456・459・460・462・463)



457



464'



457



464



466



471



467



472



468



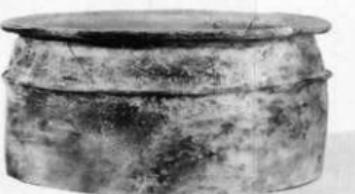
473



469

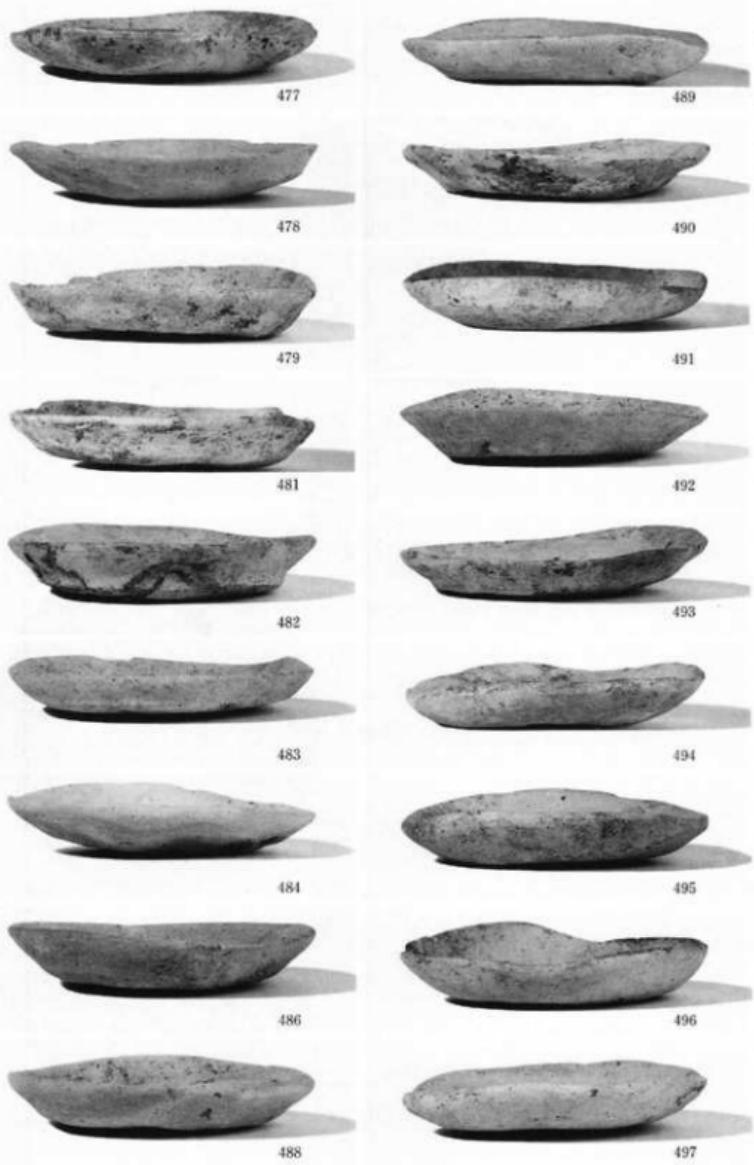


470

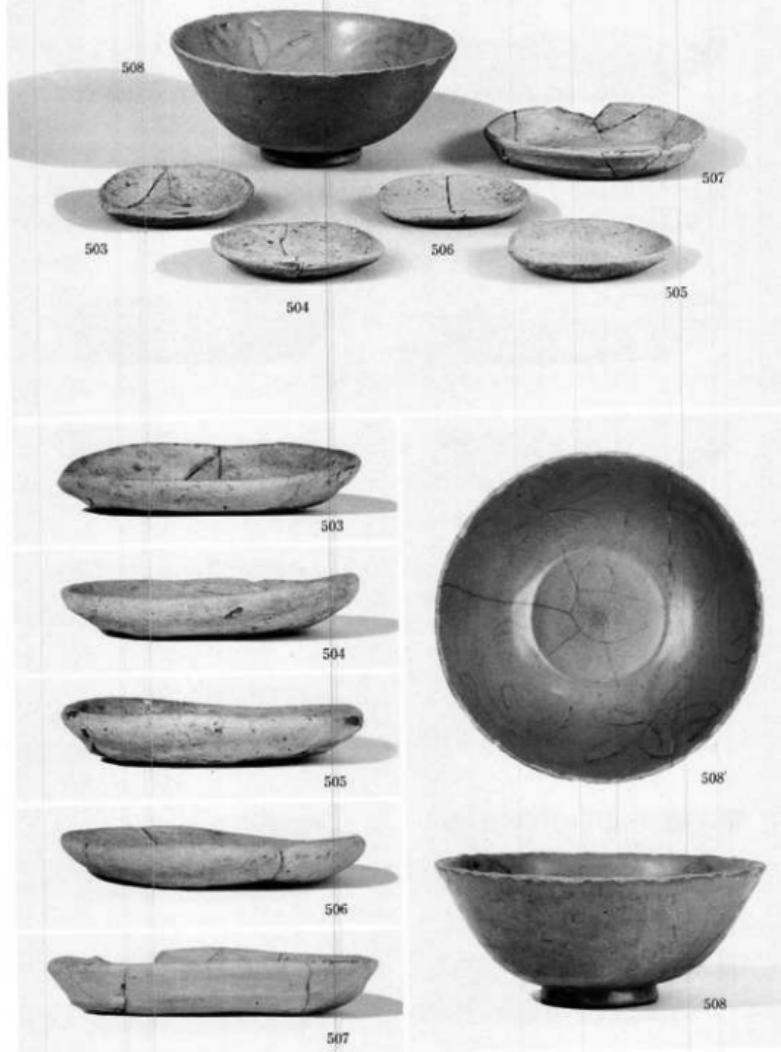


501

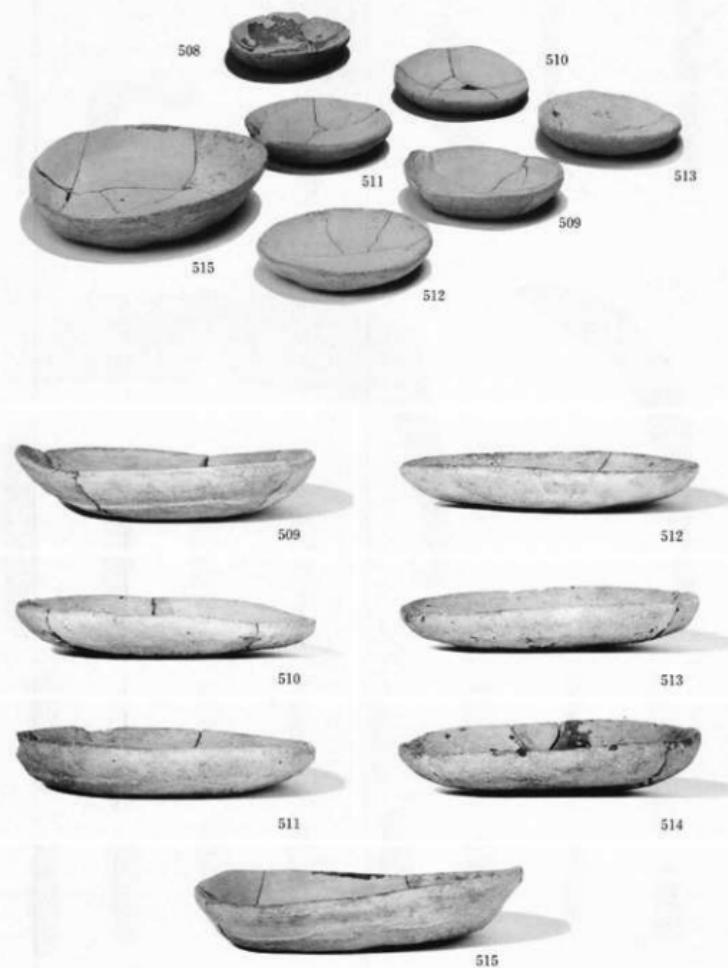
土師器大皿(466~473)、羽釜(501)、瓦器椀(457・464)



土師器小皿(477~479・481~484・486・488~497)



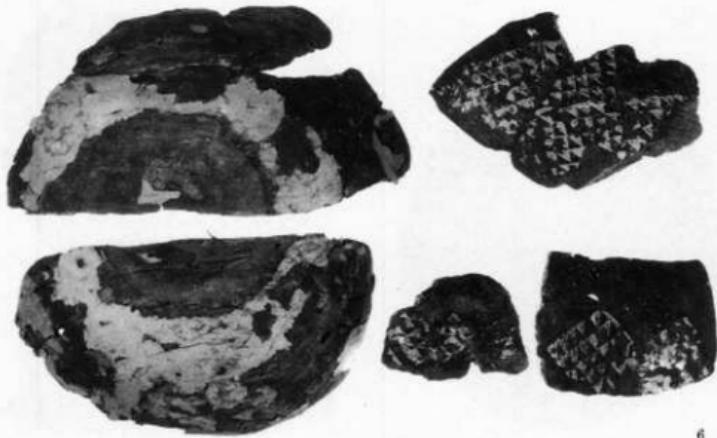
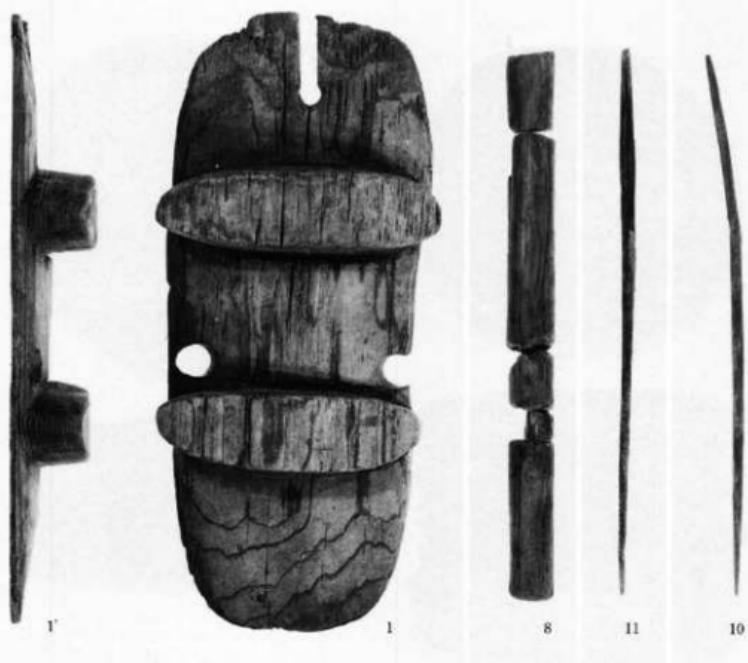
土師器大皿(507)、小皿(503~506)、青磁碗(508)



土師器大皿(515)、小皿(509~514)

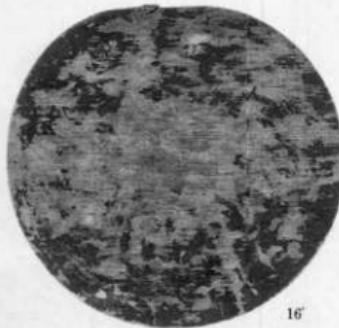
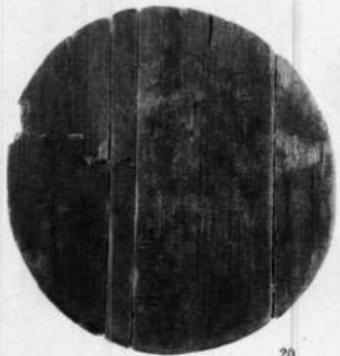
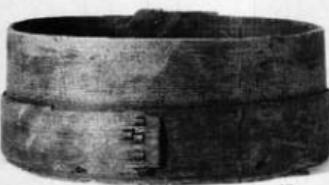


鉄釘(4～8)、鉄镰(9～11)、土鎌(1～3・9～16・18～22)

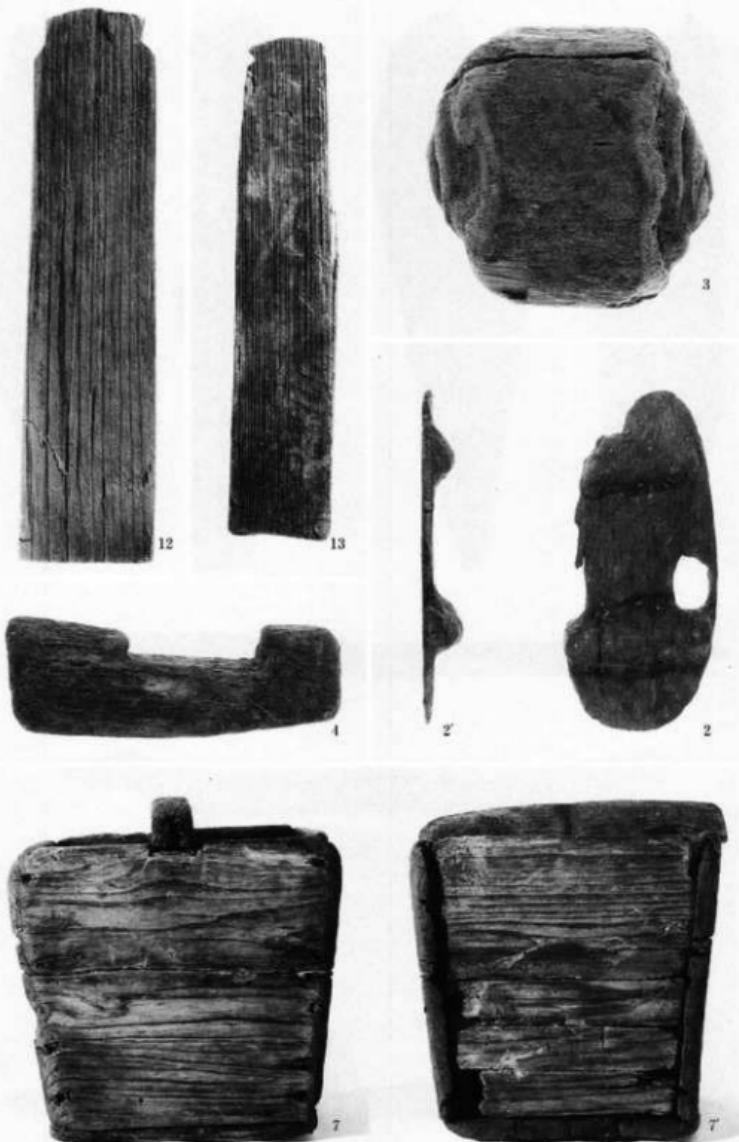


6

井戸 1 出土下駄(1)、井戸 7 出土漆器椀(6)、井戸 4 出土箸(10・11)、井戸 6 出土用途不明品(8)



井戸 1 出土曲物(15~17)、井戸 5 出土曲物底板(20)



清20、井戸5・6出土下駄(2)、釣瓶(7)、木簡(12・13)、用途不明品(3・4)



33



35



27



29



38

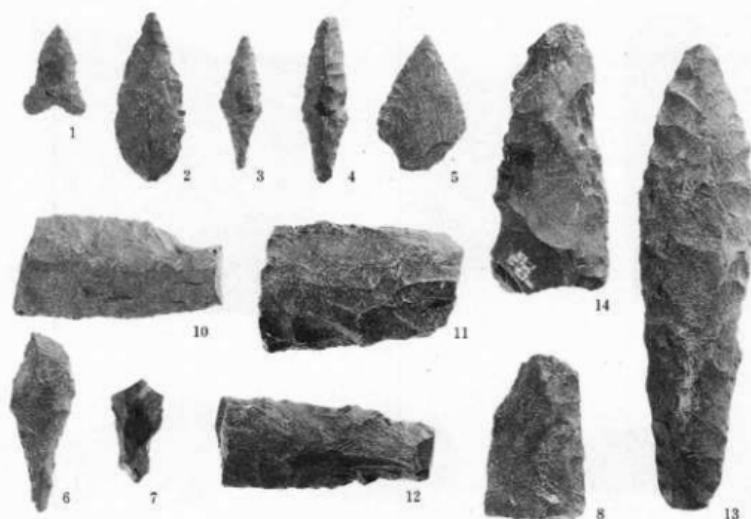


34

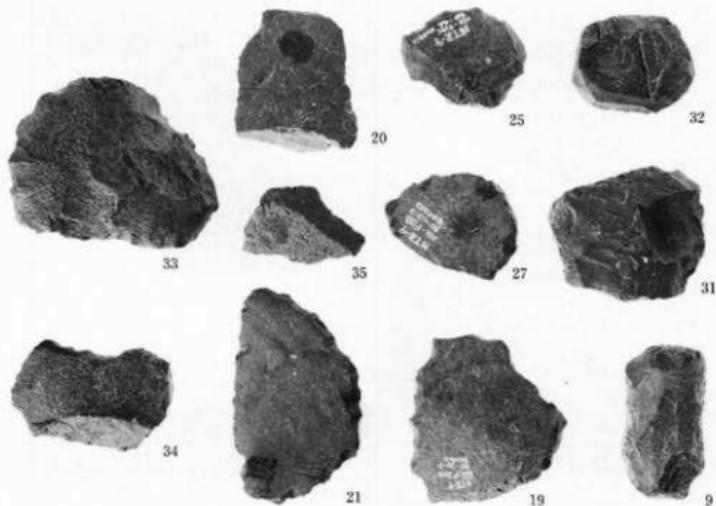


42

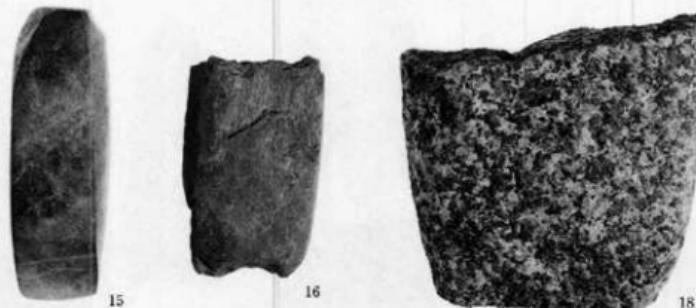
溝20・25出土杭(27・29・33~35・38・42)



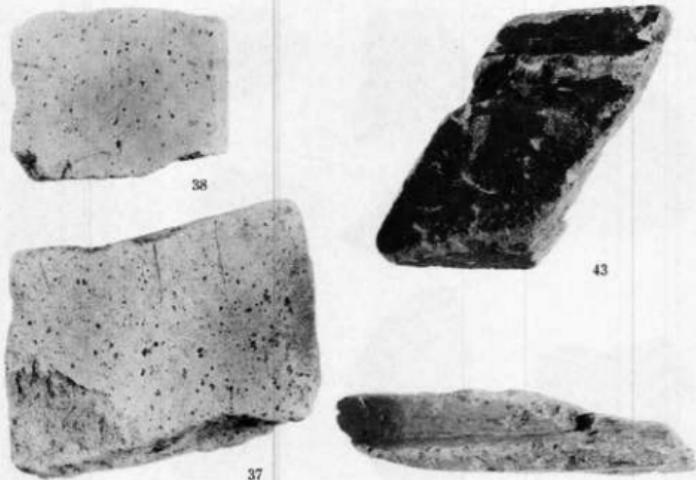
石鏃(1~5)、石錐(6·7)、打製石劍(8·10~14)



溝2·20·21·42·59、包含層出土打製石劍(9)、刮器(19~21·25·27·31~35)



石斧(15·16·18)、石包丁(17)、砾石(39·40)



溝20·30出土砾石(37·38)、溝20包含層出土石鍋(43·1001)

西ノ辻遺跡第9次  
発掘調査報告

1996年3月3日

発行 財團法人 東大阪市文化財協会  
東大阪市教育委員会  
印刷 株式会社 ドウミ印刷広研社